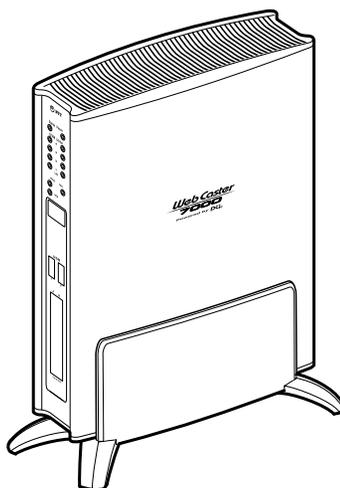


Web Caster **7000**

機能詳細取扱説明書

このたびは、Web Caster 7000 をお買い求めいただきまして、まことにありがとうございます。

- ご使用前に、この「機能詳細取扱説明書」をよくお読みのうえ、内容を理解してからお使いください。
- お読みになったあとも、本商品のそばなどいつも手もとに置いてお使いください。



はじめに

この機能詳細取扱説明書では、取扱説明書で触れていない本商品の機能について解説しています。

Microsoft®、Windows® は、米国 Microsoft® Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Windows® の正式名称は、Microsoft® Windows® Operating System です。Windows® XP は、Microsoft® Windows® XP Home Edition operating system および Microsoft® Windows® XP Professional operating system の略です。

Windows® 2000 は、Microsoft® Windows® 2000 Professional operating system の略です。

Windows Me® は、Microsoft® Windows® Millennium Edition operating system の略です。

Windows 98® は、Microsoft® Windows® 98 operating system の略です。本書では、Windows® 98 と Windows® 98 SE を含めて、Windows® 98 と表記しています。

Netscape®、Netscape Navigator® および Netscape® Communicator は、米国 Netscape® Communications Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Macintosh®、Mac®、Mac OS® は、米国 Apple Computer, Inc. の米国およびその他の国における登録商標です。

本書では、Mac OS® X 10.0、10.1、10.2、10.3 を、Mac OS® X と表記しています。また、Mac OS® 9.0、9.1、9.2 を、Mac OS® 9.x と、Mac OS® 8.5、8.6 を Mac OS® 8.x と表記しています。

Adobe® Acrobat® Reader™ は、Adobe® Systems Incorporated (アドビシステムズ社) の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Java® は、米国 Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における登録商標です。

Atheros、Super AG 及び Total 802.11 のロゴは Atheros Communications, Inc. の登録商標であり、NTT 東日本株式会社及び NTT 西日本株式会社は同社の許可に基づき、同社のために当該商標を使用しています。

その他、本文中での記載の会社名および商品名およびロゴは各社の商標または登録商標です。

付属品の CD-ROM は日本語版 OS 以外の動作保証はしていません。

付属品の CD-ROM はソフトウェアのバックアップとして保有する場合に限り、複製することができます。また、ソフトウェアについてのいかなる改変も禁止とし、それに起因する障害について当社は一切の責任を負いません。

目次

⑥ Web Caster 7000 機能・詳細設定

Web Caster 7000 の主な機能	6-2
機能およびその概要の一覧	6-2
設定ページの開き方	6-5
設定ページのアクセス方法	6-5
起動の方法	6-5
ログインユーザ名・ログインパスワードの設定方法	6-6
設定メニューについて	6-8
WAN 側の設定	6-10
PPPoE 接続を設定する	6-11
PPPoE 接続で Unnumbered 接続を設定するとき	6-11
PPPoE 接続でマルチセッション接続を設定するとき	6-19
PPPoE 接続の削除	6-26
PPPoE 以外の接続設定	6-28
PPPoE 以外の接続で自動取得を設定するとき	6-28
PPPoE 以外の接続で固定 IP アドレスを設定するとき	6-32
PPPoE 以外の接続で Unnumbered 接続を設定するとき	6-34
PPPoE 以外の接続の削除	6-38
LAN 側の設定	6-40
IP アドレスの設定	6-40
LAN 側ポートの IP アドレスを確認・変更する	6-41
NAPT (IP マスカレード)	6-43
DHCP サーバ設定	6-44
DHCP サーバの基本設定	6-45
DHCP サーバから固定の IP アドレスを割り当てる	6-48
IP アドレスの修正	6-51
IP アドレスの削除	6-54
DHCP サーバ機能の有効/無効を設定する	6-56
DNS サーバ設定	6-58
DHCP サーバによるホスト名と IP アドレスの確認	6-59
ホスト名と IP アドレスを手動で登録する	6-62
ホスト名と IP アドレスの修正	6-64
ホスト名と IP アドレスの削除	6-66
プロキシ DNS	6-67
ルーティング設定	6-68
ダイナミックルーティングの設定	6-68
スタティックルーティングの経路情報を追加する	6-70
スタティックルーティングの経路情報を修正する	6-72
スタティックルーティングの経路情報を削除する	6-74
UPnP 設定	6-76
パソコンの UPnP の設定を確認する	6-77
本商品の UPnP 機能を OFF にする	6-81

セキュリティの設定	6-82
セキュリティの機能	6-82
セキュリティレベル設定	6-83
パケットフィルタリング設定	6-86
パケットフィルタの設定	6-87
新規にサービスを作成する場合	6-97
フィルタルールの例	6-100
リモートアクセス設定	6-109
リモートアクセスの設定	6-110
URL フィルタ設定	6-113
URL フィルタの設定	6-113
ログの管理	6-120
セキュリティログの確認	6-120
E-Mail 通知機能の設定	6-129
Syslog の設定	6-134
サーバ公開設定	6-136
ローカルサーバ設定	6-136
ローカルサーバの設定	6-137
新規に作成したサービスでローカルサーバを設定する場合	6-140
設定したローカルサーバの修正	6-150
ローカルサーバの有効/無効の切替	6-152
設定したローカルサーバの削除	6-154
DMZ ホストの設定	6-156
LAN 側のパソコンを DMZ ホストに設定する	6-157
ダイナミック DNS の設定	6-163
ダイナミック DNS の設定	6-164
VPN の設定	6-166
かんたん設定ウィザードによる設定	6-167
ネットワーク詳細設定による設定	6-177
PPTP クライアントの削除	6-180
IPSec の削除	6-196
オプション設定	6-198
無線 LAN の設定	6-198
Web Caster FT-STC-Pa を利用する	6-200
Web Caster FT-STC-Pb を利用する	6-201
Web Caster 7000 への無線 LAN カード取り付け	6-202
Web Caster FT-STC-Pa をご利用の場合	6-204
Web Caster FT-STC-Pb をご利用の場合	6-206
暗号化の設定	6-209
セキュリティ設定	6-210
Web Caster 7000 から無線 LAN カードを取り外す	6-212
USB カメラの設定	6-214
USB カメラ設定	6-215
PC や携帯電話で画像を見る	6-219
PC カードメモリの設定	6-223
PC カードメモリを挿入する	6-224
PC カードメモリを取り外す	6-225

ファイルサーバ機能	6-227
Webサーバ機能	6-233
保守・管理	6-235
機器状況の確認	6-235
接続状態の確認	6-235
稼動時間の確認	6-237
ログインユーザ名・ログインパスワード設定	6-238
ログインユーザ名とログインパスワードの設定	6-238
システム設定	6-245
日付と時刻の設定	6-248
ファームウェアの更新	6-250
診断ツール	6-253
本商品の初期化	6-255
再起動	6-258
ファームウェア情報	6-260

⑦ 具体的な設定例

オンラインゲームや音声/ビデオチャットを利用する	7-2
UPnPに対応しているアプリケーションの場合	7-2
UPnPに対応していないアプリケーションの場合	7-3
ローカルサーバを使ったオンラインゲームの設定	7-4
Windows® Messenger、MSN® Messengerを使う	7-9
利用できる機能	7-9
NetMeetingを使う	7-10
DMZホストを使ったNet Meetingの設定	7-11
インターネット上にサーバを公開する	7-13
LANに接続されたPCをサーバとして公開する	7-13
ローカルサーバを使ったサービスの公開	7-14

⑧ Web 設定

ホーム	8-2
ホーム	8-2
かんたん設定ウィザード	8-3
かんたん設定ウィザード	8-3
インターネット接続	8-3
自動取得	8-4
固定IPアドレス	8-4
VPN接続	8-5
PPTPクライアント	8-6
PPTPサーバ	8-6
ユーザ	8-7
ユーザ設定	8-7
IPSec	8-8

ネットワーク詳細設定	8-9
ネットワーク詳細設定	8-9
ネットワーク接続 xxxxx.....	8-9
詳細設定 WAN ポート.....	8-10
詳細設定 LAN ポート.....	8-11
詳細設定 WAN PPPoE.....	8-12
詳細設定 VPN PPTP	8-14
PPTPサーバ(基本設定).....	8-16
PPTP(詳細設定).....	8-17
詳細設定 VPN IPsec	8-19
セキュリティ	8-21
セキュリティ設定.....	8-21
ローカルサーバ	8-22
ローカルサーバの追加・編集	8-22
ユーザ定義サービス	8-23
サービスの編集	8-23
サービスの編集	8-23
DMZホスト.....	8-24
リモートアクセス設定.....	8-24
セキュリティログ.....	8-25
セキュリティログ設定	8-25
パケットフィルタ.....	8-26
xxxポートルール設定	8-26
フィルタルールの追加/編集	8-26
URLフィルタ	8-28
URLフィルタ設定.....	8-28
アクセスを遮断するURL.....	8-28
カスタム設定	8-29
カスタム設定	8-29
DNSサーバ.....	8-31
DNSエントリ	8-31
ダイナミックDNS	8-32
DHCPサーバ.....	8-33
DHCP設定 LANポート.....	8-33
DHCP設定	8-34
DHCP設定	8-34
ルーティング.....	8-35
ルーティング設定	8-35
ユーザ.....	8-36
ユーザ設定	8-36
日付と時刻	8-38
ファームウェアアップデート	8-39
IPsec.....	8-40
詳細設定	8-40
ログ設定	8-40
UPnP	8-41
システム設定	8-41

診断ツール	8-43
設定情報の初期化.....	8-44
再起動.....	8-44
ファームウェア情報.....	8-44
接続状況	8-45
接続状況.....	8-45
稼働時間	8-45
オプション設定	8-46
カスタム設定	8-46
無線LANアクセスポイント (Web Caster FT-STC-Pa).....	8-47
無線LANアクセスポイント (Web Caster FT-STC-Pb).....	8-48
USBカメラ	8-49
PCカードメモリ.....	8-50
ダイナミックDNS (DP-21.NET).....	8-50
ログアウト	8-51

⑨ 資料

パソコンのIPアドレスの管理	9-2
IPアドレスの確認	9-2
Windows® XP	9-2
Windows® 2000	9-4
Windows® Me/98	9-5
Mac OS® X.....	9-6
Mac OS® (8 ~ 9).....	9-7
IPアドレスの変更.....	9-8
Windows® XP	9-8
Windows® 2000.....	9-11
Windows® Me/98.....	9-14
Mac OS® X	9-17
Mac OS® (8 ~ 9).....	9-19
IPアドレスの再取得.....	9-21
Windows® XP.....	9-21
Windows® 2000.....	9-23
Windows® Me/98.....	9-24
Mac OS® / Mac OS® X.....	9-25
MACアドレスの確認.....	9-26
Windows® XP.....	9-26
Windows® 2000.....	9-28
Windows® Me/98.....	9-29
Mac OS® X	9-30
Mac OS® (8 ~ 9).....	9-31
用語解説	9-32
設定記入シート	9-37

10 追加機能

Web Caster FT-STC-Pa/g を利用した無線 LAN の設定	10-2
無線 LAN 設定	10-2
Web Caster FT-STC-Pa/g を利用する	10-4
Web Caster FT-STC-Pa/g を利用し 802.11a をご利用の場合	10-5
Web Caster FT-STC-Pa/g を利用し 802.11g をご利用の場合	10-9
暗号化の設定	10-13
セキュリティ設定	10-14
Web Caster 7000 から Web Caster FT-STC-Pa/g を取り出すには	10-16
ファイルサーバの設定	10-17
USB ストレージデバイスを使用する	10-17
Web Caster 7000 への USB ストレージデバイスの取り付け	10-18
パーティションの作成とフォーマット	10-19
ハードディスクの取り外し	10-39
アクセス設定	10-42
ファイルサーバへのアクセス	10-47
FTP サーバの設定	10-62
Web サーバの設定	10-68
ATA カードと USB ストレージデバイスを同時に使用する場合	10-70
追加機能パッケージ	10-72
「追加機能パッケージ」のインストール	10-72
「追加機能パッケージ」の設定	10-76
USB カメラの設定	10-78
PHP 対応 Web サーバ機能	10-79
PHP スクリプト動作機能	10-88
telnet 接続機能	10-88
スタートアップスクリプト機能	10-89
接続ログ機能	10-90
IPv6 ブリッジ設定	10-94
PPPoE ブリッジ機能の設定	10-96
設定情報の保存 / 読み込み機能	10-99
設定情報の保存	10-99
設定情報の読み込み	10-102
ユーザのアクセス権限の項目追加	10-105
NAPT 機能の有効 / 無効の切り替え	10-106
NTP 更新時間変更と複数接続先対応	10-109
PPPoE の自動切断機能設定の変更	10-112
UPnP セッション選択機能	10-113
FTP サーバへの anonymous 設定	10-116
FTP ユーザアカウント設定	10-118
IPSec のアグレッシブモードに対応	10-119
その他	10-120
Unnumbered 接続時のフィルタリングルールについて	10-120
WAN PPPoE の詳細設定画面について	10-121
接続状況画面について	10-122

第6章

Web Caster 7000 機能・設定詳細

この章では、Web Caster 7000のすべての機能について詳細に解説します。

Web Caster 7000の主な機能	6-2
設定ページの開き方	6-5
WAN側の設定	6-10
LAN側の設定	6-40
セキュリティの設定	6-82
サーバ公開設定	6-136
VPNの設定	6-166
オプション設定	6-198
保守・管理	6-235

Web Caster 7000 の主な機能

6

Web Caster 7000 の機能・設定の詳細

機能およびその概要の一覧

WAN 側の機能

PPPoE 機能	B フレッツ、フレッツ・ADSL に対応。本体に PPPoE 機能を搭載していますので、インターネット接続時はフレッツ接続ツール等を利用せずに自動接続できます。また、無通信の時間を監視して自動切断する機能もあり、より快適なインターネットアクセスを提供します。
マルチセッション対応	ISP とフレッツ・スクエア等、同時に複数の PPPoE 接続先に接続可能です。
Unnumbered 機能	ISP 事業者提供の複数固定 IP アドレスサービスに対応し、サーバ (WWW・メール・FTP 等) をインターネット上に公開できます。
ステートフルパケットインスペクション機能	ファイアウォールを通過するパケットのデータを読み取り、そのパケットと LAN 側から送信したパケットとの間に矛盾がないかを判断し、動的にポートを開放・閉鎖します。
パケットフィルタリング機能	IP アドレス・ポート番号指定により不適切なパケットや不正なパケットを遮断し、パソコンを不正なアクセスから守ります。
DoS 攻撃検出機能	WAN 側からの不正な攻撃を検出し遮断します。
ローカルサーバ機能	ポート番号別に転送先のパソコンを指定し、サーバ (WWW、メール、FTP 等) をインターネット上に公開できます。
DMZ 機能	LAN 上の 1 台の PC をインターネット側からアクセスできるようにします。1 対 1 の通信を必要とするようなオンラインゲームやチャットソフト等に最適です。また、インターネットでの通信形態 (ポート番号) が不明な場合にも有効です。 DMZ 機能利用時には、ファイアウォール機能が無効になり、セキュリティが弱くなります。必要な時だけ有効にしてください。

URL フィルタ機能	LAN 側に接続されてるパソコンからインターネットへのアクセスを制限します。
リモートアクセス機能	遠隔地のパソコンから Web サーバ、FTP サーバ、USB カメラにアクセスしたり、本商品の設定ができます。
VPN 機能	PPTP/IPSec による仮想プライベートネットワークが構築できます。

LAN 側の機能

NAPT 機能	ISP より提供されるグローバル IP アドレスを LAN 側のプライベートアドレスに変換します。これにより、LAN 側の複数のパソコンから同時にインターネットが利用できます。
DHCP サーバ機能	LAN 側のパソコンへ自動的に IP アドレスを割り当てます。手動による IP アドレスの設定も可能です。
DNS サーバ機能	LAN 側のホスト名と IP アドレスを管理し、ホスト名から IP アドレスを参照できるようにします。
プロキシ DNS 機能	LAN 側のパソコンからの DNS 問い合わせのパケットを WAN 側の DNS サーバに転送します。
ダイナミックルーティング	動的にルーティング情報を設定し、大規模なネットワークにも対応します。 本商品は RIPv1/v2 に対応しています。
UPnP 機能	Windows Messenger 等の UPnP 対応アプリケーションを利用することができます。
無線機能	オプションの Web Caster FT-STC-Pa または Web Caster FT-STC-Pb を本商品に接続することで無線アクセスポイントとして利用できます。 Web caster FT-STC-Pa と Web Caster FT-STC-Pb を同時に本商品に接続することはできません。

その他機能

サーバ機能	本商品にフラッシュメモリ（PCカードメモリ）を接続することで、外部にWebサーバとして公開することができます。また、フラッシュメモリにLAN側のパソコンで共有するファイルを保存しておくことで、FTPによるファイルサーバとして利用することもできます。
USBカメラ機能	オプションのUSBカメラ EE260を本商品のUSBポートに接続することで、カメラサーバとして利用することができ、LAN内やインターネット経由で撮影された静止画や動画が観覧できます。
IP電話サービス対応	オプションのWeb Caster 7000 VoIPユニットを本商品の専拡張スロットに装着すると、ISP事業者が提供するIP電話サービスが利用できます。
ダイナミックDNS機能	外部にサーバを公開する場合、本商品に動的なIPアドレスが割り当てられると、ホスト名とIPアドレスの連結ができなくなります。ダイナミックDNS機能により変動するIPアドレスと固定のホスト名を結びつけることができ、公開サーバへのアクセスが容易になります。
Webブラウザによるかんたん設定	専用ソフトウェアや専門的な知識が必要なコマンド入力が必要で、Webブラウザによるかんたん設定で初心者の方でも短時間でセットアップができます。
E-mail通知機能	アクセス制限ログ等をE-mailにて通知することができます。

設定ページの開き方

設定ページのアクセス方法

本商品は、Microsoft® Internet Explorer や Netscape Navigator® などの Web ブラウザで「設定ページ」を開いて、各種設定を行います。

起動の方法

- 1 パソコンを起動します。
- 2 本商品とパソコンが接続されていることを確認します。
- 3 Web ブラウザを起動します。



- 4 本商品の設定ページを開きます。アドレス欄に「http://192.168.1.1/」あるいは「http://wbc7000.home/」と入力します。

パソコンのDNSサーバアドレスに、プロバイダから指定されたアドレスを設定している場合は、アドレス欄に「http://192.168.1.1/」と入力してください。



- 5 キーボードの [Enter] キーを押します。

ログインユーザ名・ログインパスワードの設定方法

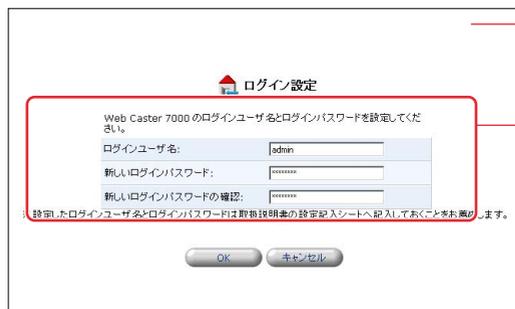
- 1 本商品の設定ページを初めて開いたときは、下記の画面が表示されます。
[OK] ボタンをクリックします。



初回のみ、この画面に切り替わります。

クリックします。

- 2 本商品のログインユーザ名とログインパスワードを設定します。[ログインユーザ名] に任意の名前を入力し、[新しいログインパスワード] に任意のパスワードを入力します。確認のために [新しいログインパスワードの確認] に再度パスワードを入力します。



初回のみ [ログイン設定] 画面が表示されます。(2 回目以降は [ログイン] 画面が表示されます。)

入力します。

[ログインユーザ名]

任意のユーザ名を入力します。半角英字または数字を使用し、1 ~ 64 文字の範囲で入力してください。

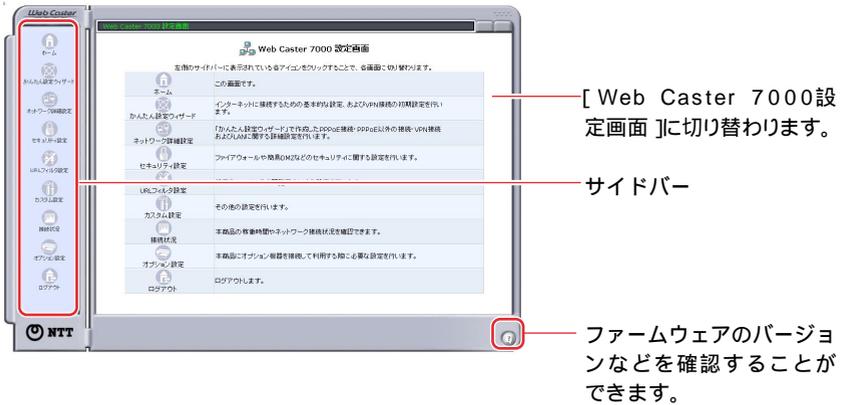
[新しいログインパスワード]

任意のパスワードを入力します。半角英字または数字を使用し、1 ~ 64 文字の範囲で入力してください。なお、入力したパスワードはすべて「*」または「・」で表示されます。

[新しいログインパスワードの確認]

[新しいパスワード] と同じパスワードを再度入力します。
なお、入力したパスワードはすべて「*」または「・」で表示されます。

3 [OK]ボタンをクリックすると、Web Caster 7000 の設定画面が表示されます。



設定メニューについて

ここでは、設定ページの各項目の概要を説明します。

- [ホーム] アイコン
クリックすると、[Web Caster 7000 設定画面] に切り替わります。
- [かんたん設定ウィザード] アイコン
クリックすると、かんたん設定ウィザードが起動します。
- [ネットワーク詳細設定] アイコン
WANポートやLANポートの接続に関する詳しい設定を行う時に使用します。
クリックすると、[ネットワーク詳細設定] 画面に切り替わります。
- [セキュリティ設定] アイコン
ファイアウォールの設定や、インターネットとLANでのアクセス制限に関する設定を行うときに使用します。
クリックすると、[セキュリティ設定] 画面に切り替わります。
- [URLフィルタ設定] アイコン
特定のWebサイトを閲覧禁止にするときに使用します。
クリックすると、[URLフィルタ設定] 画面に切り替わります。
- [カスタム設定] アイコン
その他の設定を行うときに使用します。カスタム設定で行なう項目は次の通りです。

カスタム設定メニュー

DNS サーバ
ホストとIPアドレスの対応を確認したり、修正したりするときに使用します。
ダイナミック DNS サーバ
ダイナミック DNS サーバを利用するときに使用します。
DHCP サーバ
DHCP サーバの設定を行ったり、LAN 内の DHCP クライアントを確認するときに使用します。
ルーティング
ルーティングに関する設定を行うときに使用します。
ユーザ
管理者の設定の変更、および、本商品にアクセスを許可する PPTP クライアントの設定などを行うときに使用します。
日付と時刻
本商品の日付と時刻を変更するときに使用します。
ファームウェアアップデート
本商品のファームウェアをアップグレードするときに使用します。
IPSec
IPSec に関する設定を行うときに使用します。
UPnP
Universal Plug and Play に関する設定を行うときに使用します。
システム設定
本商品のホスト名やドメイン名などを設定するときに使用します。
診断ツール
本商品から指定した IP アドレスへ Ping を行ない、通信テストするときに使用します。
設定情報の初期化
本商品の設定を購入時の状態に戻すときに使用します。
再起動
本商品を再起動するときに使用します。
ファームウェア情報
ファームウェアのバージョンを確認するときに使用します。

■ [接続状況] アイコン

本商品の稼働時間やネットワーク情報などを確認するときに使用します。
クリックすると、[接続状況] 画面に切り替わります。

■ [オプション設定] アイコン

本商品にオプション機器を接続して利用する際に必要な設定を行います。

■ [ログアウト] アイコン

クリックすると設定画面からログアウトします。

WAN側の設定

ここでは、[PPPoE 接続] または [PPPoE 以外の接続] を使用してインターネットに接続する方法について説明します。

設定方法は各接続により異なります。

お使いの接続方法をご確認のうえ、該当するページをご参照ください。

[PPPoE 接続] を設定する

1. プロバイダから IP アドレスを自動取得する場合、またはプロバイダからの情報をもとに IP アドレスを固定で設定する場合
本商品の取扱説明書「第 4 章 インターネットへの接続」をご参照ください。
2. IP アドレスを固定で設定し、Unnumbered 接続する場合
P.6-11 「PPPoE 接続で Unnumbered 接続を設定するとき」へお進みください。
3. PPPoE 接続を複数設定し、マルチセッション接続する場合
P.6-19 「PPPoE 接続でマルチセッション接続を設定するとき」へお進みください。

[PPPoE 以外の接続] を使用する

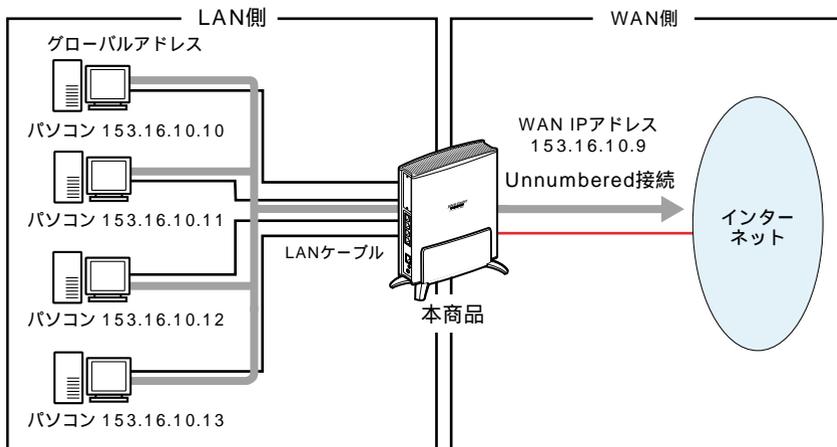
1. PPPoE 接続を行わず、DHCP などによりプロバイダから IP アドレスを自動取得する場合
P.6-28 「PPPoE 以外の接続で自動取得を設定するとき」へお進みください。
2. プロバイダからの情報をもとに、IP アドレスを固定で設定する場合
P.6-32 「PPPoE 以外の接続で固定 IP アドレスを設定するとき」へお進みください。
3. IP アドレスを固定で設定し、Unnumbered 接続する場合
P.6-34 「PPPoE 以外の接続で Unnumbered 接続を設定するとき」へお進みください。

PPPoE 接続を設定する

ここでは、本商品の取扱説明書で説明していない PPPoE 接続を使用した設定方法について説明します。

PPPoE 接続で Unnumbered 接続を設定するとき

本商品の PPPoE 接続で、Unnumbered 接続する方法について説明します。プロバイダとの契約で複数の固定 IP アドレスを取得している場合には、Unnumbered 接続が必要となることがあります。



本商品で Unnumbered 接続の設定を行なう場合、以下の手順になります。

1. WAN PPPoE の設定
2. パソコンの IP アドレスの設定

！ ご注意

- ・プロバイダからの設定資料をご用意ください。
 - ・Unnumbered 接続の設定を行なう前に、簡単設定ウィザードで PPPoE 接続を作成してください。
- 本商品の取扱説明書「第 4 章 インターネットへの接続」をご参照ください。

プロバイダから複数のグローバルIPアドレスが割り当てられる場合、1つのサブネットとして連続したグローバルIPアドレスが割り当てられます。このうち最初(ネットワークアドレス)と最後(ブロードキャストアドレス)はシステムで予約されており、ホスト(コンピュータやサーバ)には使用できません。

例) プロバイダから 153.16.10.8 ~ 153.16.10.15 の 8 個のグローバルIPアドレスが割り当てられた場合

153.16.10.8	ネットワークアドレス(使用不可)
153.16.10.9	ルータ用(WAN PPPoEポート)
153.16.10.10	
⋮	ホスト用
153.16.10.14	
153.16.10.15	ブロードキャストアドレス(使用不可)

WAN PPPoE の設定

- 1 サイドバーの[ネットワーク詳細設定]アイコンをクリックします。



クリックします。

- 2 すでに設定してある[WAN PPPoE]接続の「修正」ボタンをクリックします。



[ネットワーク詳細設定] 画面に切り替わります。

修正 ボタンをクリックします。

- 3 回線が接続されている場合は、[切断] ボタンをクリックし、回線をいったん切断します。

[詳細設定] ボタンをクリックします。



[ネットワーク接続 WAN PPPoE] 画面に切り替わります。

クリックします。

4 [IP 設定] 欄から、[IP アドレスを固定設定する]を選択します。

詳細設定 WAN PPPoE

基本設定
ステータス: 無効
MTU: 1454

PPP
接続ユーザ名: _____
接続パスワード: _____
 自動切断 (無効化時に自動的に切断します)

PPP認証
 PAP認証を許可する (PAP)
 CHAP認証を許可する (CHAP)

IP設定
 IPアドレスを自動取得する
 IPアドレスを自動取得する
 IPアドレスを固定設定する

DNSサーバ
DNSサーバIPアドレスを自動取得する

デバイスリンク: 20

OK キャンセル

[詳細設定 WAN PPPoE]
画面に切り替わります。

選択します。

5 プロバイダからの情報をもとにIPアドレスを入力し、[サブネットマスクを置き換える]にチェックをつけ、サブネットマスクを入力します。

詳細設定 WAN PPPoE

基本設定
ステータス: 無効
MTU: 1454

PPP
接続ユーザ名: _____
接続パスワード: _____
 自動切断 (無効化時に自動的に切断します)

PPP認証
 PAP認証を許可する (PAP)
 CHAP認証を許可する (CHAP)

IP設定
 IPアドレスを自動取得する
 IPアドレスを固定設定する

IPアドレス: 153.118.110.0

サブネットマスクを置き換える

DNSサーバ
DNSサーバIPアドレスを自動取得する

デバイスリンク: 20

LAN側グローバルネットワーク(Unnumbered接続)
ネットワークアドレス: 0.0.0.0
サブネットマスク: 255.255.255.0

OK キャンセル

[詳細設定 WAN PPPoE]
画面に切り替わります。

入力します。

- 6 [DNSサーバ]欄から [DNSサーバアドレスを固定設定する] を選択し、DNSサーバアドレスを入力します。

IP設定	IPアドレスを固定設定する
IPアドレス:	153 16 10 0
<input checked="" type="checkbox"/> サブネットマスクを書き換える	255 255 255 248
DNSサーバ	DNSサーバアドレスを固定設定する
プライマリDNSサーバ:	211 9 222 5
セカンダリDNSサーバ:	211 9 222 55
デバイスアドレス:	20
LAN側グローバルネットワーク(Unnumbered接続)	
ネットワークアドレス:	0 0 0 0
サブネットマスク:	255 255 255 0

OK キャンセル

入力します。

- 7 [LAN側グローバルネットワーク]欄の [ネットワークアドレス] にプロバイダから割り当てられたネットワークアドレスとサブネットマスクを入力します。

[OK] ボタンをクリックします。

IP設定	IPアドレスを固定設定する
IPアドレス:	153 16 10 0
<input checked="" type="checkbox"/> サブネットマスクを書き換える	255 255 255 248
DNSサーバ	DNSサーバアドレスを固定設定する
プライマリDNSサーバ:	211 9 222 5
セカンダリDNSサーバ:	211 9 222 55
デバイスアドレス:	20
LAN側グローバルネットワーク(Unnumbered接続)	
ネットワークアドレス:	153 16 10 8
サブネットマスク:	255 255 255 248

OK キャンセル

クリックします。

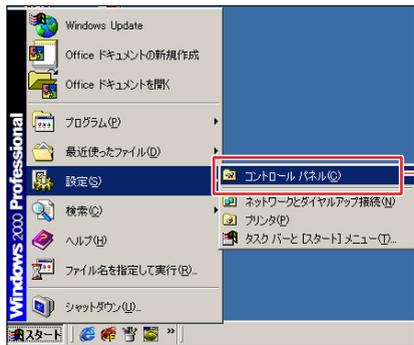
これで本商品の [WAN PPPoE] 側の設定は終了しました。
次にお使いのパソコンにグローバルIPアドレスを設定します。

パソコンのIP アドレス設定

ここでは、Windows® 2000 を例にして、パソコンにグローバルIPアドレスを設定する方法について説明します。

他の OS をお使いのお客さまは、P.9-2 「第 9 章 パソコンの IP アドレスの管理」をご参照ください。

- 1 [スタート][設定][コントロールパネル]をクリックします。



クリックします。

- 2 [ネットワークとダイヤルアップ接続]をダブルクリックします。



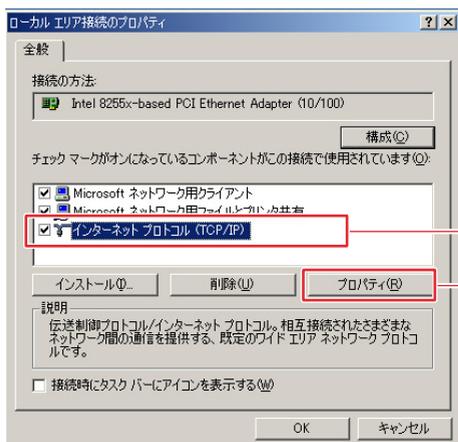
クリックします。

3 [ローカルエリア接続]アイコンを右クリックし、[プロパティ]を選択します。



選びます。

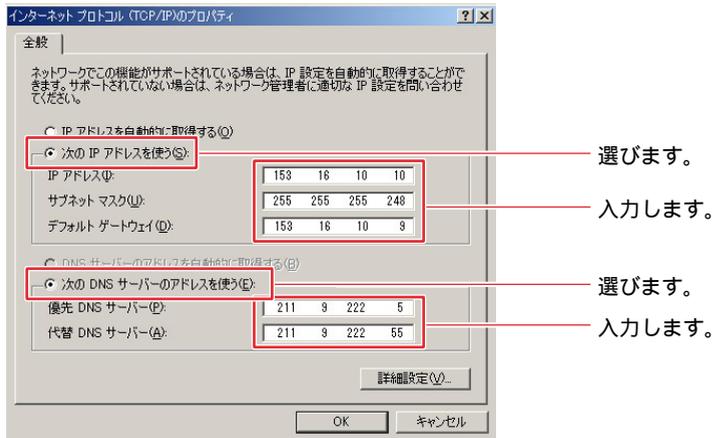
4 [インターネットプロトコル(TCP/IP)]を選択し、[プロパティ]ボタンをクリックします。



選びます。

クリックします。

- 5 [次のIPアドレスを使う]と[次のDNSサーバのアドレスを使う]にチェックを付けます。
プロバイダからの情報をもとに、IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイ、優先 DNS サーバ、代替 DNS サーバを入力します。

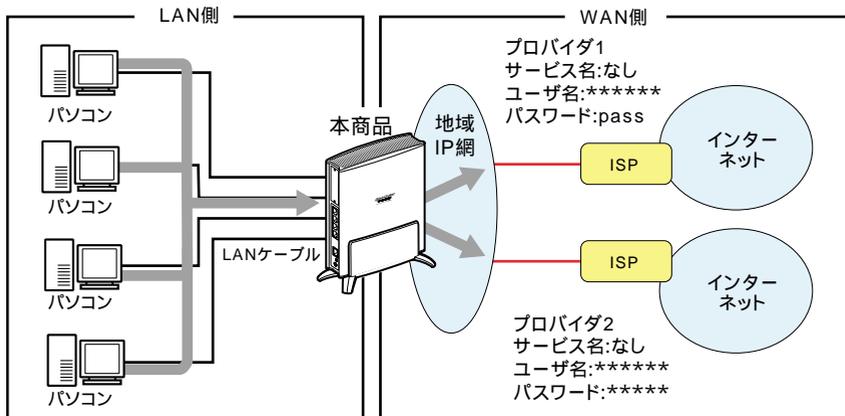


プロバイダからの設定資料にそって設定してください。

- 6 [OK]ボタンをクリックします。
- 7 以上で設定は終了です。

PPPoE 接続でマルチセッション接続を設定するとき

本商品では、PPPoE マルチセッションに対応しております。
マルチセッション利用時は複数のプロバイダを登録し同時に接続することができます、最大 4 セッションの接続を同時に行うことができます。



また、複数の接続先を登録した場合は、デフォルトゲートウェイの変更や接続先の優先順位の変更を自由に行うことができます。
通常は PPPoE 接続を作成した順に登録され、優先順位が決まります。

接続名	優先順位	メトリック
WAN PPPoE	1	20
WAN PPPoE2	2	21
WAN PPPoE3	3	22
WAN PPPoE4	4	23

1 ご注意

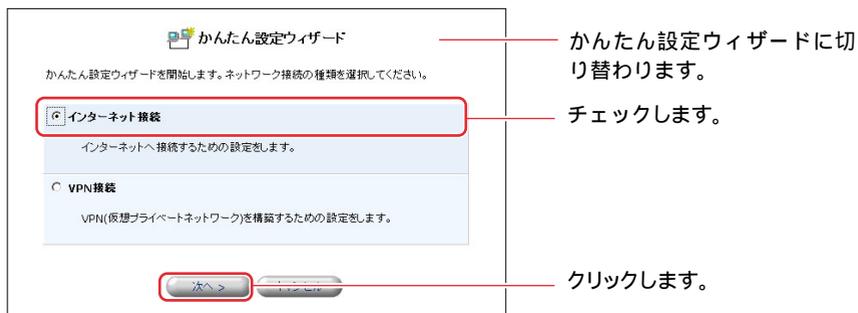
- ・複数セッションへの接続機能は、複数の PPPoE セッションへの接続を同時に行えるサービス(マルチセッション)でのみご利用することができます。
マルチセッションがサポートされていないサービスの場合は、複数セッションへの同時接続機能はご利用できません。
- ・Unnumbered 接続とは異なります。
- ・PPPoE 接続以外の接続(DHCP 接続など)ではこの機能は使用できません。

複数の接続先を登録する場合

- 1 ここでは、1つ目の PPPoE 接続が既に登録されていて、2つ目を追加登録する場合について説明します。
サイドバーの[かんたん設定ウィザード]アイコンをクリックします。



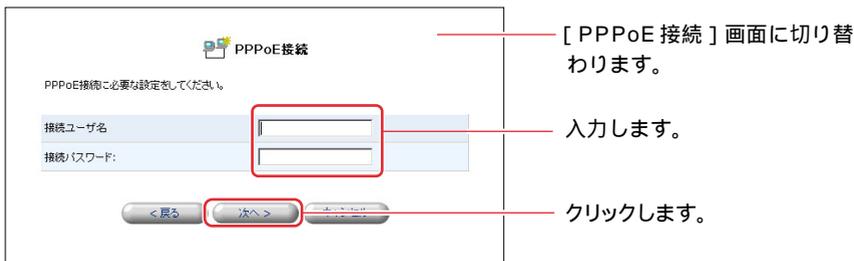
- 2 [インターネット接続]にチェックをつけ、[次へ]ボタンをクリックします。



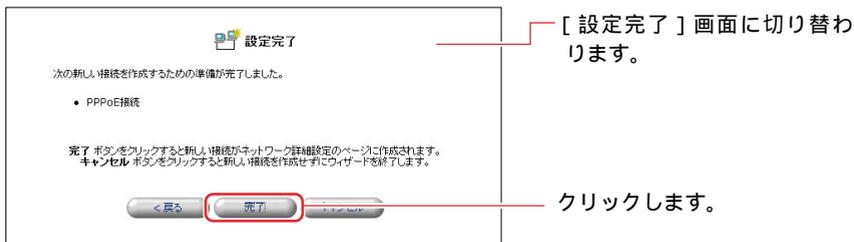
- 3 [PPPoE接続]にチェックをつけ、[次へ]ボタンをクリックします。



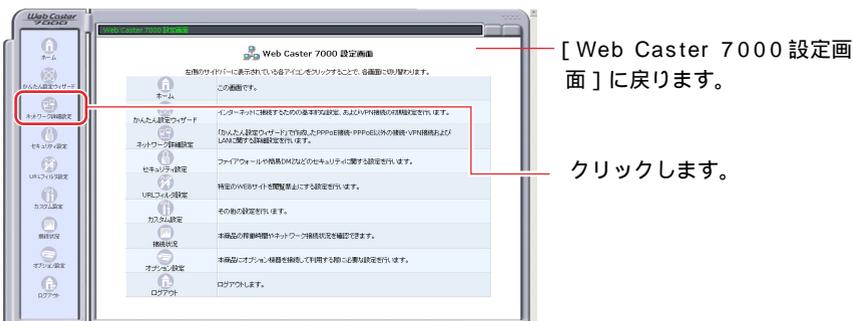
- 4 2つ目のプロバイダから指定された接続ユーザ名、接続パスワードを入力します。また、プロバイダからサービス名が指定された場合のみサービス名を入力します。
[次へ]ボタンをクリックします。



- 5 [設定完了]の画面が表示されますので、[完了]ボタンをクリックします。



- 6 サイダーから[ネットワーク詳細設定]アイコンをクリックします。



7 2つ目の[WAN PPPoE 2]が表示されていることを確認します。



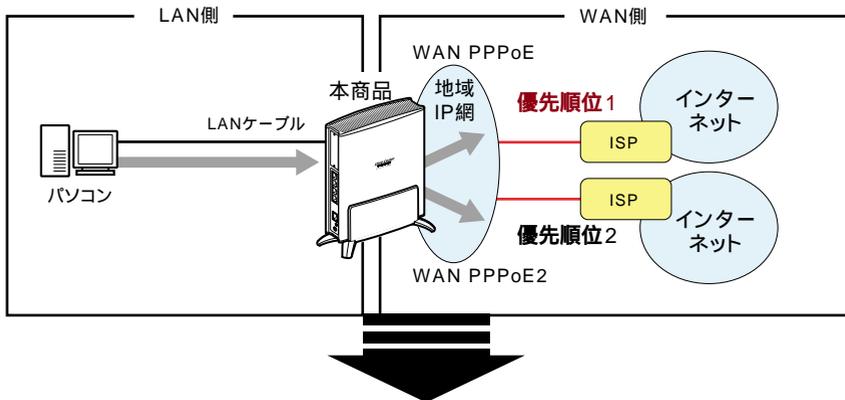
[ネットワーク詳細設定] 画面に切り替わります。

確認します。

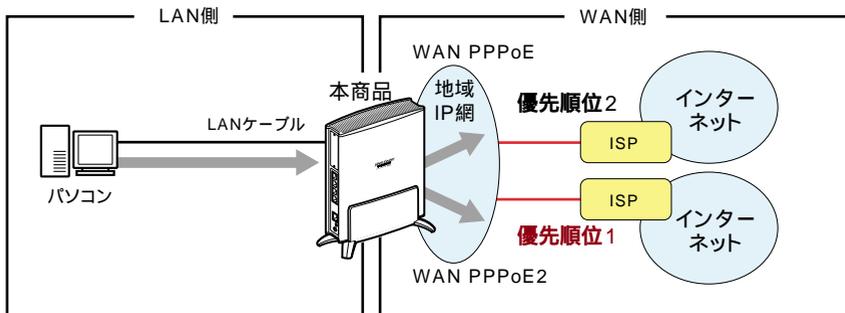
8 以上で設定は終了です。
3つ目、4つ目のPPPoEの接続先を登録する場合は、同様の手順でお進めください。

接続先の優先順位を変更する場合

本商品で複数の接続先を登録した場合、登録した順に優先順位が設定されます。本商品は PPPoE 接続を設定後、デフォルトゲートウェイの変更や優先順位を変更することができます。



WAN PPPoEを優先順位2、WAN PPPoE2を優先順位1に変更した場合。



- 1 サイドバーから「ネットワーク詳細設定」アイコンをクリックします。



2 「接続名」欄から「WAN PPPoE」の修正ボタンをクリックします。

[ネットワーク詳細設定] 画面に切り替わります。

修正 ボタンをクリックします。

3 回線が接続されている場合は、[切断] ボタンをクリックし回線をいったん切断します [詳細設定] ボタンをクリックします。

[ネットワーク接続 WAN PPPoE] 画面に切り替わります。

クリックします。

4 [デバイスメトリック] 欄に「21」を入力し、[OK]ボタンをクリックします。

入力します。

クリックします。

- 5 [OK]ボタンをクリックし、[ネットワーク詳細設定]の画面に戻ります。
「接続名」欄から「WAN PPPoE2」の修正ボタンをクリックします。



[ネットワーク詳細設定]画面に戻ります。

[修正]ボタンをクリックします。

- 6 回線が接続されてる場合は、[切断]ボタンをクリックし回線をいったん切断します [詳細設定]ボタンをクリックします。



[ネットワーク接続 WAN PPPoE 2]画面に切り替わります。

クリックします。

- 7 [デバイスメトリック]欄に「20」を入力し、[OK]ボタンをクリックします。



入力します。

クリックします。

- 8 以上で設定は終了です。
本商品に設定されたWAN PPPoE2がデフォルトゲートウェイ、WAN PPPoEが優先順位2に変更されました。

3つ目、4つ目のPPPoE接続の優先順位を変更する場合は、同様の手順でお進めください。

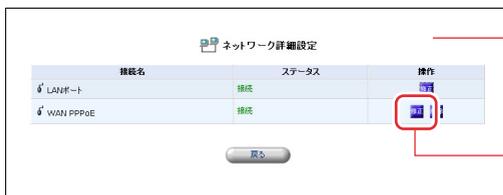
PPPoE 接続の削除

1 サイドバーの[ネットワーク詳細設定]アイコンをクリックします。



クリックします。

2 [接続名]欄から削除するPPPoE接続の[修正]ボタンをクリックします。



[ネットワーク詳細設定] 画面に切り替わります。

修正 ボタンをクリックします。

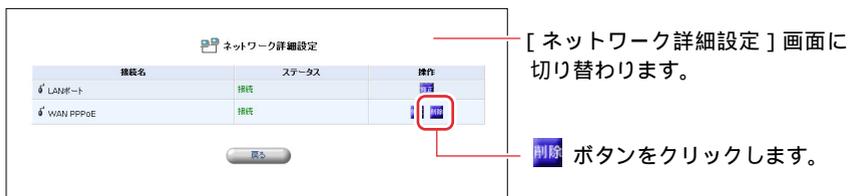
3 回線が接続されてる場合は、[切断]ボタンをクリックし、回線をいったん切断します。[OK]ボタンをクリックします。



[ネットワーク接続 WAN PPPoE] 画面に切り替わります。

クリックします。

- 4 [接続名]欄から削除する PPPoE 接続の[削除]ボタンをクリックします。
[削除]ボタンは続けてクリックせずに、1 回のみクリックしてください。



なお、本商品の設定画面が応答しなくなった場合は、いったん本商品の電源を入れ直し、再起動してください。

- 5 [戻る]ボタンをクリックします。
- 6 以上で設定は終了です。

PPPoE 以外の接続設定

ここでは、PPPoE 以外の接続を使用した設定方法について説明します。
PPPoE 以外の接続サービスは、通常接続や DHCP によるアドレス自動設定、固定 IP アドレスの設定などがあります。

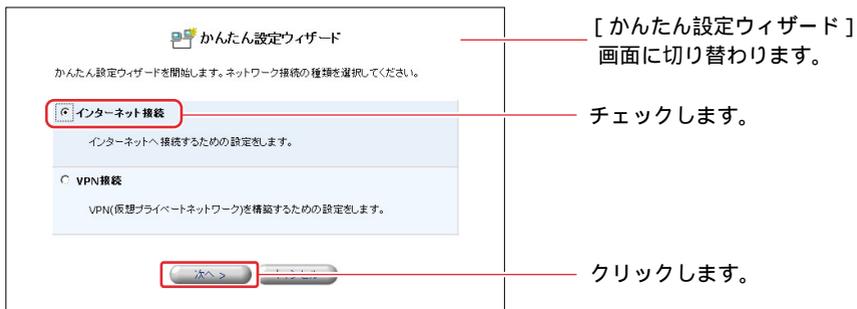
PPPoE 以外の接続で自動取得を設定するとき

ここでは、[かんたん設定ウィザード] を使って IP アドレスを自動取得で設定する場合について説明します。

- 1 サイドバーから [かんたん設定ウィザード] アイコンをクリックすると、ウィザードが開始されます。画面の指示に従って設定を進めてください。



- 2 [インターネット接続] にチェックをつけ、[次へ] ボタンをクリックします。



[かんたん設定ウィザード]
画面に切り替わります。

チェックします。

クリックします。

3 [PPPoE 以外の接続] にチェックをつけ、[次へ] ボタンをクリックします。

インターネット接続

インターネット接続の種類を選択してください。

PPPoE接続
フレッツ・ADSL、Bフレッツなど、PPPoEを使用して Web Caster 7000 をインターネットに接続します。

PPPoE以外の接続
DHCPまたは固定のIPアドレスを使用して Web Caster 7000 をインターネットに接続します。

< 戻る **次へ >** キャンセル

[インターネット接続] 画面に切り替わります。

チェックします。

クリックします。

4 [自動取得] にチェックをつけ、[次へ] ボタンをクリックします。これでプロバイダから IP アドレスを自動的に取得することができます。

PPPoE以外の接続

IPアドレスを自動取得するか固定のIPアドレスを設定するか選択してください。設定を行なうと既存のWANポートの設定が更新されます。

自動取得
DHCPサーバからIPアドレスを自動取得します。

固定IPアドレス
固定のIPアドレスを手動設定します。

< 戻る **次へ >** キャンセル

チェックします。

クリックします。

5 [完了] ボタンをクリックします。設定を修正する場合は[戻る] ボタンをクリックし、修正する画面まで戻ってください。

設定完了

次の新しい接続を作成するための準備が完了しました。

- PPPoE以外の接続
- DHCPサーバからIPアドレスを自動取得
- WANポートの設定を変更します。

完了 ボタンをクリックすると新しい接続がネットワーク詳細設定のページに作成されます。キャンセル ボタンをクリックすると新しい接続を作成せずにウィザードを終了します。

< 戻る **完了** キャンセル

[設定完了] 画面が表示されます。内容を確認してください。

[完了] ボタンをクリックします。
[完了] ボタンは続けてクリックせずに、1回のみクリックして下さい。

- 6 プロバイダから DNS サーバの IP アドレスが指定されている場合は、さらにその設定を行う必要があります。サイドバーから [ネットワーク詳細設定] アイコンをクリックします。
[WAN ポート] の「修正」ボタンをクリックします。



修正 ボタンをクリックします。

- 7 回線が接続されている場合は[無効]ボタンをクリックし、回線をいったん切断します。
[詳細設定]ボタンをクリックします。



[ネットワーク接続 WAN ポート] 画面が表示されます。内容を確認してください。

クリックします。

- 8 [DNS サーバ] 欄から [DNS サーバアドレスを固定設定する] を選択し、プロバイダからの情報をもとに DNS サーバアドレスを入力します。



[詳細設定 WAN ポート] 画面に切り替わるので、DNS サーバの設定を行います。

選択します。

クリックします。

プロバイダの資料に従って設定してください。

9 [OK]ボタンをクリックします。

10 以上で設定は終了です。

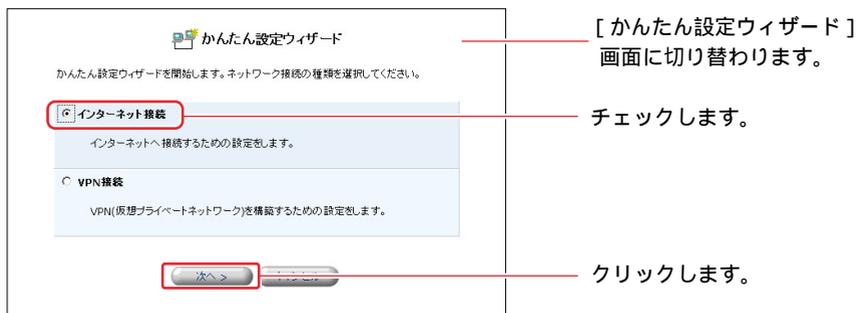
PPPoE 以外の接続で固定 IP アドレスを設定するとき

ここでは、[かんたん設定ウィザード]を使って固定 IP アドレスを設定するときの方法について説明します。

- 1 [かんたん設定ウィザード]アイコンをクリックすると、ウィザードが開始されます。画面の指示に従って進めてください。



- 2 [インターネット接続]にチェックをつけ、[次へ]ボタンをクリックします。



- 3 [PPPoE 以外の接続]にチェックをつけ、[次へ]ボタンをクリックします。



4 [固定IPアドレス]にチェックをつけ、[次へ]ボタンをクリックします。

PPPoE以外の接続

IPアドレスを自動取得するか固定のIPアドレスを設定するか選択してください。設定を行なうと既存のWANポートの設定が更新されます。

自動取得
DHCPサーバからIPアドレスを自動取得します。

固定IPアドレス
固定のIPアドレスを手動設定します。

< 戻る **次へ** キャンセル

チェックをします。

クリックします。

5 プロバイダからの情報をもとにIPアドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイ、DNSサーバのアドレスを入力し、[次へ]ボタンをクリックします。

固定IPアドレス

IPアドレスとDNSの設定をします。

IPアドレス	1	2	3	4
サブネットマスク	255	0	0	0
デフォルトゲートウェイ	1	2	3	5
プライマリDNSサーバ	1	2	3	6
セカンダリDNSサーバ	1	2	3	7

< 戻る **次へ** キャンセル

プロバイダからの情報をもとに、入力します。

クリックします。

プロバイダの資料に従って設定してください。

6 [完了]ボタンをクリックします。

設定完了

次の新しい接続を作成するための準備が完了しました。

- PPPoE以外の接続
- DHCPサーバからIPアドレスを自動取得
- WANポートの設定を変更します。

完了 ボタンをクリックすると新しい接続がネットワーク詳細設定のページに作成されます。
キャンセル ボタンをクリックすると新しい接続を作成せずにこのウィザードを終了します。

< 戻る **完了** キャンセル

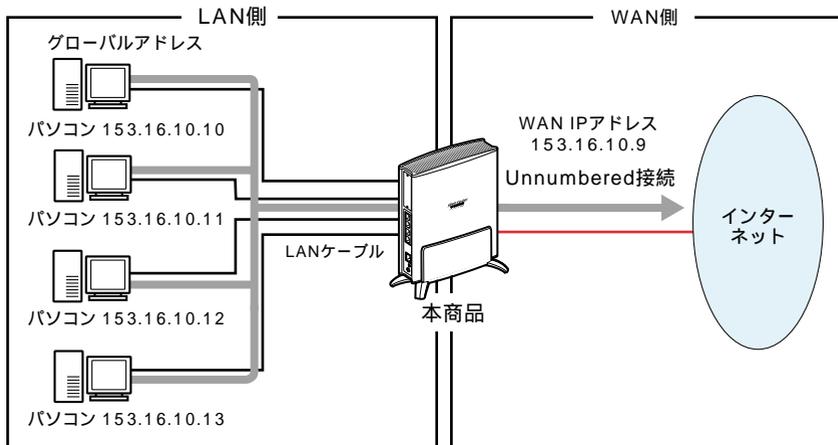
[設定完了]画面が表示されます。内容を確認してください。

[完了]ボタンをクリックします。
[完了]ボタンは続けてクリックせず、1回のみクリックして下さい。

7 以上で設定は終了です。

PPPoE 以外の接続で Unnumbered 接続を設定するとき

本商品の PPPoE 以外の接続で、Unnumbered 接続する方法について説明します。プロバイダとの契約で複数の固定 IP アドレスを取得している場合には、Unnumbered 接続が必要となることがあります。



本商品で Unnumbered 接続の設定を行なう場合、以下の手順になります。

1. WAN ポートの設定
2. パソコンの IP アドレスの設定

! ご注意

- ・プロバイダからの設定資料をご用意ください

プロバイダから複数のグローバルIPアドレスが割り当てられる場合、1つのサブネットとして連続したグローバルIPアドレスが割り当てられます。このうち最初(ネットワークアドレス)と最後(ブロードキャストアドレス)はシステムで予約されており、ホスト(コンピュータやサーバ)には使用できません。

例) プロバイダから 153.16.10.8 ~ 153.16.10.15 の 8 個のグローバルIPアドレスが割り当てられた場合

153.16.10.8	ネットワークアドレス (使用不可)
153.16.10.9	ゲートウェイ
153.16.10.10	ルータ用 (WAN PPPoE ポート)
⋮	ホスト用
153.16.10.14	
153.16.10.15	ブロードキャストアドレス (使用不可)

WANポートの設定

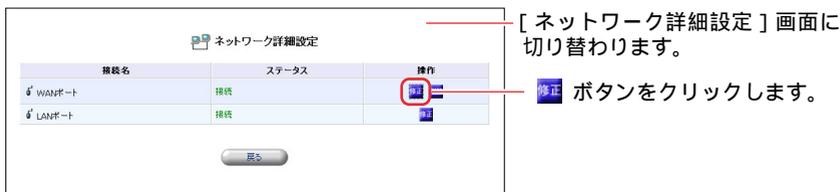
ここでは、PPPoE以外の接続で固定IPアドレスの接続がすでに登録されている場合について説明します。

本商品で固定IPアドレスの接続を設定する場合は、P.6-32「PPPoE以外の接続で固定IPアドレスを設定するとき」へお進みください。

- 1 サイドバーの[ネットワーク詳細設定]アイコンをクリックします。



- 2 [WANポート]の修正ボタンをクリックします。



- 3 回線が接続されている場合は、[無効]ボタンをクリックし、回線をいったん切断します。[詳細設定]ボタンをクリックします。



- 4 「LAN側グローバルネットワーク」にプロバイダから割り当てられたネットワークアドレスとサブネットマスクを入力します。
[OK] ボタンをクリックします。

[詳細設定 WAN ポート] 画面に切り替わります。

入力します。

クリックします。

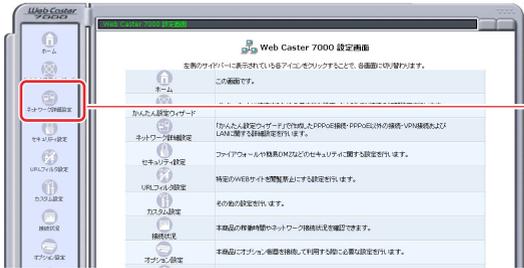
- 5 [OK] ボタンをクリックします。

これで、本商品の[WANポート]側の設定は終了しました。
次にお使いのパソコンにグローバルIPアドレスを設定します。
P.6-16 [パソコンのIPアドレス設定]へお進みください。

PPPoE 以外の接続の削除

ここでは、既に登録してある PPPoE 以外の接続を削除する場合について説明します。

- 1 サイドバーから[ネットワーク詳細設定]アイコンをクリックします。



クリックします。

- 2 [接続名]欄から削除する WAN ポート接続の[修正]ボタンをクリックします。



修正 ボタンをクリックします。

- 3 回線が接続されてる場合は、[無効]ボタンをクリックし、回線をいったん切断します[OK]ボタンをクリックします。



[ネットワーク接続 WAN ポート]画面が表示されます。内容を確認してください。

クリックします。

- 4 [接続名]欄から削除する WAN ポートの[削除]ボタンをクリックします。
[削除]ボタンは続けてクリックせずに、1 回のみクリックしてください。



削除 ボタンをクリックします。

なお、本商品の設定画面が応答しなくなった場合は、いったん本商品の電源を入れ直し、再起動してください。

- 5 [戻る]ボタンをクリックします。
- 6 以上で設定は終了です。

LAN 側の設定

ここでは、主に本商品のLAN側の設定について解説します。

IP アドレスの設定

本商品のLAN側ポートのIPアドレスを確認・変更する方法を解説します。

! ご注意

本商品のIPアドレスを変更する場合は、誤ったIPアドレスを設定することのないようご注意ください。誤ったIPアドレスを設定すると、インターネットに接続できなくなるなどのトラブルになることがあります。

LAN 側ポートの IP アドレスを確認・変更する

購入時の状態では、本商品の LAN 側ポートの IP アドレスは「192.168.1.1」が設定されています。

すでに LAN が構築されている環境に本商品を導入した場合などで、本商品の LAN 側ポートの IP アドレスを変更する必要があるときは、次の手順で行います。

- 1 サイドバーから [ネットワーク詳細設定] アイコンをクリックします。



- 2 [LANポート] の、 (修正) ボタンをクリックします。



- 3 [詳細設定] ボタンをクリックします。



- 4 本商品のLAN側ポートのIPアドレスは「IP設定」欄に表示されます。IPアドレスを変更するときは、必要に応じて各項目を設定します。

基本設定	
ステータス:	情報
LANアドレス:	10.0.0.0/24/99.77
IP設定	
IPアドレス:	[192] [168] [1] [1]
サブネットマスク:	[255] [255] [255] [0]
DHCPサーバ	
IP 有効:	<input type="checkbox"/>
利用可能開始アドレス:	[192] [168] [1] [11]
利用可能終了アドレス:	[192] [168] [1] [99]
利用可能サブネットマスク:	[255] [255] [255] [0]
WINSサーバ:	[0] [0] [0] [0]
リース期間(分):	[60]
<small>IP クライアントにホスト名が設定されている場合はホスト名を必ず入力してください。</small>	
デフォルトゲートウェイ:	[0]

[詳細設定 LAN ポート] 画面に切り替わります。

必要に応じて各項目を設定します。

- 5 画面の一番下にある [OK] ボタンをクリックし、[ネットワーク接続 LAN ポート] 画面に戻ります。

[OK] ボタンをクリックして [注意] 画面に切り替わる場合には、その内容をご確認の上、さらに [OK] ボタンをクリックして [ネットワーク接続 LAN ポート] 画面に戻ってください。

- 6 [OK] ボタンをクリックし、[ネットワーク詳細設定] 画面に戻ります。

Web ブラウザで本商品の IP アドレスを指定して設定ページにアクセスしていた場合、続いて別の設定を行いたいときは、変更後の IP アドレスでアクセスし直してください。

MEMO

LAN 側の IP アドレスを変更したとき

LAN 側の IP アドレスやサブネットマスクを変更したときは、変更後の内容に合わせて [DHCP サーバ] の設定も変更してください。

LAN 内で起動しているパソコンがあるとき

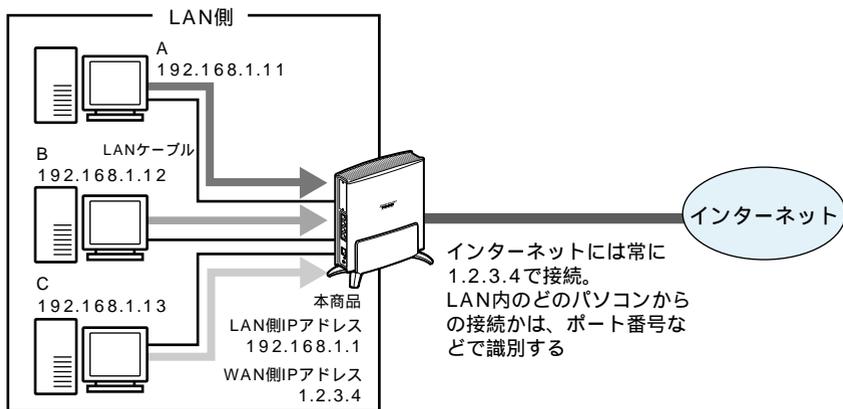
本商品の LAN 側ポートの IP アドレスを変更するときに、LAN 内で起動しているパソコンがある場合は、本商品の IP アドレスを変更した後で IP アドレスを再取得する必要があります。詳しくは P.9-2 「パソコンの IP アドレスの管理」を参照してください。

NAPT (IP マスカレード)

本商品では、ルーティングのモードとしてNAPTに対応しています。

複数のプライベートIPアドレスを1つのグローバルIPアドレスに変換する機能で、IP マスカレードとも呼ばれます。LAN側にプライベートIPアドレスを割り当てたパソコンが複数台あり、1つのグローバルIPアドレスでインターネットに接続する運用形態のときは、NAPTを使用します。

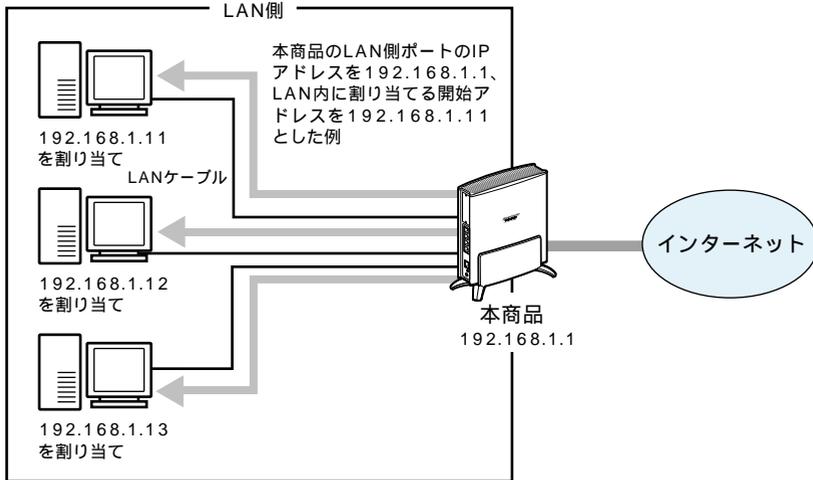
NAPTを使用した場合、LAN内で割り当てられている複数のプライベートIPアドレスが、インターネットへの接続時に1つのグローバルIPアドレスに変換されます。さらに、ポート番号も変換されます。インターネット側からは、常に1台のパソコンがインターネットに接続しているように見えます。



NAPT機能を利用するための設定は必要はありません。本商品の運用を開始すると、自動的にNAPT機能は有効になります。

DHCP サーバ設定

DHCP サーバ機能を利用すると、LAN 内のパソコンやネットワーク機器が LAN に接続されるたびに、他のどれとも重複しない IP アドレスを自動で割り当てることができます。



本商品の DHCP サーバ機能は、特定のパソコンに常に固定の IP アドレスを割り当てることもできます。また固定の IP アドレスの割り当てと、動的な IP アドレスの割り当ての両方を設定することもできます。

！ ご注意

- ・ 本商品の DHCP サーバ機能はデフォルトで有効になっています。
- ・ DHCP サーバ機能を使用しないときは、LAN 側に接続されているパソコンすべてに、手動で IP アドレスを割り当ててください。パソコンの IP アドレス設定方法は P.9-2 「パソコンの IP アドレスの管理」をご参照ください。
- ・ パソコンに手動で IP アドレスを設定した場合、そのパソコンのホスト名や IP アドレスを本商品で管理することはできません。

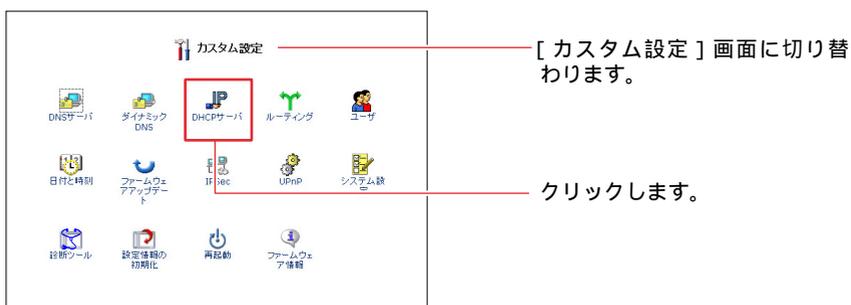
DHCP サーバの基本設定

ここでは、DHCPサーバの基本的な設定について説明します

1 サイドバーから[カスタム設定]アイコンをクリックします。



2 [DHCPサーバ]アイコンをクリックします。



- 3 現在の DHCP サーバのサブネット、IP アドレスの割り当て範囲が表示されます。
設定を変更する場合は、修正ボタンをクリックします。



- 4 [DHCP 設定 LAN ポート] の画面が表示されます。
割り当てる IP アドレスの範囲、サブネットマスク、リース期間を設定し、[OK] ボタンをクリックします。



[有効]

DHCP サーバ機能を有効にします。

[割り当て開始アドレス]

割り当てる IP アドレスの、開始アドレスを入力します。

[割り当て終了アドレス]

割り当てる IP アドレスの、終了アドレスを入力します。

[割り当てサブネットマスク]

割り当てるサブネットマスクを入力します。

[WINS サーバ]

WINS サーバを使用してる場合は、サーバアドレスを入力します。

[リース期間 (分)]

割り当てる IP アドレスの有効期限を分単位で入力します。

[クライアントにホスト名が設定されていないときにホスト名を自動的に割り当てる]

接続されているパソコンまたはネットワーク機器にホスト名が設定されていない場合自動的にホスト名が設定されます。

- 5 [OK]ボタンをクリックし、[DHCP サーバ]画面に戻ります。
- 6 以上で設定は終了です。

DHCP サーバから固定のIPアドレスを割り当てる

ここでは、特定のパソコンやネットワーク機器に DHCP サーバから常に固定の IP アドレスを割り当てる方法について説明します。

- 1 サイドバーから[カスタム設定]アイコンをクリックします。



クリックします。

- 2 [DHCPサーバ]アイコンをクリックします。



[カスタム設定] 画面に切り替わり
ます。

クリックします。

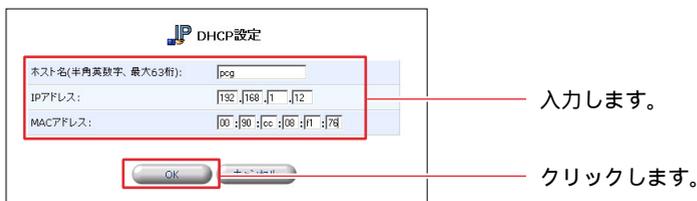
3 [DHCP 設定]ボタンをクリックします。



4 [固定 IP 割り当ての追加]欄から追加ボタンをクリックします。



5 追加したいパソコンやネットワーク機器のホスト名、IP アドレス、MAC アドレスを入力し、[OK]ボタンをクリックします。



[ホスト名]

パソコンまたはネットワーク機器のホスト名を入力します。半角英数字を使用し、1～63文字の範囲で入力してください。

[IP アドレス]

パソコンまたはネットワーク機器に割り当てる IP アドレスを入力します。

[MAC アドレス]

IP アドレスを割り当てるパソコンまたはネットワーク機器の MAC アドレスを入力します。MAC アドレスの確認の方法は P.9-26 「MAC アドレスの確認」をご参照ください。

6 追加したホストが[DHCP設定]画面に表示されているのを確認します。



ホスト名	IPアドレス	MACアドレス	タイプ	接続名	ステータス	操作
user5	192.168.1.11	00:50:0f:14:ea:02	ダイナミック	LANポート	接続	 
p00	192.168.1.12	00:90:cc:08:71:76	固定IPアドレス	LANポート	接続	 
固定IPアドレスの追加						

戻る

確認します。

7 以上で設定は終了です。

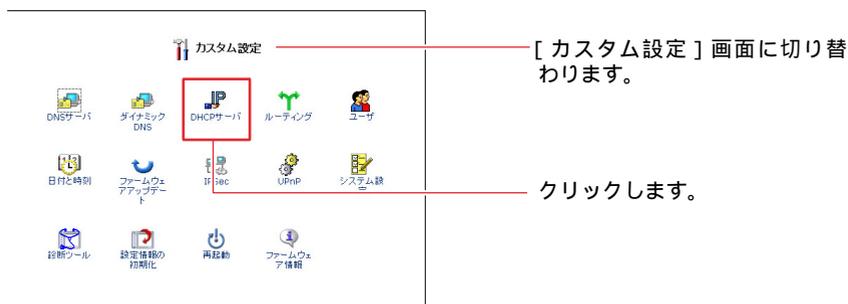
IP アドレスの修正

ここでは、既にDHCPサーバから自動にIPアドレスが割り当てられているパソコンまたはネットワーク機器の設定を変更する方法について説明します。

1 サイドバーから[カスタム設定]アイコンをクリックします。



2 [DHCPサーバ]アイコンをクリックします。



3 [DHCP 設定]ボタンをクリックします。

[DHCP サーバ] 画面に切り替わります。

クリックします。

4 設定を変更したいホストの修正ボタンをクリックします。 パソコンにどのIPアドレスが割り当てられているかを調べる方法はP.9-2「IPアドレスの確認」をご参照ください。

[DHCP 設定] 画面に切り替わります。

修正 ボタンをクリックします。

5 [固定割り当て]にチェックを付け、[OK]ボタンをクリックします。

チェックします。

クリックします。

6 タイプが [固定割り当て] になっているのを確認し、ホストの修正ボタンをクリックします。

確認します。

修正 ボタンをクリックします。

- 7 IPアドレスを固定で割り当てたり、ホスト名、MACアドレスの修正を行うことができます。

DHCP設定	
ホスト名(半角英数字、最大63桁):	user5
IPアドレス:	192.168.1.11
MACアドレス:	00:50:14:ea:02
<input checked="" type="checkbox"/> 固定割り当て	

OK キャンセル

- 8 [OK]ボタンをクリックし、[DHCP設定]画面に戻ります。

- 9 以上で設定は終了です。

IP アドレスの削除

ここでは、登録済みの IP アドレスとホスト名の対応を削除する方法について説明します。

- 1 サイドバーから[カスタム設定]をクリックします。



クリックします。

- 2 [DHCP サーバ]をクリックします。



[カスタム設定] 画面に切り替わります。

クリックします。

3 [DHCP 設定]ボタンをクリックします。

[DHCP サーバ] 画面に切り替わります。

接続名	サブネット	IP割り当て範囲	操作
<input checked="" type="checkbox"/> LANポート	255.255.255.0	192.168.1.11 - 192.168.1.99	停止

OK キャンセル **DHCP設定**

クリックします。

4 削除したいホストの削除ボタンをクリックします。

[DHCP 設定] 画面に切り替わります。

ネット名	IPアドレス	MACアドレス	タイプ	接続名	ステータス	操作
user5	192.168.1.11	00:30:b1:14-ea:02	固定割り当て	LANポート	接続	停止
pc9	192.168.1.12	00:90:cc:08:f1:76	固定割り当て	LANポート	接続	停止

固定IP割り当ての追加

戻る

削除 ボタンをクリックします。

5 [戻る]ボタンをクリックし、[DHCP サーバ]画面に戻ります。

6 以上で設定は終了です。

DHCP サーバ機能の有効/無効を設定する

ここでは、DHCP サーバ機能の有効/無効を設定する方法について説明します。

1 サイドバーから[カスタム設定]をクリックします。



クリックします。

2 [DHCPサーバ]をクリックします。



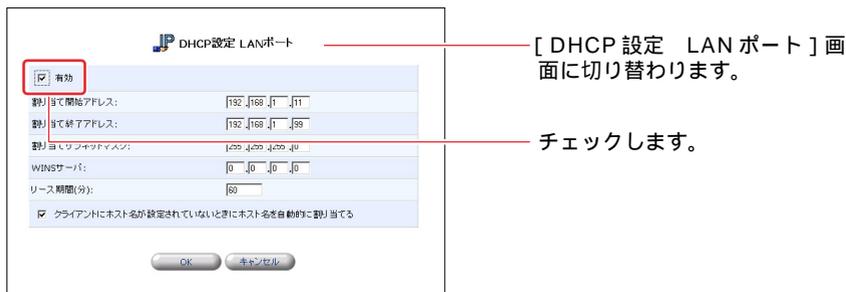
[カスタム設定] 画面に切り替わります。

クリックします。

- 3 現在の DHCP サーバのサブネット、IP アドレスの割り当て範囲が表示されます。
設定を変更する場合は、修正ボタンをクリックします。



- 4 [有効]欄にチェックを付けると DHCP サーバ機能が有効になります。チェックを外すと DHCP サーバ機能が無効になります。



! ご注意

- DHCP サーバ機能を無効にした場合は、本商品の LAN 側に接続されてるパソコンまたはネットワーク機器に、手動で IP アドレスを設定してください。

- 5 [OK]ボタンをクリックし、[DHCPサーバ]画面に戻ります。

[OK] ボタンをクリックして [注意] 画面に切り替わる場合には、その内容をご確認の上、さらに [OK] ボタンをクリックして [DHCP サーバ] 画面に戻ってください。

- 6 以上で設定は終了です。

DNS サーバ設定

本商品の DNS サーバは、LAN 内のパソコンやネットワーク機器のホスト名と IP アドレスの対応を管理しています。

DNS サーバは DHCP サーバと同じの対応表を参照しています。DHCP サーバの設定時にホスト名を登録しておく、他に特別な設定をせずに、ホスト名および対応する IP アドレスが DNS サーバで管理されます。

! ご注意

- ・ 本商品の DNS サーバは、LAN 内のドメイン名と IP アドレスの対応だけを管理しています。
- ・ インターネット上のドメイン名を指定した通信では、本商品の「プロキシ DNS」機能が使用されます。

DHCP サーバによるホスト名とIPアドレスの確認

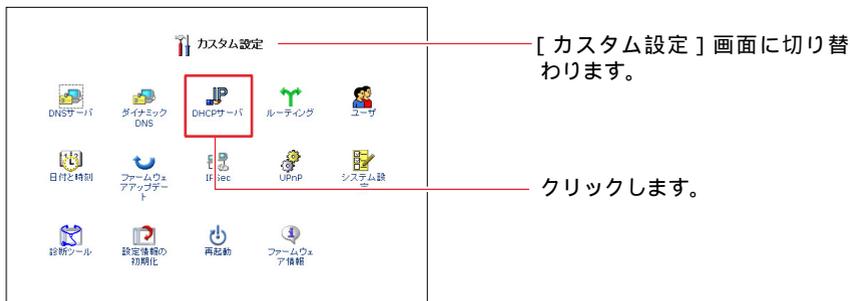
本商品のDNSサーバはDHCPサーバと同じ対応表を参照しています。
DHCPサーバでホスト名とIPアドレスを登録した場合は、DNSサーバにも反映されます。

ここでは、DHCPサーバ機能で自動登録されたホスト名とIPアドレスを確認します

1 サイドバーから[カスタム設定]をクリックします。



2 [DHCPサーバ]をクリックします。



3 [DHCP 設定]アイコンをクリックします。



4 DHCP サーバ機能により、本商品に登録されてるホスト名とそのIP アドレスが表示されます。



5 [戻る]ボタンをクリックし、[DHCPサーバ]画面に戻ります。

6 [OK]ボタンをクリックし、[カスタム設定]画面に戻ります。

7 [DNSサーバ]アイコンをクリックします。



- 8 本商品の DNS サーバに登録されてるホスト名と IP アドレスが表示されます。

ホスト名	IPアドレス	操作
user1	192.168.1.11	追加 削除
pcq	192.168.1.12	追加 削除

DNSエントリの追加

戻る

[DNS サーバ] 画面に切り替わります。

表示されます。

- 9 以上で確認は終了です。

ホスト名とIPアドレスを手動で登録する

DHCP サーバ機能を使用しない場合は手動でホスト名とIPアドレスを登録する必要があります。

- 1 サイドバーから[カスタム設定]アイコンをクリックします。



クリックします。

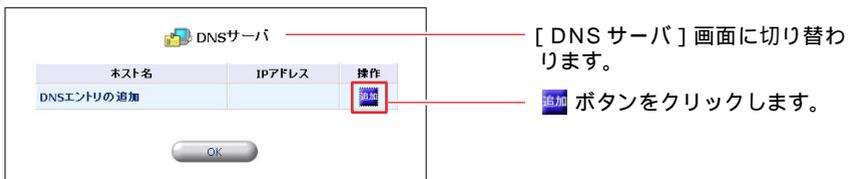
- 2 [DNSサーバ]アイコンをクリックします。



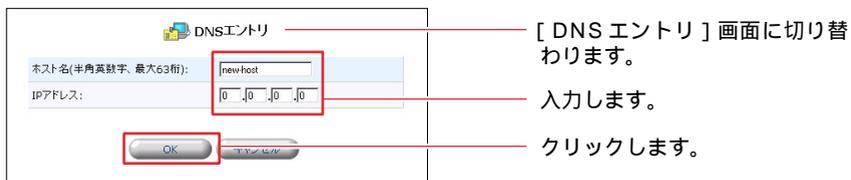
[カスタム設定]画面に切り替わります。

クリックします。

3 [DNS エントリの追加]から追加ボタンをクリックします。



4 DNS サーバに登録するホスト名とIPアドレスを入力し、[OK]ボタンをクリックします。



5 以上で設定は終了です。

ホスト名とIPアドレスの修正

ホスト名やIPアドレスを変更したときは、DNSサーバに登録した情報も手動で変更する必要があります。

！ ご注意

- ・ DHCPサーバ機能を有効にしているときは、パソコンのホスト名は自動的にDNSサーバに反映されます。手動でホスト名を変更する必要はありません。

1 サイドバーから[カスタム設定]アイコンをクリックします。



2 [DNSサーバ]アイコンをクリックします。



3 情報を修正したいホスト名の修正ボタンをクリックします



[DNS サーバ] 画面に切り替わります。

ホスト名	IPアドレス	操作
user1	192.168.1.2	修正 削除
DNSエントリの追加		

修正 ボタンをクリックします。

OK

4 ホスト名とIPアドレスを修正し、[OK]ボタンをクリックします。



[DNS エントリ] 画面に切り替わります。

修正します。

クリックします。

DNSエントリ

ホスト名(半角英数字、最大63桁): user1

IPアドレス: 192.168.1.2

OK

DHCP サーバにより IP アドレスを割り当てられたホストについては、ホスト名のみ修正が可能です。

5 以上で設定は終了です。

6 ホスト名とIPアドレスの削除

登録されているホスト名とIPアドレスの削除を行います。

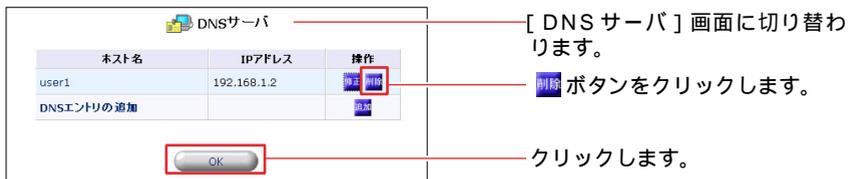
- 1 サイドバーから[カスタム設定]アイコンをクリックします。



- 2 [DNSサーバ]アイコンをクリックします。



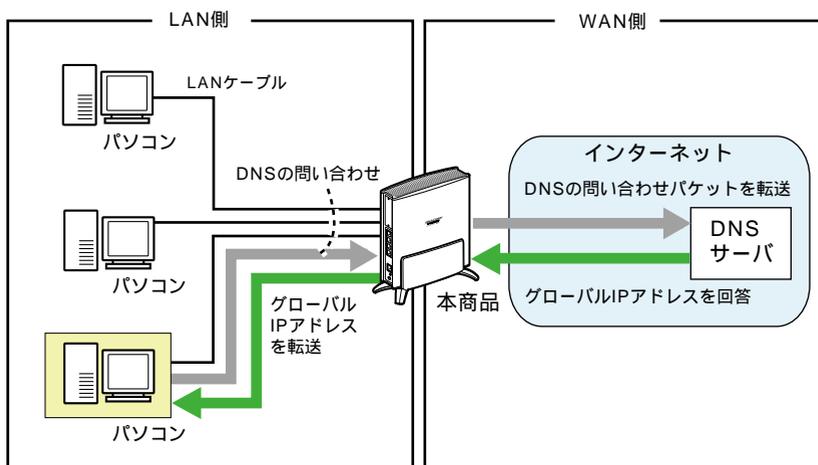
- 3 情報を削除したいホスト名の削除ボタンをクリックし、[OK]ボタンをクリックします。



- 4 以上で設定は終了です。

プロキシ DNS

本商品には「プロキシ DNS」機能が搭載されています。プロキシ DNS とは、LAN 側の各パソコンからインターネット上のドメイン名を指定した接続（DNS の問い合わせ）があった場合に、それをインターネット上の DNS サーバにフォーワーディングして、対応する IP アドレスを各パソコンに回答する機能です。LAN 側のパソコンからは、インターネット上の DNS サーバに代理で問い合わせていることはわからず、単に、本商品がインターネット上のドメインと各 IP アドレスの対応を管理する DNS サーバとして動作しているように見えます。



WAN 側で複数セッションを接続している時には、LAN 側のパソコンから DNS の問い合わせがあった場合、本商品のプロキシ DNS 機能は、全てのセッション上の DNS サーバに問い合わせのパケットを送信します。この場合、返答のあった DNS サーバのセッションを使用して通信を行います。2 つ以上のセッションの DNS サーバから返答があった場合は、先に返答があった方のセッションを使用します。

ルーティング設定

本商品は、ダイナミックルーティングのプロトコルとしてRIP、RIP Version2に対応しています。また、スタティックルーティングにも対応しています。

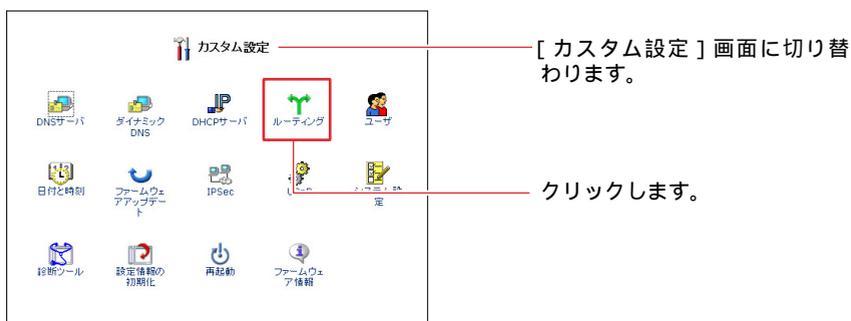
ダイナミックルーティングの設定

ここでは、ダイナミックルーティングを設定し、動的に経路情報を登録する方法について説明します。また、本商品はRIP、RIP Version2に対応しています。

- 1 サイドバーから[カスタム設定]アイコンをクリックします。



- 2 [ルーティング]アイコンをクリックします。



- 3 [ルーティングプロトコル]欄から[RIP1/2 ルーティングプロトコル]にチェックを付けます。

ルーティング

ルーティングテーブル

種別名	送信先	ゲートウェイ	ネットマスク	メトリック	ステータス	操作
ルートの追加						
ルーティングプロトコル						
<input checked="" type="checkbox"/>	RIP1/2 ルーティングプロトコル					

OK キャンセル

[ルーティング]画面に切り替わります。

チェックします。

- 4 [OK]ボタンをクリックします。

- 5 以上で設定は終了です。

スタティックルーティングの経路情報を追加する

ここでは、経路情報を手動で設定する方法について説明します。

- 1 サイドバーから[カスタム設定]アイコンをクリックします。



クリックします。

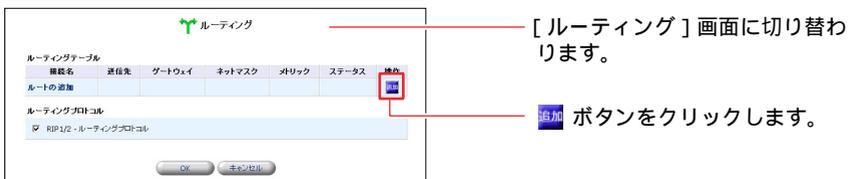
- 2 [ルーティング]アイコンをクリックします。



[カスタム設定]画面に切り替わります。

クリックします。

3 [ルートの追加]から[追加]ボタンをクリックします。



4 経路情報を追加するデバイスを選択し、経路情報を入力します。



[接続名]

スタティックルーティングを設定する転送先のインタフェースを [LANポート] [WANポート] [WAN PPPoE] 等から選択します。

[送信先]

パケットの送信先となるネットワークアドレスを入力します。

[ネットマスク]

パケットの送信先のネットマスクを入力します。

[ゲートウェイ]

宛先のネットワークに到達するための、最初のゲートウェイのアドレスを入力します。

[メトリック]

宛先のネットワークに到達するまでのホップカウント（経由するゲートウェイの数）を入力します。

5 [OK]ボタンをクリックします。

6 以上で設定は終了です。

スタティックルーティングの経路情報を修正する

ここでは、既に設定したスタティックルーティングの経路情報を修正する方法について説明します。

1 サイドバーから[カスタム設定]アイコンをクリックする。



クリックします。

2 [ルーティング]アイコンをクリックする。



[カスタム設定]画面に切り替わります。

クリックします。

3 修正したい経路情報の[修正]ボタンをクリックします。

[ルーティング]画面に切り替わります。

修正 ボタンをクリックします。

4 経路情報を修正し、[OK]ボタンをクリックします。

[ルーティング設定]画面に切り替わります。

修正します。

クリックします。

5 以上で設定は終了です。

スタティックルーティングの経路情報を削除する

ここでは、登録したスタティックルーティングを削除する方法について説明します。

1 サイドバーから[カスタム設定]アイコンをクリックする。



クリックします。

2 [ルーティング]アイコンをクリックする。



[カスタム設定] 画面に切り替わります。

クリックします。

- 3 削除したい経路情報の[削除]ボタンをクリックします。

[ルーティング] 画面に切り替わります。

削除 ボタンをクリックします。

経路名	送信先	ゲートウェイ	ネットマスク	対リンク	ステータス	操作
LANポート [一般]	1.2.3.0	1.2.3.1	255.255.255.255	0		削除

- 4 [OK]ボタンをクリックします。

- 5 以上で設定は終了です。

UPnP 設定

Universal Plug and Play (UPnP : ユニバーサルプラグアンドプレイ) は、ネットワークに接続するだけで、ネットワーク上の機器同士で簡単に通信できるようにする規格です。本商品は、UPnP に対応しており、次の機能を使用できます。

購入時の設定で UPnP が ON になっているため、特別な設定をする必要がありません。

- UPnP に対応している OS (Windows[®] XP と Windows[®] Me) から、本商品を検出できます。
- UPnP に対応している OS (Windows[®] XP と Windows[®] Me) から本商品の状態を確認したり、設定を一部変更できます。
- 本商品に接続されている LAN 内のパソコンから、Windows[®] Messenger や MSN[®] Messenger など、UPnP に対応しているアプリケーションを使用することができます。

なお、Windows[®] 98、Windows[®] 2000 および Macintosh[®] は UPnP に対応していません。したがって、UPnP の機能を使用することはできません。

パソコンの UPnP の設定を確認する

お使いのパソコンが、UPnPが使用できる状態になっているか確認してください。

Windows[®] XP の場合

- 1 [スタート] ボタンをクリックし、[コントロールパネル] をクリックします。



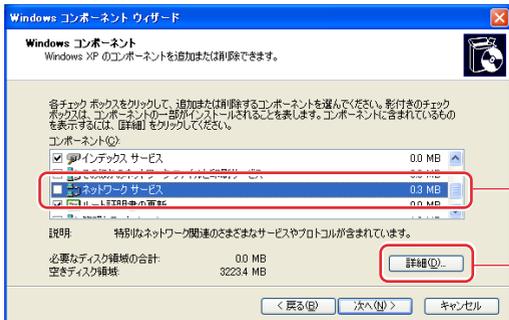
クリックします。

- 2 [プログラムの追加と削除] ボタンをクリックし、画面左側にある [Windows コンポーネントの追加と削除] ボタンをクリックします。

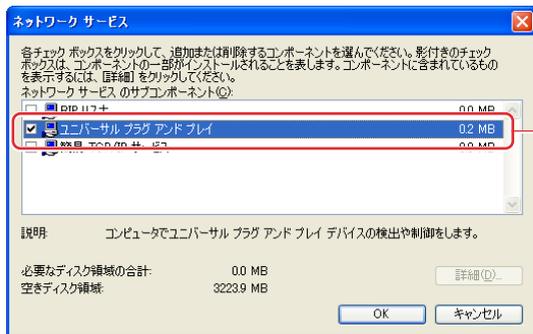


クリックします。

- 3 [コンポーネント] 欄から [ネットワークサービス] を選択し、[詳細] ボタンをクリックします。



- 4 ネットワークサービスの詳細が表示されますので、[ユニバーサルプラグアンドプレイ] の状態を確認します。



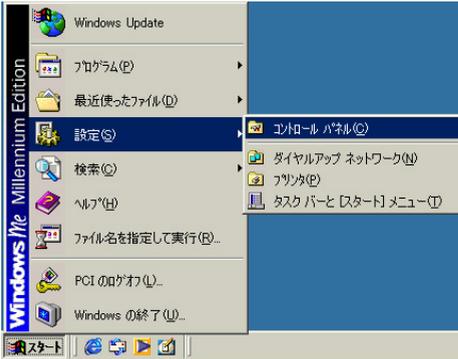
[ユニバーサルプラグアンドプレイ] がチェックされているときは、パソコンが UPnP の機能が有効になっています。ダイアログを閉じてください。

チェックされていないときは、[ユニバーサルプラグアンドプレイ] が無効になっています。チェックを付け、[OK] ボタンをクリックします。画面の指示に従って、インストールを続けてください。

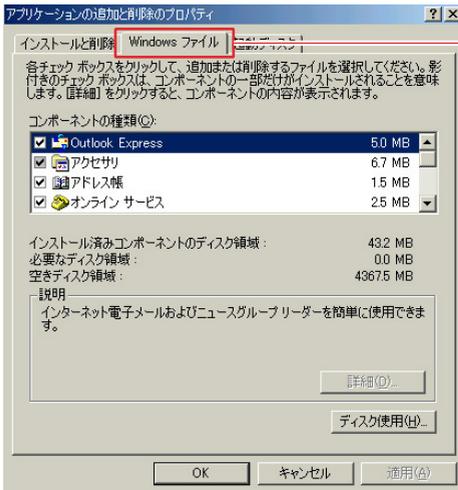
- 5 以上で設定は終了です。

Windows® Me の場合

- 1 [スタート] ボタンをクリックし、[設定] [コントロールパネル] の順にクリックします。

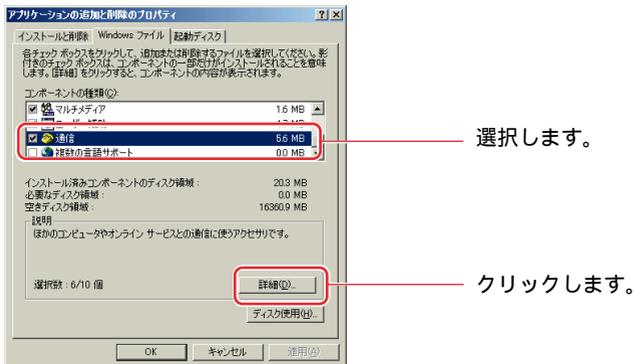


- 2 [アプリケーションの追加と削除] ボタンをクリックします。[アプリケーションの追加と削除] ダイアログが表示されたら、[Windows ファイル] タブをクリックします。

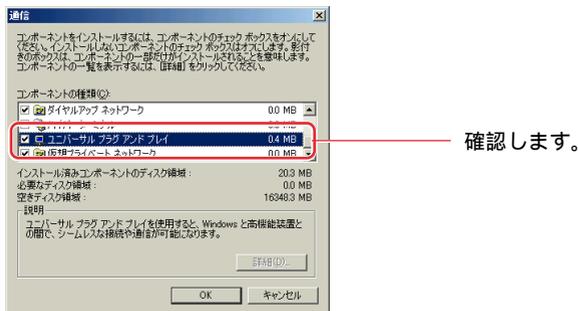


クリックします。

- 3 [コンポーネントの種類] 欄から [通信] を選択し、[詳細] ボタンをクリックします。



- 4 通信の詳細が表示されますので、[ユニバーサルプラグアンドプレイ] の状態を確認します。



- 5 [ユニバーサルプラグアンドプレイ] がチェックされているときは、パソコンが UPnP の機能が有効になっています。ダイアログを閉じてください。チェックされていないときは、[ユニバーサルプラグアンドプレイ] が無効になっています。チェックを付け、[OK] ボタンをクリックします。画面の指示に従ってインストールを続けてください。

- 6 以上で設定は終了です。

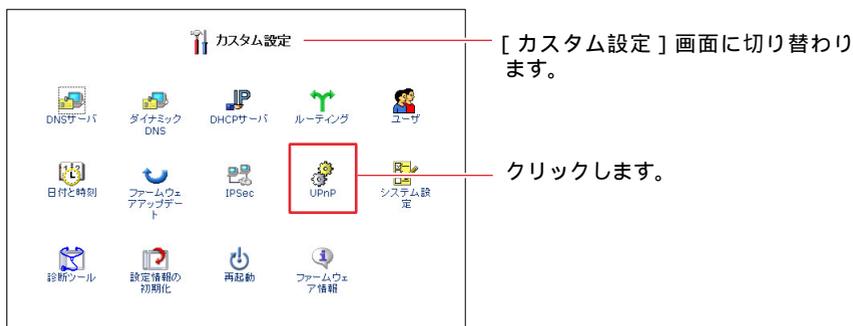
本商品の UPnP 機能を OFF にする

本商品で UPnP 機能を使用しないときは、次のように操作します。

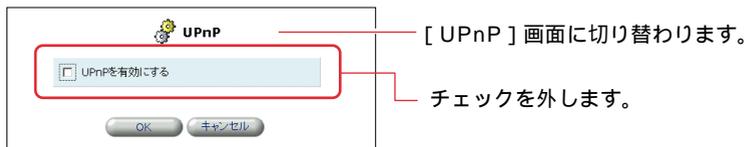
- 1 サイドバーの [カスタム設定] アイコンをクリックします。



- 2 [UPnP] アイコンをクリックします。



- 3 UPnPの機能をOFFにするときは、チェックボックスのチェックを外します。



- 4 [OK] ボタンをクリックします。

- 5 以上で設定は終了です。

セキュリティの設定

6

Web Caster 7000の機能・設定の詳細

セキュリティ機能

インターネットに接続すると、LAN内のパソコンがインターネットからの攻撃を受けたり、不正なアクセスをされたりするという危険があります。そのため、LANを保護する十分なセキュリティ対策を行うことが、快適にインターネットを使う上で重要なポイントとなります。

本商品では、インターネットへの常時接続を行う上でのセキュリティ対策として次の機能を搭載しています。

NAPT (IP マスカレード)	プロバイダから取得したグローバルIPアドレスを、LAN内のプライベートIPアドレスに変換する機能により、インターネット側からLAN内のパソコンを特定できず、アクセスすることができません。このため、外部からの不正アクセスが困難になります。
ステートフル・パケット・インスペクション	ファイアウォール方式として、ステートフル・パケット・インスペクション方式を採用しています。通信セッションごとにパケットの整合性を確認し、必要なポートだけを開くようにします。通信が終了すると利用したポートを遮断します。 さらに、インターネット側からのDoS (Denial of Services) 攻撃パターンを識別し、不正なアクセスを遮断することが可能です。
ALG (Application Level Gateway)	アプリケーションレベルでパケットの通過・遮断を判断します。
パケットフィルタリング	インターネットから送られてきたパケットを検査して通過させるかどうかを判断する機能です。どのような条件でパケットを通過させるか、遮断するかをプロトコル/ポートごとに任意に設定できます。
DMZ	LAN内の1台のパソコンをDMZホストとすると、WAN側からの全ての接続要求がDMZホストに転送されるようになります。
ID・パスワードによるユーザ認証	本商品の設定を変更するには、ログインIDとパスワードが必要です。

セキュリティレベル設定

ここでは、本商品の基本的なセキュリティレベルの設定を行います。

セキュリティ対策を考える時は、実際のデータのやり取りの流れに合わせて「LANからインターネットへの通信」と「インターネットからLANへの通信」のそれぞれに対してルールを考える必要があります。

一般的には、LANからインターネットにはアクセスできるようにし、インターネットからLANにはアクセスを拒否するように設定します。

本商品のセキュリティ機能には3段階のレベルがあらかじめ用意されています。さらに、用途に応じて設定をカスタマイズすることができます。

1 サイドバーから[セキュリティ設定]アイコンをクリックします。



[セキュリティ設定]画面に切り替わります。

セキュリティの設定が3段階で用意されています。購入時の設定では、[セキュリティレベル標準]が選択されています。

2 必要に応じて、レベルを変更します。

セキュリティレベル	インターネット側からの接続要求	LAN内のパソコンからの接続要求
最大	拒否 インターネット側からLANにアクセスできません。ただし、[ローカルサーバ]と[リモートアクセス]画面で設定したサービスは使用できます。	制限あり LAN内のパソコンで、Webサービス、e-mailなどのよく使うインターネットのサービスのみ使用できます。
標準	拒否 インターネット側からLANにアクセスできません。ただし、[ローカルサーバ]と[リモートアクセス]画面で設定したサービスは使用できます。	制限なし LAN内のパソコンで、すべてのインターネットのサービスが使用できます。
最小	制限なし インターネットからLANへのアクセスをすべて許可します。	制限なし LAN内のパソコンで、すべてのインターネットのサービスが使用できます。

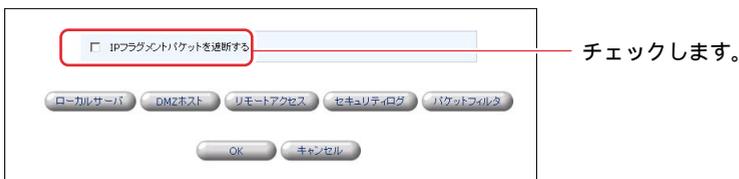
[セキュリティレベル最大]を選択しているとき、LAN側のパソコンから使用できるインターネットのサービスは次のとおりです。

Telnet、FTP、HTTP、HTTPS、DNS、IMAP、POP3、SMTP

ご注意

[セキュリティレベル最小]を選択すると、セキュリティ機能が一切適用されなくなりますので、必要な場合にのみ設定してください。

3 [IPフラグメントパケットを遮断する]をチェックします。



フラグメント化されたデータパケットを利用した攻撃を防ぐことができます。

IPSecを利用する仮想プライベートネットワークやUDPをベースにしたサービスによっては、IPフラグメントを利用するものがあります。このようなサービスを利用するときは、チェックを外してください。

4 [OK]ボタンをチェックします。

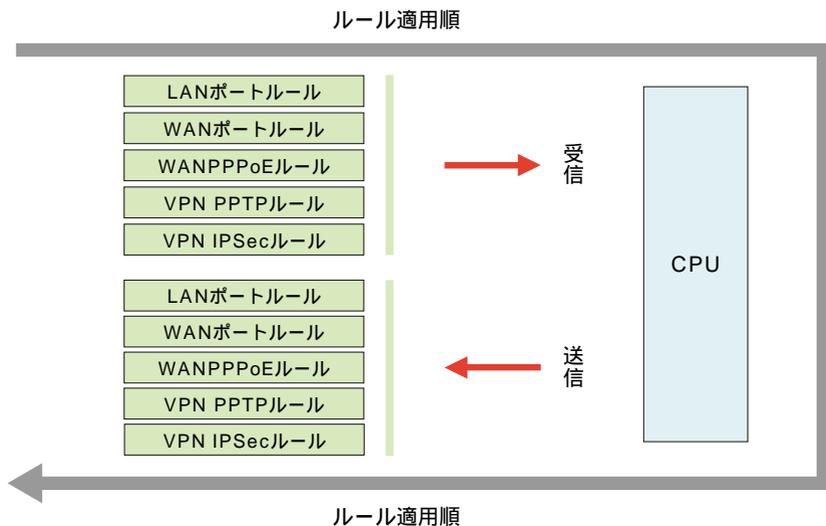
選択したセキュリティレベルに変更されます。

パケットフィルタリング設定

本商品のパケットフィルタの機能は、本商品が受信したパケット、送信するパケットに対してあらかじめ設定してあるフィルタルールを適用します。フィルタルールには、[LANポートルール]、[WANポートルール]、[WAN PPPoEルール]があります。

6

Web Caster 7000の機能・設定の詳細

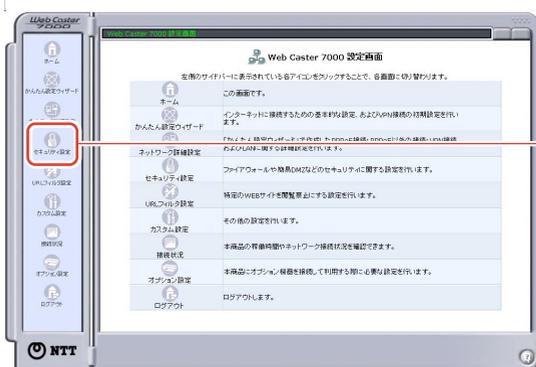


パケットフィルタの設定

ここでは、本商品にパケットフィルタを設定する方法について説明します。

パケットフィルタの新規設定

- 1 サイドバーから[セキュリティ設定]アイコンをクリックします。



クリックします。

- 2 [パケットフィルタ]ボタンをクリックします。



[セキュリティ設定]画面に切り替わります。

クリックします。

3 [パケットフィルタ]画面が表示されます。

パケットフィルタ

パケットフィルタルールを設定する接続を選択してください。

受信パケット

LANポート ルール	修正
WAN PPPoE ルール	修正

送信パケット

LANポート ルール	修正
WAN PPPoE ルール	修正

戻る

[パケットフィルタ]画面に切り替わります。

設定します。

4 [受信パケット]欄、または[送信パケット]欄からルールを作成するインタフェースをクリックします。

ここでは、例として[WAN PPPoEルール]を選択します。他のインタフェースを選択した場合は同様の手順で設定してください。

パケットフィルタ

パケットフィルタルールを設定する接続を選択してください。

受信パケット

LANポート ルール	修正
WAN PPPoE ルール	修正

送信パケット

LANポート ルール	修正
WAN PPPoE ルール	修正

戻る

(例として選択します。)

本商品で設定できるルールの一覧

[LAN ポートルール]

LAN ポートのポートに対して適用されるルールになります。

[WAN ポートルール]

WAN のポートに対して適用されるルールになります。

[WAN PPPoE ルール]

WAN PPPoE のポートに対して適用されるルールになります。

[VPN PPTP ルール]

VPN PPTP の接続に対して適用されるルールになります。

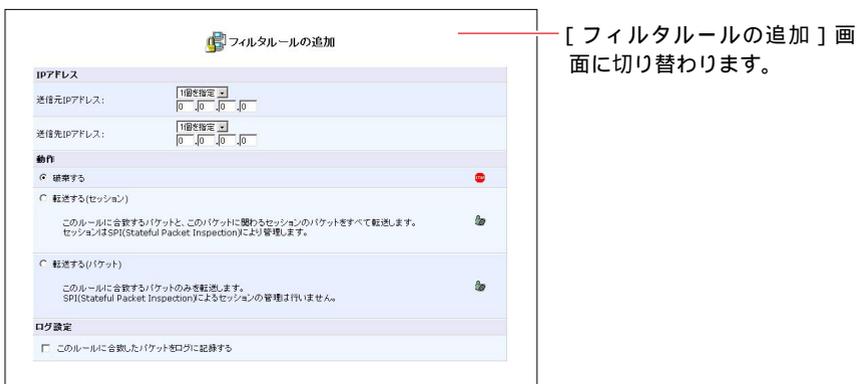
[VPN IPsec ルール]

VPN IPsec の接続に対して適用されるルールになります。

- 5 [WAN PPPoE ルール設定]画面が表示されます。
[新規作成]欄から追加ボタンをクリックします。



- 6 [フィルタルール追加]画面が表示されます。



7 [IPアドレス]欄から送信元IPアドレス、送信先IPアドレスを入力します。

[すべて]を選択した場合は、全てのIPアドレスが対象になります。

IPアドレス
送信元IPアドレス: [すべて] ↓
送信先IPアドレス: [すべて] ↓

選択します。

[1個を指定]を選択した場合は、指定したIPアドレスが対象になります。

送信元IPアドレス: [1個を指定] ↓
0.0.0.0
送信先IPアドレス: [1個を指定] ↓
0.0.0.0

入力します。

[範囲指定]を選択した場合は、指定したIPアドレスの範囲が対象になります。

IPアドレス
送信元IPアドレス: [IPアドレスを範囲で指定] ↓
0.0.0.0 - 0.0.0.0
送信先IPアドレス: [IPアドレスを範囲で指定] ↓
0.0.0.0 - 0.0.0.0

入力します。

8 [動作]欄からフィルタの動作を選択します。

動作

破棄する

転送する(セッション)

このルールに合致するパケットと、このパケットに関わるセッションのパケットをすべて転送します。セッションはSPI(Stateful Packet Inspection)により管理します。

転送する(パケット)

このルールに合致するパケットのみを転送します。SPI(Stateful Packet Inspection)によるセッションの管理は行いません。

選択します。

[破棄する]

パケットを破棄します。

[転送する(セッション)]

このルールに合致するパケットと、このパケットに関わるセッションのパケットを通します。

[転送する(パケット)]

このルールに合致するパケットのみを通します。

- 9 [サービス名]欄に本商品に既に登録されているサービスやアプリケーションが表示されます。フィルタルールの対象となるサービスにチェックをつけます。

サービス名	プロトコル / ポート
ユーザ定義サービス	
デフォルト定義サービス	
<input type="checkbox"/> All Traffic	TCP すべて -> すべて UDP すべて -> すべて
<input type="checkbox"/> DNS - Domain Name Server	TCP 53 -> 53 1024-65535 -> 53 UDP 53 -> 53 1024-65535 -> 53
<input type="checkbox"/> FTP - File Transfer	TCP すべて -> 21
<input type="checkbox"/> HTTP - Web Server	TCP すべて -> 80
<input type="checkbox"/> HTTP - Secondary Web Server	TCP すべて -> 8080
<input type="checkbox"/> HTTPS - Secured Web Server	TCP すべて -> 443
<input type="checkbox"/> IMAP - Messaging Server	TCP すべて -> 143
<input type="checkbox"/> NNTP - News Server	TCP すべて -> 119
<input type="checkbox"/> Ping - ICMP Echo Request	ICMP Echo Request
<input type="checkbox"/> POP3 - Incoming Mail	TCP すべて -> 110
<input type="checkbox"/> SNMP - Simple Network Management Protocol	UDP すべて -> 161
<input type="checkbox"/> SMTP - Outgoing Mail	TCP すべて -> 25
<input type="checkbox"/> TELNET - Remote Connection	TCP すべて -> 23
<input type="checkbox"/> TELNET - Secondary Remote Connection	TCP すべて -> 8023

OK キャンセル

チェックします。

- 10 [OK]ボタンをクリックします。

クリックします。

[OK]ボタンは画面の下の方にあります。スクロールして表示してください。

- 11 複数のフィルタルールを作成する場合は、3～10の手順を繰り返します。

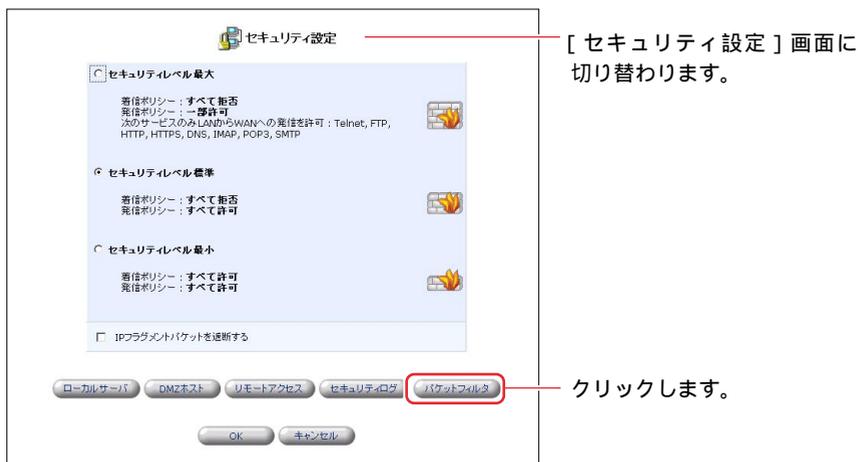
- 12 以上で設定は終了です。

パケットフィルタの修正

- 1 サイドバーから[セキュリティ設定]アイコンをクリックします。



- 2 [パケットフィルタ]ボタンをクリックします。



3 設定を変更したいインターフェースの修正ボタンをクリックします。

[パケットフィルタ]画面に切り替わります。

設定します。

4 [WAN PPPoEルール設定]の画面が表示されますので、[操作]欄から修正ボタンをクリックします。

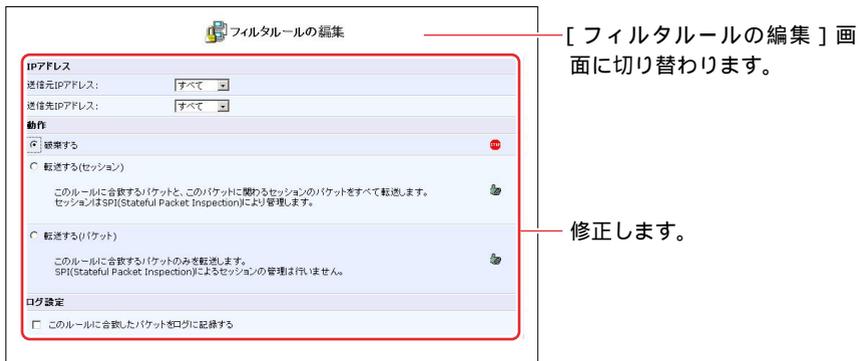
[WAN PPPoEルール設定]画面に切り替わります。

修正ボタンをクリックします。

ルールID	送信元IPアドレス	送信先IPアドレス	サービス名	動作	操作
0	すべて	すべて	FTP - File Transfer	遮断する	修正

ここでは、例として[WAN PPPoEルール]を選択します。他のインターフェースを選択した場合は同様の手順で設定してください。

- 5 [フィルタールールの編集]画面が表示されますので、必要な項目の修正を行い[OK]ボタンをクリックします。



[OK]ボタンは画面の下の方にあります。スクロールして表示してください。

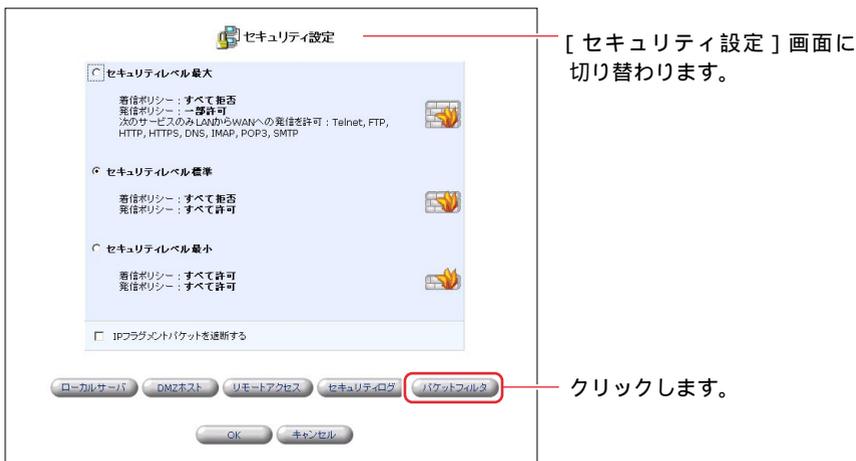
- 6 以上で修正は終了です。

パケットフィルタの削除

1 サイドバーから[セキュリティ設定]アイコンをクリックします。



2 [パケットフィルタ]ボタンをクリックします。



3 設定を削除したいインタフェースの修正ボタンをクリックします。

[パケットフィルタ]画面に切り替わります。

設定します。

4 [WAN PPPoEルール設定]の画面が表示されます。[操作]欄から削除ボタンをクリックします。

[WAN PPPoEルール設定]画面に切り替わります。

削除ボタンをクリックします。

5 以上で削除は終了です。

新規にサービスを作成する場合

ここでは、本商品にあらかじめ登録されていないサービスを設定する方法について説明します。

- 1 [フィルタルールの追加]画面から、[ユーザ定義サービス]をクリックします。

[フィルタルールの追加]画面に切り替わります。

クリックします。

- 2 [ユーザ定義サービス]画面が表示されます。[新規作成]欄から追加ボタンをクリックします。

[ユーザ定義サービス]画面に切り替わります。

追加 ボタンをクリックします。

- 3 [サービスの編集]画面が表示されます。[新規作成]欄から追加ボタンをクリックします。

[サービスの編集]画面に切り替わります。

追加 ボタンをクリックします。

4 [プロトコル]欄から使用するプロトコルを選択します。



選択します。

[プロトコル]

対象にするプロトコルをTCP、UDP、ICMP、GRE、ESP、AH、その他から選択します。

[発信元ポート/送信先ポート]

サービスやアプリケーションの発信元ポート/送信先ポート番号を入力します。

すべて	全てのポートを指定します。
1個を指定	1つのポート番号を指定します。
範囲指定	ポート番号の範囲を指定します。

[ICMPメッセージ]

対象にするICMPメッセージを選択します。

5 [OK]ボタンをクリックします。

6 追加ボタンをクリックすることで、複数のポートを指定することもできます。



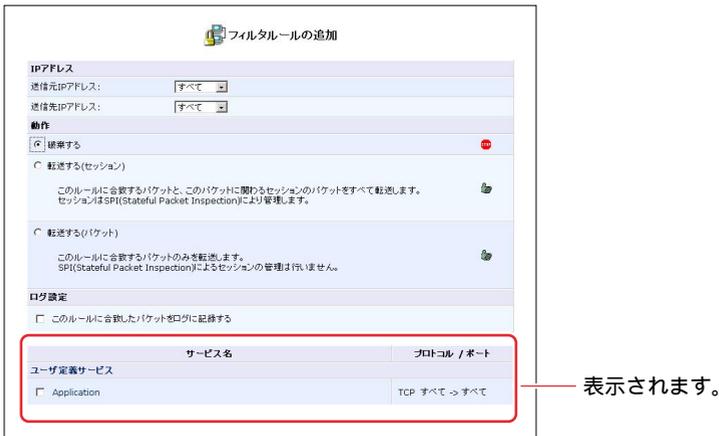
追加 ボタンをクリックします。

7 全ての設定が終了しましたら [サービス名] に任意の名前を入力し、[OK]ボタンをクリックします。

- 8 [ユーザ定義サービス] の画面に戻ります。[サービス名] 欄に作成したユーザ定義サービスが表示されるのを確認します。
[戻る] ボタンをクリックします。



- 9 新規に作成したサービスが[ユーザ定義サービス]欄に表示されます。



- 10 以上で設定は終了です。

フィルタルールの例

ここでは、パケットフィルタの例としてNetBIOS 関連で使われてるポート 137 ~ 139 のLAN から WAN への通信を遮断する方法について説明します。Windows® のLAN で使われてる NetBIOS のパケットにより、予期せぬインターネットへの通信が発生する場合があります。NetBIOS 関連で使われてるポート 137 ~ 139 を遮断することで、予期せぬ通信を防ぎます。

方向	動作	プロトコル	送信元 IP アドレス	送信先 IP アドレス	送信元ポート	送信元 IP アドレス
LAN ポート 受信	破棄	TCP/UDP	すべて	すべて	すべて	137 ~ 139
送信 WAN ポート	破棄	TCP/UDP	すべて	すべて	すべて	137 ~ 139

1 サイドバーから[セキュリティ設定]アイコンをクリックします。



2 [パケットフィルタ]ボタンをクリックします。



[セキュリティ設定] 画面に切り替わります。

クリックします。

3 LAN 側から WAN 側への NetBIOS のパケットを遮断するルールを作成します。

[受信パケット]欄から[LANポートルール]の修正ボタンをクリックします。



[パケットフィルタ] 画面に切り替わります。

設定します。

受信パケット	
LANポートルール	修正
WAN PPPoEルール	修正
送信パケット	
LANポートルール	修正
WAN PPPoEルール	修正

4 [新規作成]欄から追加ボタンをクリックします。



[LAN ポート ルール設定] 画面に切り替わります。

追加 ボタンをクリックします。

5 送信元 IP アドレスに[すべて]、送信先 IP アドレスに[すべて]を選択します。



[フィルタルールの追加] 画面に切り替わります。

選択します。

6 [動作]欄から[破棄する]にチェックを付けます。



チェックします。

7 [ユーザ定義サービス]をクリックします。

[フィルタールの追加] 画面に切り替わります。

クリックします。

8 [ユーザ定義サービス]画面が表示されます。[新規作成]欄から追加ボタンをクリックします。

追加 ボタンをクリックします。

9 [サービスの編集]の画面が表示されます。[新規作成]欄から追加ボタンをクリックします。

追加 ボタンをクリックします。

10 プロトコルから[TCP]を選択します。送信元ポートに[すべて]、送信先ポートに[範囲指定]を選択し、ポート番号に 137 ~ 139 を入力します。

サービスの編集

プロトコル: TCP

送信元ポート: すべて

送信先ポート: 範囲指定 | 137 - 139

OK キャンセル

入力します。

11 [OK]ボタンをクリックします。

12 同様にUDP ポートも遮断しますので、追加ボタンをクリックします。

サービスの編集

サービス名: Application

プロトコル	詳細	操作
TCP	すべて -> 137-139	削除 追加
新規作成		

OK キャンセル

追加 入力します。

13 プロトコルから[UDP]を選択します。送信元ポートに[すべて]、送信先ポートに[範囲指定]を選択し、ポート番号に 137 ~ 139 を入力します。

サービスの編集

プロトコル: UDP

送信元ポート: すべて

送信先ポート: 範囲指定 | 137 - 139

OK キャンセル

入力します。

14 [OK]ボタンをクリックします。

- 15 [サービスの編集] 画面が表示されますので、サービス名に登録する名前を入力し、[OK] ボタンをクリックします。



サービスの編集

サービス名: Application

プロトコル	詳細	操作
TCP	すべて -> 137-139	確認 削除
UDP	すべて -> 137-139	確認 削除
新規作成		新規

OK

クリックします。

- 16 [ユーザ定義サービス] 画面に戻ります。[サービス名] 欄に作成したユーザ定義サービスが表示されるのを確認します。[戻る] ボタンをクリックします。



ユーザ定義サービス

サービス名	プロトコル / ポート	操作
NetBIOS	TCP すべて -> 137-139 UDP すべて -> 137-139	確認 削除
新規作成		新規

戻る

クリックします。

- 17 [ユーザ定義サービス]欄に作成したサービスが表示されますので、チェックを付け[OK]ボタンをクリックします。



フィルタールールの追加

IPアドレス

送信元IPアドレス: すべて

送信先IPアドレス: すべて

動作

継承する

転送する(セッション)

このルールに合致するパケットと、このパケットに関するセッションのパケットをすべて転送します。セッションはSPI(Stateful Packet Inspection)により管理します。

転送する(パケット)

このルールに合致するパケットのみを転送します。SPI(Stateful Packet Inspection)によるセッションの管理は行いません。

ログ設定

このルールに合致したパケットをログに記録する

サービス名	プロトコル / ポート
ユーザ定義サービス	TCP すべて -> 137-139 UDP すべて -> 137-139
<input checked="" type="checkbox"/> NetBIOS	

チェックします。

[OK]ボタンは画面の下の方にあります。スクロールして表示してください。

18 [OK]ボタンをクリックし、[パケットフィルタ]の画面に戻ります。



[LAN ポートルール設定] 画面に切り替わります。

クリックします。

19 [OK]ボタンをクリックします。

20 次に送信パケットの設定を行います。

[送信パケット]欄から[WAN PPPoE ルール]の修正ボタンをクリックします。



[パケットフィルタ] 画面に切り替わります。

設定します。

21 [新規作成]欄から追加ボタンをクリックします。

[WAN PPPoE ルール設定]
画面に切り替わります。

追加 ボタンをクリックします。

22 送信元 IP アドレスに[すべて]、送信先 IP アドレスに[すべて]を選択します。

[フィルタルールの追加]
画面に切り替わります。

選択します。

23 [動作]欄から[破棄する]にチェックを付けます。

チェックします。

2 2 [ユーザ定義サービス]欄に先ほど作成したサービスが表示されますので、チェックを付け、[OK]ボタンをクリックします。

サービス名	プロトコル / ポート
<input checked="" type="checkbox"/> NetBIOS	TCP: すべて ~ 137, 139 UDP: すべて ~ 137-139

[フィルタのルール追加]画面に切り替わります。

チェックします。

[OK]ボタンは画面の下の方にあります。スクロールして表示してください。

2 3 [OK]ボタンをクリックし、[パケットフィルタ]の画面に戻ります。

ルール ID	送信元IPアドレス	送信先IPアドレス	サービス名	動作	操作
<input checked="" type="checkbox"/> 0	すべて	すべて	NetBIOS	結果する	ON/OFF

[WAN PPPoEルール設定]画面に切り替わります。

クリックします。

2 4 以上で設定は終了です。

リモートアクセス設定

リモートアクセス機能を使うことで、インターネット側から本商品にアクセスし、各種設定を行うことができます。

デフォルト設定では、LANを保護するためにリモートアクセスを許可していません。

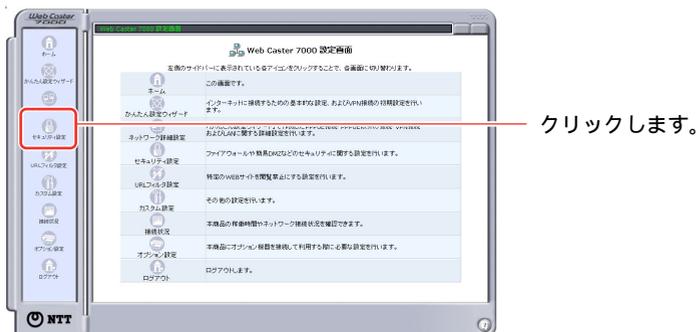
ご注意

不正アクセスにより本商品の設定を変更されないよう、通常はリモートアクセスを無効に設定しておき、必要な場合のみ許可するようにしてください。

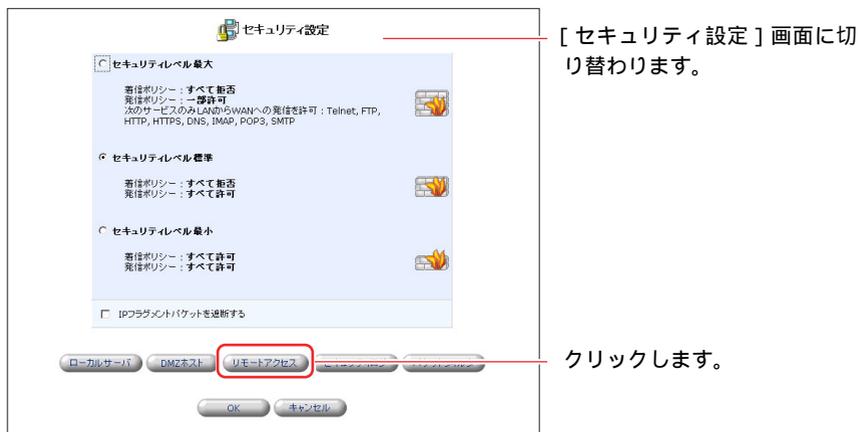
本商品に設定されたリモートアクセス機能は、ローカルサーバ、DMZ ホスト機能より優先されます。

リモートアクセスの設定

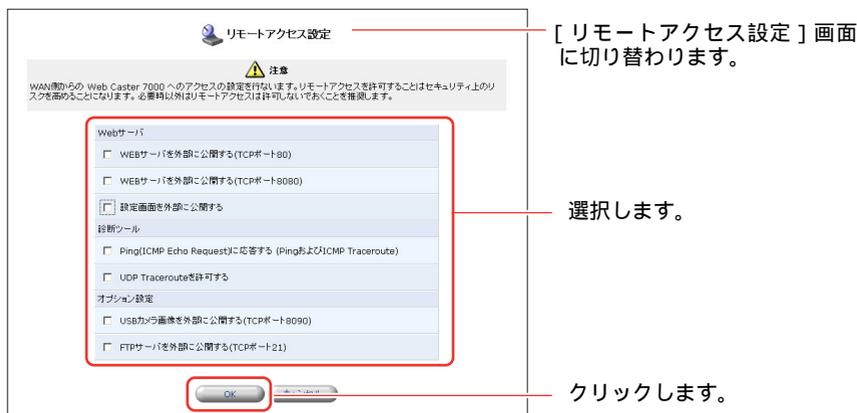
- 1 サイドバーから [セキュリティ設定] アイコンをクリックします。



- 2 [リモートアクセス] ボタンをクリックします。



3 WAN 側からのアクセスに関する設定を行います。



Webサーバ	WEBサーバを外部に公開する (TCPポート80)	本商品の設定画面またはWebサーバ、USBカメラ画面を外部に公開する場合選択します。TCPポート80番を使用します。
	WEBサーバを外部に公開する (TCPポート8080)	本商品の設定画面またはWebサーバ、USBカメラ画面を外部に公開する場合選択します。TCPポート8080番を使用します。
	設定画面を外部に公開する	本商品の設定画面を外部に公開する場合に選択します。外部から設定画面にアクセスする場合のアドレスは「http://web.caster.7000のIPアドレス/setting/」になります。
診断ツール	Pingに回答する	Pingコマンドに返答する場合は選択します。
	UDPを許可	tracerouteコマンドなどで、UDP上のルート確認をする場合は選択します。
オプション設定	TCPポート (8090)	本商品のオプションUSBカメラを接続し、カメラ画像を外部に公開する場合は、こちらを選択します。
	TCPポート (21)	本商品にATAカードを接続し、ファイルサーバとして外部に公開する場合は、こちらを選択します。

ご注意

Windows® から Traceroute コマンドを使用して、ルートの追跡を行う場合は [Ping に応答する] をチェックしてください。

4 [OK]ボタンをクリックします。

5 以上で設定は終了です。

URL フィルタ設定

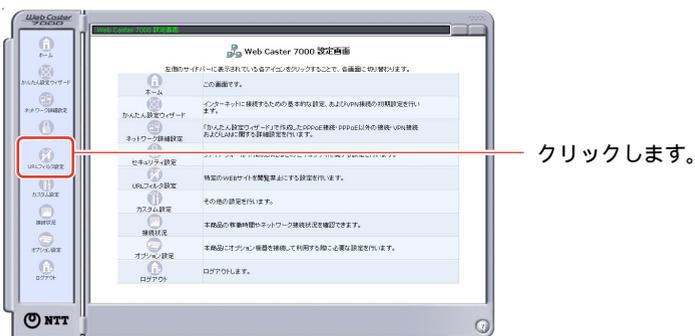
URL フィルタ機能を使うことで、LAN 側のパソコンから特定の Web サイトを閲覧できないように設定できます。

例えば、公序良俗に反するような Web サイトをあらかじめ本商品に設定しておくことで、LAN 側のパソコンからそのサイトの閲覧を禁止することができます。

URL フィルタの設定

URL フィルタの新規作成

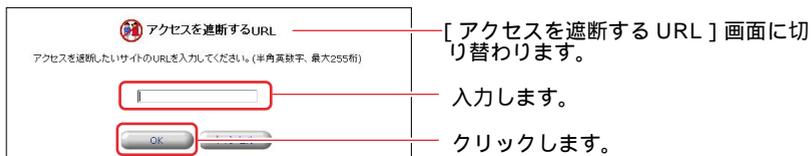
- 1 サイドバーから [URL フィルタ設定] アイコンをクリックします。



- 2 [新規作成] 欄から追加ボタンをクリックします。



- 3 閲覧を禁止したいWebサイトのURLまたはIPアドレスを入力し、[OK] ボタンをクリックします。



- 4 [WebサイトのURL] の一覧に設定したWebサイトが追加されます。



- 5 URL が追加されると、追加された URL がインターネット上に存在するか自動的にチェックします。この間、[ステータス] 欄には [Resolving] と表示されます。[表示の更新] ボタンをクリックして、入力された URL が適切なものか確認します。



- 6 入力された URL に対して、インターネット上に存在することが確認できると [IP アドレス] 欄に IP アドレスが表示され [ステータス] 欄は [Resolved] に変わります。また、インターネット上に存在を確認できなかった場合は、[ステータス] 欄に [Error] と表示されます。



[URL フィルタ設定] 画面に切り替わります。

クリックします。

- 7 [OK] ボタンをクリックすると、設定が有効になります。

- 8 以上で設定は終了です。

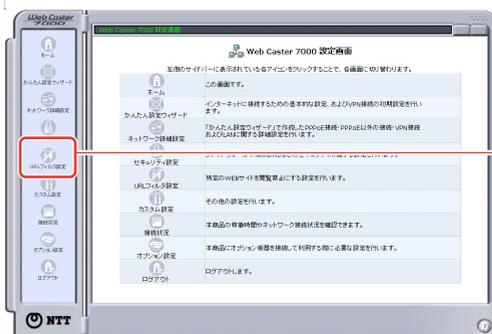
MEMO

ステータスに [Error] が表示される場合

Web ブラウザを起動し設定した URL を入力し、Web ブラウザに表示されるか確認してください。正しく表示されたときは、本商品に設定した URL が間違っている可能性があります。

URL フィルタの修正

- 1 サイドバーから [URL フィルタ設定] アイコンをクリックします。



クリックします。

- 2 設定を変更したいWebサイトのURLの修正ボタンをクリックします。



[URL フィルタ設定] 画面に切り替わります。

修正 ボタンをクリックします。

- 3 [アクセスを遮断するURL] の画面が表示されましたら、新しいURLまたはIPアドレスを入力し、[OK] ボタンをクリックします。



[アクセスを遮断するURL] 画面に切り替わります。

確認します。

4 [Webサイトの URL] の一覧に変更した Web サイトが表示されます。



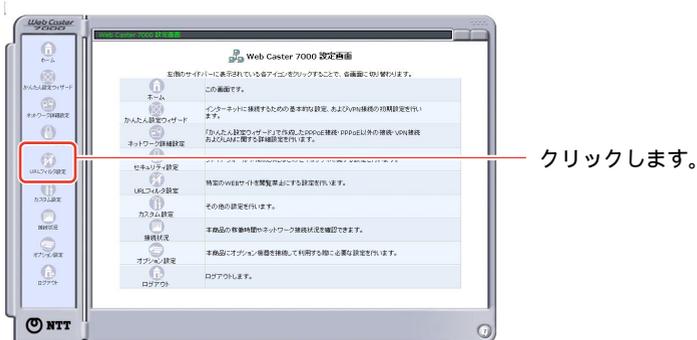
[URLフィルタ設定] 画面に切り替わります。

確認します。

5 以上で設定は終了です。

URL フィルタの削除

- 1 サイドバーから [URL フィルタ設定] アイコンをクリックします。



- 2 設定を削除したいWebサイトのURLの削除ボタンをクリックします。



- 3 [OK] ボタンをクリックします。

- 4 以上で設定は終了です。

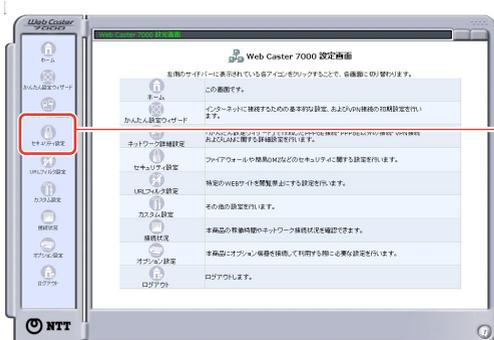
ログの管理

ここでは、LAN 側のパソコンからインターネットへの接続やインターネット側から LAN への接続、設定ページへのアクセスなどのログ情報を設定します。

セキュリティログの確認

ログを見る

- 1 サイドバーから [セキュリティ設定] アイコンをクリックします。



クリックします。

2 [セキュリティログ] ボタンをクリックします。

[セキュリティ設定] 画面に切り替わります。

クリックします。

3 [セキュリティログ] 画面が表示されます。現在のセキュリティに関するログが確認できます。

[セキュリティログ] 画面に切り替わります。

表示されます。

時刻	イベント	タイプ	詳細
Jan 1 09:01:43 1970	WSM Login	Authentication Success	Username: admin

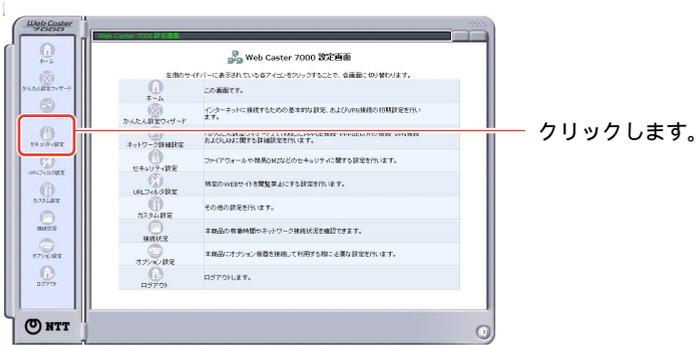
ログの見方（例）

イベント	種類	説明
Inbound/ Outbound Traffic	Connection accepted	接続要求がファイアウォールのセキュリティポリシーに適合していた場合に表示されます。
	Accepted - Host probed	ファイアウォールのセキュリティポリシーに適合したTCP 接続要求があったが、インターネット側のホストが信頼できるかどうか分からない場合に表示されます。この場合、インターネット側のホストに認証が試みられます。 インターネット側からの接続要求に対してのみ表示されます。
	Accepted - Host trusted	認証を試みていたホストから応答があった場合に表示されます。 インターネット側からの接続要求に対してのみ表示されます。
	Accepted - Internal traffic	すべてのパケットがLAN側のホスト同士の間で自由に行き来できる場合に表示されます。
	Connection Refused- Policy violation	接続要求がファイアウォールのセキュリティポリシーに違反している場合に表示されます。
	Blocked - IP Fragment	ファイアウォールですべてのIPフラグメントをブロックする設定を行った場合で、IPフラグメントがブロックされたときに表示されます。エラーはブロックされたフラグメントごとに表示されます。
	Blocked - IP Source Routes	IPヘッダに始点経路制御オプションが設定されていることが原因で、パケットがブロックされたときに表示されます。
	Blocked - State-table error	ファイアウォールによってステートテーブル（LAN側のパソコンやネットワーク機器間のセッション状態に関する情報）が調査または操作されている間に、エラーがあった場合に表示されます。パケットはブロックされます。
Firewall Setup	Aborting configuration	ファイアウォールに関する設定がキャンセルされたときに表示されます。
	Configuration completed	ファイアウォールに関する設定が完了したときに表示されます。

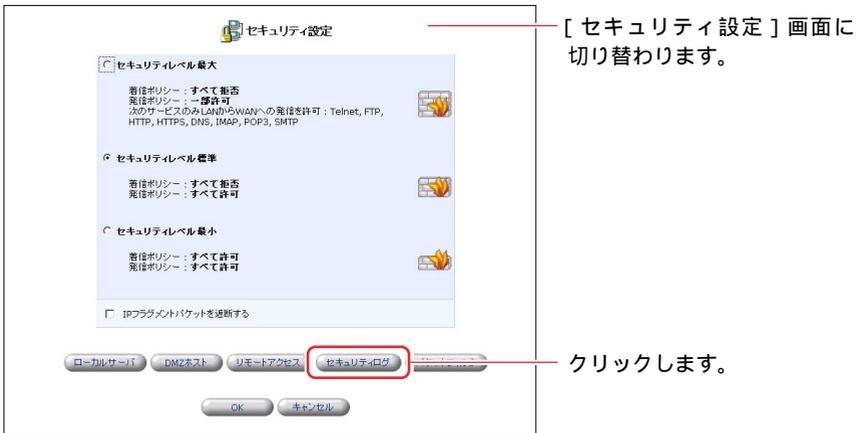
WBM Login	Authentication Success	設定ページへのログインが成功したときに表示されます。
	Authentication Failure	設定ページへのログインが失敗したときに表示されます。
System Up/Down	The system is going DOWN for reboot	本商品を再起動するために終了したときに表示されます。
	The system is UP!	本商品が起動したときに表示されます。

ログのクリア

1 サイドバーから [セキュリティ設定] アイコンをクリックします。



2 [セキュリティログ] ボタンをクリックします。



- 3 [ログのクリア] ボタンをクリックすると、画面に表示されてるログが消去されます。



[セキュリティログ] 画面に切り替わります。

クリックします。

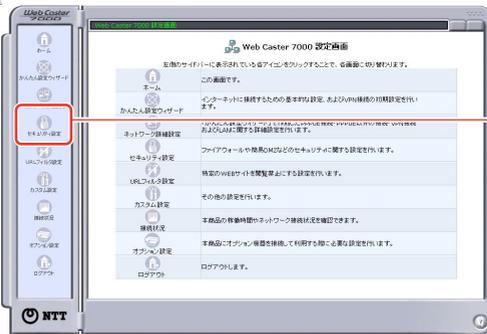
- 4 [戻る] ボタンをクリックします。

- 5 以上で設定は終了します。

ログの詳細設定

ここでは、ログの保存に関する設定について説明します。

1 サイドバーから [セキュリティ設定] アイコンをクリックします。



クリックします。

2 [セキュリティログ] ボタンをクリックします。



[セキュリティ設定] 画面に切り替わります。

クリックします。

3 [詳細設定] ボタンをクリックします。



[セキュリティログ] 画面に切り替わります。

クリックします。

4 [ログイベント] 欄から保存するログ内容を選択します。



[セキュリティログ設定] 画面に切り替わります。

選択します。

[許可した接続]

LAN側からインターネットへの接続、インターネット側からLANへの接続のうちファイアウォールの通過を許可されたものがログに保存されます。

[拒否した接続]

LAN側からインターネットへの接続、インターネット側からLANへの接続のうちファイアウォールの通過を拒否されたものがログに保存されます。

5 [設定]欄からログ容量が一杯になったときの設定を選択します。



[ログ容量が一杯になったらログを停止する]

ログを保存するメモリが一杯になったときにログの保存を停止する場合は、チェックします。

ログを保存するメモリが一杯になったとき古いログを消去し、続けてログを保存する時はチェックを外します。

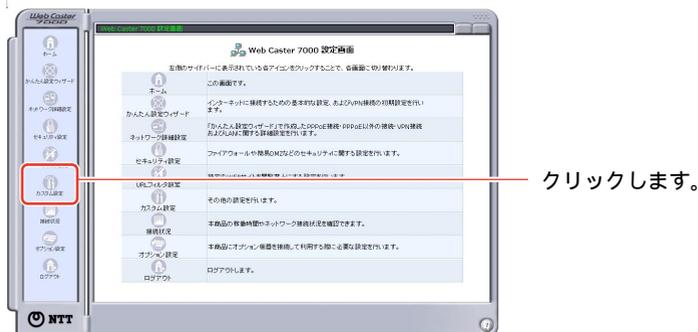
6 [OK] ボタンをクリックします。

7 以上で設定は終了します。

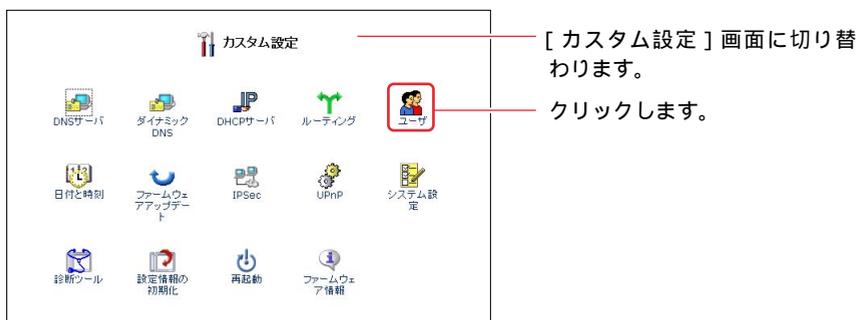
E-Mail 通知機能の設定

本商品は、システムや回線、ファイアウォールに何かしらの異常が発生した場合電子メールで管理者に通知することができます。

- 1 サイドバーから [カスタム設定] アイコンをクリックします。



- 2 [ユーザ] アイコンをクリックします。



3 E-mail通知機能を設定するユーザの修正ボタンをクリックします。

フルネーム	ユーザ名	権限	操作
Administrator	admin	管理者権限	修正
ユーザの追加			

新規作成

戻る

4 [E-mailアドレス]欄に、送信先のMailアドレスを入力します。

ユーザ設定

一般設定

フルネーム(半角英数字、最大128桁): Administrator

ユーザ名(半角英数字、最大64桁): admin

新しいパスワード: [masked]

新しいパスワードの確認: [masked]

権限: 管理者権限 PPTPリモートアクセス

E-Mail通知設定

SMTDメールサーバの設定

E-Mailアドレス: [input field]

システム通知レベル: なし

セキュリティ通知レベル: なし

OK キャンセル

- 5 [システム通知レベル] 欄から通知する内容を選択します。
システム通知は、システム情報に関するメッセージを送信します。

ユーザ設定

一般設定

フルネーム(半角英数字、最大128桁): Administrator

ユーザ名(半角英数字、最大64桁): admin

新しいパスワード:

新しいパスワードの確認:

権限: 管理者権限
 PPTP リモートアクセス

E-Mail通知設定 SMTPメールサーバの設定

E-Mailアドレス:

システム通知レベル: エラー

セキュリティ通知レベル: エラー
警告
情報

OK キャンセル

入力します。

[エラー]

本商品が正しく動作していないなどの、致命的なエラーが発生した際にメッセージを送信します。

[警告]

注意を要するエラーが発生した際にメッセージを送信します。
警告を選択した場合は、エラーレベルのメッセージも送信されます。

[情報]

ユーザが本商品を利用したときに表示されるメッセージが送信されます。
情報を選択した場合は、エラーレベル、警告レベルのメッセージも送信されます。

- 6 [セキュリティ通知レベル] 欄から通知する内容を選択します。
セキュリティ通知は、セキュリティログに表示されるメッセージを送信します。

選択します。

[エラー]

重大なセキュリティイベントが発生した際に、メッセージを送信します。

[警告]

注意を要するセキュリティイベントが発生した際にメッセージを送信します。
警告を選択した場合は、エラーレベルのメッセージも送信されます。

[情報]

ユーザが本商品を利用したときに表示されるメッセージが送信されます。
情報を選択した場合は、エラーレベル、警告レベルのメッセージも送信されます。

- 7 本商品からメールを送信するための、SMTPメールサーバの設定をします。
[SMTPメールサーバの設定] をクリックします。

選択します。

8 [SMTP メールサーバ] 欄にメールサーバのアドレスを入力します。

[システム設定] 画面に切り替わります。

入力します。

9 [OK] ボタンをクリックし、[ユーザ設定] 画面に戻ります。

10 [OK] ボタンをクリックします。

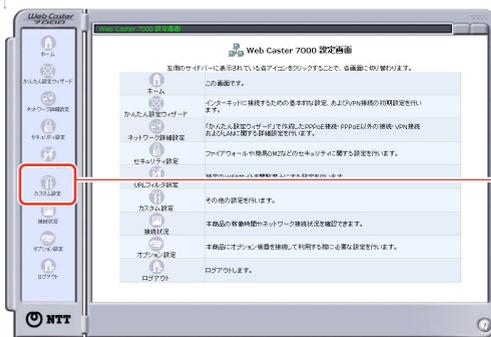
11 以上で設定は終了です。

Syslog の設定

本商品には、システムや回線、ファイアウォールに何かしらの異常が発生した場合 Syslog サーバにログを送信することができます。

ここでは、ログを Syslog サーバに送信するための設定を説明します。

1 サイドバーから [カスタム設定] アイコンをクリックします。



クリックします。

2 [システム設定] アイコンをクリックします。



[カスタム設定] 画面に切り替わります。

クリックします。

- 3 [システム通知レベル] 欄から通知する内容を選択し、[システム通知 Syslog サーバアドレス] に syslog サーバのアドレスを入力します。



[システムリモートログ設定] 画面に切り替わります。

入力します。

[エラー]

システムに関する重大なメッセージを送信します。

[警告]

システムに関する注意を要するメッセージを送信します。

警告を選択した場合は、エラーレベルのメッセージも送信されます。

[情報]

ユーザが本商品を利用したときに表示されるメッセージが送信されます。

情報を選択した場合は、エラーレベル、警告レベルのメッセージも送信されます。

- 4 [セキュリティ通知レベル] 欄から通知する内容を選択し、[セキュリティ通知 Auslpg サーバアドレス] に Syslog サーバのアドレスを入力します。セキュリティ通知は、セキュリティログに表示されるメッセージを送信します。



[セキュリティリモートログ設定] 画面に切り替わります。

入力します。

[エラー]

重大なセキュリティイベントに関するメッセージを送信します。

[警告]

注意を要するセキュリティイベントに関するメッセージを送信します。

警告を選択した場合は、エラーレベルのメッセージも送信されます。

[情報]

ユーザが本商品を利用したときに表示されるメッセージが送信されます。

情報を選択した場合は、エラーレベル、警告レベルのメッセージも送信されます。

- 5 [OK] ボタンをクリックします。

- 6 以上で設定は終了です。

サーバ公開設定

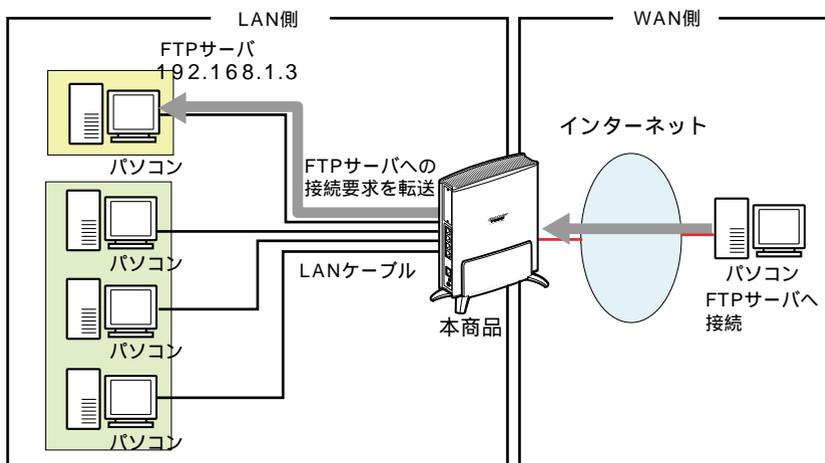
ここでは、外部にサーバを公開するときに必要な設定について説明します。

6

Web Caster 7000 の機能・設定の詳細

ローカルサーバ設定

LAN側のサーバをインターネットに公開するときや、オンラインゲームやチャットなどのソフトウェアを使うときはローカルサーバ機能の設定を行います。本商品には、あらかじめインターネットで使われるサービスやアプリケーションが登録されており、簡単に設定することができます。



ローカルサーバの設定

ここでは、ローカルサーバの詳細な設定を行います。

- 1 サイドバーから[セキュリティ設定]アイコンをクリックします。



- 2 [ローカルサーバ]ボタンをクリックします。



3 [新規作成]欄から追加ボタンをクリックします。



[ローカルサーバ]画面に切り替わります。

追加 ボタンをクリックします。

4 [ローカルサーバの追加]画面が表示されます。 [ローカルIP]欄にローカルサーバを設定するパソコンのIPアドレスを入力します。



[ローカルサーバの追加]画面に切り替わります。

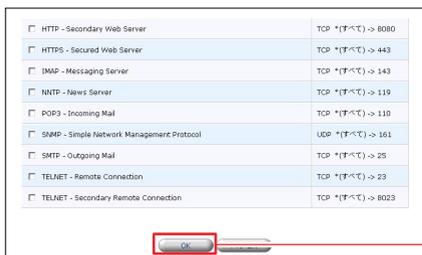
入力します。

- 5 [デフォルト定義サービス]欄に本商品に既に登録されているサービスやアプリケーションが表示されます。インターネットに公開するサービスや、使用するアプリケーションを選択し、チェックします。



チェックします。

- 6 [OK]ボタンをクリックします。



クリックします。

[OK]ボタンは画面の下の方にあります。スクロールして表示してください。

- 7 以上で設定は終了です。

新規に作成したサービスでローカルサーバを設定する場合

ユーザ定義サービスの新規作成

ここでは、本商品にあらかじめ登録されていないサービスを設定し、ローカルサーバを利用する方法について説明します。

- 1 サイドバーから[セキュリティ設定]アイコンをクリックします。



- 2 [ローカルサーバ]ボタンをクリックします。



3 [新規作成]欄から追加ボタンをクリックします。



[ローカルサーバ]画面に切り替わります。

追加 ボタンをクリックします。

4 新規サービスを登録します。 [ユーザ定義サービス]をクリックします。



クリックします。

5 [ユーザ定義サービス]画面が表示されます。 [新規作成]欄から[追加]ボタンをクリックします。



[ユーザ定義サービス]画面に切り替わります。

追加 ボタンをクリックします。

6 [サービスの編集]画面が表示されます。 [新規作成]欄から[追加]ボタンをクリックします。



[サービスの編集]画面に切り替わります。

追加 ボタンをクリックします。

6 [プロトコル]欄から使用するプロトコルを選択し、ポート番号を入力します。

[プロトコル]

対象にするプロトコルをTCP、UDP、ICMP、GRE、ESP、AH、その他から選択します。その他を選択したときは、対象にするプロトコル番号を直接指定してください。

[発信元ポート/送信先ポート]

サービスやアプリケーションのポート番号を入力します。

すべて 全てのポートを指定します。

1個を指定 1つのポート番号を指定します。

範囲指定 ポート番号の範囲を指定します。

[ICMPメッセージ]

対象にするICMPメッセージを選択します。

7 [OK]ボタンをクリックします。



[サービスの編集]画面に戻ります。

クリックします。

8 追加ボタンをクリックすることで、複数のポートを指定することもできます。

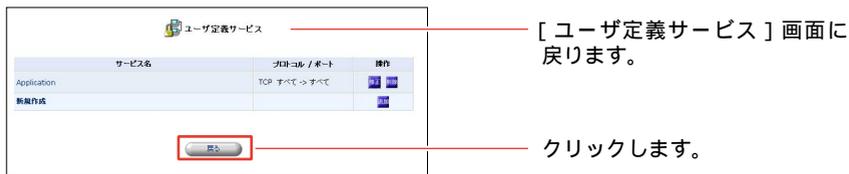


入力します。

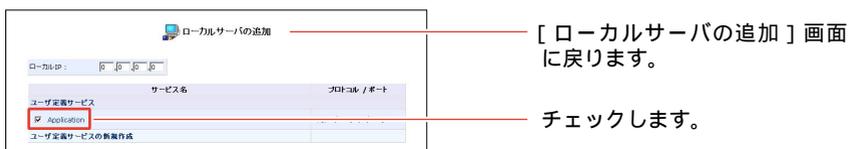
追加 ボタンをクリックします。

9 全ての設定が終了しましたら、[サービス名]欄に任意の名前を入力し、[OK]ボタンをクリックします。

- 10 [定義サービス]の画面に戻ります。
[サービス名]欄に作成したユーザ定義サービスが表示されているのを確認します。
[戻る]ボタンをクリックします。



- 11 [ローカルサーバの追加]の画面に戻ります。
[ユーザ定義サービス]欄に作成したユーザ定義サービスが表示されているのを確認し、チェックします。



- 12 ローカルサーバ機能を使用するパソコンの設定を行います。
[ローカルIP]欄にローカルサーバ機能を使用するパソコンのIPアドレスを入力します。



- 13 [OK]ボタンをクリックします。



[OK]ボタンは画面の下の方にあります。スクロールして表示させてください。

- 14 [ローカルサーバ]の画面に戻ります。ローカルサーバで使用するサービスとパソコンのIPアドレスが表示されます。



[ローカルサーバ]画面に戻ります。

表示されます。

- 15 [OK]ボタンをクリックします。
- 16 以上で設定は終了です。

ユーザ定義サービスの修正

ここでは、既に作成したユーザ定義サービスを修正する方法について説明します。

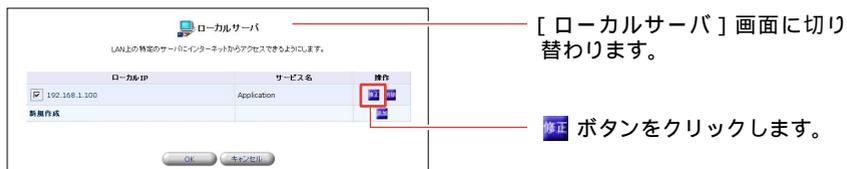
- 1 サイドバーから[セキュリティ設定]アイコンをクリックします。



- 2 [ローカルサーバ]ボタンをクリックします。



- 3 設定を変更するパソコンの修正ボタンをクリックします。



- 4 [ローカルサーバの編集]画面が表示されます。
[ユーザー定義サービス]をクリックします。



[ローカルサーバの編集]画面に切り替わります。

クリックします。

- 5 [ユーザ定義サービス]の画面が表示されます。設定を変更したいサービスの修正ボタンをクリックします。



[サービスの編集]画面に切り替わります。

修正 ボタンをクリックします。

- 6 [サービスの編集]の画面が表示されます。設定を変更したいプロトコルの修正ボタンをクリックします。



[サービスの編集]画面に切り替わります。

修正 ボタンをクリックします。

- 7 [サービスの編集]の画面が表示されます。設定を変更したい項目を修正し、[OK]ボタンをクリックします。



[サービスの編集]画面に切り替わります。

修正します。

クリックします。

8 [OK]ボタンをクリックします。



[サービスの編集]画面に切り替わります。

クリックします。

9 [ユーザ定義サービス]画面に戻ります。 [戻る]ボタンをクリックします。



[サービスの編集]画面に切り替わります。

クリックします。

10 以上で設定は終了です。

ユーザ定義サービスの削除

1 サイドバーから[セキュリティ設定]アイコンをクリックします。



クリックします。

2 [ローカルサーバ]ボタンをクリックします。



[セキュリティ設定]画面に切り替わります。

クリックします。

3 [新規作成]欄から追加ボタンをクリックします。

[ローカルサーバ] 画面に切り替わります。

追加 ボタンをクリックします。

4 [ユーザ定義サービス]をクリックします。

[ローカルサーバの追加] 画面に切り替わります。

クリックします。

5 [ユーザ定義サービス]の画面が表示されます。削除したいサービスの削除ボタンをクリックします。

[ユーザ定義サービス] 画面に切り替わります。

削除 ボタンをクリックします。

6 [戻る]ボタンをクリックします。

7 以上で設定は終了です。

設定したローカルサーバの修正

- 1 サイドバーから[セキュリティ設定]アイコンをクリックします。



- 2 [ローカルサーバ]ボタンをクリックします。



3 設定を変更したいパソコンの修正ボタンをクリックします。

[ローカルサーバ] 画面に切り替わります。

修正 ボタンをクリックします。

4 [ローカルサーバの編集] 画面が表示されます。 使用するサービスまたはパソコンのローカルIPを変更できます。

[ローカルサーバの編集] 画面に切り替わります。

変更します。

5 [OK]ボタンをクリックします。

6 以上で設定は終了です。

ローカルサーバの有効/無効の切替

- 1 サイドバーから[セキュリティ設定]アイコンをクリックします。



- 2 [ローカルサーバ]ボタンをクリックします。



- 3 [ローカルIP]欄からサービスを無効にしたいIPアドレスのチェックを外します。



[ローカルサーバ]画面に切り替わります。

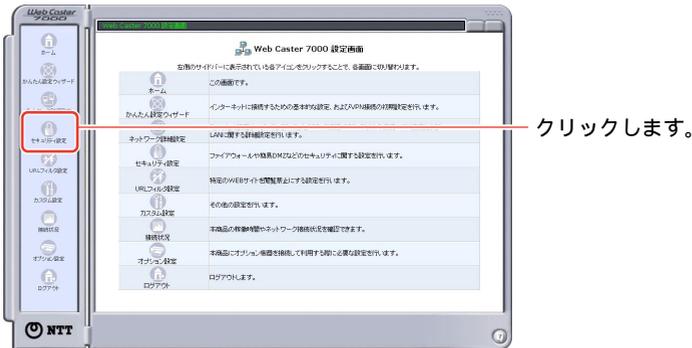
チェックを外します。

- 4 [OK] ボタンをクリックします。

- 5 以上で設定は終了です。

設定したローカルサーバの削除

- 1 サイドバーから[セキュリティ設定]アイコンをクリックします。



- 2 [ローカルサーバ]ボタンをクリックします。



3 設定を削除したいサービスの削除ボタンをクリックします。



[ローカルサーバ]画面に切り替わります。

削除 ボタンをクリックします。

4 [OK]ボタンをクリックします。

5 以上で設定は終了です。

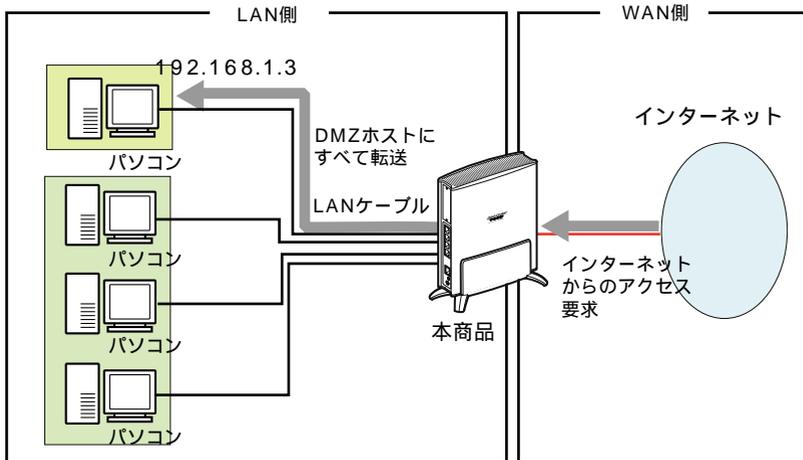
DMZ ホストの設定

DMZ ホスト機能を使用すると、LAN 側にある 1 台のパソコンをインターネット上に公開できます。次のようなときに、DMZ ホストを指定します。

- ・ [ローカルサーバ] 機能のリストにはないオンラインゲームやビデオ会議用のソフトウェアで、使用するポートなどの情報が公開されていない場合。
- ・ セキュリティの制限無しに、1 台のパソコンで全てのサービスをインターネットに公開する場合。

! ご注意

- ・ DMZ ホストとして、複数のパソコンを設定することはできません。
- ・ DMZ ホストとして設定したパソコンは、ファイアウォールで保護されていないため、外部から攻撃を受ける恐れがあります。
- ・ ローカルサーバ機能と DMZ ホスト機能を同時に設定しているときは、ローカルサーバの設定が優先されます。



インターネットから LAN 側へのアクセス要求を受け取ると、本商品は [ローカルサーバ] 機能で登録されてる宛先を除き、すべて DMZ ホストへその要求を転送します。

LAN 側のパソコンを DMZ ホストに設定する

ここでは、LAN 側のパソコンをインターネットに公開するための DMZ ホストの設定について説明します。

DMZ ホスト設定

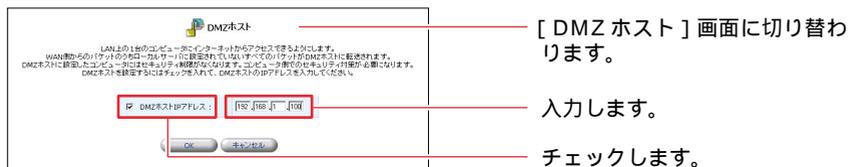
- 1 サイドバーから[セキュリティ設定]アイコンをクリックします。



- 2 [DMZ ホスト] ボタンをクリックします。



- 3 [DMZ ホスト IP アドレス]欄にチェックを付け、DMZ ホストにするパソコンの IP アドレスを入力します。



- 4 [OK]ボタンをクリックします。

- 5 以上で設定は終了です。

DMZ ホストの有効/無効の切替

- 1 サイドバーから[セキュリティ設定]アイコンをクリックします。



- 2 [DMZ ホスト]ボタンをクリックします。



3 [DMZ ホスト IP アドレス]欄からチェックを外します。



[DMZ ホスト] 画面に切り替わります。

チェックを外します。

4 [OK]ボタンをクリックします。

5 以上で設定は終了です。

DMZ ホストの削除

- 1 サイドバーから[セキュリティ設定]アイコンをクリックします。



- 2 [ローカルサーバ]ボタンをクリックします。



- 3 サービス名が All Traffic で、[ローカルIP]欄から DMZ ホストに設定したパソコンの IP アドレスを確認し、削除ボタンをクリックします。



[ローカルサーバ]画面に切り替わります。

削除ボタンをクリックします。

- 4 [OK]ボタンをクリックします。

- 5 以上で設定は終了です。

ダイナミック DNS の設定

Web サーバなどをインターネットに公開するときは、固定のグローバルIPアドレスが本商品に割り当てられている必要があります。しかし、インターネットに常時接続していても切断、再接続の際に動的にIPアドレスが変わってしまう場合があります。

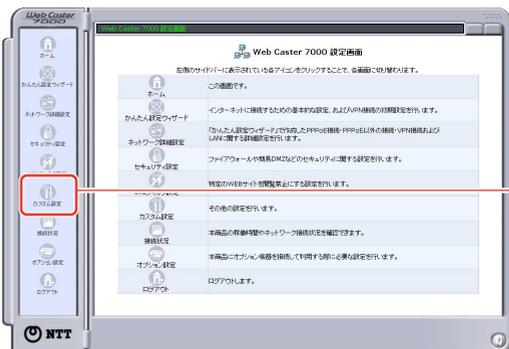
ダイナミック DNS を使用すると、本商品のIPアドレスをダイナミック DNS サーバに一定間隔で通知することで、IPアドレスが変わった場合でも固定のホスト名が使用できます。

！ ご注意

- ・ 本商品は「www.dyndns.org」ダイナミック DNS サービスに対応していません。本商品のダイナミック DNS の設定を行う前に、「www.dyndns.org」にアクセスし、ユーザ名、パスワード、ホスト名の登録を行ってください。
- ・ 「www.dyndns.org」は、無償のサービスです（2003年6月現在）。また、プロバイダによっては本設定を使わなくても、ダイナミック DNS を実現することが出来る場合があります。詳しくは、プロバイダにお問い合わせ下さい。

ダイナミック DNS の設定

- 1 サイドバーから[カスタム設定]アイコンをクリックします。



クリックします。

- 2 [ダイナミック DNS]アイコンをクリックします。



[カスタム設定] 画面に切り替わります。

クリックします。

- 3 [ダイナミック DNS]の画面が表示されます。
[有効にする]欄にチェックを付け、ダイナミック DNS サービスに登録した内容をもとに各項目を入力します。



[ステータス]

現在の更新情報が表示されます。

[ユーザ名]

ダイナミック DNS サービスに登録されているユーザ名を入力します。

[パスワード]

ダイナミック DNS サービスに登録されているユーザパスワードを入力します。

[ホスト名]

テキスト欄に登録したホスト名とドメイン名を入力してください。

[メールサーバ]

メールサーバを登録したい場合は、メールサーバのホスト名を入力します。

- 4 [OK]ボタンをクリックします。

- 5 以上で設定は終了です。
設定が完了するとダイナミック DNS サーバへ本商品が取得している IP アドレスを定期的に通知するようになります。

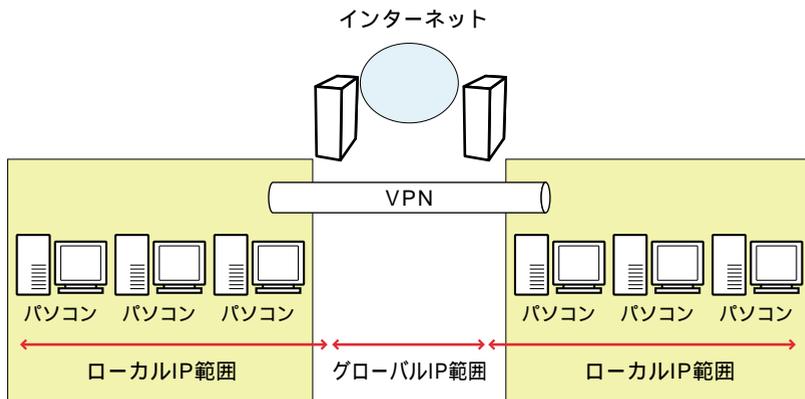
VPN の設定

6

Web Caster 7000 の機能・設定の詳細

VPN (Virtual Private Network) は、データのカプセル化や暗号化などのセキュリティ技術を使って、インターネットを仮想的に、専用線で接続した WAN のように利用する技術です。VPN を構築するためには、PPTP (Point to Point Tunneling Protocol) や IPSec (IP Security) などのプロトコルが用いられます。ここでは、PPTP と IPSec による VPN 接続の方法について説明します。

本商品は、PPTP サーバと PPTP クライアントおよび IPSec の機能を搭載しているため、パソコンに VPN 用のソフトウェアを導入する必要もなく、強固なセキュリティ機能をもつ VPN を構築することができます。

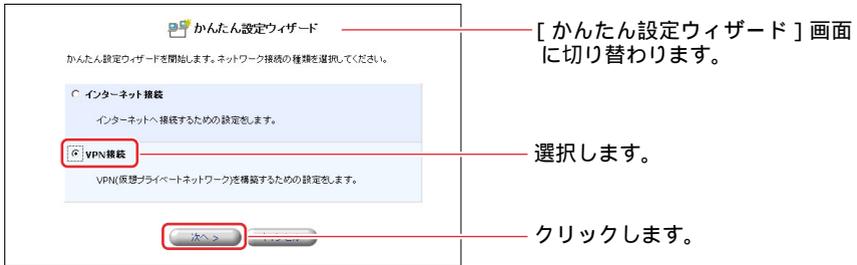


VPN を構築するには、かんたん設定ウィザードによる設定をした後、ネットワーク詳細設定によって、詳細な設定が可能です。次ページのかんたん設定ウィザードから設定を進めてください。なお、すでにかんたん設定ウィザードによる VPN 接続設定が終わっている場合は、P.6-177 の「ネットワーク詳細設定による設定」に進んでください。

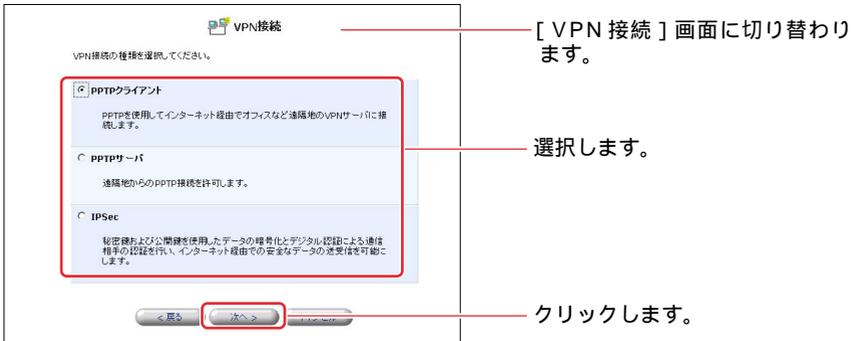
1 サイドバーから[かんたん設定ウィザード]アイコンをクリックします。



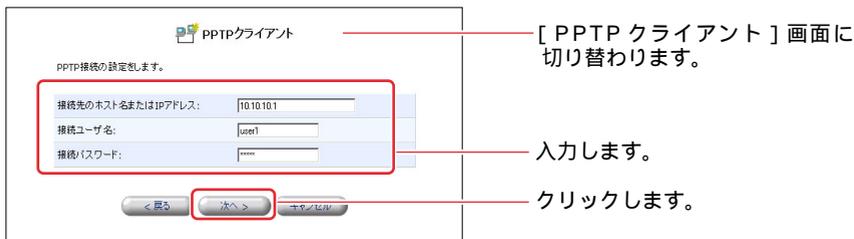
2 [VPN接続]を選択し、[次へ]ボタンをクリックします。



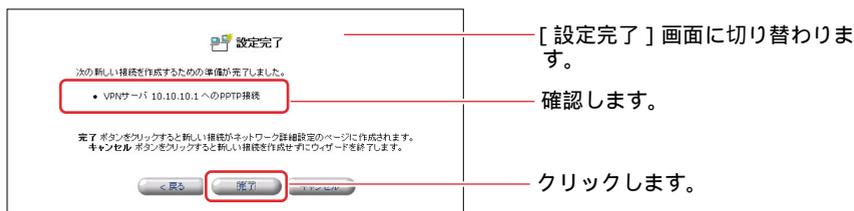
3 [PPTPクライアント]を選択し、[次へ]ボタンをクリックします



- 4 リモートアクセスするサーバの設定に従い、PPTP 接続の設定を行います。
[接続先のホスト名またはIP アドレス]に接続する PPTP サーバの IP アドレスを入力し、[接続ユーザ名]、[接続パスワード]に接続する時のユーザ名とパスワードを入力します。
[次へ]ボタンをクリックします。

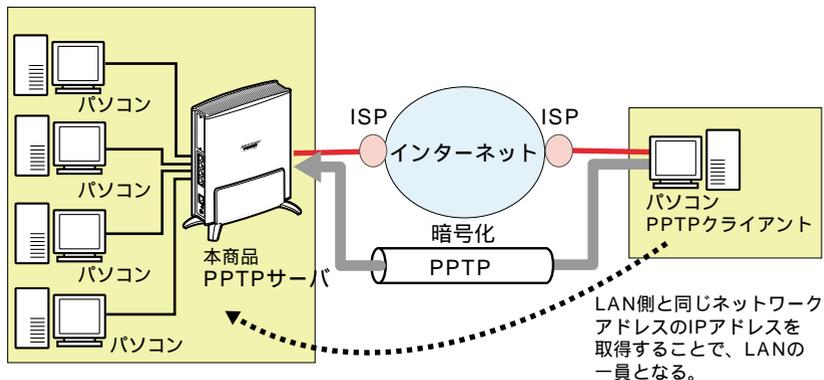


- 5 [接続完了]画面が表示されます。
PPTP 接続するサーバ名またはIP アドレスを確認し、[完了]ボタンをクリックします。

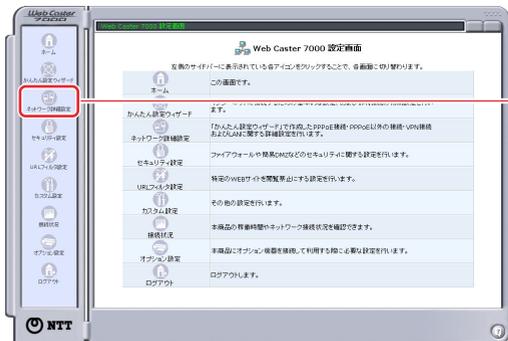


PPTP サーバの設定

本商品を PPTP サーバとして使用する場合の設定について説明します。



- 1 サイドバーから[かんたん設定ウィザード]アイコンをクリックします。



クリックします。

2 [VPN 接続]を選択し、[次へ]ボタンをクリックします。

かんたん設定ウィザード

かんたん設定ウィザードを開始します。ネットワーク接続の種類を選択してください。

インターネット接続
インターネットへ接続するための設定をします。

VPN接続
VPN(仮想プライベートネットワーク)を構築するための設定をします。

IPSec

次へ >

[かんたん設定ウィザード]画面に切り替わります。

選択します。

クリックします。

3 [PPTPサーバ]を選択し、[次へ]ボタンをクリックします。

VPN接続

VPN接続の種類を選択してください。

PPTPクライアント
PPTPを使用してインターネット経由でオフィスなど遠隔地のVPNサーバに接続します。

PPTPサーバ
遠隔地からのPPTP接続を許可します。

IPSec
暗号鍵および公開鍵を使用したデータの暗号化とデジタル認証による通信相手の認証を行い、インターネット経由での安全なデータの送受信を可能にします。

< 戻る

次へ >

VPN接続画面に切り替わります。

選択します。

クリックします。

4 PPTPサーバにアクセスを許可する為のユーザ設定を行います。

ユーザ

PPTP接続を許可するユーザを作成してください。

フルネーム	ユーザ名	権限	操作
Administrator	admin	管理者権限	管理
ユーザの追加			追加

< 戻る

次へ >

キャンセル

[ユーザ]画面に切り替わります。

追加ボタンをクリックします。

- 5 [一般設定]欄のフルネーム、ユーザ名、新しいパスワード、新しいパスワードの確認に登録するユーザの設定を入力し、[権限]欄から PPTP リモートアクセスにチェックをつけます。

[ユーザ設定]画面に切り替わります。

入力します。

チェックします。

クリックします。

- 6 ユーザの追加または修正、削除が終わると[ユーザ]画面に戻りますので、[次へ]ボタンをクリックします。

[ユーザ]画面に戻ります。

フルネーム	ユーザ名	権限	操作
Administrator	admin	管理者権限	編集
user	user	PPTP リモートアクセス	編集
ユーザの追加			

クリックします。

- 7 PPTPクライアントのリモートアドレスを入力します。
PPTPサーバにリモートアクセスするユーザに割り当てるIPアドレスの範囲を入力し、[次へ]ボタンをクリックします。



[PPTP サーバ] 画面に切り替わります。

入力します。

クリックします。

- 8 [設定完了]画面が表示されます。
[完了]ボタンをクリックします。



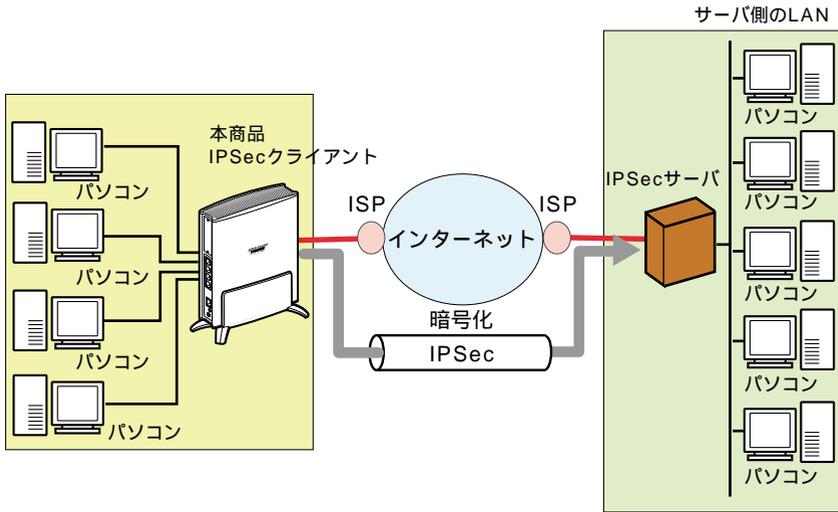
[設定完了] 画面に切り替わります。

クリックします。

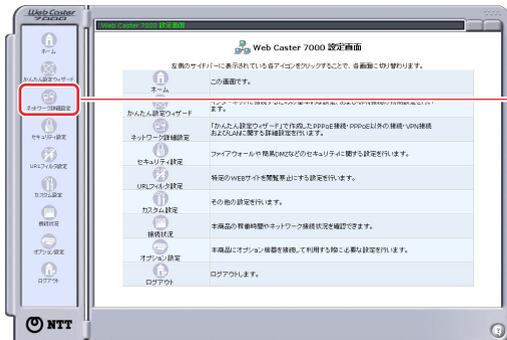
インターネットに接続されている場合、PPTPクライアントの設定が完了すると、自動的にPPTPサーバへ接続を行います。

IPSecの設定

本商品を使いIPSecによるVPN接続を行う場合の設定について説明します。



1 サイドバーから[かんたん設定ウィザード]アイコンをクリックします。



クリックします。

2 [VPN 接続]を選択し、[次へ]ボタンをクリックします。

かんたん設定ウィザード

かんたん設定ウィザードを開始します。ネットワーク接続の種類を選択してください。

インターネット接続
インターネットへ接続するための設定をします。

VPN接続
VPN(仮想プライベートネットワーク)を構築するための設定をします。

次へ >

[かんたん設定ウィザード]画面に切り替わります。

選択します。

クリックします。

3 [IPSec]を選択し、[次へ]ボタンをクリックします。

VPN接続

VPN接続の種類を選択してください。

PPTPクライアント
PPTPを使用してインターネット経由でオフィスなど遠隔地のVPNサーバに接続します。

PPTPサーバ
遠隔地からのPPTP接続を許可します。

IPSec
秘密鍵および公開鍵を使用したデータの暗号化とデジタル認証による通信相手の認証を行い、インターネット経由での安全なデータの送受信を可能にします。

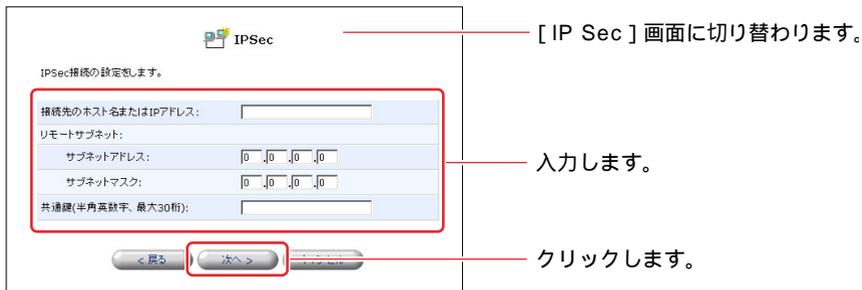
< 戻る 次へ > キャンセル

[VPN 接続]画面に切り替わります。

選択します。

クリックします。

4 接続するIPSecの情報を入力し、[次へ]ボタンをクリックします。



[接続先のホスト名またはIP アドレス]

IPSec で接続する相手側の IP アドレスを入力します。

[サブネットアドレス]

IPSec で接続する相手側のネットワークアドレスを入力します。

[サブネットマスク]

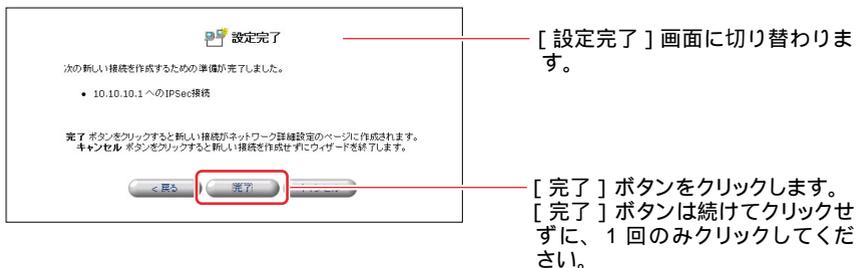
IPSec で接続する相手側のサブネットマスクを入力します。

[共通鍵]

IPSec 間で認証を行うときに使う事前共有鍵を入力します。

鍵の値は両方のルータで同じ値を入力します。

5 [設定完了]画面が表示されます。[完了]ボタンをクリックします。



ネットワーク詳細設定による設定

PPTPクライアントやサーバに関する詳細な設定と、IPSecの詳細設定について説明します。

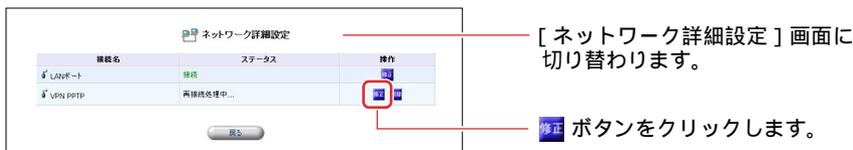
VPNの詳細な設定をするためには、あらかじめ「かんたん設定ウィザード」による設定を終了しておく必要があります。未設定の場合は、P.6-167に戻って設定してください。

PPTPクライアントの詳細設定

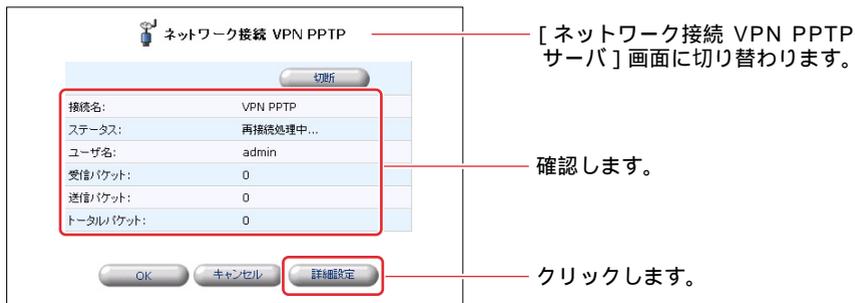
1 サイドバーから [ネットワーク詳細設定] アイコンをクリックします



2 [ネットワーク詳細設定] 画面が表示されます。詳細な設定を行うVPN PPTP接続の修正ボタンをクリックします。



- 3 [ネットワーク詳細設定 VPN PPTP] 画面が表示されます。接続名、ステータス、ユーザ名等が表示されていますので、確認して [詳細設定] ボタンをクリックします。



- 4 [詳細設定 VPN PPTP] 画面が表示されます。PPTP サーバ管理者の通知に従って、基本設定、PPP、PPP 認証、PPP 暗号化、IP の設定方法などを設定します。

基本設定、PPP、PPP 認証の設定

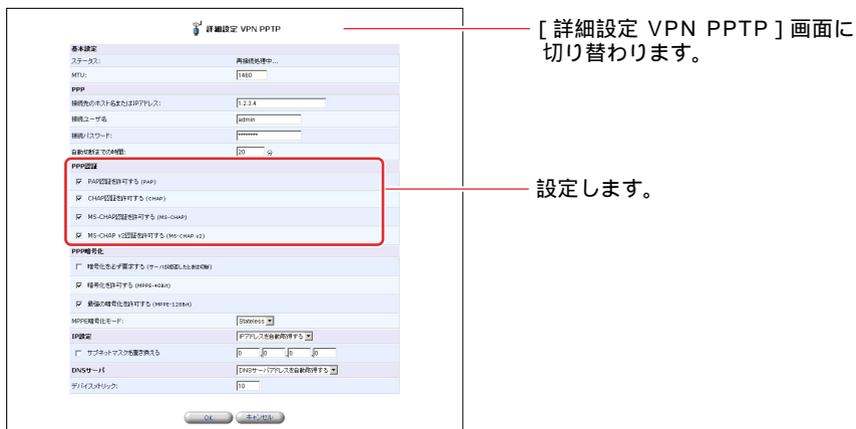
[PPP]

接続先のホスト名または IP アドレス、接続ユーザ名、接続パスワードには、かんたん設定ウィザードで設定した内容が表示されています。変更する必要がある項目を修正します。

自動切断までの時間は、PPTP による通信が中断したときに接続を切断するまでの時間を分単位で入力します。

[PPP 認証設定]

ユーザ認証のためのプロトコルを選択します。PPP 暗号化で「暗号化を許可する」場合は、MS-CHAP または MS-CHAP v2 を選択します。



PPP 暗号化、IP 設定

パケットの暗号化に関する設定を行います。

[PPP 暗号化]

- ・暗号化を必ず要求する：
暗号化通信を要求するときにチェックします。サーバが拒否すると PPTP 通信は確立されません。
- ・暗号化を許可する：
暗号化に MPPE (Microsoft Point-to-Point Encrypeion) を使用します。
40bit のキーで暗号化するか、128bit のキーを使うかで、MPPE-40 か MPPE-128 を選択します。
- ・MPPE 暗号化モード：
暗号化のモード (Stateless または Stateful) を選択します。Stateless はパケットごとに暗号化キーを変更するので、通信の安全性は高くなります。Stateful は複数のパケット単位で暗号化キーを変更します。
暗号化を許可する場合は、上の PPP 認証で、MS-CHAP または、MS-CHAP v2 が選択されていることを確認してください。

[IP 設定]

IP アドレスを固定にするか、自動取得するかを選択します。

[サブネットマスクを置き換える] は、固定のサブネットマスクを利用するときにチェックし、そのときのサブネットマスクを指定します。

[DNS サーバ]

DNS サーバアドレスを自動取得するのか、固定設定にするのかを選択します。固定にする場合は、プライマリとセカンダリ DNS サーバの IP アドレスを指定します。なお、[DNS サーバ] をクリックすると、[カスタム設定] で [DNS サーバ] を選んだ状態になります。

[デバイスメトリック]

メトリックの値を入力します。

The screenshot shows a configuration window titled 'PPP暗号化' (PPP Encryption). It contains several sections:

- PPP暗号化:**
 - 暗号化を必ず要求する (サーバが拒否した場合は接続)
 - 暗号化を許可する (MPPE-40bit)
 - 最強の暗号化を許可する (MPPE-128bit)
- MPPE暗号化モード:** [Stateless]
- IP設定:** [IPアドレスを自動取得する]
- サブネットマスクを置き換える
- DNSサーバ:** [DNSサーバアドレスを自動取得する]
- デバイスメトリック:** [10]

 At the bottom are 'OK' and 'キャンセル' buttons. A red box highlights the encryption options, and a red arrow points from the text '設定します。' to the '許可する' option.

- 5 [OK] ボタンをクリックすると設定が有効になり、[ネットワーク接続 VPN PPTP] 画面に戻ります。

PPTP クライアントの削除

ここでは、既に登録してある PPTP クライアント接続を削除する場合について説明します。

1 サイドバーから [ネットワーク詳細設定] アイコンをクリックします



クリックします。

2 [接続名] 欄から削除する VPN PPTP 接続の [修正] ボタンをクリックします。



[ネットワーク詳細設定] 画面に切り替わります。

 ボタンをクリックします。

- 3 回線が接続されてる場合は、[切断]ボタンをクリックし、回線をいったん切断します[OK]ボタンをクリックします。

[ネットワーク接続 VPN PPTP サーバ] 画面に切り替わります。

クリックします。

クリックします。

接続名	ステータス
VPN PPTP	再接続処理中...
ユーザー名	admin
受信パケット	0
送信パケット	0
トータルパケット	0

- 4 [接続名]欄から削除するVPN PPTP接続の[削除]ボタンをクリックします。[削除]ボタンは続けてクリックせずに、1回のみクリックしてください。

[ネットワーク詳細設定] 画面に切り替わります。

削除 ボタンをクリックします。

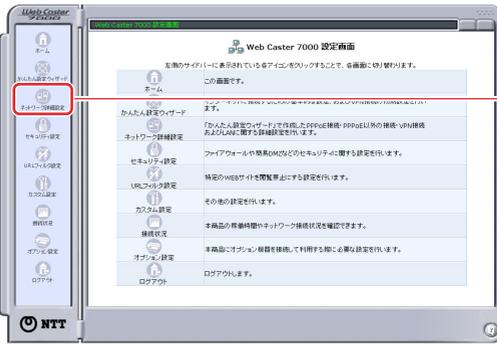
接続名	ステータス	操作
LANポート	接続	削除
WAN PPTP/E	接続	削除

- 5 [戻る]ボタンをクリックします。

- 6 以上で設定は終了です。

PPTP サーバの詳細設定

- 1 サイドバーから [ネットワーク詳細設定] アイコンをクリックします



クリックします。

- 2 [ネットワーク詳細設定] 画面が表示されます。詳細な設定を行うVPN PPTP サーバ接続の修正ボタンをクリックします。



[ネットワーク詳細設定] 画面に切り替わります。

修正 ボタンをクリックします。

PPTP サーバを削除する場合は、修正ボタンをクリックし、[PPTPサーバ] 画面の [有効] 欄からチェックを外します。

- 3 [PPTPサーバ] 画面が表示されます。
 [詳細設定] ボタンをクリックします。
 なお、ここでユーザの編集、PPTPクライアントの接続設定も可能です。

[PPTPサーバ] 画面に切り替わります。

表示されます。

クリックします。

- 4 [PPTPサーバ] 画面が表示されます。PPTPサーバの詳細な設定を行います。

設定します。

[ステータス]

PPTPサーバの接続状況を表示します。

[有効]

PPTPサーバを有効にするときにチェックします。このチェックをはずすと、PPTPサーバとして動作しなくなり、接続状況にも反映されなくなり、また詳細設定の画面からも削除されます。

[ユーザ]

クリックすると、ユーザの設定を行うことができます。

[自動切断までの時間]

PPTP による通信が中断したときに、接続を切断するまでの時間を分単位で入力します。

[ユーザセキュリティ]

PPTP を使用した通信での認証と暗号化について設定します。

- ・ 認証が必要 :
PPTP クライアントが接続するときに、ユーザ認証を必要とするときにチェックします。接続テストなど特別な場合を除いて必ずチェックを入れてください。
- ・ 暗号化が必要 :
PPTP クライアントが接続するときに、暗号化通信を要求する場合にチェックします。

[許可する認証アルゴリズム]

ユーザセキュリティで認証が必要にチェックをした場合、認証のアルゴリズムを PAP、CHAP、MS-CHAP-v1、MS-CHAP-v2 から選択します。暗号化をする場合は、MS-CHAP-v1 か MS-CHAP-v2 をチェックしてください

[許可する暗号化アルゴリズム]

ユーザセキュリティで暗号化が必要にチェックをした場合、暗号化アルゴリズムを MPPE-40 と MPPE-128 から選択します。

[MPPE 暗号化モード]

暗号化のモード (Stateless または Stateful) を選択します。

- ・ Stateless :
パケットごとに暗号化キーを変更するので、通信の安全性は高くなります。
- ・ Stateful :
複数のパケット単位で暗号化キーを変更します。

- 5 [かんたん設定ウィザード] で設定した、リモートアドレス、クライアントとして動作する場合の PPTP クライアントの設定が表示されます。クリックし修正することが可能です。



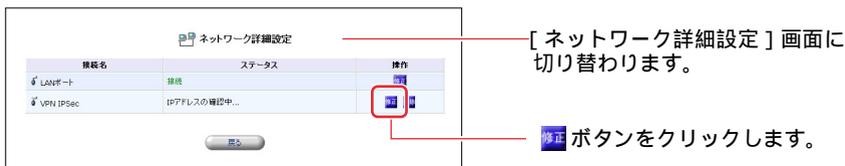
- 6 [OK] ボタンをクリックすると、設定が有効になりネットワーク詳細設定画面に戻ります。[基本設定] ボタンをクリックすると、PPTP サーバの最初の画面に戻ります。

IPSec の詳細設定

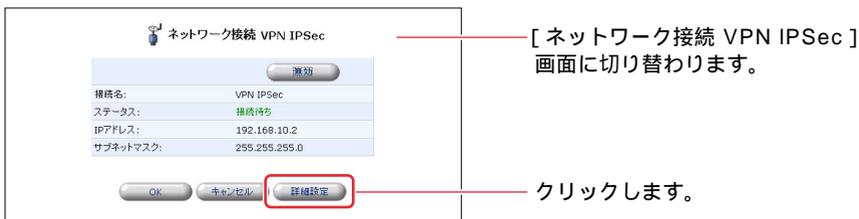
- 1 サイドバーから [ネットワーク詳細設定] アイコンをクリックします



- 2 [ネットワーク詳細設定] 画面が表示されます。詳細な設定を行う VPN IPSec 接続の修正ボタンをクリックします。



- 3 [ネットワーク接続 VPN IPSec] 画面が表示されます。[詳細設定] ボタンをクリックします。



4 「詳細設定 VPN IPSec」画面が表示されます。

基本設定	
ステータス:	IPアドレスの検出中...
MTU:	16280
IPSec	
接続先のホスト名またはIPアドレス:	1.2.3.4
ローカルサブネット	
サブネットアドレス:	192.168.1.0
サブネットマスク:	255.255.255.0
リモートサブネット	
サブネットアドレス:	192.168.100.0
サブネットマスク:	255.255.255.0
<input checked="" type="checkbox"/> データ圧縮 (RFC2407-36)	
鍵交換方式:	自動(OK)

[詳細設定 VPN IPSec] 画面に切り替わります。

ここで次の項目を設定します。

基本設定

[MTU]

MTUを設定します。

[接続先のホスト名またはIP アドレス]

かんたん設定ウィザードで設定した接続先が表示されています。必要であれば修正します。

[ローカルサブネット]

本商品のLAN側のサブネットアドレス、サブネットマスクを設定します。

[リモートサブネット]

接続先のサブネットアドレスとサブネットマスクを入力します。

[データ圧縮]

データ圧縮をするときにチェックします。

[鍵交換方式]

暗号化アルゴリズムや鍵交換のためのSAの合意をとる方式を選択します。

- ・自動：
IKE (Internet Key Exchange) を使って、SAの合意を通信時に自動的に行う場合を選択します。通常は、自動に設定しておきます。
- ・手動：
SAの合意をあらかじめ手動で設定しておく場合に選択します。画面が手動用に切り替わります。

- 5 鍵交換方式を自動的に設定します。
鍵交換方式を [自動] に設定した場合、次の 2 つのフェーズの設定を行います。まず、IPSec IKE, Phase 1 の設定をします。

設定します。

IPSec IKE, Phase 1

[接続試行回数]

ネゴシエーションの試行回数を設定します。

[ライフタイム]

鍵の有効期限を秒単位で設定します。

[Rekey Margin]

Rekey (鍵の再生成) を期限切れの何秒前に開始するかを設定します。

[Rekey Fuzz]

Rekey Margin をランダムに変更するパーセンテージを設定します。

[認証アルゴリズム]

認証の方式を選択します。

- ・ 共通鍵方式 :
共通鍵方式を選択する場合は、事前共有キーの文字列を入力します。
(かんたん設定ウィザードで入力した鍵が表示されます。)
- ・ 公開鍵方式 :
公開鍵方式を使用する場合に、キーの文字列を入力します。

[暗号化アルゴリズム]

使用する暗号化アルゴリズムをチェックします。

[ハッシュアルゴリズム]

使用するハッシュのアルゴリズムをチェックします。

[Diffie-Hellman-Group]

対応するグループをチェックします。

6 次にIPSec IKE, Phase 2の設定をします。

IPSec Automatic, Phase 2

ライフタイム (0: 1-65535)

Use Perfect Forward Secrecy (PFS)

ESP

暗号化アルゴリズム

なし

DES-CBC

3DES-CBC

認証アルゴリズム

MD5

SHA1

AH

ハッシュアルゴリズム

MD5

SHA1

DNSサーバ

デバイスメトリック:

設定します。

IPSec IKE, Phase 2

[ライフタイム]

鍵の有効期限を秒単位で設定します。

[PFS 有効]

Secrecy(PFS)を使用する場合にチェックします。

[ESP]

暗号ペイロードの設定をします。暗号化アルゴリズムと認証アルゴリズムの設定をします。

[AH]

認証ヘッダの設定をします。ハッシュアルゴリズムを選択します。

[DNS サーバ]

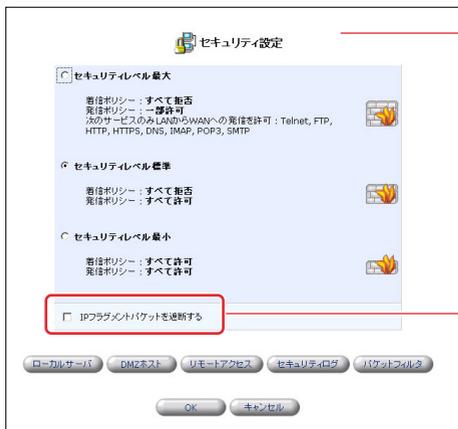
DNSサーバの設定を行います。DNSサーバのIPアドレスを自動的に取得するか、DNSサーバのアドレスを固定設定するかを選択します。固定設定を選択した場合は、プライマリDNSサーバとセカンダリDNSサーバのIPアドレスを入力します。

また、[DNSサーバ] をクリックすると、カスタム設定でDNSサーバを選択した場合と同じ処理を行います。

[デバイスメトリック]

メトリックの値を入力します。

- 7 詳細設定 VPN IPsec画面の設定内容を確認し、[OK] ボタンをクリックして、設定を有効にします。
- 8 IPsec を利用しVPN を構築する場合は、IP フラグメントパケットを透過させる必要がありますので、セキュリティ設定画面で、[IP フラグメントパケットを遮断する] のチェックをはずしてください。



[セキュリティ設定] 画面に切り替わります。

チェックをはずしてください。

鍵交換方式を手動に設定する場合

鍵交換方式で手動を選択したときは、接続先の設定にあわせて暗号化アルゴリズム、認証アルゴリズムを設定する必要があります。

The screenshot shows the 'IPSec 手動鍵交換' (IPSec Manual Key Exchange) configuration window. The '暗号化アルゴリズム (16進数で入力)' (Encryption Algorithm (Input in hexadecimal)) section is highlighted with a red box. This section contains radio buttons for 'なし' (None), 'DES-CBC', '3DES-CBC', 'MD5', and 'SHA1'. The '3DES-CBC' option is selected. Below this, there are two rows of input fields for the encryption key, each divided into eight hexadecimal digits. A red arrow points to the first input field with the text '入力します。' (Input here).

暗号化アルゴリズム、認証アルゴリズムのキーは、16進数8桁ずつに区切って入力してください。

VPN の接続、切断

サーバ側、クライアント側でインターネットに接続すると、自動的に LAN 同士が接続されます。

- 1 IPsec による通信を切断したい場合は、[ネットワーク詳細設定] 画面で、[VPN IPsec] の修正ボタンをクリックします。

[ネットワーク詳細設定] 画面に切り替わります。

修正 ボタンをクリックしてください。

- 2 [ネットワーク接続 VPN IPsec] 画面になりますので、[無効] ボタンをクリックします。

[ネットワーク接続 VPN IPsec] 画面に切り替わります。

クリックします。

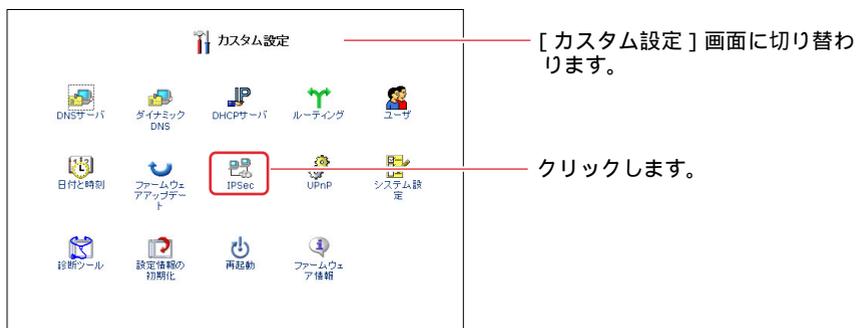
IPSec 接続に関してその他次の設定が可能です。

鍵の再生成

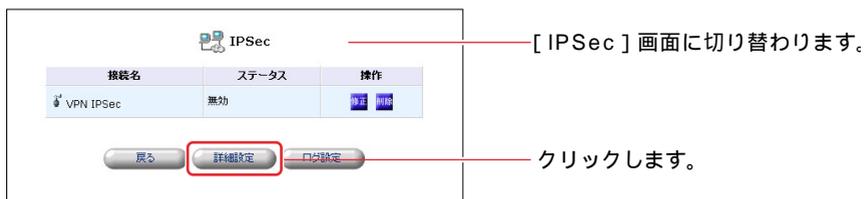
1 サイドバーから [カスタム設定] アイコンを選択します。



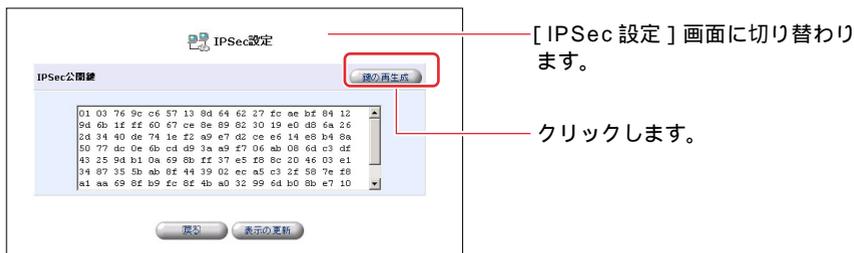
2 [IPSec] アイコンをクリックします。



3 [IPSec] 画面が表示されます。[詳細設定ボタン] をクリックします。



- 4 [IPSec設定]画面が表示されます。[鍵の再生成]ボタンをクリックし、再生成を行います。



- 5 表示の更新ボタンをクリックすると、再生成されたキーが表示されます。[戻る]ボタンをクリックすると[IPSec]画面に戻ります。

IPSec ログの設定

IPSec通信のログに関する設定を変更することができます。

- 1 カスタム設定で [IPSec] アイコンをクリックし、IPSec 画面で [ログ設定] ボタンをクリックします。

接続名	ステータス	操作
VPN IPSec	無効	設定 削除

戻る 詳細設定 **ログ設定**

[IPSec] 画面に切り替わります

クリックします。

- 2 [IPSec ログ設定] 画面が表示されます。記録したい内容にチェックをつけます。

IPSec ログ設定

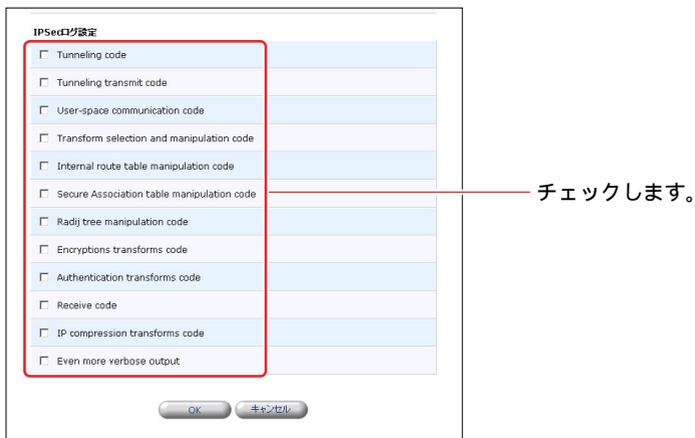
注 意
すべてのIPSecオプションを有効にすると Web Caster 7000 のパフォーマンスに影響します。

IKEEAP設定

- Message's raw bytes
- Message's encryption and decryption
- Message's input structure
- Message's output structure
- Verbose automatic keying
- Verbose IKE IPSec interaction
- Verbose private keys

[IPSec ログ設定] 画面に切り替わります。

チェックします。



- 3 [OK] ボタンをクリックすると設定が有効になり、[IPsec] 画面に戻ります。

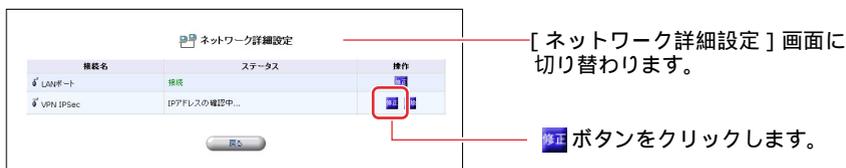
IPSec の削除

ここでは、既に登録してある IPSec 接続を削除する場合について説明します。

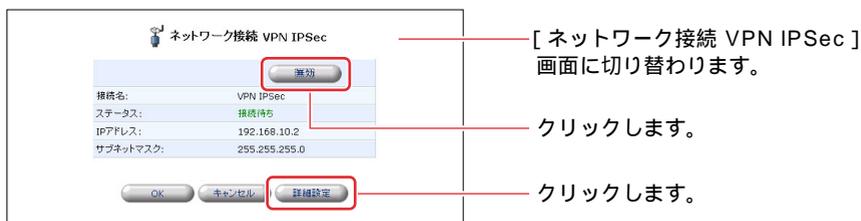
- 1 サイドバーから [ネットワーク詳細設定] アイコンをクリックします



- 2 [接続名]欄から削除するVPN IPSec接続の[修正]ボタンをクリックします。



- 3 回線が接続されてる場合は、[無効]ボタンをクリックし、回線をいったん切断します[OK]ボタンをクリックします。



- 4 [接続名]欄から削除するVPN IPsec 接続の[削除]ボタンをクリックします。
[削除]ボタンは続けてクリックせずに、1回のみクリックしてください。



[ネットワーク詳細設定]画面に切り替わります。

削除 ボタンをクリックします。

- 5 [戻る]ボタンをクリックします。

- 6 以上で設定は終了です。

オプション設定

ここでは、本商品を利用して無線LANを構築する例を紹介します。

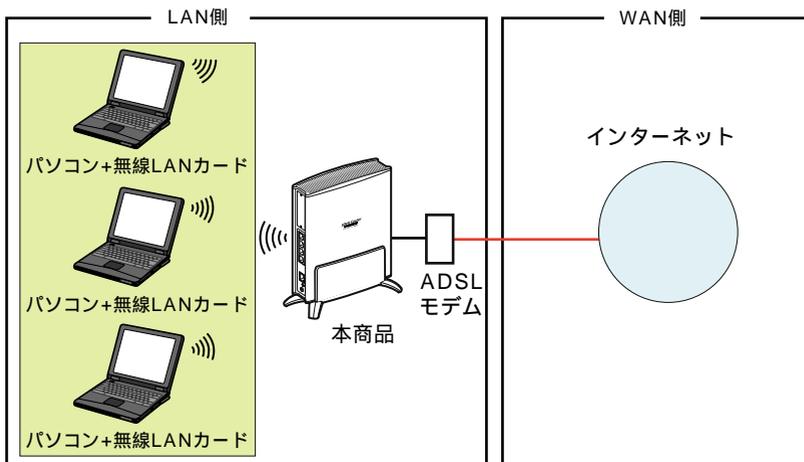
無線LANの設定

本商品はIEEE802.11a規格、およびIEEE802.11b規格に対応した無線LAN通信のアクセスポイント機能を搭載しています。無線LANを構築するときは、オプションの無線LANカードを別途ご用意ください。

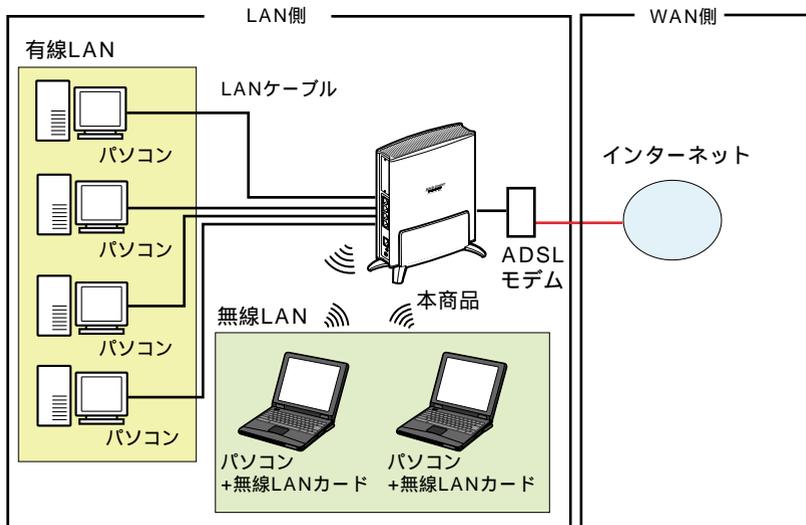
！ ご注意

IEEE802.11a規格とIEEE802.11b規格の無線LANカードを、同時に本商品に接続することはできません。また、通信可能な無線LANカードは、Web Caster FT-STC-PaおよびWeb Caster FT-STC-Pbのみ保証しています。

無線LANで構築したネットワークの例



無線LANと有線LANで構築したネットワークの例

**!** ご注意

必ず本商品専用の無線LANカード (Web Caster FT-STC-PaまたはWeb Caster FT-STC-Pb) を使用してください。

[IEEE802.11a]

Web Caster FT-STC-Paをご用意ください。本商品のPCカードスロットにカードを接続すると、IEEE802.11a アクセスポイントとして機能します。

[IEEE802.11b]

Web Caster FT-STC-Pbをご用意ください。本商品のPCカードスロットにカードを接続すると、IEEE802.11b アクセスポイントとして機能します。

Web Caster FT-STC-Pa を利用する

本商品の別売りの無線 LAN カード、Web Caster FT-STC-Pa を接続すると、IEEE802.11a のアクセスポイントとして機能します。

CardBus スロットを搭載しているパソコンに Web Caster FT-STC-Pa を接続すると、IEEE802.11a のクライアントとして使用することができます。

ここでは、無線 LAN を構築するための概要をまとめます。

パソコンに Web Caster FT-STC-Pa を接続し、ネットワーク設定を行う
お使いの Web Caster FT-STC-Pa の取扱説明書をご参照ください。



本商品の PC カードスロットに Web Caster FT-STC-Pa を装着します。



パソコンの無線 LAN の設定を行います。

本商品のデフォルト設定は次になります。パソコンに取り付けた Web Caster FT-STC-Pa で同様の設定を行ってください。

SSID : WBC7000
暗号化 : 無効
チャンネル : 34CH



パソコンで Web ブラウザを起動し、本商品の設定ページを開きます。
設定ページが開いたら、本商品とパソコンが正しく接続されています。



インターネットに接続するための設定を行います。

本商品の取扱説明書 (冊子)「第 4 章インターネットへの接続」(P.4-1 ~ P.4-12) をお読みください。



必要に応じて、本商品とパソコンの SSID、暗号化を変更します。

Web Caster FT-STC-Pb を利用する

本商品の別売りの無線 LAN カード、Web Caster FT-STC-Pb を接続すると、IEEE802.11b のアクセスポイントとして機能します。

PC カードスロットを搭載しているパソコンに Web Caster FT-STC-Pb を接続すると、IEEE802.11b のクライアントとして使用することができます。

ここでは、無線 LAN を構築するための概要をまとめます。

パソコンに Web Caster FT-STC-Pb を接続し、ネットワーク設定を行う
お使いの Web Caster FT-STC-Pb の取扱説明書をご参照ください。



本商品の PC カードスロットに Web Caster FT-STC-Pb を接続します。



パソコンの無線 LAN の設定を行います。
本商品のデフォルト設定は次になります。パソコンに取り付けた Web Caster FT-STC-Pb で同様の設定を行ってください。

DDID : WBC7000

暗号化 : 無効

チャンネル : 1CH



パソコンで Web ブラウザを起動し、本商品の設定ページを開きます。
設定ページが開いたら、本商品とパソコンが正しく接続されています。



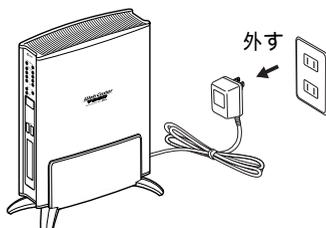
インターネットに接続するための設定を行います。
本商品の取扱説明書（冊子）「第 4 章インターネットへの接続」(P.4-1 ~ P.4-12) をお読みください。



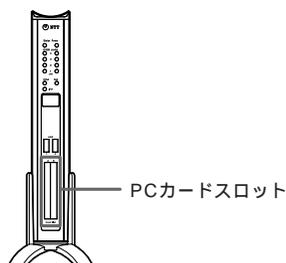
必要に応じて、本製品とパソコンの SSID、暗号化を変更します。

Web Caster 7000 への無線LANカード取り付け

- 1 Web Caster 7000 電源アダプタを取り外し、Web Caster 7000 の電源を完全に切ってください。



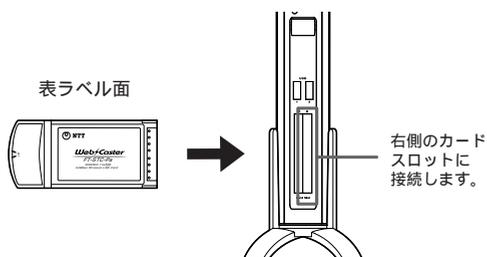
- 2 Web Caster 7000 の前面にある PC カードスロットが空いていることを確認してください。



! ご注意

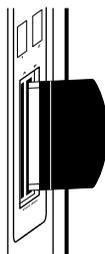
Web Caster 7000 の前面にある PC カードスロットに、PC カードスロットカバーがついている場合は PC カードスロットカバーを取り外してください。

- 3 Web Caster FT-STC-Pa、Web Caster FT-STC-Pb、または Web Caster FT-STC-Pa/g を Web Caster 7000 に接続します。
- 4 Web Caster 7000 の PC カードスロットを正面にみて、Web Caster FT-STC-Pa、Web Caster FT-STC-Pb、または Web Caster FT-STC-Pa/g の表ラベル面を右側にして上下のガイドレールに合わせて水平に奥まで挿入します。



! ご注意

Web Caster 7000にはPCカードスロットが2つあります。Web Caster FT-STC-Pa、Web Caster FT-STC-Pb、またはWeb Caster FT-STC-Pa/gを接続する時は、正面から見て右側のカードスロットに接続してください。



- 5 Web Caster 7000の電源をつないでください。
- 6 次にWeb Caster 7000の無線LAN設定を行います。
「Web Caster FT-STC-Pa」をご利用の場合はP.6-204へお進みください。
「Web Caster FT-STC-Pb」をご利用の場合はP.6-206へお進みください。
「Web Caster FT-STC-Pa/g」をご利用の場合はP.10-2へお進みください。

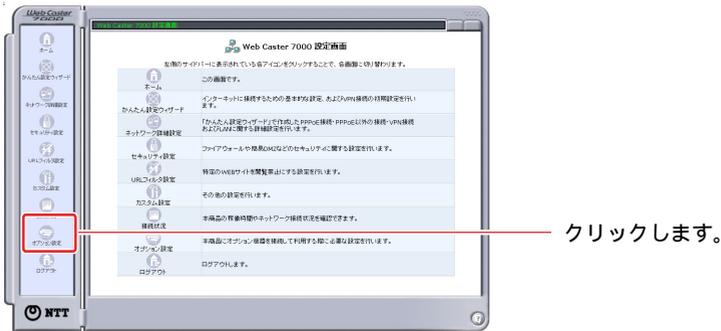
! ご注意

カードを挿入後、Web Caster FT-STC-PaのActランプ、またはWeb Caster FT-STC-PbおよびWeb Caster FT-STC-Pa/gのPowerランプが点灯しない場合は、いったん電源を切ってください。その後、カードを入れ直し、Web Caster 7000の電源をつないでください。

Web Caster FT-STC-Pa をご利用の場合

ここでは、Web Caster FT-STC-Pa を利用して、本商品の無線 LAN の設定を行う方法について説明します。

- 1 本商品にパソコンを接続し、設定画面を開きます。
- 2 サイドバーから [オプション設定] アイコンをクリックします。



- 3 [無線 LAN アクセスポイント (FT-STC-Pa)] アイコンをクリックします。



- 4 無線 LAN アクセスポイントの設定画面が表示されます。



基本設定

ここでは、SSID、チャンネル、送信速度の設定を行います。

基本設定	
SSID :	<input type="text" value="w8C7000"/>
チャンネル:	<input type="text" value="34"/>
送信速度:	<input type="text" value="自動"/>

「SSID」

SSIDはワイヤレスネットワークのアクセス制御用の識別名です。SSIDを設定すると、同じSSIDを設定したクライアントのみ接続ができます。半角英数字で最大32文字になります。

「チャンネル」

ワイヤレスネットワークで使用するチャンネルを34、38、42、46から選択します。チャンネルは隣接するアクセスポイントを重ならないチャンネルを設定します。

本商品のデフォルト値は34になります。

「送信速度」

送信速度を自動/54/48/36/24/18/12/6Mbpsから選択します。自動に設定すると電波状況に応じて、常に最適な通信速度に自動的に設定されます。本商品のデフォルト値は自動になります。

5 [OK] ボタンをクリックすると、設定が保存されます。

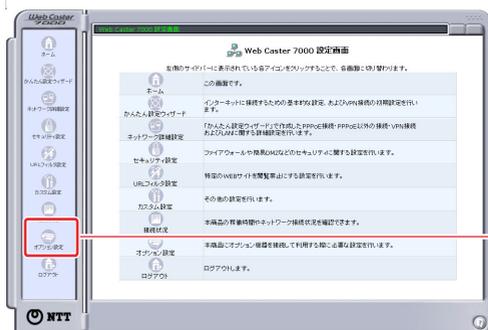
暗号化を行う場合は、P.6-209「暗号化の設定」へお進みください。

セキュリティの設定を行う場合はP.6-210「セキュリティ設定」へお進みください。

Web Caster FT-STC-Pb をご利用の場合

ここでは、Web Caster FT-STC-Pb を利用して、本商品の無線 LAN の設定を行う方法について説明します。

- 1 本商品にパソコンを接続し、設定画面を開きます。
- 2 サイドバーから [オプション設定] アイコンをクリックします。



クリックします。

- 3 [無線 LAN アクセスポイント (FT-STC-Pb)] アイコンをクリックします。



[オプション設定] 画面に切り替わります。

クリックします。

4 無線LAN アクセスポイントの設定画面が表示されます。

無線LAN アクセスポイント (FT-STC-Pb)

基本設定

SSID : WBC7000

チャンネル : 1

送信速度 : 自動

簡易化

簡易化する

セキュリティ

ANY拒否/SSIDを隠す

MACアドレスフィルタリング

MACアドレスフィルタリング有効

OK キャンセル

[無線LAN アクセスポイント (FT-STC-Pb)] 画面に切り替わります。

基本設定

ここでは、SSID、チャンネル、送信速度の設定を行います。

基本設定	
SSID :	<input type="text" value="wBC7000"/>
チャンネル:	<input type="text" value="1"/>
送信速度:	<input type="text" value="自動"/>

「SSID」

SSIDはワイヤレスネットワークのアクセス用識別名です。SSIDを設定すると、同じSSIDを設定したクライアントだけが接続できます。本商品のデフォルト値はWBC7000になります。半角英数字で最大32文字の任意の値を入力します。

「チャンネル」

ワイヤレスネットワークで使用するチャンネルを1/2/3/4/5/6/7/8/9/10/11/12/13/14から選択します。チャンネルは隣接するアクセスポイントを重ならないチャンネルを設定します。本商品のデフォルト値は1になります。

「送信速度」

送信速度を自動/11/5.5/2/1Mbpsから選択します。自動に設定すると電波状況に応じて、常に最適な通信速度に自動的に設定されます。本商品のデフォルト値は自動になります。

- 5 [OK] ボタンをクリックすると、設定が保存されます。
暗号化を行う場合は、P.6-209「暗号化の設定」へお進みください。
セキュリティの設定を行う場合はP.6-210「セキュリティ設定」へお進みください。

暗号化の設定

暗号化はワイヤレスネットワークで通信を行う時に、転送データを暗号化する機能です。本商品には 64bit、128bit の WEP 機能が搭載されています。

暗号化を設定することで、より高いセキュリティを使用したワイヤレスネットワークが構築できます。

！ ご注意

暗号化を行う場合は、本商品とクライアントの両方に同じ暗号化を設定する必要があります。

- 1 [暗号化] 欄から [暗号化する] にチェックをつけます。

暗号化	
暗号化する	<input checked="" type="checkbox"/>
キー 1:	<input type="text"/>
キー 2:	<input type="text"/>
キー 3:	<input type="text"/>
キー 4:	<input type="text"/>
デフォルトキー:	<input type="text" value="1"/>

チェックします。

- 2 [キー 1 ~ キー 4] に暗号キーを入力します。64bit WEP 使用時は 16 進数で 10 文字、128bit WEP 使用時は 16 進数で 26 文字を入力します。
- 3 [デフォルトキー] 欄から暗号化の際に使用するデフォルトキーを選択します。

セキュリティ設定

本商品にはワイヤレスネットワークでセキュリティの高い通信を行うための機能がついています。第三者から本商品に無断アクセスさせないための機能や、登録したクライアントだけ通信を許可したり、拒否したりすることができます。

- 1 [ANY 拒否/SSID を隠す] にチェックします。
[ANY 拒否/SSID を隠す] にチェックをつけることで、ANY に設定されたクライアントを拒否することができ、また、AP 検索や Windows[®] XP のゼロ・コンフィグレーション機能等で SSID を表示させることが出来なくなります。これにより、第三者からの無断アクセスを防ぐことができます。



セキュリティ	
ANY 拒否/SSID を隠す	<input checked="" type="checkbox"/>
MAC アドレスフィルタリング	
MAC アドレスフィルタリング有効	<input type="checkbox"/>

チェックします。

- 2 [MAC アドレスフィルタリング] にチェックします。



MAC アドレスフィルタリング	
MAC アドレスフィルタリング有効	<input checked="" type="checkbox"/>
フィルタリング動作	<input type="checkbox"/> 許可 <input checked="" type="checkbox"/> 拒否
MAC アドレス	<input type="text" value="26 :d7 :05 :9 :50 :46"/> <input type="button" value="追加"/> <input type="button" value="削除"/>
フィルタリスト	
<input type="button" value="OK"/> <input type="button" value="キャンセル"/>	

チェックします。

- 3 [フィルタリング動作] 欄から [許可] または [拒否] を選択します。
許可を選択した場合は本商品に登録された MAC アドレスの機器のみがアクセス可能になります。拒否を選択した場合は本商品に登録された MAC アドレスの機器はアクセス不可能になります。MAC アドレスを登録することでアクセス権の無いクライアントを排除することができます。

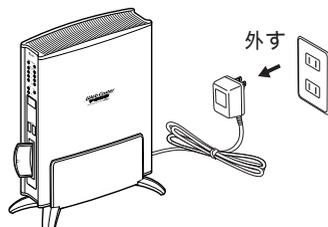
- 4 [MACアドレス]欄に登録するMACアドレスを入力し、[追加]ボタンをクリックします。既に登録されてるMACアドレスを削除する場合は、削除したいMACアドレスを入力し、[削除]ボタンをクリックします。登録したMACアドレスは[フィルタリスト]欄に表示されます。



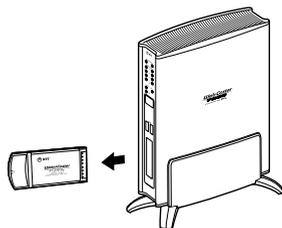
- 5 [OK]ボタンをクリックすると、設定が保存されます。

Web Caster 7000 から無線LANカードを取り出す

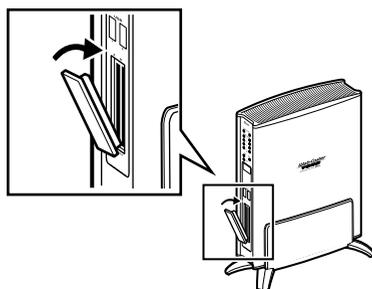
- 1 Web Caster 7000の電源アダプタを取り外し、Web Caster 7000の電源を完全に切ってください。



- 2 Web Caster 7000に取り付けられているWeb Caster FT-STC-Pa、FT-STC-PbまたはWeb Caster FT-STC-Pa/gをゆっくりと水平にWeb Caster 7000から引き抜きます。



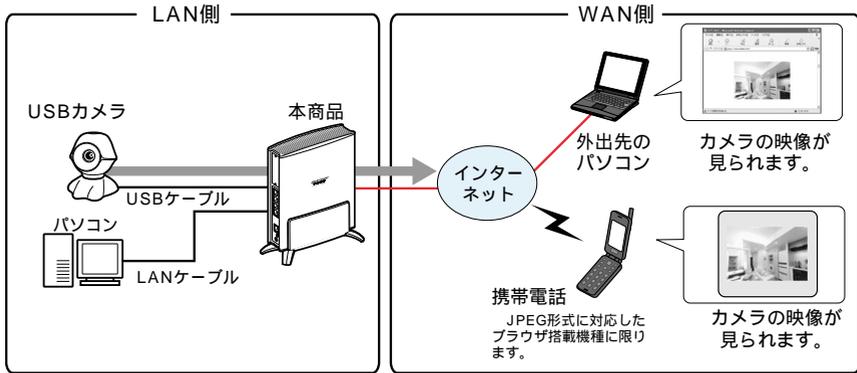
- 3 PCカードスロットが両方とも空いている場合は、PCカードスロットカバーを取り付けます。



- 4 Web Caster 7000の電源をつないでください。

USB カメラの設定

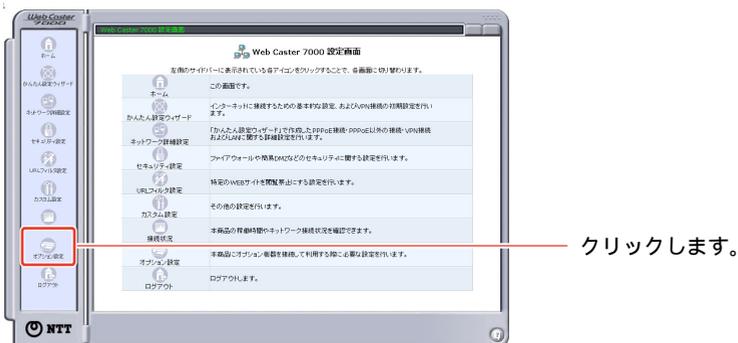
本商品の USB インタフェースに接続した USB カメラ（別売）で撮影した静止画や動画を、リモートアクセスした PC や携帯電話で見ることができます。ここでは、USB カメラを有効にする設定と画像を見る方法について説明します。本体に接続できる USB カメラは 1 台のみです。



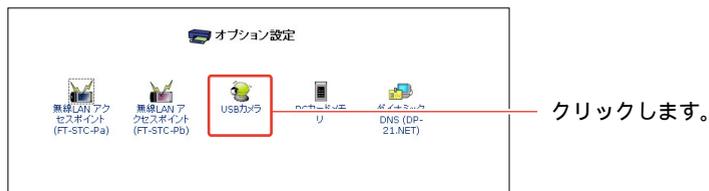
本商品への USB カメラ接続方法は、USB カメラ「EE260」の取扱説明書をご参考ください。

USB カメラ設定

- 1 サイドバーから [オプション設定] アイコンをクリックします。



- 2 [オプション設定] 画面が表示されます。[USBカメラ] アイコンをクリックします。



- 3 [USBカメラ] 設定画面が表示されます。本商品に USB カメラ接続後、「オン」にチェックをつけます。



チェックします。

! ご注意

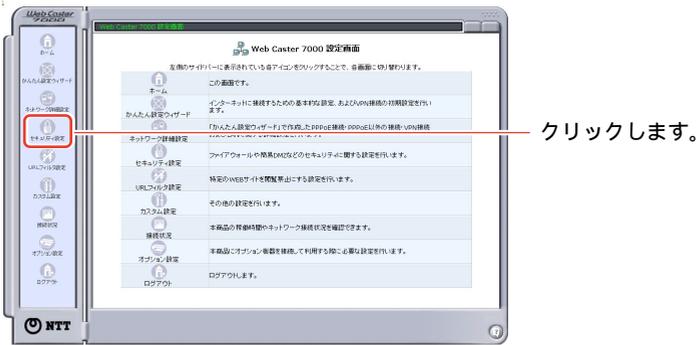
- ・[USB カメラ] 設定画面の「オン / オフ」は、デフォルトの設定が「オフ」になっています。
- ・USB カメラが「オン」の状態でカメラを取り外すと、自動的に「オフ」に切り替わります。

- 4 [画像ビットレート] から [高 (512Kbps)] または [低 (128Kbps)] のいずれかを選択します。

- 5 [OK] ボタンをクリックします。
USB カメラの撮影とストリーミングの画像の配信が自動的に始まります。

インターネットからカメラ画像を見る場合

- 1 サイダーバーから [セキュリティ設定] アイコンをクリックします。



- 2 [セキュリティ設定] 画面が表示されます。[リモートアクセスボタン] をクリックします。



- 3 [リモートアクセス設定] 画面が表示されます。
[WEBサーバを外部に公開する (TCPポート80)] または [WEBサーバを外部に公開する (TCP8080)] から使用していないポート番号の方にチェックし、[USBカメラ画像を外部に公開する (TCP8090)] にチェックをつけます。



- 4 [OK] ボタンをクリックします。
- 5 以上で設定は終了です。

画像を見るための条件

USBカメラで取り込んだ画像をPCや携帯電話で見る場合、PCや携帯電話の種類によって以下のソフトウェアや条件が必要となります。

端末	静止画サイズ	動画サイズ	必要なソフトウェア・条件
Windows®	320×240	320×240	Microsoft®Internet Explorer4.0以上 Netscape Navigator®6.0以上 Microsoft®Windows®Media Player7.0以上
Macintosh®	320×240	320×240	Microsoft®Internet Explorer4.0以上 Netscape Navigator®6.0以上 Microsoft®Windows®Media Player Mac版 (Windows®Media Player for Mac OS®X, Windows®Media Player 7.1 for Mac OS®8-9)
Linux	320×240	320×240	Netscape Navigator®6.0以上 Mplayerなど
携帯電話	112×96	なし	JPEG画像をサポートしている機種のみ。 機種によっては利用できない場合があります。

PCで画像を見る

本商品にパソコンからリモートアクセスして、画像を見る方法について説明します。

1 ブラウザから、URLを指定してリモートアクセスします。

- ・インターネットからアクセスする場合
「http://(WAN側アドレス)/cam/」
- ・LANからアクセスする場合
「http://(LAN側アドレス)/cam/」

2 本商品にリモートアクセスすると、ログイン認証を行ないます。すでに登録してあるユーザ名とパスワードを入力してください。



なお、この認証機能は、撮影された画像・動画を特定の相手にのみ公開することを完全に保証するものではありません。

3 ログイン認証終了後、[Web Caster 7000 ・ライブカメラ] 画面が表示されます。画面にあるメニューから、観覧するカメラ画像の種類を選択します。



[カメラ画像・静止画]

クリックすると静止画のページを表示します。

[カメラ画像・動画]

クリックすると動画のページを表示します。

[カメラページトップ]

このメインページを表示します。

メニュー項目を選択することで、どの画面からでも随時切り替えることができます。

- 4 [カメラ画像・静止画] を選択した場合、「ライブカメラ静止画像」画面が表示されます。[更新] ボタンをクリックすると、現在の画像を更新します。



[Web Caster 7000 ・ ライブカメラ静止画像] 画面に切り替わります。

クリックします。

- 5 [カメラ画像・動画] を選択した場合、「ライブカメラ動画」画面が表示されます。



[Web Caster 7000 ・ ライブカメラ動画] 画面に切り替わります。

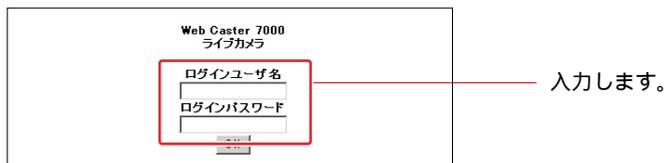
! ご注意

- ・ 動画配信の場合、ネットワークの状況や Windows® Media Player のバッファリング処理等のため、画像が表示されるまでに時間がかかる場合があります。
- ・ 動画、静止画ともに画像の輝度、コントラストなどの調整を行うことはできません。

携帯電話で画像を見る

本商品に携帯電話からリモートアクセスして、画像を見る方法について説明します。

- 1 携帯電話のブラウザから、URLを指定してリモートアクセスします。
 - ・携帯電話用アドレス：http://（WAN側アドレス）/i/
- 2 本商品にリモートアクセスすると、ログイン認証を行ないます。すでに登録してあるユーザ名とパスワードを入力してください。



- 3 ログイン認証終了後、画像表示用のメインページが表示されます。[更新]ボタンをクリックすると、現在の画像を更新します。



! ご注意

- ・画像の輝度やコントラストなどの調整を行うことはできません。
- ・動作可能な携帯電話端末については、下記のWeb Caster 7000のサイト上で随時公開しています。

<http://www.ntt-east.co.jp/ced/> （NTT東日本）

<http://www.ntt-west.co.jp/kiki/> （NTT西日本）

PC カードメモリの設定

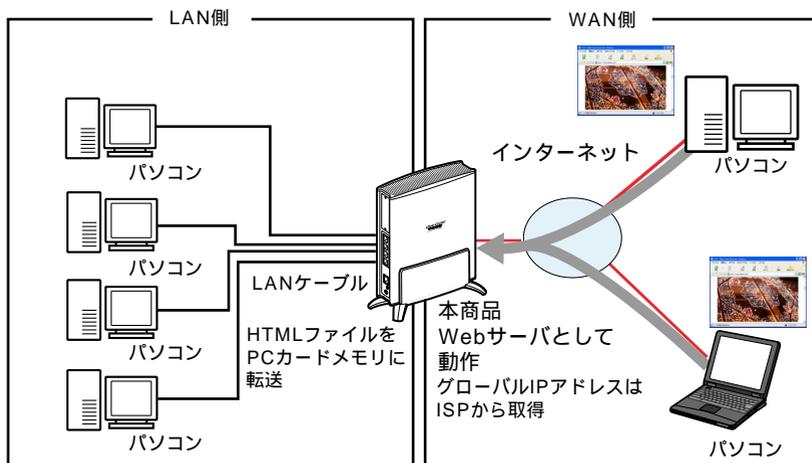
本商品のPCカードスロットにPCカードメモリを接続することで、ファイルサーバとして使用できます。例えば、Webサーバとしてホームページを外部に公開するときのHTMLファイルを格納したり、ファイルサーバとしてファイルの転送に利用することができます。

PCカードメモリは1枚のみ挿入可能です。

動作可能なPCカードメモリについては、下記のWeb Caster 7000のサイトで随時公開されています。

<http://www.ntt-east.co.jp/ced/> (NTT東日本)

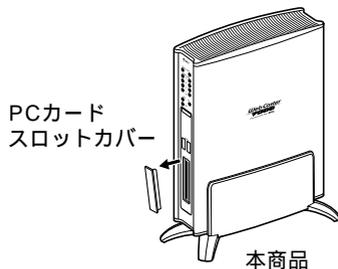
<http://www.ntt-west.co.jp/kiki/> (NTT西日本)



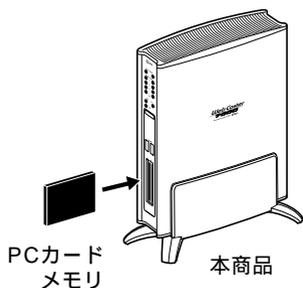
PC カードメモリを挿入する

PC カードメモリを本商品に挿入するには、本商品に取り付けられているカバーを外す必要があります。

- 1 PC カードスロットのカバーを外します。



- 2 PC カードスロットにPCカードメモリを挿入します。PCカードメモリは自動的にマウントされます。



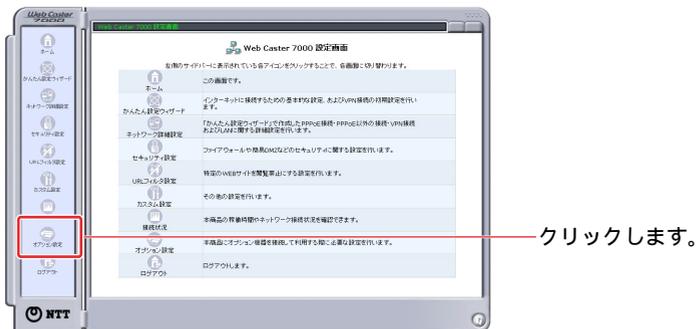
! ご注意

- ・本商品に接続するPCカードメモリは、あらかじめVFAT形式かext2形式でフォーマットしておく必要があります。

PC カードメモリを取り外す

PC カードメモリを本商品から取り外す方法について説明します。

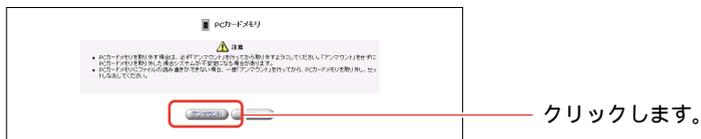
1 サイドバーから [オプション設定] アイコンをクリックします。



2 [オプション設定] 画面が表示されます。ここで、アイコン [PC カードメモリ] をクリックします。



3 [PC カードメモリ] 画面が表示されます。PC カードを取り外す時は、[アンマウント] ボタンをクリックします。



4 「アンマウント」したPCカードメモリを本商品から取り外します。

ご注意

- ・ PCカードメモリを取り外す場合は、必ず「アンマウント」を行ってから取り外してください。「アンマウント」せずにPCカードメモリを取り外した場合には、システムが不安定になることがあります。

PCカードメモリが認識されない場合は、いったん本商品からPCカードメモリを取り外した後、本商品の電源を入れ直し再起動してください。

- ・ アンマウント後再度認識させる場合は、PCカードメモリをいったん取り外して挿入しなおしてください。
- ・ PCカードメモリに、FTPなどでファイルを送信できない場合は、アンマウント後カードを抜き差ししてください。

ファイルサーバ機能

本商品に PC カードメモリを接続することで、ファイルサーバとして利用することができます。

！ ご注意

- ・ファイルサーバにアクセス中は、本商品から PC カードメモリを取り外さないでください。
- ・PC カードメモリを取り外す場合は、「アンマウント」を行ってから、取り外してください。

ファイルサーバの設定

本商品のファイルサーバのデフォルトユーザ名は「www」、デフォルトパスワードは「www」になります。

新規にユーザを作成する場合は、本商品のユーザの追加でユーザ名とパスワードを設定し、PC カードメモリ上に、設定したユーザ名と同じ名前のフォルダを作成します。

- 1 サイドバーから[カスタム設定]アイコンをクリックします。



- 2 [ユーザ]アイコンをクリックします。
ファイルサーバのデフォルトユーザ、「www」が表示されてるのを確認します。

クリックします。

確認します。

フルネーム	ユーザ名	権限	操作
Administrator	admin	管理者権限	削除
Web Master	www		追加 削除
ユーザの追加			

戻る

- 3 [ユーザの追加]欄から追加ボタンをクリックします。

追加 ボタンをクリックします。

フルネーム	ユーザ名	権限	操作
Administrator	admin	管理者権限	削除
Web Master	www		追加 削除
ユーザの追加			

戻る

- 4 [フルネーム]欄に新規登録名を入力し、[ユーザ名]、[新しいパスワード]欄にファイルサーバにアクセスを許可する新規ユーザとパスワードを入力します。[OK]ボタンをクリックします。

[ユーザ設定]画面に切り替わります。

入力します。

クリックします。

一般設定

フルネーム(半角英数字、最大128桁):

ユーザ名(半角英数字、最大64桁):

新しいパスワード:

新しいパスワードの確認:

権限: 管理者権限 PPTPリモートアクセス

E-Mail通知設定 SMTP(メールサーバ)の設定

E-Mailアドレス:

システム通知レベル: なし

セキュリティ通知レベル: なし

OK キャンセル

- 5 [ユーザ] 画面が表示されます。新規作成したユーザ名が表示されるのを確認します。[戻る] ボタンをクリックします。



- 6 次に、ファイルサーバで使用する PC カードメモリ に設定したユーザ名と同じ名前のフォルダを作成します。



- 7 以上で設定は終了です。

LAN 側からファイルサーバにアクセスする場合

本商品のファイルサーバにLAN 側からアクセスする方法について説明します。
ファイルサーバにアクセスするためのFTP クライアントソフトを用意します。

FTP クライアントソフトの使用方法については、ご使用のFTP クライアントソフトの説明書をご確認ください。

- 1 本商品のファイルサーバにLAN 側からアクセスする場合は、FTP クライアントソフトのIP アドレス欄に「LAN 側IP アドレス」を入力します。
- 2 デフォルトユーザでアクセスする場合は、ユーザ名に「www」、パスワードに「www」を入力します。新規ユーザでアクセスする場合は、本商品に新規に設定したユーザ名とパスワードを入力します。
- 3 以上でFTP クライアントソフトの設定は終了です。

WAN側からファイルサーバにアクセスする場合

- 1 サイドバーから[セキュリティ設定]アイコンをクリックします。



クリックします。

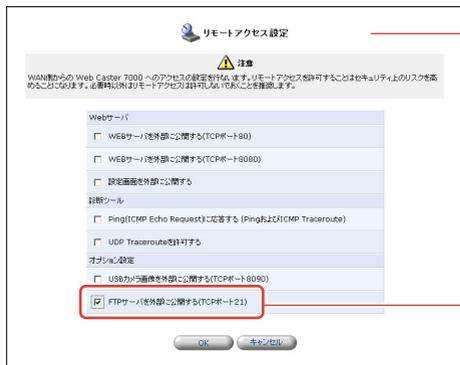
- 2 [リモートアクセス]ボタンをクリックします。



[セキュリティ設定]画面に切り替わります。

クリックします。

- 3 [オプション設定]欄から[FTPサーバを外部に公開する]にチェックをつけます。



[リモートアクセス設定] 画面に切り替わります。

チェックします。

- 4 [OK]ボタンをクリックします。
- 5 本商品のファイルサーバにWAN側からアクセスする場合は、FTPクライアントソフトのIPアドレス欄に「WAN側IPアドレス」を入力します。
- 6 デフォルトユーザでアクセスする場合は、ユーザ名に「www」、パスワードに「www」を入力します。新規ユーザでアクセスする場合は、本商品に新規に設定したユーザ名とパスワードを入力します。
- 7 以上でFTPクライアントソフトの設定は終了です。

PC カードメモリにhtml コンテンツを格納し、インターネット上にユーザが作成したホームページを公開することができます。

! ご注意

- ・配信できるコンテンツは、静的なhtmlファイル及び画像ファイルです。CGIなどを利用した動的なコンテンツは配信できません。
- ・コンテンツファイル名は任意のファイル名でかまいませんが、拡張子は「html」としてください。
- ・ユーザが作成したコンテンツをPCカードメモリに格納する方法について説明します。

ファイルサーバ機能を利用する場合

作成したコンテンツを、本商品のファイルサーバ機能を利用して転送します。

- 1 FTPクライアントソフトを使用し、本商品のファイルサーバへ接続します。
- 2 デフォルトユーザ名で本商品のファイルサーバに接続した場合はホームディレクトリが表示されます。新規に作成したユーザでファイルサーバにアクセスした場合は、作成したフォルダがホームディレクトリとして表示されます。
- 3 接続したファイルサーバに、作成したコンテンツを転送します。
- 4 以上で設定は終了です。

ファイルサーバ機能を利用しない場合

作成したコンテンツを、パソコンを利用して転送します。

- 1 PC カードメモリをパソコンに接続します。
- 2 デフォルトユーザで本商品のWebサーバ機能を利用する場合は、PCカードメモリ上に作成したコンテンツを転送します。新規に作成したユーザで本商品のファイルサーバ機能を利用する場合は、利用するユーザ名と同じフォルダを作成し、その中へ作成したコンテンツを転送します。
- 3 以上で設定は終了です。

作成したホームページを見る

作成したホームページを見るには、ブラウザで以下のようにURLを指定します。

- ・インターネットから見る場合
「http://WAN側IPアドレス/www/*.html」または「http://WAN側IPアドレス/www/新規フォルダ名/*.html」
- ・LAN側から見る場合は
「http://LAN側IPアドレス/www/*.html」または「http://LAN側IPアドレス/www/新規フォルダ名/*.html」

保守・管理

本商品の運用開始後にネットワークの接続状態の確認や、管理者のログイン名やパスワードの変更方法などを説明します。

機器状況の確認

接続状態の確認

各接続ポートごとに通信状態やアドレス情報等が確認できます。

- 1 サイドバーから [接続状況] アイコンをクリックします。

接続名	WANポート	LANポート
ステータス	接続	接続
MACアドレス	3e:74:af:98:0c:e0	1c:0b:e6:af:99:77
IPアドレス	210.10.14.2	192.168.1.1
サブネットマスク	255.255.255.0	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	210.10.14.112	
DNSサーバ	1.0.0.0	
DHCPサーバ	無効	有効
受信パケット	27	703
送信パケット	5	783
トータルパケット	32	1486

[接続状況] 画面に切り替わります。

[接続状況][起動時間] の各ボタンをクリックすると、各状態を確認する画面に切り替わります。画面を切り替えた後で再度 [接続状況] ボタンをクリックすると、この画面に戻ります。

[接続状況] 画面には、接続名ごとに、通信の状態やIPアドレス、サブネットマスク、DHCPサーバ機能の使用の有無、DNSサーバのアドレスなどの情報が表示されます。

このボタンをクリックすると、最新の情報に更新されます。

[WAN ポート]

PPPoE 以外の方法でインターネットに接続している場合、WAN 側の通信の状況が確認できます。

[WAN PPPoE]

PPPoE でインターネットに接続している場合の WAN 側の通信の状況が確認できます。

[LAN ポート]

LAN ポートの通信の状況が確認できます。

[VPN PPTP]

本商品が PPTP クライアントである場合の通信の状況が確認できます。

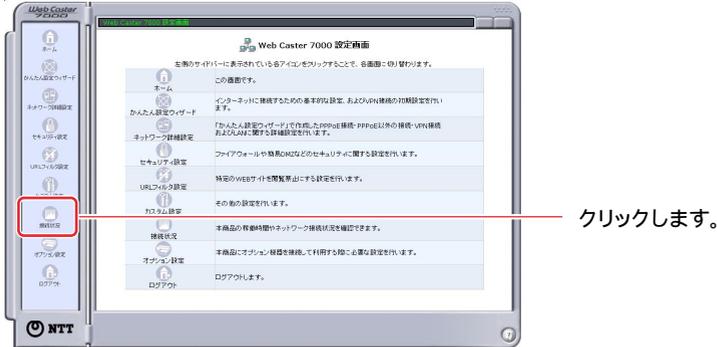
[VPN IPsec]

IPsec で通信している状況が確認できます。

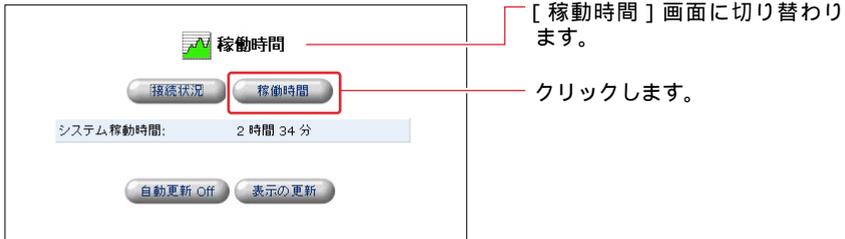
稼働時間の確認

ここでは本商品が稼働してからの現在までの時間を確認できます。

1 サイドバーから [接続状況] アイコンをクリックします。



2 [稼働時間] ボタンをクリックします。



画面表示の自動更新を停止する

[カスタム設定] 画面 - [システム設定] 画面で [システムモニターページの表示の自動更新を行う] をチェックしているときは、[接続状況] の各画面は一定間隔で自動更新されます。このとき、[接続状況] の各画面の [自動更新 Off] ボタンをクリックすると、[今すぐ更新] ボタンをクリックした時のみ、[接続状況] の各画面の内容が更新されるようになります。

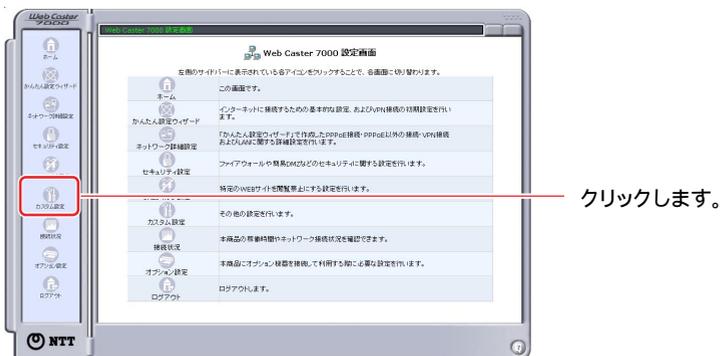
ログインユーザ名・ログインパスワード設定

本商品のログインユーザ名とパスワードの登録、変更、または削除ができます。

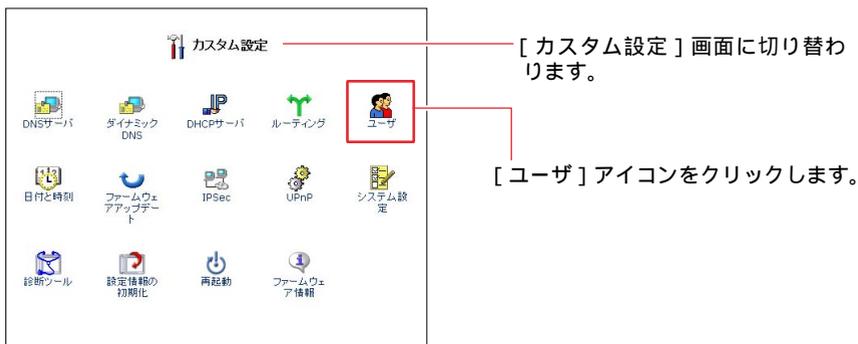
ログインユーザ名とログインパスワードの設定

ユーザの新規作成

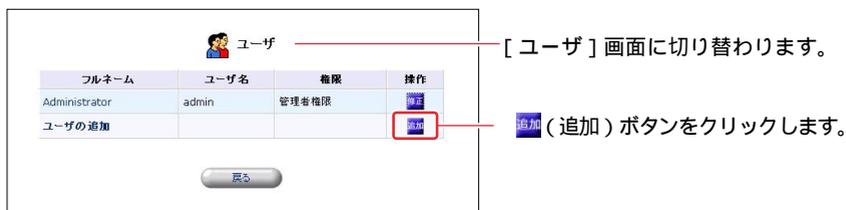
- 1 サイドバーから [カスタム設定] アイコンをクリックします。



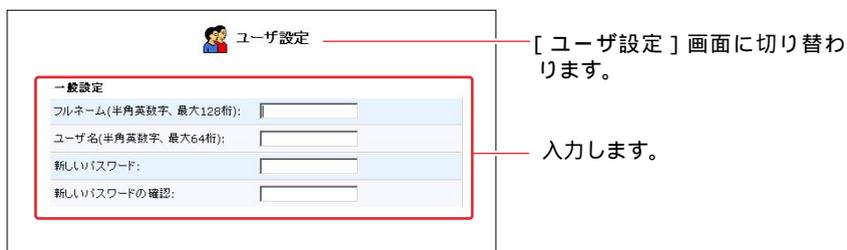
- 2 [ユーザ] アイコンをクリックします。



3 [ユーザの追加] 欄から「追加」ボタンをクリックします。



4 [ユーザ設定] 画面が表示されます。 フルネーム、ユーザ名、新しいパスワードを入力します。



[フルネーム]

登録するユーザのフルネームを入力します。半角英数字で128桁まで入力できます。

[ユーザ名]

新しく登録するユーザのログイン名を入力します。半角英数字で64桁まで入力できます。

[新しいパスワード]

ユーザがログイン時に使用するパスワードを入力します。半角英数字で64桁まで入力できます。

大文字と小文字は区別されますのでご注意ください。

[新しいパスワードの確認]

「新しいパスワード」と同じパスワードを再度入力します。

5 本商品での権限を設定します。

権限:	<input type="checkbox"/> 管理者権限
	<input type="checkbox"/> PPTP リモートアクセス

[管理者権限]

ユーザを管理者として登録する場合は、チェックします。

[PPTP リモートアクセス]

PPTP による VPN 接続を許可する場合は、チェックします。

ここで登録されたユーザは、USB カメラのリモートアクセスページおよび FTP サーバへアクセスする際の認証アカウントに設定されます。詳細は「6 章 オプション設定」を参照してください。

6 E-mail 通知を利用する場合は、E-mail アドレス、システム通知レベル、セキュリティ通知レベルを設定します。

E-Mail 通知設定	SMTP メールサーバの設定
E-Mail アドレス:	<input type="text"/>
システム通知レベル:	なし ▾
セキュリティ通知レベル:	なし ▾

設定します。

E-mail 通知機能に関しては E-mail 通知機能をご参照ください

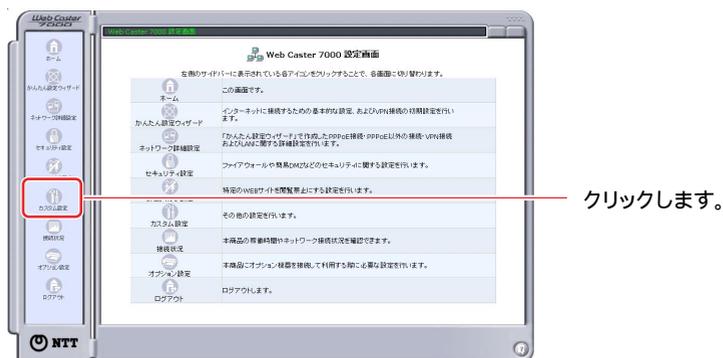
7 [OK] ボタンをクリックします。

<input type="button" value="OK"/> <input type="button" value="キャンセル"/>	クリックします。
--	----------

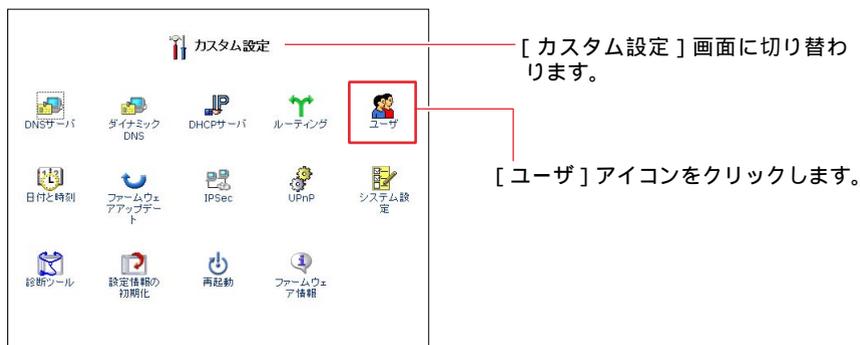
8 以上で設定は終了です。

ユーザの修正

1 サイドバーから [カスタム設定] アイコンをクリックします。



2 [ユーザ] アイコンをクリックします。



3 設定を変更したいユーザの「修正」ボタンをクリックします。



- 4 [ユーザ設定] 画面が表示されます。修正したい項目の変更を行い、[OK] ボタンをクリックします。

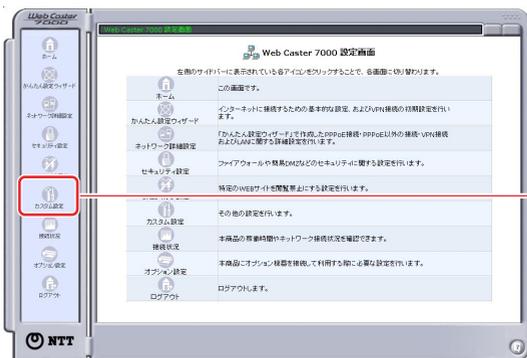
[ユーザ設定] 画面に切り替わります。

クリックします。

- 5 以上で設定は終了です。

ユーザの削除

1 サイドバーから [カスタム設定] アイコンをクリックします。



クリックします。

2 [ユーザ] アイコンをクリックします。



[カスタム設定] 画面に切り替わります。

[ユーザ] アイコンをクリックします。

3 設定を削除したいユーザの「削除」ボタンをクリックします。



[ユーザ] 画面に切り替わります。

削除 (削除) ボタンをクリックします。

ご注意

購入時に登録されてる Administrator は削除することができません。

4 以上で設定は終了です。

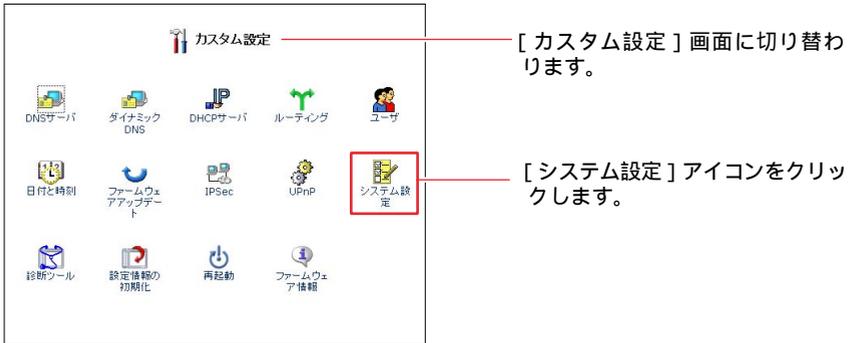
システム設定

本商品のホスト名やLAN側のドメイン名などを設定できます。

1 サイドバーから [カスタム設定] アイコンをクリックします。



2 [システム設定] アイコンをクリックします。



3 [システム] 欄に本商品のホスト名、ドメイン名を入力します。

[システム設定] 画面に切り替わります。

[システム] 欄に本商品のホスト名、ドメイン名を入力します。

[Web Caster 7000 ホスト名]

本商品のホスト名を入力します。

[ローカルドメイン]

LAN 内で使用したいドメイン名を入力します。

4 [Web Caster 7000 設定画面] 欄から [システム情報ページの表示の自動更新を行う] [ネットワーク設定の変更時に確認を行う] を設定します。

設定します。

[システム情報ページの表示の自動更新を行う]

[接続状況] 画面の表示を自動的に更新させたい場合は、チェックします。

[ネットワーク設定の変更時に確認を行う]

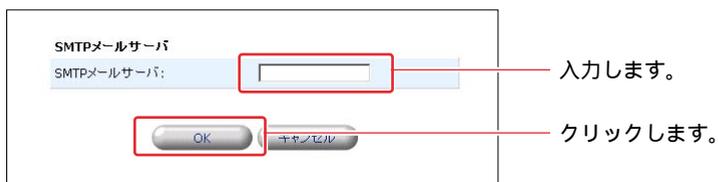
ネットワークに関する変更をしたときに、確認メッセージを表示させたい場合は、チェックします。

5 [システムリモートログ設定] [セキュリティリモートログ設定] を利用する場合は設定をします。

設定します。

リモートログ設定に関しては、Syslog の設定をご参照ください。

- 6 ユーザ設定でE-mail通知機能を利用している場合は、[SMTP メールサーバ] 欄にメールサーバのアドレスを入力します。



- 7 [OK] ボタンをクリックします。

- 8 以上で設定は終了です。

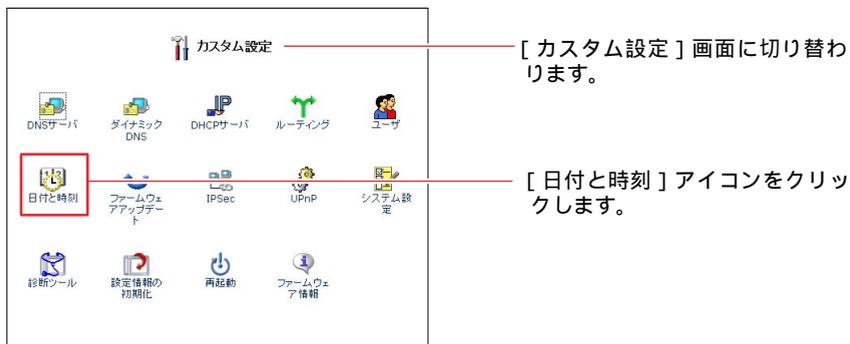
日付と時刻の設定

本商品の日付や時刻の設定を変更できます。

- 1 サイドバーから [カスタム設定] アイコンをクリックします。



- 2 [日付と時刻] アイコンをクリックします。



3 手動設定する場合は、新しい日付と時刻を入力します。



[日付と時刻] 画面に切り替わります。

設定します。

4 自動設定する場合は、[自動設定] 欄から [有効] にチェックします。



チェックします。

5 [NTP サーバアドレス] 欄に時刻を取得する NTP サーバのアドレスを入力します。

6 [OK] ボタンをクリックします。

7 以上で設定は終了です。

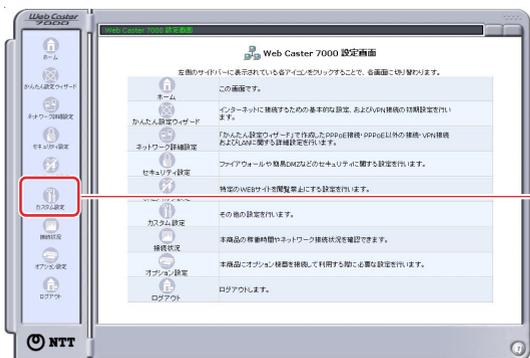
ファームウェアの更新

本商品の購入後、当社のホームページからダウンロードしたファイルを使って、最新のファームウェアにアップデートすることができます。

！ ご注意

- ・インターネットに接続している場合は、アップデートを行う前に全ての通信を切断してください。また、LAN内のパソコンはアップデート作業を行うパソコンを除いて全て電源をOFFにしてください。
- ・ファイアウォールやウイルスキャンソフトがインストールされてるパソコンでアップデート作業を行う場合は、事前にソフトウェアを終了してください。
- ・このアップデートは当社が独自に提供するサービスです。新機能の追加や性能の増強を保証するものではありません。

- 1 当社のホームページから最新のファームウェアをダウンロードします。
ダウンロードしたファイルは、アップデート作業を行うパソコンのハードディスクなどに保存してください。
- 2 サイドバーから [カスタム設定] アイコンをクリックします。



クリックします。

3 [ファームウェアアップデート]アイコンをクリックします。



[カスタム設定]画面に切り替わります。

[ファームウェアアップデート]アイコンをクリックします。

4 [ファームウェアアップデートの準備]の画面が表示されます。 [参照]ボタンをクリックし、ダウンロードしたファームウェアのファイルを指定します。



クリックします。

5 [開く]ボタンをクリックします。



Windows® 2000のダイアログです。ご使用のOSにより、ダイアログは異なります。

クリックします。

- 6 [OK] ボタンをクリックすると、ファームウェアアップデートの準備が開始されます。

! ご注意

ファームウェアアップデートの準備中は、絶対に Web Caster 7000 の電源を切ったり、LAN ケーブルを抜いたりしないでください。ファームウェアアップデートの準備には、数十秒間かかります。[OK] ボタンをクリックしたら、そのまましばらくお待ちください。

- 7 ファームウェアアップデートの準備が終了すると、[ファームウェアアップデート] の画面が表示されます。
[現在のバージョン] と [新しいバージョン] に表示されるバージョン番号に間違いが無いか確認してください。
[OK] ボタンをクリックすると、ファームウェアのアップデートが開始されます。

! ご注意

ファームウェアのアップデート中は、絶対に Web Caster 7000 の電源を切ったり、LAN ケーブルを抜いたりしないでください。ファームウェアアップデートには、数十秒間かかります。[OK] ボタンをクリックしたら、そのまましばらくお待ちください。

- 8 アップデートが終了すると、本商品は自動的に再起動します。新しいバージョンのファームウェアは再起動後に有効になります。
- 9 再起動が完了すると、ログイン画面に戻ります。以上でファームウェアの更新は終了です。

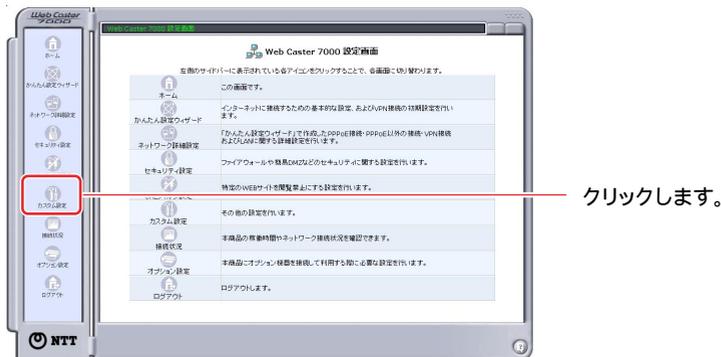
! ご注意

本商品以外のファームウェアを使ってアップデートを行うことはできません。無理にアップデートを行うと本商品が動作しなくなりますので、ご注意ください。

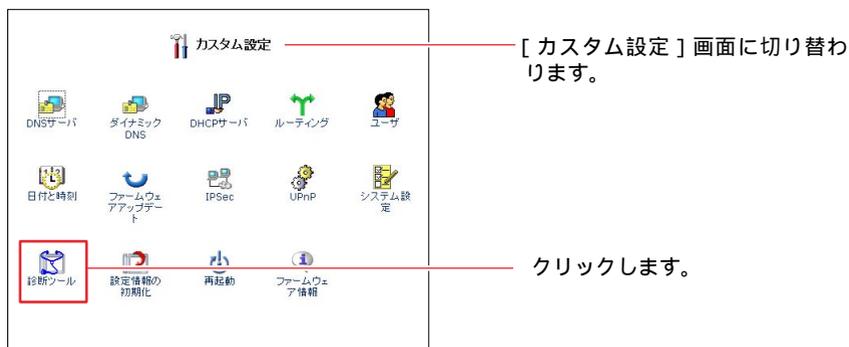
診断ツール

本商品からパソコンなどのネットワーク端末に対して Ping を送信することができます。

- 1 サイドバーから [カスタム設定] アイコンをクリックします。



- 2 [診断ツール] アイコンをクリックします。



- 3 [送信先IPアドレスまたはホスト名] 欄に Ping を送信したいIPアドレスまたはホスト名を入力します。

診断ツール

Ping (ICMP Echo)

送信先IPアドレスまたはホスト名: 192.168.1.100

送信

ステータス:

表示の更新 ボタンをクリックすると、ステータス表示を更新します。

戻る 表示の更新

[診断ツール] 画面に切り替わります。

入力します。

クリックします。

- 4 [送信] ボタンをクリックすると、本商品から宛先に Ping が送信されます。

診断ツール

Ping (ICMP Echo)

送信先IPアドレスまたはホスト名: 192.168.1.100

送信

ステータス: IPアドレスの確認中

表示されます。

- 5 [ステータス] 欄に送信結果が表示されます。

診断ツール

Ping (ICMP Echo)

送信先IPアドレスまたはホスト名: 192.168.1.100

送信

ステータス: 成功しました

パケット数: 4/4 送信, 4/4 受信, 0% 損失

応答時間: 最小 = 1 ms
最大 = 3 ms
平均 = 1 ms

表示の更新 ボタンをクリックすると、ステータス表示を更新します。

戻る 表示の更新

クリックします。

- 6 [戻る] ボタンをクリックします。

- 7 以上で設定は終了です。

本商品の初期化

設定ページから本商品の設定内容を消去して、購入時の状態に戻すことができます。

本体にあるリセットスイッチを使って、設定を消去することもできます。詳しくは本商品の取扱説明書（冊子）の「本商品を初期化する」 P.5-10 を参照してください。

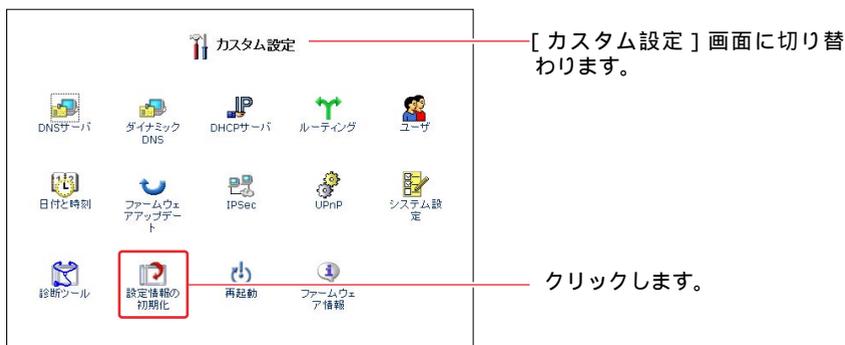
！ ご注意

この機能を使うと、設定ページにアクセスするためのパスワードを含め、変更した設定内容がすべて消去されます。また、本商品のLAN側ポートのIPアドレスを変更していた場合は、購入時の「192.168.1.1」に戻ります。ご注意ください。

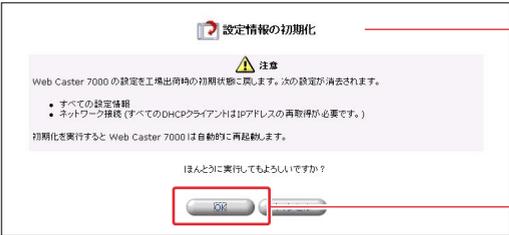
1 サイドバーから [カスタム設定] アイコンをクリックします。



2 [設定情報の初期化] アイコンをクリックします。



3 [OK] ボタンをクリックします。



[設定情報の初期化] 画面に切り替わります。

[OK] ボタンをクリックします。

4 初期化が始まります。



設定内容の消去が開始します。消去中は、この画面が表示されます。

5 設定内容の消去が終わると、設定ページに初めてログインするときの画面に切り替わります。



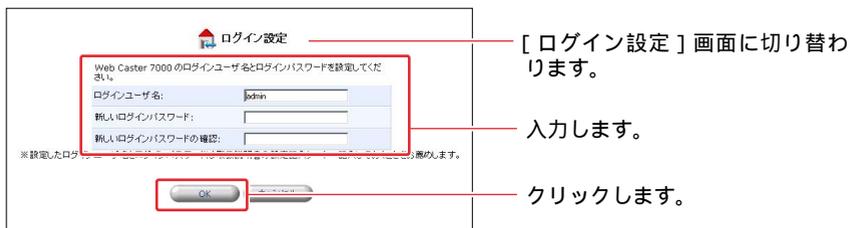
[Web Caster 7000 設定画面] に切り替わります。

[OK] ボタンをクリックします。

ブラウザ	追加方法
Internet Explorer	お気に入り追加をクリック
Netscape	CTRL+D キーを押す
その他	ブラウザの「ブックマークの追加」を選択して、http://wbc7000.home を追加

画面が切り替わらないときは、[ログイン] ボタンをクリックしてください。

- 6 ユーザ名とパスワードを入力し、[OK] ボタンをクリックします。
[Web Caster 7000 設定画面] に切り替わります。



[ログイン設定] 画面に切り替わります。

入力します。

クリックします。

[ログインユーザ名]

設定ページにログインするユーザ名を入力します。

[新しいログインパスワード]

パスワードを入力します。

[新しいログインパスワードの確認]

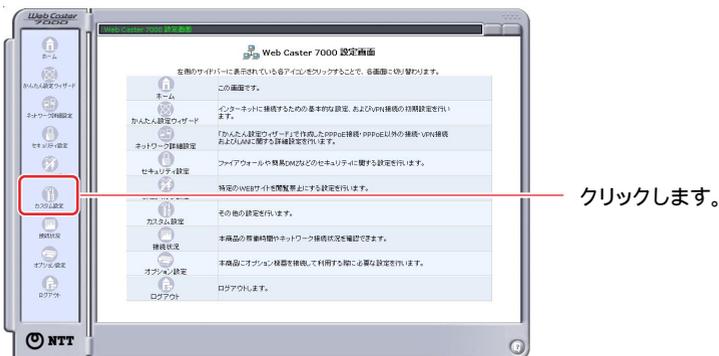
[新しいログインパスワード] の内容をもう一度入力します。

- 7 [OK] ボタンをクリックすると、設定ページの [Web Caster 7000 設定画面] に切り替わります。

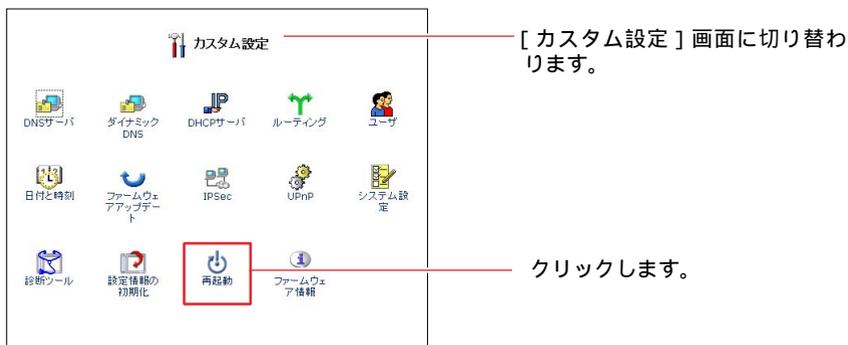
再起動

本商品の再起動を行います。

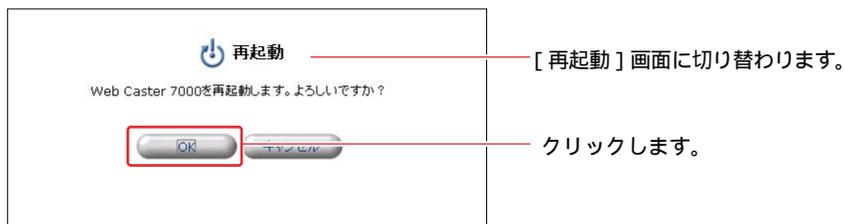
- 1 サイドバーから [カスタム設定] アイコンをクリックします。



- 2 [再起動] アイコンをクリックします。



3 [OK] ボタンをクリックします。



[再起動] 画面に切り替わります。

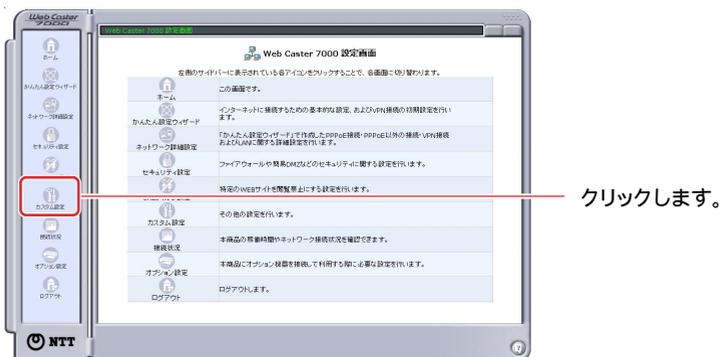
クリックします。

4 再起動が完了すると、ログイン画面に切り替わります。

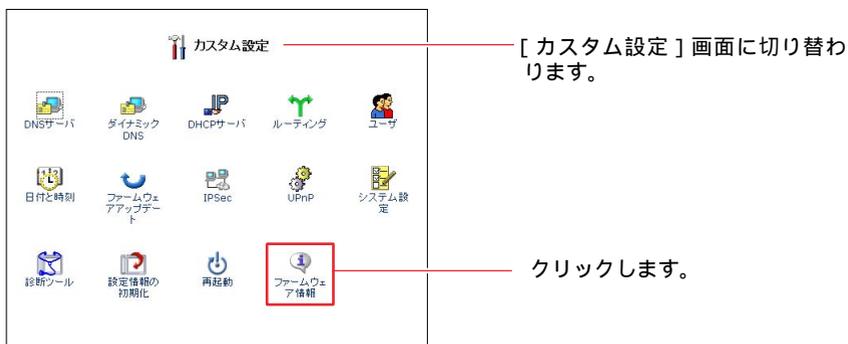
ファームウェア情報

本商品のファームウェアのバージョンを確認できます。

- 1 サイドバーから [カスタム設定] アイコンをクリックします。



- 2 [ファームウェア情報] アイコンをクリックします。



3 本商品のファームウェアのバージョンが表示されます。



[ファームウェア情報]画面に切り替わります。

第7章

具体的な設定例

この章では、Web Caster 7000の具体的な設定例について解説します。

- オンラインゲームや音声/ビデオチャットを
利用する 7-2
- インターネット上にサーバを公開する 7-13

オンラインゲームや音声/ビデオチャットを利用する

ここでは、オンラインゲームや音声/ビデオチャットを行うときに必要な設定について解説します。

UPnP に対応しているアプリケーションの場合

本商品は Universal Plug and Play (ユニバーサルプラグアンドプレイ : UPnP) に対応しています。とくに設定を行わなくても UPnP 対応のアプリケーションを利用することができます。

! ご注意

- UPnP アプリケーションによっては動作しないものがあります。その場合は、そのアプリケーションの取扱説明書、サポートセンターなどでご確認ください。
- UPnP を利用できる OS は、Windows[®] XP および Windows[®] Me です。Windows[®] Me の場合は、[コントロールパネル] - [アプリケーションの追加と削除] で [ユニバーサルプラグアンドプレイ] をインストールしてください。詳しくは P.6-77 「パソコンの UPnP の設定を確認する」を参照してください。

UPnP に対応していないアプリケーションの場合

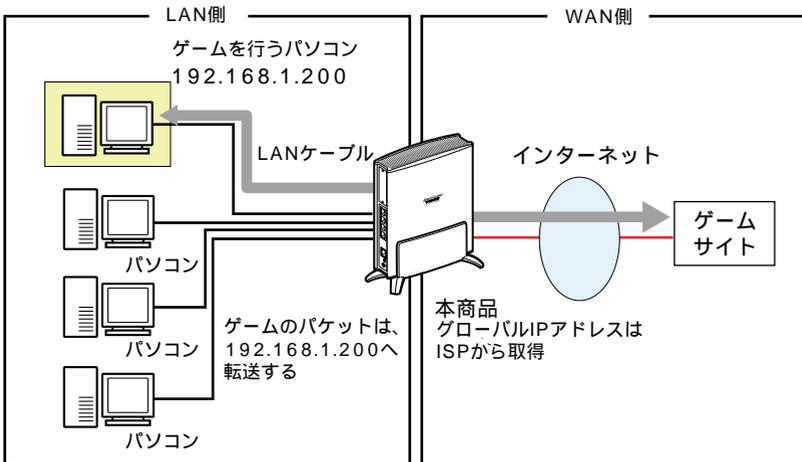
オンラインゲームを使いたいときは、ゲームを行うパソコンにインターネットからのアクセスを許可する必要があります。

本商品はローカルサーバ機能に対応していますので、ローカルサーバ機能に使用するゲームのポート情報やパソコンのIPアドレスを設定するだけでご利用できます。

！ ご注意

オンラインゲームを行う場合は、本商品にグローバルIPアドレスが割り当てられている必要があります。プライベートIPアドレスを利用する一部のプロバイダをご利用の場合は、オンラインゲームを行えない場合があります。グローバルIPアドレスが割り当てられているかのご確認は、ご利用プロバイダへお問い合わせください。

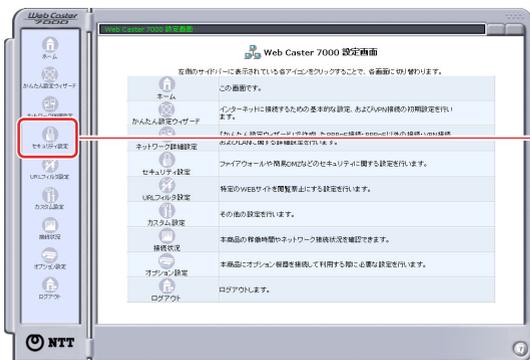
ここでは、LAN内のパソコン「192.168.1.200」からオンラインゲームのサイトにアクセスし、オンラインゲームを行う場合の設定について解説します。



ローカルサーバを使ったオンラインゲームの設定

ここでは、本商品のローカルサーバ機能を使用してオンラインゲームとパソコンを登録する方法について説明します。

1 サイドバーから[セキュリティ設定]アイコンをクリックします。



クリックします。

2 [ローカルサーバ]アイコンをクリックします。



[セキュリティ設定] 一覧画面に切り替わります。

クリックします。

3 [新規作成]欄から追加ボタンをクリックします。

[ローカルサーバ]画面に切り替わります。

追加 (追加) ボタンをクリックします。

4 [ローカルサーバの追加]画面が表示されます。 [ローカルIP]欄にゲームを行うパソコンのIPアドレスを入力します。

[ローカルサーバの追加] 画面に切り替わります。

入力します。

5 ネットワークで使用するポート情報を設定します。 [ユーザ定義サービス]をクリックします。

クリックします。

6 [ユーザ定義サービス]画面が表示されます。 [新規作成]欄から[追加]ボタンをクリックします。

[ユーザ定義サービス] 画面に切り替わります。

追加 (追加) ボタンをクリックします。

- 7 [サービスの編集]画面が表示されます。
[新規作成]欄から[追加]ボタンをクリックします。



[サービスの編集]画面に切り替わります。

追加 (追加) ボタンをクリックします。

- 8 [プロトコル]欄から使用するプロトコルを選択します。



選択します。

[プロトコル]

対象にするプロトコルをTCP、UDPから選択します。

[発信元ポート/送信先ポート]

サービスやアプリケーションの発信元ポート/送信先ポート番号を入力します。

すべて	全てのポートを指定します。
1個を指定	1つのポート番号を指定します。
範囲指定	ポート番号の範囲を指定します。

- 9 [OK]ボタンをクリックします。



クリックします。

10 追加ボタンをクリックすることで、複数のポートを指定することもできます。

サービスの編集

サービス名: Application

プロトコル	詳細	操作
TCP	すべて >> すべて	追加 削除
新規作成		

OK

複数ポート追加の場合、クリックします。

クリックします。

11 全ての設定が終了しましたら、[サービス名] に任意の名前を入力し、[OK]ボタンをクリックします。

12 [ユーザ定義サービス] の画面に戻ります。[サービス名] 欄に作成したユーザ定義サービスが表示されているのを確認します。
[戻る] ボタンをクリックします。

ユーザ定義サービス

サービス名: game

サービス名	プロトコル / ポート	操作
game		追加 削除
新規作成		

戻る

「ユーザ定義サービス」画面に戻ります

確認します。

クリックします。

! ご注意

- サービスの新規作成を行う場合は、オンラインゲームなどで使用するポート情報が必要です。詳しくはオンラインゲームのサポートセンターなどにお問い合わせください。
- 登録したいオンラインゲームのポート情報などが公開されていないときは、DMZ ホスト機能を設定してください。

- 13 [ローカルサーバの追加]画面に戻ります。
[ユーザ定義サービス]欄に作成したユーザ定義サービスが表示されているのを確認し、チェックを付けます。



- 14 [OK]ボタンをクリックします。



[OK]ボタンは画面の下の方にあります。スクロールして表示させてください。

- 15 [ローカルサーバ]画面に戻ります。ローカルサーバで使用するサービスとパソコンのIPアドレスが表示されます。



- 16 [OK]ボタンをクリックします。

- 17 以上で設定は終了です。

Windows[®] Messenger、MSN[®] Messengerを使う

本商品とパソコンの Universal Plug and Play(ユニバーサルプラグアンドプレイ:UPnP)機能を利用すると、Windows[®] Messenger Version 4.7 以上、MSN[®] Messenger 5.0 以上を複数台のパソコンで利用することができます。本商品はUPnPに対応していますので、とくに設定を行う必要はありません。

! ご注意

- UPnPを利用できるOSは、Windows[®] XPおよびWindows[®] Meです。Windows[®] Meの場合は、[コントロールパネル]-[アプリケーションの追加と削除]で[ユニバーサルプラグアンドプレイ]をインストールしてください。詳しくは P.6-77「パソコンのUPnPの設定を確認する」を参照してください。
- 音声チャットを行うには、マイク/スピーカー、またはヘッドセットが別途必要です。
- ビデオチャットを行うには、マイク/スピーカー、またはヘッドセット、カメラ(USBカメラ)などが必要です。

利用できる機能

本商品で利用できるWindows[®] Messenger、またはMSN[®] Messenger機能は次のとおりです。

	Windows [®] Messenger Ver4.7以上	MSN [®] Messenger Ver5.0以上
インスタントメッセージ		
ファイル転送	x	
音声チャット		
ビデオチャット		
アプリケーション共有		
ホワイトボード		
リモートアシスタンス (ファイル転送機能)		

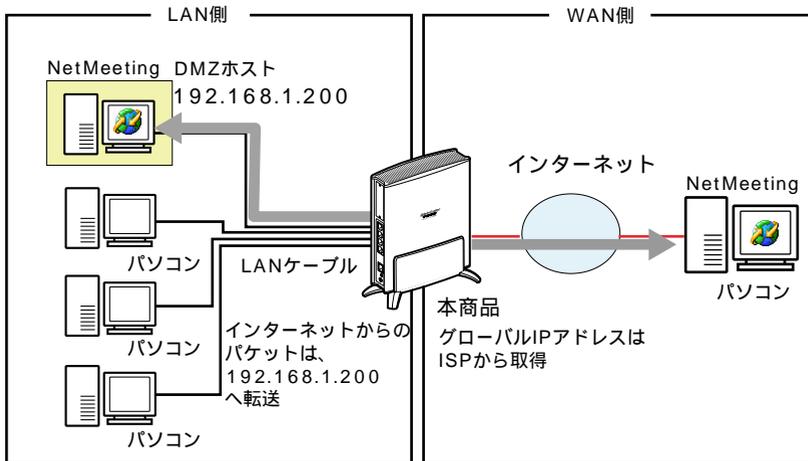
NetMeeting を使う

本商品で NetMeeting を利用するときは、DMZ ホスト機能を使います。NetMeeting は UPnP に対応しておらず、アプリケーションが使用するポートが複数あり、かつ動的にポート番号を変えながら通信を行います。このような場合は、DMZ ホスト機能を使います。

！ ご注意

- NetMeeting を使う場合は、本商品にグローバル IP アドレスが割り当てられている必要があります。プライベート IP アドレスを利用する一部のプロバイダではご利用できない場合があります。あらかじめご了承ください。
- LAN 内のパソコンのうち 1 台のみ、NetMeeting を使うことができます。
- DMZ ホストにはインターネットからのアクセスをすべて許可するので、外部からの攻撃を受ける可能性があります。

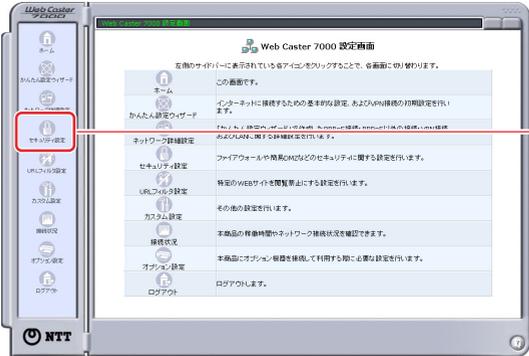
ここでは、LAN 内のパソコン「192.168.1.200」を DMZ ホストにして、NetMeeting を使ってチャットを行う場合の設定について説明します。



DMZ ホストを使った NetMeeting の設定

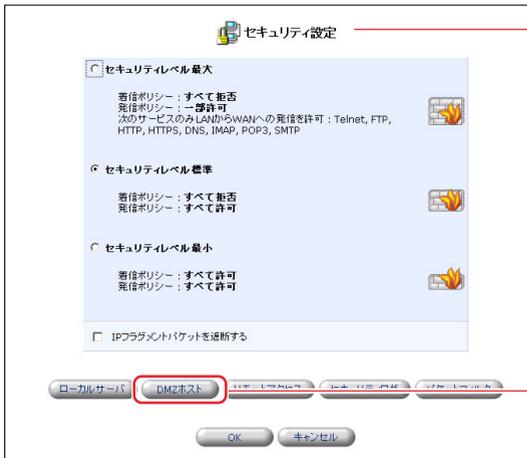
ここでは、NetMeeting で使うパソコンを DMZ ホストとして設定する方法について説明します。

1 サイドバーから[セキュリティ設定]アイコンをクリックします。



クリックします。

2 [DMZ ホスト]ボタンをクリックします。



[セキュリティ設定] 一覧画面に切り替わります。

クリックします。

3 DMZ ホストに設定するパソコンのIPアドレスを入力し、チェックします。



入力します。

4 [OK] ボタンをクリックします。

5 以上で設定は終了です。

7

具体的な設定例

インターネット上にサーバを公開する

ここでは、インターネット上にサーバを公開するときに必要な設定について解説します。

LAN に接続された PC をサーバとして公開する

LAN 側に構築したサーバをインターネットに公開するときは、インターネットから LAN 側のサーバへのアクセスを許可する必要があります。本商品にはよく使われるインターネットのサービスがあらかじめ登録されています。サービスを選択しサーバの IP アドレスを入力すると、LAN 側のサーバをインターネットに公開できます。

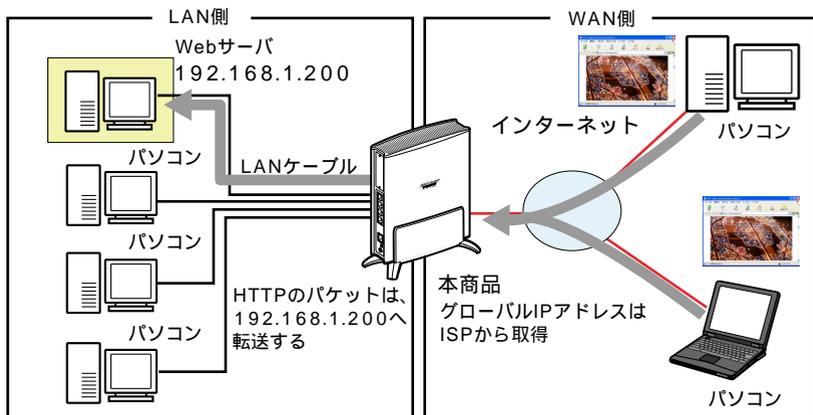
! ご注意

インターネットにサーバを公開すると、外部からの侵入や盗聴、データの消失などの被害に遭う可能性があります。十分なセキュリティ設定を行ってください。

! ご注意

外部にサーバを公開する場合は、本商品にグローバル IP アドレスが割り当てられている必要があります。プライベート IP アドレスを利用する一部のプロバイダをご利用の場合は、サーバを公開できない場合があります。あらかじめご了承ください。

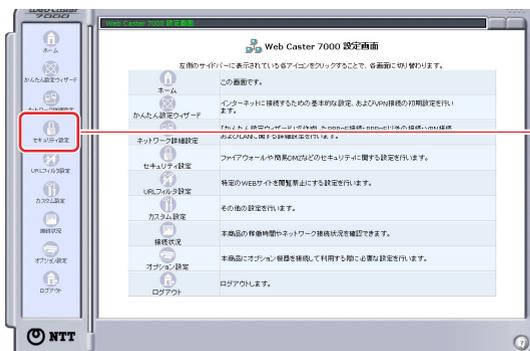
ここでは、LAN 側のパソコン「192.168.1.200」を Web サーバとして外部に公開する例について説明します。



ローカルサーバを使ったサービスの公開

ここでは、インターネット上に公開するサービスとパソコンのIPアドレスをローカルサーバに設定する方法について説明します。

1 サイドバーから [セキュリティ設定] アイコンをクリックします。



クリックします。

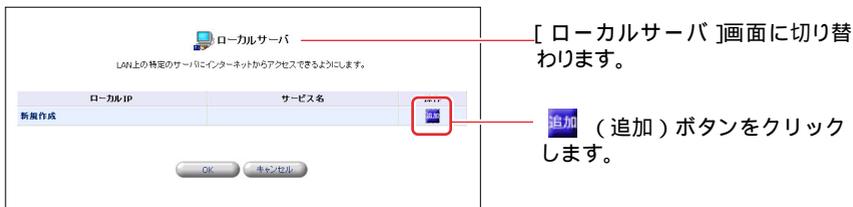
2 [ローカルサーバ] アイコンをクリックします。



[セキュリティ設定] 一覧画面に切り替わります。

クリックします。

3 [新規作成] 欄から追加ボタンをクリックします。



4 [ローカルサーバの追加] 画面が表示されます。 [ローカルIP] 欄にサービスを公開するパソコンのIPアドレスを入力します。



5 [デフォルト定義サービス] 欄に本商品に登録されてるサービスやアプリケーションが表示されます。ご利用になりたいサービスにチェックします。



Webサーバとして外部に公開する場合は、HTTP Web Serverにチェックします。

6 [OK] ボタンをクリックします。



クリックします。

[OK] ボタンは画面の下の方にあります。スクロールして表示してください。

7

7 [ローカルサーバ] 画面に戻ります。ローカルサーバで使用するサービスとパソコンのIP アドレスが表示されます。



[ローカルサーバ] の画面に戻ります。

クリックします。

8 [OK] ボタンをクリックします。

9 以上で設定は終了です。

第 8 章

Web 設定

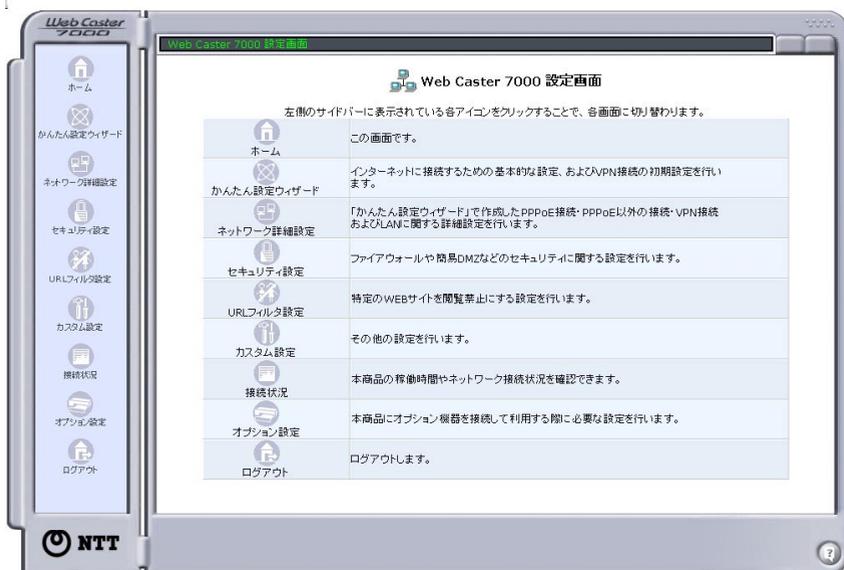
この章では、設定ページの使い方を詳しく解説しています。コマンドリファレンスとしてお使いいただけます。

ホーム	8-2
かんたん設定ウィザード	8-3
ネットワーク詳細設定	8-9
セキュリティ	8-21
URLフィルタ	8-28
カスタム設定	8-29
接続状況	8-45
オプション設定	8-46
ログアウト	8-51

ホーム

ホーム

設定ページにログインしたあとや、サイドバーから [ホーム] アイコンをクリックすると、[Web Caster 7000 設定画面] が表示されます。



かんたん設定ウィザード

新しい接続を設定するためのウィザードです。

かんたん設定ウィザード

- **インターネット接続**
インターネットへの接続設定の際に選択します。
- **VPN 接続**
VPN (仮想プライベートネットワーク) を構築する場合に選択します。
- **[次へ] ボタン**
クリックすると、次の画面に切り替わります。
- **[キャンセル] ボタン**
クリックすると [Web Caster 7000 設定画面] に戻ります。

インターネット接続

インターネットへの接続方法を選択します。

- **PPPoE 接続**
フレッツ・ADSL、Bフレッツなど、PPPoEを使用してインターネットに接続する
場合に選択します。
[次へ] ボタンをクリックすると、次の項目を設定できます。

[接続ユーザ名]

プロバイダから指定されたユーザIDを入力します。

[接続パスワード]

プロバイダから指定されたパスワードを入力します。

■ PPPoE 以外での接続

PPPoE 以外での接続（PPPoE 以外の ADSL やケーブルモデムとの接続）の場合に選択します。

自動取得

プロバイダの DHCP サーバから自動で IP アドレスを取得します。

固定 IP アドレス

プロバイダからの指示に従って設定します。

[IP アドレス / サブネットマスク / デフォルトゲートウェイ]

プロバイダから指定された IP アドレス / サブネットマスク / デフォルトゲートウェイを入力します。

[プライマリ DNS サーバ / セカンダリ DNS サーバ]

プロバイダから指定されたプライマリ DNS サーバ / セカンダリ DNS サーバのアドレスを入力します。

■ [戻る] ボタン

クリックすると、1 つ前の画面に切り替わります。

■ [次へ] ボタン

クリックすると、次の画面に切り替わります。

■ [キャンセル] ボタン

設定を変更した場合、クリックすると変更内容が破棄されます。

VPN 接続

VPNの構築方法を選択します。

- **PPTP クライアント**

PPTPクライアント設定の際に選択します。

- **PPTP サーバ**

PPTPサーバを利用する場合に選択します。

- **IPSec**

VPN接続の設定の際に選択します。

[次へ] ボタンをクリックすると、IPSecに必要な項目を設定できます。

- **[戻る] ボタン**

クリックすると、1つ前の画面に戻ります。

- **[次へ] ボタン**

クリックすると、次の画面が表示されます。

- **[キャンセル] ボタン**

設定を変更した場合、クリックすると変更内容が破棄されます。

PPTP クライアント

PPTP クライアントに関する設定を行います。リモートアクセスする PPTP サーバの設定に従ってください。

- **接続先のホスト名または IP アドレス**
接続先サーバのホスト名、または IP アドレスを入力します。
- **接続ユーザ名**
PPTP でリモートアクセスするときのユーザ名を入力します。
- **接続パスワード**
PPTP でリモートアクセスするときのパスワードを入力します。
- **[戻る] ボタン**
クリックすると、1 つ前の画面に戻ります。
- **[次へ] ボタン**
クリックすると、次の画面が表示されます。
- **[キャンセル] ボタン**
設定を変更した場合、クリックすると変更内容が破棄されます。
- **[完了] ボタン**
クリックすると、設定が反映されます。

PPTP サーバ

リモートアクセスしてくる PPTP クライアントに割り当てる IP アドレスの範囲を設定します。

- **開始**
割り当てる最初のアドレスを入力します。
- **終了**
割り当てる最後のアドレスを入力します。
- **[戻る] ボタン**
クリックすると、1 つ前の画面に戻ります。
- **[次へ] ボタン**
クリックすると、次の画面が表示されます。
- **[キャンセル] ボタン**
設定を変更した場合、クリックすると変更内容が破棄されます。
- **[完了] ボタン**
クリックすると、設定が反映されます。

ユーザ

PPTPで本商品に接続するクライアントの追加、修正、削除をするための画面です。

■ [追加] ボタン

ユーザを追加する場合にクリックします。
クリックすると、[ユーザ設定]画面に切り替わります。

■ [修正] ボタン

ユーザの設定を修正する場合にクリックします。
クリックすると、[ユーザ設定]画面に切り替わります。

■ [削除] ボタン

クリックすると、そのユーザが削除されます。

■ [戻る] ボタン

クリックすると、1つ前の画面に戻ります。

■ [次へ] ボタン

クリックすると、次の画面が表示されます。

■ [キャンセル] ボタン

設定を変更した場合、クリックすると変更内容が破棄されます。

ユーザ設定

本商品にリモートアクセスするPPTPクライアントを登録します。

■ フルネーム (半角英数字、最大128桁)

PPTPでアクセスを許可するユーザの名前を入力します。半角英数字で128桁まで入力できます。

■ ユーザ名 (半角英数字、最大64桁)

PPTPでアクセスを許可するときの名前を入力します。半角英数字で64桁まで入力できます。大文字と小文字は別の文字として扱われることに注意してください。

■ 新しいパスワード (半角英数字、最大64桁)

PPTPでアクセスを許可するときのパスワードを入力します。半角英数字で64桁まで入力できます。大文字と小文字は別の文字として扱われることに注意してください。

■ 新しいパスワードの確認 (半角英数字、最大64桁)

[新しいパスワード]に入力したパスワードをもう一度入力します。半角英数字で64桁まで入力できます。大文字と小文字は別の文字として扱われることに注意してください。

■ 権限

ユーザの権限を設定します。

[管理者権限]

本商品の管理者権限を許可します。

[PPTP リモートアクセス]

リモートアクセスを許可します。

■ E-Mail 通知設定

[SMTP メールサーバの設定]

SMTPメールサーバのアドレスを入力する場合クリックします。

[E-Mail アドレス]

送信先のE-Mailアドレスを入力します。

[システム通知レベル]

本商品のシステムの状態を通知するレベルを選択します。

[セキュリティ通知レベル]

本商品のセキュリティの状態を通知するレベルを選択します。

■ [OK] ボタン

設定を変更した場合、クリックすると変更内容が有効になります。

■ [キャンセル] ボタン

設定を変更した場合、クリックすると変更内容が破棄されます。

IPSec

IPSecの接続の設定を行います。

■ 接続先のホスト名またはIP アドレス

相手先のホスト名、またはIPアドレスを入力します。

■ リモートサブネット

サブネットアドレスとサブネットマスクを入力します。

■ 共通鍵

事前共有鍵のための文字列を入力します。

■ [戻る] ボタン

クリックすると、1つ前の画面に戻ります。

■ [次へ] ボタン

クリックすると、次の画面が表示されます。

■ [キャンセル] ボタン

設定を変更した場合、クリックすると変更内容が破棄されます。

■ [完了] ボタン

クリックすると、設定が反映されます。

ネットワーク詳細設定

本商品のWANポート、LANポートの設定をします。

ネットワーク詳細設定

ネットワーク接続 xxxxx

登録されている接続の設定内容が一覧表で表示されます。

接続の種類によって、「xxxxx」に表示される接続名が異なります。

■ [有効にする] / [無効にする] ボタン

■ [切断] / [接続] ボタン

設定する接続の内容によって、上のどちらかのボタンが表示されます。

[有効にする] / [無効にする] ボタンをクリックすると、その接続の有効/無効を切り替えることができます。

[切断] / [接続] ボタンをクリックすると、その接続の切断/接続を切り替えることができます。

■ 接続名

接続の名称です。

■ [詳細設定] ボタン

クリックすると、その接続の詳しい設定を行います。[詳細設定 xxxxxx] 画面に切り替わります。

■ [OK] ボタン

設定を変更した場合、クリックすると変更内容が有効になります。

■ [キャンセル] ボタン

設定を変更した場合、クリックすると変更内容が破棄されます。

詳細設定 WAN ポート

Ethernet 接続された WAN ポートの設定を確認、変更します。

■ 基本設定

[ステータス]

現在の WAN ポートの状態が表示されます。

[MAC アドレス]

MAC アドレスが表示されます。

[MTU]

現在の MTU の値が表示されます。

■ IP 設定

[IP アドレスなし]

本商品の WAN 側 IP アドレスを設定しないとき選択します。

[IP アドレスを自動取得する]

本商品の WAN 側 IP アドレスを自動的に取得する場合に選択します。サブネットマスクを固定で設定したいときは、[サブネットマスクを置き換える] をチェックし、アドレスを入力します。ただし、本商品をケーブルモデムに接続するときは、ここを選択して [サブネットマスクを置き換える] にはチェックしません。

[IP アドレスを固定設定する]

本商品の WAN 側 IP アドレスを指定します。IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイを入力します。

[DHCP 更新/解放]

DHCP リースの更新/解放を行いません。

[DNS サーバアドレスを自動取得する]

DNS サーバのアドレスを自動的に取得する場合に、選択します。

[DNS サーバアドレスを固定設定する]

DNS サーバのアドレスを指定する場合に、選択します。
[プライマリ DNS サーバ] [セカンダリ DNS サーバ] を入力します。

[デバイスメトリック]

メトリックの値を入力します。

■ LAN 側グローバルネットワーク (Unnumbered 接続)

[ネットワークアドレス]

Unnumbered 接続で使用する固定 IP アドレスのネットワークアドレスを入力します。

[サブネットマスク]

サブネットマスクを入力します。

■ [OK] ボタン

設定を変更した場合、クリックすると変更内容が有効になります。

■ [キャンセル] ボタン

設定を変更した場合、クリックすると変更内容が破棄されます。

詳細設定 LAN ポート

Ethernet 接続された LAN ポートの設定を確認、変更します。

■ 基本設定

[ステータス]

現在の LAN ポート [一般] の状態が表示されます。

[MAC アドレス]

MAC アドレスが表示されます。

■ IP 設定

本商品の LAN 側 IP アドレスを指定します。IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイを入力します。

■ DHCP サーバ

本商品の DHCP サーバ機能を LAN 側の Ethernet で使用するかどうか設定します。使用する場合は [有効] をチェックし、次の項目を設定します。

[割り当て開始アドレス/割り当て終了アドレス]

パソコンに設定する IP アドレスの範囲を入力します。

[割り当てサブネットマスク]

サブネットマスクを入力します。

[WINS サーバ]

WINS サーバのサーバアドレスを入力します。

[リース期間 (分)]

設定される IP アドレスの有効期限を入力します。

割り当てられた IP アドレスは、このリース時間が経過するまで有効です。[割り当て開始アドレス][割り当て終了アドレス]の設定を変更した場合や、パソコンに設定する IP アドレスを変更した場合、それ以前にリースされた IP アドレスは自動的に更新されません。リース時間内にパソコンの IP アドレスを再取得したい場合は、P. 「IP アドレスを再取得する」に従って操作してください。

[クライアントにホスト名が設定されていないとき、ホスト名を自動的に割り当てる]

ホスト名が設定されていないパソコンに自動的にホスト名を割り当てたい場合、チェックします。

[デバイスメトリック]

メトリックの値を入力します。

■ [OK] ボタン

設定を変更したとき、クリックすると変更内容が有効になります。

■ [キャンセル] ボタン

設定を変更したとき、クリックすると変更内容が破棄されます。

詳細設定 WAN PPPoE

PPPoE 接続された WAN 側の設定を確認、変更します。

■ 基本設定

[ステータス]

現在の WAN PPPoE の状態が表示されます。

[MTU]

現在の MTU の値が表示されます。

■ PPP

PPP の設定を行います。

[接続ユーザ名]

プロバイダから指定されたログインユーザIDを入力します。

[接続パスワード]

プロバイダから指定されたログインパスワードを入力します。

[自動切断]

無通信時に自動的に接続します。

[自動切断までの時間(分)]

通信が中断したとき、接続を切断するまでの時間を分単位で入力します。

■ PPP 認証

PPP の認証プロトコルを設定します。

[PAP 認証を許可する(PAP)]

PAP 認証を使用するときにチェックします。

[CHAP 認証を許可する(CHAP)]

CHAP 認証を使用するときにチェックします。

■ IP 設定

[IP アドレスを自動取得する]

PPPoE 接続の際、本商品の WAN 側の IP アドレスを自動的に取得する場合に選択します。サブネットマスクを固定で設定したいときは、[サブネットマスクを置き換える] をチェックして、アドレスを入力します。

[IP アドレスを固定設定する]

本商品の WAN 側の IP アドレスを指定します。IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイを入力します。

[DNS サーバアドレスを自動取得する]

DNS サーバのアドレスを自動的に取得する場合に選択します。

[DNS サーバアドレスを固定設定する]

DNS サーバのアドレスを指定する場合に選択します。
[プライマリ DNS サーバ] [セカンダリ DNS サーバ] を入力します。

[デバイスメトリック]

メトリックの値を入力します。

■ LAN 側グローバルネットワーク (Unnumbered 接続)

[ネットワークアドレス]

Unnumbered 接続で使用する固定 IP アドレスのネットワークアドレスを入力します。

[サブネットマスク]

サブネットマスクを入力します。

■ [OK] ボタン

設定を変更した場合、クリックすると変更内容が有効になります。

■ [キャンセル] ボタン

設定を変更した場合、クリックすると変更内容が破棄されます。

詳細設定 VPN PPTP

PPTPクライアントモードでの接続に関する詳細な設定を行います。

■ 基本設定

[ステータス]

現在のPPTPの状態が表示されます。

[MTU]

現在のMTUの値が表示されます。

■ PPP

[接続先のホスト名またはIPアドレス]

PPTPサーバのホスト名、またはIPアドレスを入力します。

[接続ユーザ名]

PPTPでリモートアクセスするときのユーザ名を入力します。

[接続パスワード]

PPTPでリモートアクセスするときのパスワードを入力します。

[自動切断までの時間(分)]

PPTPによる通信が中断したとき、接続を切断するまでの時間を分単位で入力します。

■ PPP 認証

ユーザ・パスワード認証の方法を選択します。

[PAP 認証を許可する (PAP)]

PAPによる認証を行うときにチェックします。

[CHAP 認証を許可する (CHAP)]

CHAPによる認証を行うときにチェックします。

[MS-CHAP 認証を許可する (MS-CHAP)]

MS-CHAPによる認証を行うときにチェックします。

[MS-CHAP v2 認証を許可する (MS-CHAP v2)]

MS-CHAP Version2による認証を行うときにチェックします。

■ PPP 暗号化

データの暗号化の方式を選択します。

[暗号化を必ず要求する (サーバが拒否したときは切断)]

暗号化通信を要求するときにクリックします。

[暗号化を許可する (MPPE-40Bit)]

暗号化に MPPE (Microsoft Point-to-Point Encryption) のキー長 40bit を使用する場合にチェックします。

この項目をチェックしたときは、[PPP 認証] の [MS-CHAP 認証を許可する] または [MS-CHAP v2 認証を許可する] もチェックする必要があります。

[最強の暗号化を許可する (128 Bit)]

暗号化に MPPE のキー長 128bit を使用する場合にチェックします。

この項目をチェックしたときは、[PPP 認証] の [MS-CHAP 認証を許可する] または [MS-CHAP v2 認証を許可する] もチェックする必要があります。

[MPPE 暗号化モード]

MPPE 暗号化のモードを、[MPPE-Stateful][MPPE-Stateless] から選びます。

■ IP 設定

[IP アドレスを自動取得する]

PPTP サーバのリモートアドレスから IP アドレスを自動取得する場合に選択します。

[IP アドレスを固定設定する]

PPTP サーバのリモートアドレス範囲から固定で IP アドレスを設定する場合に選択します。

[サブネットマスクを置き換える]

サブネットマスクを固定で設定したいときは [サブネットマスクを置き換える] にチェックして、アドレスを入力します。

■ DNS サーバ

[DNS サーバアドレスを自動取得する]

DNS サーバのアドレスを自動的に取得する場合に選択します。

[DNS サーバアドレスを固定設定する]

DNS サーバのアドレスを指定する場合に選択します。

[プライマリ DNS サーバ][セカンダリ DNS サーバ] を入力します。

[デバイスメトリック]

メトリックの値を入力します。

■ [OK] ボタン

設定を変更した場合、クリックすると変更内容が有効になります。

■ [キャンセル] ボタン

設定を変更した場合、クリックすると変更内容が破棄されます。

PPTP サーバ (基本設定)

PPTP サーバモードでの接続に関する設定を行います。

■ PPTP サーバ

[ステータス]

現在の PPTP の状態が表示されます。

[有効]

有効/無効の切り替えを行います。

[ユーザ]

本商品へリモートアクセスする PPTP クライアントの情報確認や、新しく PPTP クライアントを登録する際に使用します。クリックすると、[ユーザ]画面に切り替わります。

■ リモートアドレス範囲

[開始]

PPTP クライアントに割り当てる IP アドレスのうち、最初の IP アドレスを入力します。

[終了]

PPTP クライアントに割り当てる IP アドレスのうち、最後の IP アドレスを入力します。

■ 接続

[修正] ボタン

登録済みの接続設定を変更する場合に使用します。PPTP クライアントの設定を変更することができます。

[削除] ボタン

クリックすると、その接続設定が削除されます。

■ [OK] ボタン

設定を変更した場合、クリックすると変更内容が有効になります。

■ [キャンセル] ボタン

設定を変更した場合、クリックすると変更内容が破棄されます。

■ [詳細設定] ボタン

PPTP サーバの詳細な設定を行う場合に使用します。

PPTP (詳細設定)

PPTP サーバモードでの接続に関する、詳細な設定を行います。

[有効]

PPTP サーバ機能の有効/無効を切り替えます。
チェックを外すと、本商品の PPTP サーバ機能は無効になります。

[ユーザ]

本商品へリモートアクセスする PPTP クライアントの情報確認や、新しく PPTP クライアントを登録する際に使用します。クリックすると、[ユーザ設定] 画面に切り替わります。

[自動切断までの時間(分)]

PPTP による通信が中断したとき、接続を切断するまでの時間を分単位で設定できます。

■ ユーザセキュリティ

PPTP を使用した通信での認証、および暗号化について設定できます。

[認証が必要]

接続するときに認証を要求する場合にチェックします。

[暗号化が必要]

暗号化通信を要求する場合にチェックします。

■ 許可する認証アルゴリズム

接続の際の認証アルゴリズムを設定します。

[PAP]

PAP (Password Authentication Protocol) を使用した認証を許可する場合にチェックします。

[CHAP]

CHAP (Challenge Handshake Authentication Protocol) を使用した認証を許可する場合にチェックします。

[MS-CHAP-V1/V2]

MS-CHAP (Microsoft Challenge Handshake Authentication Protocol) Version 1 / Version 2 を使用した認証を許可する場合にチェックします。

■ 許可する暗号化アルゴリズム

通信時の暗号化アルゴリズムを設定します。

[MPPE-40]

暗号化に MPPE (Microsoft Point-to-Point Encryption) のキー長 40bit を使用する場合にチェックします。

この項目をチェックしたときは、[許可する認証アルゴリズム] の [MS-CHAP-V1] または [MS-CHAP-V2] もチェックしてください。

[MPPE-128]

暗号化に MPPE のキー長 128bit を使用する場合にチェックします。

この項目をチェックしたときは、[許可する認証アルゴリズム] の [MS-CHAP-V1] または [MS-CHAP-V2] もチェックしてください。

■ MPPE 暗号化モード

パケットごとにキーを変更する MPPE 暗号化アルゴリズムを使用する場合に、[MPPE-Stateful][MPPE-Stateless] のいずれかから選びます。

■ リモートアドレス範囲

[開始]

PPTP クライアントに割り当てる IP アドレスのうち、最初の IP アドレスを入力します。

[終了]

PPTP クライアントに割り当てる IP アドレスのうち、最後の IP アドレスを入力します。

■ 接続

一覧には、PPTP クライアントの接続設定が表示されます。

[修正] ボタン

登録済みの接続設定を変更する場合に使用します。PPTP クライアントの設定を変更できます。

[削除] ボタン

クリックすると、その接続設定が削除されます。

[OK] ボタン

設定を変更した場合、クリックすると変更内容が有効になります。

[キャンセル] ボタン

設定を変更した場合、クリックすると変更内容が破棄されます。

[基本設定] ボタン

クリックすると、基本画面に戻ります。

詳細設定 VPN IPsec

IPsecの接続に関する詳細な設定を行います。

■ 基本設定

[ステータス]

現在のIPsecの状態が表示されます。

[MTU]

現在のMTUの値が表示されます。

■ IPsec

[接続先のホスト名またはIPアドレス]

接続先のホスト名、またはIPアドレスを入力します。

[ローカルサブネット]

ネットワークアドレス/サブネットマスク：LAN側のネットワークアドレス、サブネットマスクを入力します。

[リモートサブネット]

ネットワークアドレス/サブネットマスク：接続先のLANのネットワークアドレス、サブネットマスクを入力します。

[データ圧縮 (IPCOMP プロトコル)]

データを圧縮する場合にチェックします。

[鍵交換方式]

秘密鍵の交換の方法を、自動 (IKE) または手動から選択します。
手動を選択したときは、「IPsec 手動鍵交換」に進んでください。

■ IPsec IKE, Phase1 (鍵交換方式で自動を選択したとき)

IKEの鍵交換手順のPhase1の設定を行います。

[接続試行回数]

接続の試行回数を設定します。

[ライフタイム (秒：1-28800)]

鍵の有効期限 (寿命) を秒単位で設定します。

[Rekey Margin (鍵の再生成を期限切れの何秒前に開始するか 1-540)]

Rekey (鍵の再生成) の間隔を設定します。

[Rekey Fuzz Percent

(Rekey Margin をランダムに変更するパーセンテージ：1-200)]

Rekeyの間隔をランダムにするための最大パーセンテージを設定します。

[認証アルゴリズム]

鍵の方式を選択します。

共通鍵方式 (Shared Secret) : 共通鍵方式を使用する場合は、事前共有鍵の文字列を入力します。

公開鍵方式 (RSA Signature) : 公開鍵方式を使用する場合に、鍵の文字列を入力します。

[暗号化アルゴリズム]

使用する暗号化アルゴリズムをチェックします。

[ハッシュアルゴリズム]

使用するハッシュアルゴリズムをチェックします。

[Diffie-Hellman Group]

対応するグループをチェックします。

■ IPsec IKE, Phase2

IKEの鍵交換手順のPhase2の設定を行います。

[ライフタイム]

鍵の有効期限 (寿命) を秒単位で設定します。

[ESP]

暗号ペイロードの設定を行います。

暗号化アルゴリズムと認証アルゴリズムを設定します。

[AH]

認証ヘッダの設定を行います。

■ IPsec 手動鍵交換 (鍵交換方式で手動を選択したとき)

鍵交換の方式を手動で設定できます。

[セキュリティインデックス]

ローカル側とリモート側のセキュリティインデックスを16進数で入力します。

[IPsec プロトコル]

[ESP] (暗号化アルゴリズム) または [AH] (ハッシュアルゴリズム) を選択します。どちらを選択した場合も、さらに使用するアルゴリズムを選択し、16進数で入力します。

[DNS サーバアドレスを自動取得する]

DNS サーバのアドレスを自動的に取得する場合に選択します。

[DNS サーバアドレスを固定設定する]

DNS サーバのアドレスを指定する場合に選択します。

[プライマリDNSサーバ] [セカンダリDNSサーバ] を入力します。

[デバイスメトリック]

メトリックの値を入力します。

■ [OK] ボタン

設定を変更した場合、クリックすると変更内容が有効になります。

■ [キャンセル] ボタン

設定を変更した場合、クリックすると変更内容が破棄されます。

セキュリティ

セキュリティ設定

セキュリティのレベルを設定します。
デフォルトでは、[セキュリティレベル標準] に設定されています。

■ セキュリティのレベル

[セキュリティレベル最大]

[ローカルサーバ] 画面、[リモートアクセス] 画面での設定を除き、インターネット側からのアクセスを拒否します。
LAN 側のパソコンでは、Telnet、FTP、HTTP、HTTPS、DNS、IMAP、POP3、SMTP のみ通信を許可します。

[セキュリティレベル標準]

[ローカルサーバ] 画面、[リモートアクセス] 画面での設定を除き、インターネット側からのアクセスを拒否します。

[セキュリティレベル最小]

インターネット側からのアクセスをすべて許可します。

■ IP フラグメントパケットを遮断する

フラグメント化されたパケットを拒否する場合にチェックします。
IPSec の VPN などフラグメント化されたパケットを利用する場合は、チェックを外します。

■ [ローカルサーバ] ボタン

LAN 側の特定のサービスをインターネットに公開する場合に使用します。
クリックすると [ローカルサーバ] 画面に切り替わります。

■ [DMZ ホスト] ボタン

インターネットからの通信を LAN 側の特定のパソコンに転送させたい場合に使用します。

■ [リモートアクセス] ボタン

リモートで本商品の設定を行う場合に使用します。
クリックすると [リモートアクセス設定] 画面に切り替わります。

■ [セキュリティログ] ボタン

ファイアウォールのログを確認する場合に使用します。
クリックすると [セキュリティログ] 画面に切り替わります。

■ [パケットフィルタ] ボタン

本商品のフィルタリングルールの設定を行う場合に使用します。

■ [OK] ボタン

設定を変更した場合、クリックすると変更内容が有効になります。

■ [キャンセル] ボタン

設定を変更した場合、クリックすると変更内容が破棄されます。

ローカルサーバ

現在設定されているローカルサーバの一覧が表示されます。

■ [新規作成] の [追加] ボタン

ローカルサーバを追加する場合に使用します。
クリックすると、[ローカルサーバの追加] 画面に切り替わります。

■ [修正] ボタン

ローカルサーバの設定を変更する画面に切り替わります。

■ チェックボックス

ローカルサーバの設定を一時無効にする場合に、チェックを外します。

■ [削除] ボタン

ローカルサーバの設定が削除されます。

■ [OK] ボタン

設定を変更した場合、クリックすると変更内容が有効になります。

■ [キャンセル] ボタン

設定を変更した場合、クリックすると変更内容が破棄されます。

ローカルサーバの追加・編集

ローカルサーバに設定するパソコンのIPアドレスやサービスを登録できます。

■ ローカルIP

サーバにするパソコンや、アプリケーションを使用するパソコンのIPアドレスを入力します。

■ デフォルト定義サービス

本商品にあらかじめ設定されているサービスの一覧が表示されます。

■ チェックボックス

インターネットからのアクセスを許可するサービスにチェックを付けます。

■ [OK] ボタン

設定を変更した場合、クリックすると変更内容が有効になります。

■ [キャンセル] ボタンをクリック

設定を変更した場合、クリックすると変更内容が破棄されます。

ユーザ定義サービス

新規にサービスが設定できます。

■ [新規作成] の [追加] ボタン

ユーザ定義サービスを追加する場合に使用します。クリックすると [サービスの編集] 画面に切り替わります。

■ [修正] ボタン

ユーザ定義サービスの設定を編集する画面に切り替わります。

■ [削除] ボタン

ユーザ定義サービスの設定を削除できます。

■ [戻る] ボタン

前の画面に戻ります。

サービスの編集

サービスの編集ができます。

■ サービス名

設定したユーザ定義サービスのサービス名を入力します。

■ [新規作成] の [追加] ボタン

ユーザ定義サービスを追加する場合に使用します。クリックするとサービス使用するプロトコル、ポート番号を入力する [サービスの編集] 画面に切り替わります。

■ [修正] ボタン

ユーザ定義サービスの設定を編集する画面に切り替わります。

■ [削除] ボタン

ユーザ定義サービスの設定を削除できます。

■ [OK] ボタン

設定を変更した場合、クリックすると変更内容が有効になります。

■ [キャンセル] ボタン

設定を変更した場合、クリックすると変更内容が破棄されます。

サービスの編集

ユーザ定義サービスで使用する、プロトコルやポート番号を設定します。

■ プロトコル

サービスで使用するプロトコルとプロトコル番号を設定します。

■ 送信元ポート/送信先ポート

サービスで使用する送信元のポート番号と送信先のポート番号を入力します。

■ ICMP メッセージ

プロトコルでICMPを選択した時に、ICMPのメッセージタイプを選択します。

■ [OK] ボタン

設定を変更した場合、クリックすると変更内容が有効になります。

■ [キャンセル] ボタン

設定を変更した場合、クリックすると変更内容が破棄されます。

DMZ ホスト

- **DMZ ホスト IP アドレス**
DMZ ホストにするパソコンの IP アドレスを入力します。
- **チェックボックス**
DMZ ホスト機能を有効にする場合にチェックします。
- **[OK] ボタン**
設定を変更した場合、クリックすると変更内容が有効になります。
- **[キャンセル] ボタン**
設定を変更した場合、クリックすると変更内容が破棄されます。

リモートアクセス設定

本商品にリモートアクセスして、設定を行ったり状況を確認するためのサービスを選択します。

- **Web サーバ**
設定ページへアクセスする場合、または WEB サーバ、USB カメラの画像を外部に公開する場合に選択します。
インターネットから本商品の Web 設定画面へアクセスする場合は、[設定画面を外部に公開する] にチェックをつけ、[Web サーバを外部に公開する (TCP ポート 80)] または [Web サーバを外部に公開する (TCP ポート 8080)] から、使用していないポート番号を選択し、チェックします。
- **診断ツール**
サービスプロバイダが、トラブル解決などを行うために送るコマンドを受け付けるかどうかを選択します。
Ping コマンドに返答する場合は [Ping (ICMP Echo Request) を許可する (Pings および ICMP Traceroute)] をチェックします。
Traceroute を受け付けるときは [Traceroute (UDP) を許可する] をチェックします。
- **オプション設定**
本商品に USB カメラ、ATA カードを接続し、外部に公開する場合に選択します。
USB カメラの画像を外部に公開する場合は、「USB カメラを外部に公開する (TCP ポート 8090)」を選択し、[Web サーバ] 欄から [Web サーバを外部に公開する (TCP ポート 80)] または [Web サーバを外部に公開する (TCP ポート 8080)] から使用していないポート番号を選択し、チェックします。
ATA カードをファイルサーバとして外部に公開する場合は、「FTP サーバを外部に公開する (TCP ポート 21)」を選択します。
- **[OK] ボタンをクリック**
設定を変更した場合、クリックすると変更内容が有効になります。
- **[キャンセル] ボタンをクリック**
設定を変更した場合、クリックすると変更内容が破棄されます。

セキュリティログ

セキュリティログには、下記の情報が表示されます。

- ・許可した接続の通信情報
- ・設定ページから本商品へログイン情報
- ・拒否した接続の通信情報
- ・本商品のログイン情報

■ [戻る] ボタン

クリックすると、[セキュリティ] 画面に戻ります。

■ [ログのクリア] ボタン

表示されているログを消去する場合に使用します。

■ [詳細設定] ボタン

セキュリティログに記録する内容を選択する場合に使用します。クリックすると、[セキュリティログ設定] 画面に切り替わります。

■ [表示の更新] ボタン

セキュリティログを更新する場合に使用します。

セキュリティログ設定

セキュリティログに表示されるメッセージの種類を選択できます。

■ ログイベント

セキュリティログに表示されるメッセージの種類をチェックします。

[許可した接続]

チェックすると、ファイアウォールの通過を許可された接続のログが記録されます。

[拒否した接続]

チェックすると、ファイアウォールの通過を拒否された接続のログが記録されます。

■ 設定

[ログ容量が一杯になったらログを停止する]

チェックすると、ログ保存用のメモリが一杯になったときに、以降のログの保存が停止されます。

■ [OK] ボタンをクリック

設定を変更した場合、クリックすると変更内容が有効になります。

■ [キャンセル] ボタンをクリック

設定を変更した場合、クリックすると変更内容が破棄されます。

パケットフィルタ

受信パケット、送信パケット別にフィルタリングルールを作成できます。

■[修正] ボタン

各接続ポート別のルール設定画面に切り替わります。

■[戻る] ボタン

前の画面に戻ります。

XXX ポートルール設定

登録されているフィルタリングルールの一覧が表示されます。
接続ポートの種類によって、表示される題名が異なります。

■[新規作成] の [追加] ボタン

フィルタリングルールを追加する場合に使用します。

■[修正] ボタン

[フィルタルールの編集] 画面に切り替わります。

■[削除] ボタン

フィルタリングルールの設定が削除されます。

■チェックボックス

フィルタリングルールを有効にする場合はチェックを付けます、無効にする場合はチェックを外します。

■[OK] ボタン

設定を変更した場合、クリックすると変更内容が有効になります。

■[キャンセル] ボタン

設定を変更した場合、クリックすると変更内容が破棄されます。

フィルタルールの追加/編集

フィルタリングルールの新規作成、または設定されてるフィルタルールの修正が行えます。

■送信元 IP アドレス

パケットの送信元の IP アドレスを設定します

[すべて]

全ての IP アドレスが対象になります。

[1 個を指定]

指定した IP アドレスが対象になります。

[範囲指定]

指定した IP アドレスの範囲が対象になります。

■ 送信先 IP アドレス

[すべて]

全ての IP アドレスが対象になります。

[1 個を指定]

指定した IP アドレスが対象になります。

[範囲指定]

指定した IP アドレスの範囲が対象になります。

■ 動作

[破棄する]

パケットを破棄します。

[転送する (セッション)]

このルールに合致するパケットと、このパケットに関わるセッションのパケットを通します。

[転送する (パケット)]

このルールに合致するパケットのみを通します。

■ ログ設定

フィルタリングルールと合致したパケットをログに記録します。

URL フィルタ

URL フィルタ設定

LAN 内のパソコンから、特定の Web サイトの閲覧ができないように設定することができます。

現在、本商品で閲覧禁止になっている Web サイトの一覧が表示されます。

■ [新規作成の [追加] ボタン

閲覧禁止にする Web サイトを追加する場合に使用します。
クリックすると、[アクセスを遮断する URL] 画面に切り替わります。

■ [Web サイトの URL] の [修正] ボタン

登録した URL (または IP アドレス) を編集する場合に使用します。
クリックすると、[アクセスを遮断する URL] 画面に切り替わります。

■ チェックボックス

チェックを外すと、Web サイトが一時閲覧可能になります。

■ [削除] ボタン

クリックすると、Web サイトが削除されます。

■ [IP アドレスの更新] ボタン

登録した URL が正しいかどうかチェックする場合、または Web サイトの IP アドレスを更新する場合にチェックします。

■ [表示の更新] ボタン

登録している Web サイトが存在するかどうかチェックする場合に使用します。

■ [OK] ボタンをクリック

設定を変更した場合、クリックすると変更内容が有効になります。

■ [キャンセル] ボタンをクリック

設定を変更した場合、クリックすると変更内容が破棄されます。

アクセスを遮断する URL

■ テキストボックス

閲覧禁止にする Web サイトの URL、または IP アドレスを入力します。

■ [OK] ボタン

設定を変更した場合、クリックすると変更内容が有効になります。

■ [キャンセル] ボタン

設定を変更した場合、クリックすると変更内容が破棄されます。

カスタム設定

DNS サーバや DHCP サーバ、設定ページにアクセスする際のパスワードや時刻設定、ファームウェアの更新などを行うページです。

カスタム設定

詳細設定の各機能がアイコンで表示されます。

- **DNS サーバ**
本商品の DNS サーバ機能で管理するホスト名と IP アドレスの組み合わせを、確認したり編集したりします。
- **ダイナミック DNS**
ダイナミック DNS サーバや、IP アドレスの通知について設定します。
- **DHCP サーバ**
本商品の DHCP サーバ機能の使用の有無を設定したり、割り当てる IP アドレスの範囲を変更します。
- **ルーティング**
IP 経路（スタティックルート）の情報を設定します。
- **ユーザ**
設定ページにアクセスするユーザ名やパスワードなどの情報を設定します。
- **日付と時刻**
本商品の日付や時刻を設定します。
- **ファームウェアアップデート**
本商品のファームウェアのバージョンなどを確認します。
- **IPSec**
IPSec による VPN 構築に関する設定を行います。
- **UPnP**
本商品の UPnP 機能について設定します。
- **システム設定**
本商品のホスト名、LAN 側のドメイン名、Syslog サーバなどを設定します。
- **診断ツール**
本商品から Ping を送信します。
- **設定情報の初期化**
本商品の設定内容を消去して、工場出荷の状態に戻します。
- **再起動**
本商品を設定ページから再起動させる際に使用します。

■ ファームウェア情報

本商品のファームウェアをバージョンアップします。

DNS サーバ

本商品の DNS サーバに登録されている、ホスト名と IP アドレスの組み合わせの一覧が表示されます。

■ [DNS エントリの追加] の [追加] ボタン

DNS サーバのテーブルにホスト名と IP アドレスの組み合わせを手動で登録する場合にクリックします。

■ [ホスト名] の [修正] ボタン

ホスト名と IP アドレスの組み合わせを修正する場合にクリックします。

■ [削除] ボタン

クリックすると、ホスト名と IP アドレスの組み合わせが削除されます。

■ [戻る] ボタン

クリックすると、元の画面に戻ります。

DNS エントリ

ホスト名と IP アドレスの組み合わせを新しく登録したり、設定済みの組み合わせを修正するときに使用します。

■ ホスト名

ホスト名と IP アドレスの組み合わせを新しく登録する場合に、新しく登録したいホスト名を入力します。

ホスト名と IP アドレスの対組み合わせを変更するときに、変更後のホスト名を入力します。

■ IP アドレス

DHCP サーバ機能を無効にしている場合のみ、この項目を編集することができます。

ホスト名に対応する IP アドレスを新しく登録するときは、その IP アドレスを入力します。ホスト名に対応する IP アドレスを変更するときは、変更後の IP アドレスを入力します。

■ [戻る] ボタン

設定を変更した場合、クリックすると変更内容が有効になります。

■ [キャンセル] ボタン

設定を変更した場合、クリックすると変更内容が破棄されます。

ダイナミック DNS

ダイナミック DNS サーバや、IP アドレスの通知について設定します。

■ 有効にする

一定時間ごとに、現在のグローバル IP アドレスをダイナミック DNS サーバへ通知する場合にチェックします。

■ ステータス

現在の更新状況が表示されます。

■ ユーザ名

登録したダイナミック DNS サーバに接続する場合のユーザ名を入力します。

■ パスワード

登録したダイナミック DNS サーバに接続する場合のパスワードを入力します。

■ ホスト名

ダイナミック DNS サーバに登録したホスト名を入力し、隣のリストからドメイン名を選択します。

■ メールサーバ

[ホスト名]で指定したダイナミック DNS サーバ以外から電子メールを受信する場合は、そのメールサーバのアドレスを入力します。

■ [OK] ボタン

設定を変更した場合、クリックすると変更内容が有効になります。

■ [キャンセル] ボタン

設定を変更した場合、クリックすると変更内容が破棄されます。

■ [更新する] ボタン

現在のグローバル IP アドレスを、今すぐダイナミック DNS サーバに通知する場合にクリックします。

■ [表示の更新] ボタン

ステータス表示を更新する場合にクリックします。

DHCP サーバ

本商品の DHCP サーバ機能で割り当てられている IP アドレスの範囲が表示されます。

■ チェックボックス

本商品の DHCP サーバ機能の使用の有無を設定します。DHCP サーバ機能が有効になっているときは、LAN 側のパソコンまたはネットワーク機器などに IP アドレスが発行されます。

■ [接続名] の [修正] ボタン

その接続での、DHCP サーバ機能の設定を変更する場合にクリックします。

■ [OK] ボタン

設定を変更した場合、クリックすると変更内容が有効になります。

■ [キャンセル] ボタン

設定を変更した場合、クリックすると変更内容が破棄されます。

■ [DHCP 設定] ボタン

DHCP サーバ機能で IP アドレスが割り当てられている場合、ホスト名や IP アドレスを確認する際にクリックします。

DHCP 設定 LAN ポート

本商品の DHCP サーバ機能を使用するかどうかや、割り当てる IP アドレスの範囲を設定します。

■ 有効

DHCP サーバ機能の有効/無効を選択します。

チェックすると、その接続のパソコンまたはネットワーク機器に対して、本商品の DHCP サーバ機能から IP アドレスが発行されるようになります。

■ IP アドレスの範囲

パソコンに割り当てる IP アドレスの範囲を設定します。

割り当て開始アドレス

パソコンに割り当てる IP アドレス範囲の最初の IP アドレスを入力します。

割り当て終了アドレス

パソコンに割り当てる IP アドレス範囲の最後の IP アドレスを入力します。

割り当てサブネットマスク

パソコンに割り当てるサブネットマスクを入力します。

■ WINS サーバ

WINS サーバの IP アドレスを入力します。

■ リース期間 (分)

DHCP サーバ機能で割り当てる IP アドレスの有効期限を、分単位で入力します。

- **クライアントにホスト名が設定されていないときにホスト名を自動的に割り当てる**
ホスト名が設定されていないパソコンに、自動的にホスト名を割り当てる場合、チェックします。
- **[OK] ボタン**
設定を変更した場合、クリックすると変更内容が有効になります。
- **[キャンセル] ボタン**
設定を変更した場合、クリックすると変更内容が破棄されます。

DHCP 設定

本商品からIPアドレスが発行されているパソコンやネットワーク機器の、ホスト名とIPアドレスの情報が表示されます。

- **ホスト名ごとの情報**
ホスト名ごとに、IPアドレス、MACアドレス、リースタイプ、接続タイプ、ステータスの情報が表示されます。
- **[固定IP割り当ての追加] の [追加] ボタン**
固定のIPアドレスとホスト名の対応を登録する場合にクリックします。
- **ホスト名の [修正] ボタン**
ホスト名とIPアドレスの対応を変更する場合や、IPアドレスの割り当て方法（動的か固定か）を変更する場合にクリックします。
- **[削除] ボタン**
クリックすると、登録された対応が削除されます。
- **[戻る] ボタン**
クリックすると、元の画面に戻ります。

DHCP 設定

ホスト名と、固定のIPアドレスの組み合わせを新しく作成したり、作成済みの組み合わせを変更します。

- **ホスト名とIPアドレスの対応**
ホスト名と、対応するIPアドレスが表示されます。
固定のIPアドレスを割り当てるように設定している場合のみ、[ホスト名][IPアドレス][MACアドレス] を入力することができます。
その場合、[MACアドレス] には、パソコンに装着されているLANカード/ボードなどのMACアドレスを入力してください。MACアドレスを設定すると、そのLANカード/ボードには常に同じIPアドレスが割り当てられます。
- **固定割り当て**
そのパソコンに常に固定のIPアドレスを発行したい場合にチェックを付けます。チェックを外すと、そのパソコンには [DHCPクライアント] 画面で設定した範囲内のIPアドレスが動的に発行されます。
- **[OK] ボタン**
設定を変更した場合、クリックすると変更内容が有効になります。
- **[キャンセル] ボタン**
設定を変更した場合、クリックすると変更内容が破棄されます。

ルーティング

IP 経路（スタティックルート）の情報が一覧で表示されます。

■ ルーティングテーブル

[ルートの追加] の [追加] ボタン

IP 経路（スタティックルート）を新しく追加する場合にクリックします。

IP 経路情報の [修正] ボタン

IP 経路情報を修正する場合にクリックします。

[削除] ボタン

クリックすると、そのデバイスの IP 経路情報が削除されます。

■ RIP 1/2 ルーティングプロトコル

ダイナミックルーティング（RIP）を使う場合にチェックします。

■ [OK] ボタン

設定を変更した場合、クリックすると変更内容が有効になります。

■ [キャンセル] ボタン

設定を変更した場合、クリックすると変更内容が破棄されます。

ルーティング設定

スタティックルーティングを設定します。

■ 接続名

スタティックルーティングを設定する接続名を選択します。

■ 送信先

パケットの送信先となるネットワークアドレスを入力します。

■ ネットマスク

パケットの送信先のネットマスクを入力します。

■ ゲートウェイ

送信先ネットワークに到達するための、近隣ゲートウェイのアドレスを入力します。

■ メトリック

送信先ネットワークに到達するまでのホップカウント（経由するゲートウェイの数）を設定します。

■ [OK] ボタン

設定を変更した場合、クリックすると変更内容が有効になります。

■ [キャンセル] ボタン

設定を変更した場合、クリックすると変更内容が破棄されます。

ユーザ

本商品に登録されているユーザ名が表示されます。

■ [ユーザの追加] の [追加] ボタン

設定ページにアクセスするユーザ名を新しく登録したり、PPTPを使用したVPNで、アクセスを許可するユーザを登録したりする場合にクリックします。

■ [ユーザ名] の [修正] ボタン

登録済みのユーザ情報を修正する場合にクリックします。

■ [削除] ボタン

クリックすると、そのユーザ名が削除されます。

■ [戻る] ボタン

設定を変更した場合、クリックすると変更内容が有効になります。

ユーザ設定

ユーザの情報を登録します。

■ ユーザの情報

フルネーム

そのユーザのフルネームなど、わかりやすい名前を入力します。半角英数字で128桁まで入力できます。

ユーザ名

そのユーザの名前（ログイン名）を入力します。半角英数字で64桁まで入力できます。大文字と小文字は別の文字として認識されますので、注意してください。
PPTPによるVPNのユーザを登録するときは、接続時に使用する名前を入力してください。

新しいパスワード

ユーザのログイン時に使用するパスワードを入力します。半角英数字で64桁まで入力できます。大文字と小文字は別の文字として認識されますので、注意してください。

新しいパスワードの確認

[新しいパスワード]に入力した内容をもう一度入力します。

■ 権限

ユーザの種類と権限を設定します。

管理者権限

選択したユーザに本商品の管理者権限を設定します。

この項目をチェックすると、そのユーザは外部から本商品にアクセスして、設定内容を変更することができるようになります。

[管理者権限] と [PPTP リモートアクセス] は、必ずどちらから片方、または両方をチェックしてください。

PPTP リモートアクセス

PPTP を使用した VPN のクライアントとして、そのユーザを登録します。

[管理者権限] と [PPTP リモートアクセス] は、必ず、どちらから片方、または両方をチェックしてください。

■ Email 通知

Email 通知機能で通知にする内容を設定します。

E-Mail アドレス

送信先の E-Mail アドレスを入力します。

システム通知レベル

本商品のシステムの状態を通知するレベルを選択します。

セキュリティ通知レベル

本商品のセキュリティの状態を通知するレベルを選択します。

■ 通知のレベル

エラー

重大なイベントが発生した際にメッセージを送信します。

警告

注意を要するイベントが発生した際に通知されます。警告を選択した場合は、エラーレベルのメッセージも通知されます。

情報

ユーザが本商品を使用した時の内容が通知されます。情報を選択したときは、エラーレベルと警告レベルのメッセージも通知されます。

なし

メールによる通知は行われません。

■ SMTP メールサーバの設定

システム設定画面に移動し、メールサーバのアドレスを入力します。

■ [OK] ボタン

設定を変更した場合、クリックすると変更内容が有効になります。

■ [キャンセル] ボタン

設定を変更した場合、クリックすると変更内容が破棄されます。

日付と時刻

本商品の日付と時刻を設定します。

■ 手動設定

日付

現在の日付を設定します。

時刻

現在の時間を 24 時間表記で設定します。

■ 自動設定

指定したタイムサーバに自動でアクセスして、時刻の情報を取得するかどうか設定します。

有効

自動で時刻の情報を取得するときはチェックします。

NTP サーバアドレス

時刻を取得するタイムサーバのアドレスを入力します。

■ [OK] ボタン

設定を変更した場合、クリックすると変更内容が有効になります。

■ [キャンセル] ボタン

設定を変更した場合、クリックすると変更内容が破棄されます。

ファームウェアアップデート

ファームウェアの状況が表示されます。

■[参照] ボタン

クリックすると、ファームウェアのファイルを指定するダイアログが表示されます。

■[OK] ボタン

クリックすると、ファームウェアアップデートが開始します。

■[キャンセル] ボタン

クリックすると、ファームウェアアップデートせずに元の画面に戻ります。

IPSec

IPSec による VPN に関する設定を行います。

- **接続名の [修正] ボタン**
接続名を修正する場合にクリックします。 [ネットワーク接続 VPN IPSec]
- **[削除] ボタン**
クリックすると、IPSec による接続設定が削除されます。
- **[戻る] ボタン**
クリックすると、元の画面に戻ります。
- **[詳細設定] ボタン**
IPSec の通信で、相手と共有する公開鍵を生成する場合にクリックします。
- **[ログ設定] ボタン**
IPSec、IKE (Internet Key Exchange) を使用した通信時のログについて、設定を変更する場合にクリックします。

詳細設定

IPSec での暗号化通信で、相手と共有するパブリック・キーを生成します。

- **IPSec 公開鍵**
公開鍵の内容が表示されます。
- **[鍵の再生成] ボタン**
クリックすると、パブリック・キーが再作成され、[パブリックキー] の内容が更新されます。
- **[戻る] ボタン**
クリックすると、元の画面に戻ります。
- **[表示の更新] ボタン**
クリックすると、画面の内容が最新の情報で更新されます。

ログ設定

IPSec による通信時のログについて、設定を変更します。

- **IKE ログ設定**
保存する IKE のログにチェックします。
- **IPSec ログ設定**
保存する IPSec のログにチェックします。
- **[OK] ボタン**
設定を変更した場合、クリックすると変更内容が有効になります。
- **[キャンセル] ボタン**
設定を変更した場合、変更内容が破棄されます。

UPnP

UPnP 機能の使用/不使用を設定します。

■ UPnP を有効にする

チェックすると、UPnP 機能が有効になります。

■ [OK] ボタン

設定を変更した場合、クリックすると変更内容が有効になります。

■ [キャンセル] ボタン

設定を変更した場合、クリックすると変更内容が破棄されます。

システム設定

本商品のホスト名や LAN 側のドメイン名などを設定します。

■ システム

本商品のホスト名を入力します。

Web Caster 7000 **ホスト名**

本商品のホスト名を入力します。

ローカルドメイン

LAN 側のドメイン名を入力します。

■ Web Caster 7000 設定画面

システム情報ページの表示の自動更新を行なう

[システム情報] の各画面に切り替えている際に、表示を一定間隔で更新したい場合にチェックを付けます。

ネットワーク設定の変更時に確認を行なう

DHCP サーバ機能や本商品の IP アドレスなど、ネットワークに関する設定変更の際に、確認のメッセージを表示させる場合にチェックします。

■ システムリモートログ設定

システム通知レベル

本商品のシステムの状態を通知するレベルを選択します。

システム通知 syslog サーバアドレス

syslog サーバのアドレスを入力します。

■ セキュリティリモートログ設定

セキュリティ通知レベル

本商品のセキュリティ状態を通知するレベルを選択します。

セキュリティ通知 syslog サーバアドレス

syslog サーバのアドレスを入力します。

■ SMTP メールサーバ

本商品からの通知などをメールで送信したい場合に使用します。

E-mail 通知機能を使う場合に、メールサーバアドレスを入力します。

■ [OK] ボタン

設定を変更した場合、クリックすると変更内容が有効になります。

■ [キャンセル] ボタン

設定を変更した場合、クリックすると変更内容が破棄されます。

診断ツール

本商品から指定したIPアドレスに向けてPingコマンドを実行します。

■ Ping (ICMP Echo)

送信先IPアドレスまたはホスト名

Pingを送信する送信先アドレスを入力します。

ステータス

Ping送信時のステータスが表示されます。

パケット数

送信したパケット数、受信したパケット数、損失率が表示されます。

応答時間

Pingの応答時間が最大、最小、平均で表示されます。

■ [送信] ボタン

Pingの送信を開始します。

■ [戻る] ボタン

前の画面に戻ります。

■ [表示の更新] ボタン

クリックすると、ステータス表示を更新します。

設定情報の初期化

本商品の設定内容を、購入時の状態に戻します。

■ [OK] ボタン

クリックすると、本商品の設定内容が消去されます。
消去後は、設定ページにログインするユーザ名とパスワードを再設定する画面に切り替わります。

■ [キャンセル] ボタン

クリックすると、本商品の設定内容は消去されずに元の画面に戻ります。

再起動

本商品を再起動します。

■ [OK] ボタン

クリックすると、本商品が終了し再起動します。再起動後は、設定ページにログインし直す画面に切り替わります。

■ [キャンセル] ボタン

クリックすると、再起動はされずに元の画面に戻ります。

ファームウェア情報

本商品のファームウェアのバージョンなどの情報が表示されます。

■ バージョン

本商品のファームウェアバージョンが表示されます。

■ モデル

本商品のモデル名が表示されます。

■ [OK] ボタン

クリックすると、元の画面に戻ります。

接続状況

ネットワークの利用状況や本商品の稼働時間などを確認するページです。

接続状況

インターネットへの接続状態や、WAN側/LAN側ポートのIPアドレス、パケットの状況を確認できます。

■ [接続状況] [移動時間] ボタン

[接続状況] [移動時間] の各画面を切り替える場合にクリックします。

■ ネットワークの情報

インターネットへの接続情報、ポートのIPアドレス、デフォルトゲートウェイのIPアドレス、DNSサーバのIPアドレスなどが表示されます。

■ [自動更新 Off] ボタン

[接続状況] の自動更新を停止する場合にクリックします。自動更新を停止した場合は、[表示の更新] ボタンのクリックによってのみ、画面の内容が更新されます。

■ [表示の更新] ボタン

クリックすると、[接続状況] 画面の内容が最新の情報で更新されます。

稼働時間

本商品の稼働時間が表示されます。

■ [自動更新 Off] ボタン

[接続状況] の自動更新を停止する場合にクリックします。自動更新を停止した場合、[表示の更新] ボタンのクリックによってのみ、画面の内容が更新されます。

■ [表示の更新] ボタン

クリックすると、[接続状況] 画面の内容が最新の情報で更新されます。

オプション設定

本商品の別売りオプションを接続し、設定を行います。

カスタム設定

オプション設定

- **無線 LAN アクセスポイント (Web Caster FT-STC-Pa)**
本商品に Web Caster FT-STC-Pa を接続し、アクセスポイントの設定を行う場合に選択します。
- **無線 LAN アクセスポイント (Web Caster FT-STC-Pb)**
本商品に Web Caster FT-STC-Pb を接続し、アクセスポイントの設定を行う場合に選択します。
- **USB カメラ**
本商品に USB カメラ「EE260」を接続し、USB カメラの設定を行う場合に選択します。
- **PC カードメモリ**
本商品に接続した PC カードメモリのアンマウントを行う場合に選択します。
- **ダイナミック DNS (DP-21.NET)**
DP-21.NET ダイナミック DNS サービスの設定を行う場合に選択します。

無線 LAN アクセスポイント (Web Caster FT-STC-Pa)

本商品に Web Caster FT-STC-Pa を接続し、802.11a アクセスポイントとして使用する場合は設定を行います。

■ 基本設定

[SSID]

アクセスポイントの SSID を入力します。半角英数字で最大 32 文字になります。

[チャンネル]

ワイヤレスネットワークで使用するチャンネルを 34/38/42/46 から選択します。

[送信速度]

アクセスポイントに設定する速度を、自動/54/48/36/24/18/12/6Mbps から選択します。

暗号化

[暗号化する]

ワイヤレスネットワークで暗号化を行う場合は、チェックします。

[キー 1/キー 2/キー 3/キー 4]

64bitWEP を使用する場合は 16 進数で 10 文字、128bitWEP を使用する場合は 16 進数で 26 文字を入力します。

[デフォルトキー]

暗号化の際に使用するキー番号を 1 ~ 4 から選択します。

■ セキュリティ

[ANY 拒否/SSID を隠す]

ANY に設定されたクライアントを拒否し、SSID をクライアントから検索できないようにする場合はチェックします。

■ MAC アドレスフィルタリング

[MAC アドレスフィルタリング有効]

MAC アドレスフィルタリングを行う場合は、チェックします。

[フィルタリング動作]

許可を選択した場合は、本商品に登録された MAC アドレスのクライアントだけが通信できます。

拒否を選択した場合は、本商品に登録された MAC アドレスのクライアントは通信ができません。

[MAC アドレス]

本商品に登録する MAC アドレスを入力します。

■ [追加] ボタン

MACアドレスを追加する場合にクリックします。

■ [削除] ボタン

MACアドレスを削除する場合にクリックします。

■ フィルタリスト

本商品に登録されてるMACアドレスが表示されます。

■ [OK] ボタン

設定を変更した場合、クリックすると変更内容が有効になります。

■ [キャンセル] ボタン

設定を変更した場合、クリックすると変更内容が破棄されます。

無線 LAN アクセスポイント (Web Caster FT-STC-Pb)

本商品にWeb Caster Web Caster FT-STC-Pbを接続し、802.11bアクセスポイントとして使用する場合の設定を行います。

■ 基本設定**[SSID]**

アクセスポイントのSSIDを入力します。半角英数字で最大32文字になります。

[チャンネル]

ワイヤレスネットワークで使用するチャンネルを1/2/3/4/5/6/7/8/9/10/11/12/13/14 から選択します。

[送信速度]

アクセスポイントに設定する速度を、自動/11/5.5/2/1Mbps から選択します。

■ 暗号化**[暗号化する]**

ワイヤレスネットワークで暗号化を行う場合は、チェックします。

[キー 1/キー 2/キー 3/キー 4]

64bitWEPを使用する場合は16進数で10文字、128bitWEPを使用する場合は16進数で26文字を入力します。

[デフォルトキー]

暗号化の際に使用するキー番号を1～4から選択します。

■ セキュリティ**[ANY 拒否/SSID を隠す]**

ANYに設定されたクライアントを拒否し、SSIDをクライアントから検索できないようにする場合はチェックします。

■ MAC アドレスフィルタリング

[MAC アドレスフィルタリング有効]

MAC アドレスフィルタリングを行う場合は、チェックします。

[フィルタリング動作]

許可を選択した場合は、本商品に登録された MAC アドレスのクライアントだけが通信できます。

拒否を選択した場合は、本商品に登録された MAC アドレスのクライアントは通信ができません。

[MAC アドレス]

本商品に登録する MAC アドレスを入力します。

■ [追加] ボタン

MAC アドレスを追加する場合にクリックします。

■ [削除] ボタン

AC アドレスを削除する場合にクリックします。

■ フィルタリスト

本商品に登録されてる MAC アドレスが表示されます。

■ [OK] ボタン

設定を変更した場合、クリックすると変更内容が有効になります。

■ [キャンセル] ボタン

設定を変更した場合、クリックすると変更内容が破棄されます。

USB カメラ

本商品に USB カメラ「EE260」を接続し、USB カメラの設定を行います。

■ USB カメラ オン

USB カメラを有効にする場合選択します。

■ USB カメラ オフ

USB カメラを無効にする場合選択します。

■ 動画ビットレート 高 (512 kbps)

動画のビットレートを 512 kbps に設定する場合選択します。

■ 動画ビットレート 低 (128 kbps)

動画のビットレートを 128 kbps に設定する場合選択します。

PC カードメモリ

本商品に接続したPCカードメモリを取り外します。

■ [アンマウント] ボタン

PCカードを取り外す場合にクリックします。

■ [キャンセル] ボタン

クリックすると、一つ前の画面に戻ります。

ダイナミックDNS (DP-21.NET)

DP-21.NETダイナミックDNSサービスを利用する場合に設定します。

■ 有効にする

設定を有効にする場合チェックします。

■ ユーザ名 (半角英数字、最大64桁)

あらかじめ登録してあるユーザ名を入力します。

■ パスワード (半角英数字、最大64桁)

パスワードを入力します。

■ 更新間隔

グローバルIPアドレスの更新間隔を選択します。

ログアウト

本商品の設定画面からログアウトする場合にクリックします。

第 9 章

資料

パソコンのIPアドレスの管理や用語集などです。

パソコンのIPアドレスの管理	9-2
IPアドレスの確認	9-2
IPアドレスの変更	9-8
IPアドレスの再取得	9-21
MACアドレスの確認	9-26
用語解説	9-32
設定記入シート	9-37

パソコンのIPアドレスの管理

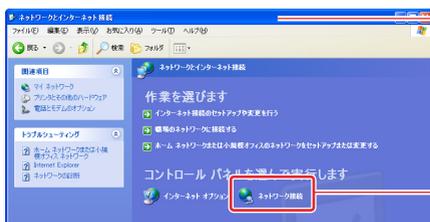
IP アドレスの確認

LAN 側のパソコンに設定されている IP アドレスの確認方法を解説します。

Windows® XP

ここでは、Windows® XP の通常表示モード（カテゴリー表示モード）を前提に説明します。

- 1 [スタート]メニューから [コントロールパネル] を選択し、[ネットワークとインターネット接続] を選択します。
- 2 [ネットワーク接続] をクリックします。



[ネットワークとインターネット接続] 画面が表示されます。

クリックします。

- 3 [ローカルエリア接続] をクリックします。

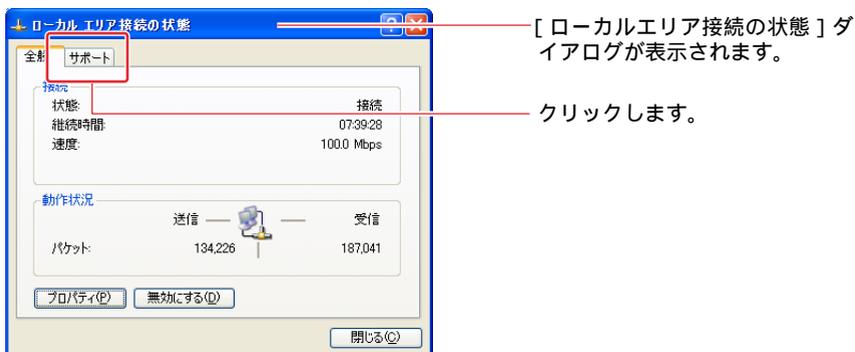


[ネットワーク接続] 画面が表示されます。

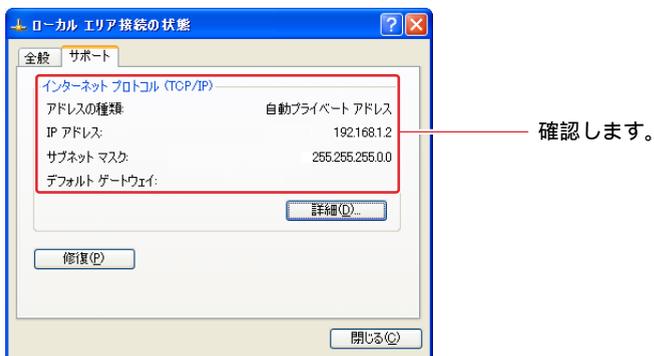
右クリックします。

選択します。

4 [サポート] をクリックします。

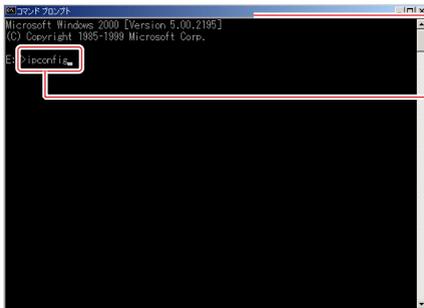


5 [インターネットプロトコル (TCP/IP)] の [IP アドレス] 欄に現在の IP アドレスが表示されます。



6 以上で IP アドレスの確認は終了です。

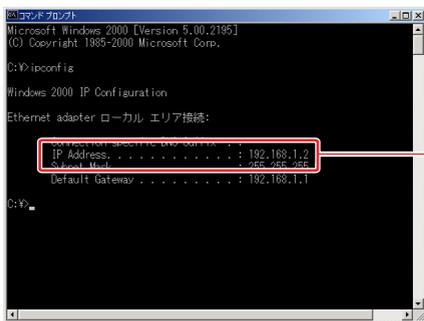
- 1 [スタート]メニューから[プログラム] - [アクセサリ] - [コマンドプロンプト]を選択します。
コマンドプロンプトの画面が表示されます。
- 2 [ipconfig]と入力し、[Enter]キーを押します。



コマンドプロンプトの画面が表示されます。

入力します。

- 3 使用するアダプタを選択します。[IPアドレス]欄に、現在設定されているIPアドレスが表示されます。



表示されます。

ここでは、Windows® Meを例にして、現在のIPアドレスを確認します。Windows® 98をお使いのお客さまは、同様の手順でご確認ください。

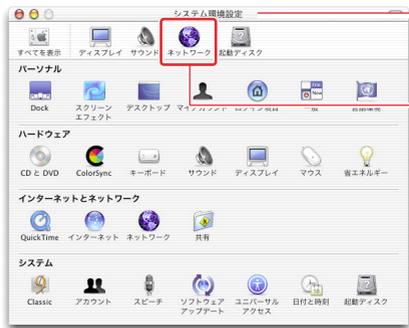
- 1 [スタート]メニューから[ファイル名を指定して実行]を選択します。
- 2 [名前]欄に「winipcfg」と入力して[OK]ボタンをクリックします。



- 3 使用するアダプタを選択します。[IP アドレス]欄に、現在設定されているIPアドレスが表示されます。



- 1 画面左上のアップルメニューから、[システム環境設定] を選択します。
- 2 [ネットワーク] をクリックします。



[システム環境設定] 画面が表示されます。

クリックします。

- 3 画面の下側が切り替わります。[IP アドレス] 欄に、現在設定されている IP アドレスが表示されます。



[ネットワーク] 画面が表示されます。

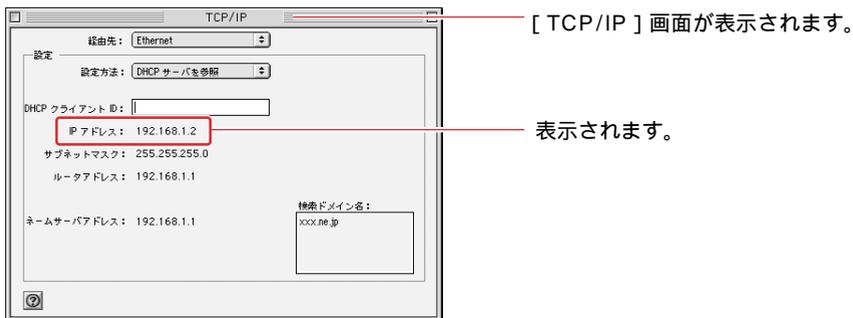
画面の下側が切り替わります。

表示されます。

Mac OS®(8~9)

ここでは、MacOS®9を例にして、現在のIPアドレスを確認します。他のバージョンをお使いのお客さまも、同様の手順でご確認ください。

- 1 画面左上のアップルメニューから、[コントロールパネル] - [TCP/IP] を選択します。
- 2 [IPアドレス] 欄に、現在設定されているIPアドレスが表示されます。



IP アドレスの変更

本商品の DHCP サーバ機能を利用しないで、パソコンに固定の IP アドレスを割り当てる方法を説明します。

！ ご注意

パソコンに固定の IP アドレスを割り当てるときは、設定する IP アドレスにご注意ください。誤った IP アドレスを設定してしまうと、LAN 側の他の端末やインターネットと通信できなくなることがあります。

Windows® XP

ここでは、Windows® XP の通常表示モード（カテゴリー表示モード）を前提に説明します。

- 1 [スタート]メニューから [コントロールパネル] を選択し、[ネットワークとインターネット接続] を選択します。
- 2 [ネットワーク接続] をクリックします。



[ネットワークとインターネット接続] 画面が表示されます。

クリックします。

- 3 [ローカルエリア接続] アイコンを右クリックし、[プロパティ] を選択します。

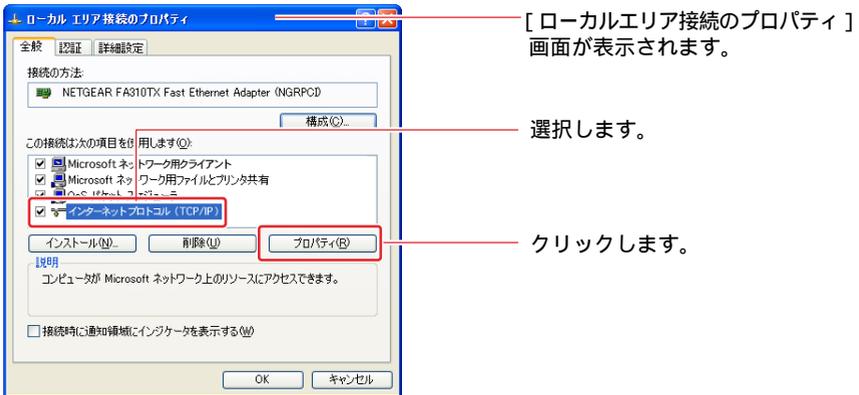


[ネットワーク接続] 画面が表示されます。

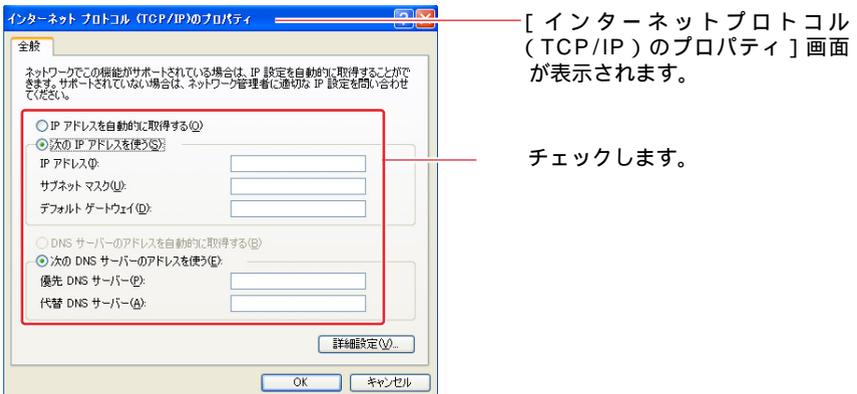
右クリックします。

選択します。

4 [インターネットプロトコル (TCP/IP)] を選択し、[プロパティ] ボタンをクリックします。



5 [次のIPアドレスを使う] [次のDNSサーバアドレスを使う] にチェックをつけます。



6 IPアドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイ、DNSサーバのアドレスを入力します。



[次の IP アドレスを使う]

チェックを付けます。

[IP アドレス]

このパソコンに割り当てる IP アドレスを入力します。

IP アドレスは、本商品や LAN 内の他のパソコン、およびネットワーク機器と重複しないように設定してください。

[サブネットマスク]

本商品 LAN 側ポートに設定されているものと同じサブネットマスクを入力します。

[デフォルトゲートウェイ]

デフォルトゲートウェイアドレスを入力します。本商品をデフォルトゲートウェイにする場合は、本商品の LAN 側ポートに設定されている IP アドレスを入力します。

[次の DNS サーバーのアドレスを使う]

チェックを付けます。

[優先 DNS サーバー]

DNS サーバアドレスを入力します。本商品を DNS サーバにすると場合は、本商品の LAN 側ポートに設定されている IP アドレスを入力します。

購入時は、本商品の LAN 側ポートの IP アドレスは「192.168.1.1」が設定されています。

9 6 [OK] ボタンをクリックします。

7 以上で設定は終了です。

- 1 [スタート]メニューから[設定] - [コントロールパネル]を選択し、[ネットワークとダイヤルアップ接続]アイコンをダブルクリックします。
- 2 [ローカルエリア接続]アイコンを右クリックし、[プロパティ]を選択します。



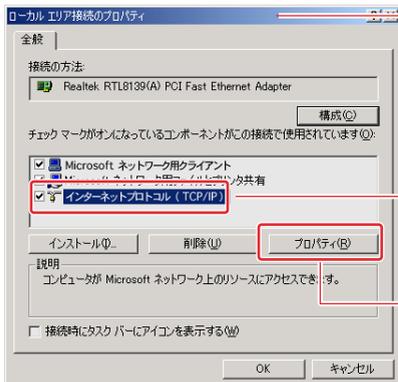
[ネットワークとダイヤルアップ接続]画面が表示されます。

右クリックします。

選択します。

お使いのパソコンに複数のLANボード/カードが設置されているときは、本商品との接続に使用しているLANボード/カードの[ローカルエリア接続]を選択してください。

- 3 [インターネットプロトコル(TCP/IP)]を選択し、[プロパティ]ボタンをクリックします。

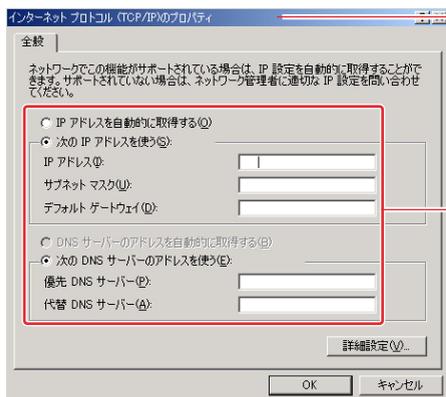


[ローカルエリア接続のプロパティ]ダイアログが表示されます。

選択します。

クリックします。

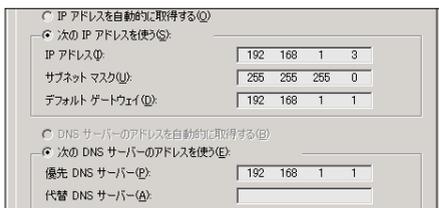
4 [次のIPアドレスを使う] [次のDNSサーバのアドレスを使う] にチェックをつけます。



[インターネットプロトコル (TCP/IP) のプロパティ] 画面が表示されます。

チェックします。

5 IPアドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイ、DNSサーバのアドレスを入力します。



[次のIPアドレスを使う]

チェックを付けます。

[IPアドレス]

このパソコンに割り当てるIPアドレスを入力します。

IPアドレスは、本商品やLAN内の他のパソコン、およびネットワーク機器と重複しないように設定してください。

[サブネットマスク]

本商品LAN側ポートに設定されているものと同じサブネットマスクを入力します。

[デフォルトゲートウェイ]

デフォルトゲートウェイアドレスを入力します。本商品をデフォルトゲートウェイにする場合は、本商品のLAN側ポートに設定されているIPアドレスを入力します。

[次のDNSサーバのアドレスを使う]

チェックを付けます。

[優先DNSサーバー]

DNSサーバアドレスを入力します。本商品をDNSサーバにすると場合は、本商品のLAN側ポートに設定されているIPアドレスを入力します。

購入時は、本商品のLAN側ポートのIPアドレスは「192.168.1.1」が設定されています。

6 [OK] ボタンをクリックします。

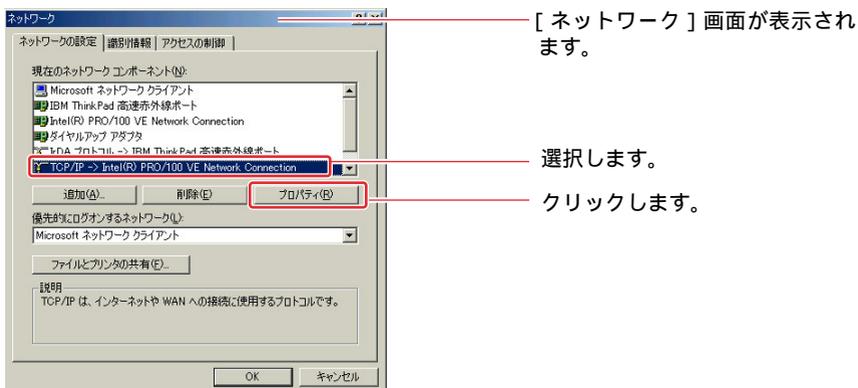
7 以上で設定は終了です。

ここでは、Windows® Meを例にして、IPアドレスの設定を行います。Windows® 98をお使いのお客様は同様の手順で設定してください。

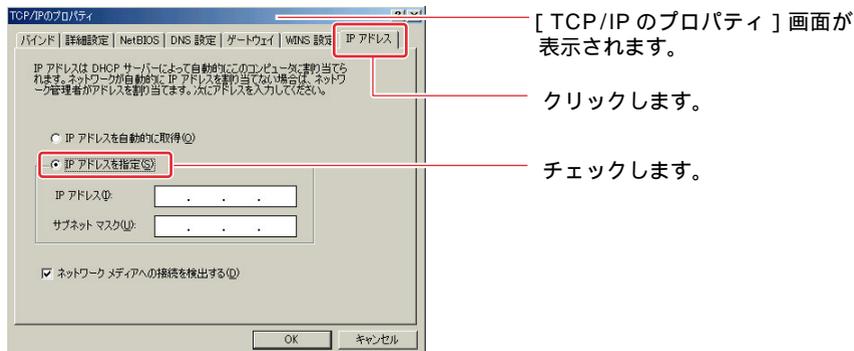
- 1 [スタート]メニューから[設定] - [コントロールパネル]を選択し、[ネットワーク]アイコンをダブルクリックします。

コントロールパネルに[ネットワーク]が表示されていないときは、コントロールパネルのウィンドウの左側にある[すべてのコントロールパネルのオプションを表示する]をクリックしてください。

- 2 [TCP/IP]を選択し、[プロパティ]ボタンをクリックします。



- 3 [IPアドレス]タブをクリックし、[IPアドレスを指定]にチェックを付けます。



4 [IPアドレス] [サブネットマスク] を入力します。

[IP アドレスを指定]

チェックを付けます。

[IP アドレス]

このパソコンに割り当てる IP アドレスを入力します。

IP アドレスは、本商品や LAN 内の他のパソコン、およびネットワーク機器と重複しないように設定してください。

[サブネットマスク]

本商品 LAN 側ポートに設定されているものと同じサブネットマスクを入力します。

5 [ゲートウェイ] タブをクリックします。

[新しいゲートウェイ] にアドレスを入力し、[追加] ボタンをクリックします。

[新しいゲートウェイ]

本商品の LAN 側ポートに設定されている IP アドレスを入力します。

購入時は、本商品の LAN 側ポートの IP アドレスは、「192.168.1.1」が設定されています。

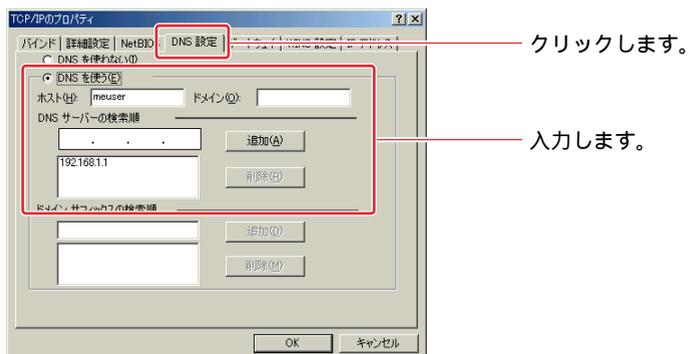
[[追加] ボタン]

[新しいゲートウェイ] を入力した後で、クリックします。

[インストールされているゲートウェイ]

ゲートウェイとして設定されている IP アドレスが表示されます。

- 6 [DNS 設定] タブをクリックします。
[DNS サーバーの検索順] にアドレスを入力し、[追加] ボタンをクリックします。



[DNS を使う]

チェックを付けます。

[ホスト]

パソコンのホスト名を入力します。

[DNS サーバーの検索順]

DNS サーバアドレスを入力します。本商品を DNS サーバにする場合は、本商品の LAN 側ポートに設定されている IP アドレスを入力します。

購入時は、本商品の LAN 側ポートの IP アドレスは「192.168.1.1」が設定されています。

[[追加] ボタン]

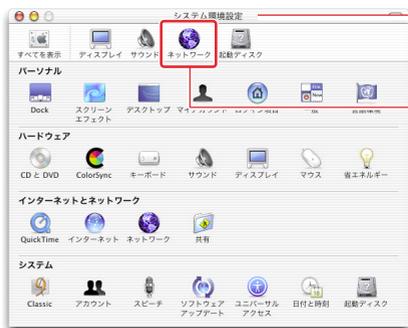
[DNS サーバーの検索順] の IP アドレスを入力した後で、クリックします。

- 7 [OK] ボタンをクリックします。

Windows® の再起動を促すメッセージが表示されたら、[はい] ボタンをクリックします。

- 8 以上で設定は終了です。

- 1 画面左上のアップルメニューから、[システム環境設定] を選択します。
- 2 ネットワークをクリックします。



[システム環境設定] 画面が表示されます。

クリックします。

- 3 [TCP/IP] タブをクリックし、IP アドレスやサブネットマスクなどを入力します。



画面の下側が切り替わります。

クリックします。

入力します。

[表示]

「内蔵Ethernet」を選択します。

[設定]

「手入力」を選択します。

[IPアドレス]

このパソコンに割り当てるIPアドレスを入力します。

IPアドレスは、本商品やLAN内の他のパソコン、およびネットワーク機器と重複しないように設定してください。

[サブネットマスク]

本商品LAN側ポートに設定されているものと同じサブネットマスクを入力します。

[ルータ]

本商品のLAN側ポートに設定されているIPアドレスを入力します。

[DNSサーバ]

DNSサーバアドレスを入力します。本商品をDNSサーバにするときは、本商品のLAN側ポートに設定されているIPアドレスを入力します。

購入時は、本商品のLAN側ポートのIPアドレスは「192.168.1.1」が設定されています。

[検索ドメイン]

プロバイダからドメイン名を指定されているときは、ドメイン名を入力します。

4 [今すぐ適用] ボタンをクリックします。

5 以上で設定は終了です。

Mac OS® (8~9)

ここでは、MacOS®9を例にしてIPアドレスの設定を行います。他のバージョンをお使いの皆さまも、同様の手順で設定してください。

- 1 画面左上のアップルメニューから、[コントロールパネル] - [TCP/IP] を選択します。
- 2 設定方法から [手入力] を選択し、IPアドレスやサブネットマスクなどを入力します。



[経由先]

「Ethernet」を選択します。

[設定方法]

「手入力」を選択します。

[IP アドレス]

このパソコンに割り当てるIPアドレスを入力します。

IPアドレスは、本商品やLAN内の他のパソコン、およびネットワーク機器と重複しないように設定してください。

サブネットマスク

本商品 LAN 側ポートに設定されているものと同じサブネットマスクを入力します。

[ルータアドレス]

本商品の LAN 側ポートに設定されている IP アドレスを入力します。

[ネームサーバアドレス]

本商品の LAN 側ポートに設定されている IP アドレスを入力します。

購入時は、本商品の LAN 側ポートの IP アドレスは「192.168.1.1」が設定されています。

[検索ドメイン名]

プロバイダからドメイン名を指定されている場合は、ドメイン名を入力します。

- 3 ダイアログの左上のクローズボックスをクリックします。
設定内容の保存を確認するメッセージが表示されたら、[保存] ボタンをクリックします。
- 4 以上で設定は終了です。

IP アドレスの再取得

パソコンのIPアドレスをDHCPサーバから取得する設定の場合、以前に割り当てられたIPアドレスを無効にして、IPアドレスを取得し直す方法を解説します。

Windows® XP

ここでは、Windows® XPの通常表示モード（カテゴリ表示モード）を前提に説明します。

- 1 [スタート] - [コントロールパネル] - [ネットワークとインターネット接続] を選択します。
- 2 [ネットワーク接続] をクリックします。



[ネットワークとインターネット接続] 画面が表示されます。

クリックします。

- 3 [ローカルエリア接続] を右クリックし、[状態] を選択します。

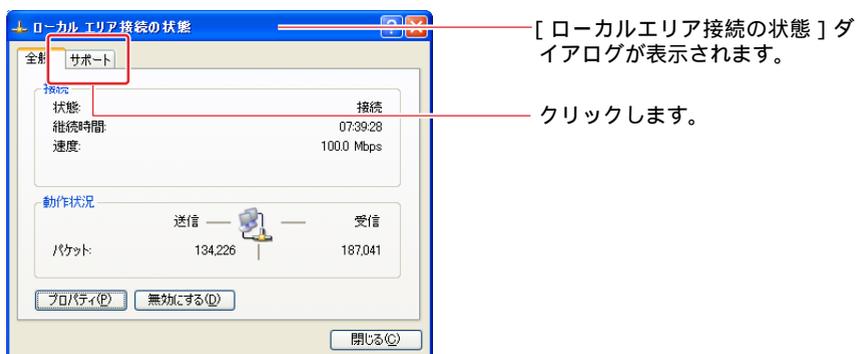


[ネットワーク接続] 画面が表示されます。

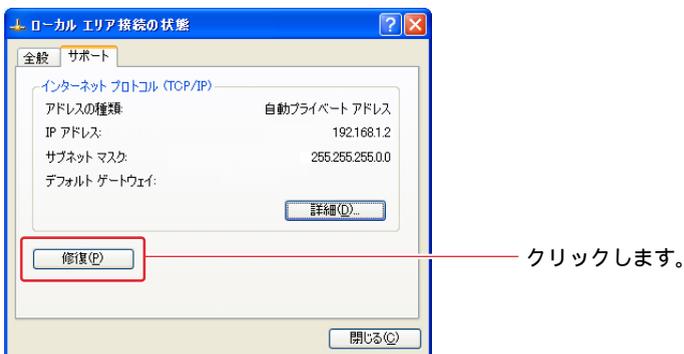
右クリックします。

選択します。

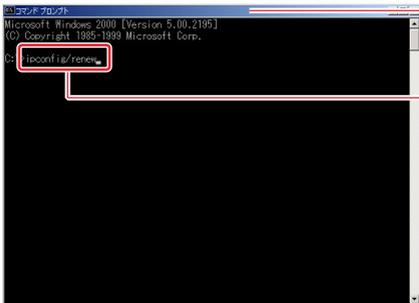
4 [サポート]タブをクリックします。



5 [修復]ボタンをクリックします。それまで設定されていたIPアドレスが無効になり、DHCPサーバから新しいIPアドレスが割り当てられます。



- 1 [スタート]メニューから[プログラム] - [アクセサリ] - [コマンドプロンプト]を選択します。
- 2 [ipconfig /renew]と入力して[Enter]キーを押しますそれまで設定されていたIPアドレスが無効になり、DHCPサーバから新しいIPアドレスが割り当てられます。

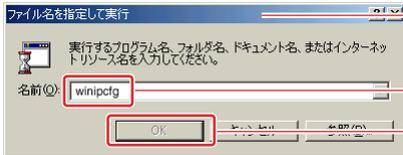


コマンドプロンプトの画面が表示されます。

入力します。

ここでは、Windows® Meを例にします。

- 1 [スタート]メニューから[ファイル名を指定して実行]を選択します。
- 2 [名前]欄に「winipcfg」と入力して[OK]ボタンをクリックします。



[ファイル名を指定して実行]画面が表示されます。

入力します。

クリックします。

- 3 [解放]ボタンをクリックし、続けて[書き換え]ボタンをクリックします。
それまで設定されていたIPアドレスが無効になり、DHCPサーバから新しいIPアドレスが割り当てられます。



[IP 設定] ダイアログが表示されます。

クリックします。

- 1 Macintosh® を再起動します。
再起動時に、DHCP サーバから新しいIPアドレスが割り当てられます。

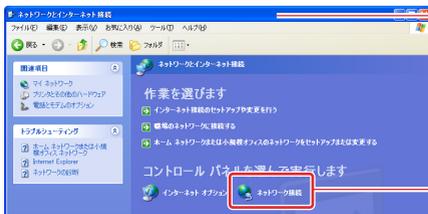
MAC アドレスの確認

本商品の DHCP サーバ機能では、同じパソコンに装着されている複数の LAN ボード/カードに同じ IP アドレスを割り当てることができます。このような場合に MAC アドレスを確認する方法を解説します。

Windows® XP

ここでは、Windows® XP の通常表示モード（カテゴリー表示モード）を前提に説明します。

- 1 [スタート] - [コントロールパネル] - [ネットワークとインターネット接続] を選択します。
- 2 [ネットワーク接続] をクリックします。



[ネットワークとインターネット接続] 画面が表示されます。

クリックします。

- 3 [ローカルエリア接続] を右クリックし、[状態] を選択します。

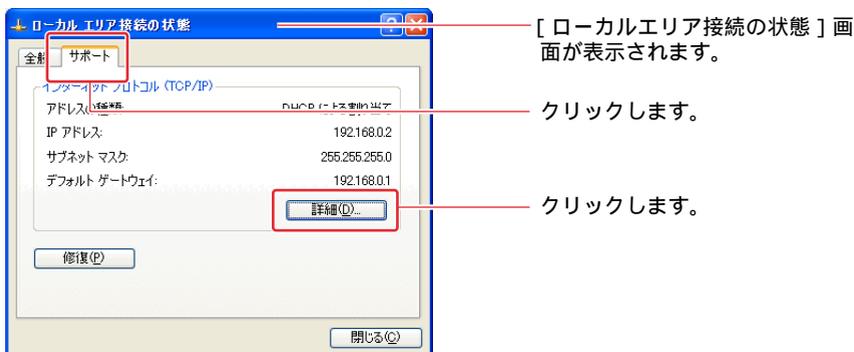


[ネットワーク接続] 画面が表示されます。

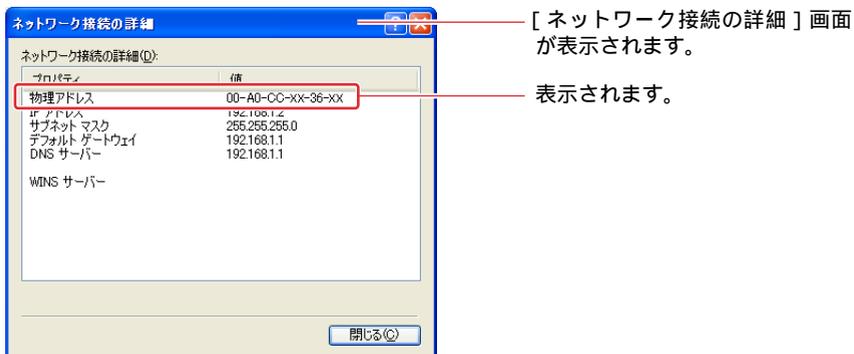
右クリックします。

選択します。

4 [サポート] タグをクリックし、[詳細] ボタンをクリックします。



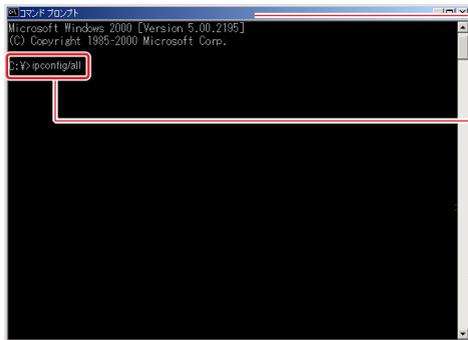
5 [物理アドレス] 欄に、現在使用している LAN アダプタの MAC アドレスが表示されます。



6 以上で確認作業は終了です。

Windows® 2000

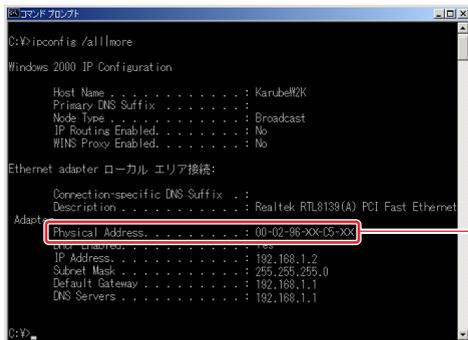
- 1 [スタート]メニューから[プログラム] - [アクセサリ] - [コマンドプロンプト]を選択します。
- 2 [ipconfig /all] と入力して、[Enter] キーを押します。



[コマンドプロンプト] 画面が表示されます。

入力します。

- 3 [Physical Address] 欄に現在使用している、LAN アダプタの MAC アドレスが表示されます。

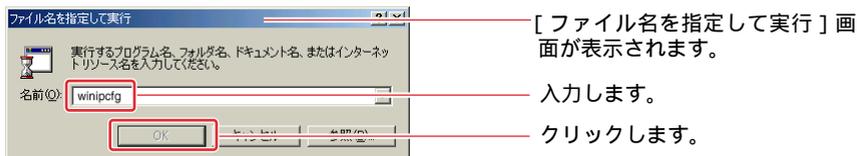


表示されます。

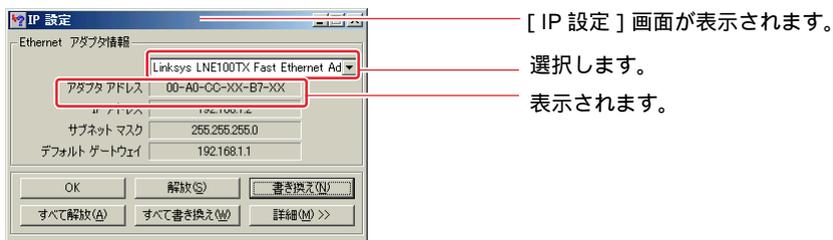
ここでは、Windows® Meを例にして、MACアドレスを確認する方法について説明します。Windows® 98 をお使いのお客さまも同様の手順でご確認ください。

1 [スタート]メニューから[ファイル名を指定して実行]を選択します。

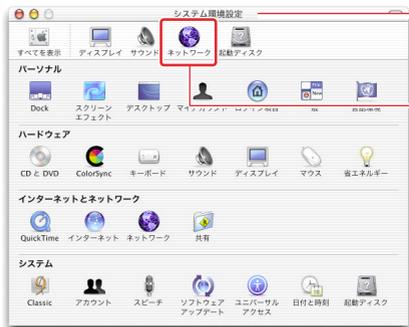
2 [名前]欄に[winipcfg]と入力し、[OK]ボタンをクリックします。



3 使用するLANアダプタを選択します。[アダプタアドレス]欄に選択したLANアダプタのMACアドレスが表示されます。



- 1 画面左上のアップルメニューから、[システム環境設定] を選択します。
- 2 [ネットワーク] をクリックします。



[システム環境設定] 画面が表示されます。

クリックします。

- 3 [Ethernet アドレス] 欄に現在使用している LAN アダプタの MAC アドレスが表示されます。



画面の下側が切り替わります。

表示されます。

Mac OS® (8~9)

ここでは、MacOS® 9 を例にして、MAC アドレスを確認する方法について説明します。MacOS® 8 をお使いのお客さまはも同様の手順でご確認ください。

- 1 画面左上のアップルメニューから、[Apple システム・プロフィール] を選択し、[ネットワーク概略] [AppleTalk] の順に▶をクリックします。
- 2 [ハードウェアアドレス] 欄に、現在使用している LAN アダプタの MAC アドレスが表示されます。



表示されます。

用語解説

- **ADSL (Asymmetric Digital Subscriber Line : 非対称デジタル加入者回線)**
通信速度が上り方向と下り方向で非対称なデータ通信技術です。家庭に普及しているアナログの電話線を使い、インターネットへの高速で安価な接続環境を提供します。
- **ALG (Application Layer Gateway : アプリケーション層ゲートウェイ)**
オンラインゲームやチャットなどの特定アプリケーションやプロトコルで、経路上に存在するゲートウェイが内部ネットワークと外部ネットワークの橋渡しをする機能です。
- **bps (bits per second)**
通信速度の単位です。1秒間に転送できるビット数をあらわします。
- **B フレッツ**
NTT 東日本・NTT 西日本が提供する、光ファイバをアクセスラインとするインターネット通信料完全定額制サービスです。光ファイバならではの高速通信が利用できます。
- **DHCP (Dynamic Host Configuration Protocol)**
コンピュータやネットワーク機器のアドレスやサブネットマスクなどのIP設定を、自動構成するプロトコルです。
- **DMZ (DeMilitarized Zone : 非武装地帯)**
インターネットとの通信を制限しないネットワークセグメントのこと。ファイアウォールやルータによって配置、主にインターネットに公開するサーバを設置します。
- **DNS (Domain Name System)**
IPアドレスやドメイン名を管理する機能です。ホスト名からIPアドレス、またはIPアドレスからホスト名を調べることができます。
- **DoS 攻撃 (Denial of Service Attack)**
ネットワークのサービス妨害攻撃のことです。ネットワークに接続されるコンピュータに大量の packets を送信するなどして、対象のコンピュータの負荷を高くし、正常なサービスを提供できなくしたり利用不可の状態にしたりします。
- **Dynamic DNS (ダイナミックDNS)**
DNSが使うホスト名とIPアドレスとの対応を動的に変更する技術のことです。ホストのIPアドレスが変わっても、ホスト名とIPアドレスの対応表を更新することで、ホスト名を維持することができます。

- **IGMP (Internet Group Management Protocol)**
マルチキャストを行うルータが、マルチキャストグループの情報を得るために使う、ルータと端末間のプロトコルです。ルータが管理するネットワーク内にある端末が、マルチキャストを受けるグループに参加・脱退したり、ルータ間でグループの情報をやり取りするときに使われます。
- **IKE (Internet Key Exchange)**
IPSecによる通信では、接続元と接続先が相互に通信を開始する前に、暗号の種類や暗号鍵を取り決めます。この取り決めの交換と、交換する相手の認証に使用される自動鍵管理プロトコルのことです。
- **IPSec (IP Security)**
暗号通信のための規格のひとつです。IPSecでは、IPのパケットを暗号化して送受信します。
- **IP アドレス**
TCP/IPを使ったネットワーク上で、コンピュータなどを識別するためのアドレスです。IPアドレスは32bitの値を持ち、8bitずつ10進法で表現した数値を、ピリオドで区切って表現します。
- **IP マスカレード**
NAPT (Network Address Port Translation)
- **LAN (Local Area Network)**
ひとつの建物内などに接続された、複数のパソコンやプリンタなどで構成されている比較的小規模なネットワークです。
- **MAC アドレス**
ネットワークアダプタなどのハードウェアに付けられた固有のアドレスです。ハードウェアの利用者が、このアドレスを決めることはできません。
- **NAT (Network Address Translation)**
プライベートIPアドレスを、1対1でグローバルIPアドレスに変換する機能です。インターネットに接続するパソコンに直接グローバルIPアドレスを割り当てて使用すると、外部からの攻撃にさらされやすくなる危険性があります。このため、パソコンにはプライベートIPアドレスを割り当てておき、インターネットに接続するときだけルータを介してグローバルIPアドレスを割り当てます。
- **NAPT (Network Address Port Translation)**
1つのグローバルIPアドレスに複数のプライベートIPアドレスを動的に割り当てる機能です。「IP マスカレード」とも呼ばれます。
- **NTP (Network Time Protocol)**
ネットワークを介して、コンピュータの内部時計を正しく調整するためのプロトコルです。ネットワーク上で時刻情報を提供するNTPサーバに、ネットワーク上の他のコンピュータが内部時計を同期させることによって調整が行われます。

- **Numbered**
ルータのLAN側ポートとWAN側ポートに、それぞれ異なるIPアドレスを割り当てて運用する接続方式です。
- **Ping**
コンピュータ間の接続が正常に行えるかを試験するプログラムです。
- **PPPoE (Point to Point Protocol over Ethernet)**
フレッツ・ADSLなどの常時接続型サービスで使用されるユーザ認証技術の1つです。PPPoEでは、Ethernet上でPPPによる接続を行います。
- **PPTP (Point to Point Tunneling Protocol)**
Microsoft社によって提案された、暗号通信のためのプロトコルのひとつです。
- **RIP (Routing Information Protocol)**
TCP/IPネットワークにおいて、動的なルーティング制御を行うためのプロトコルです。ルータが到達不能経路を自動的に検出するなど、経路情報を動的に更新することができます。
- **SNMP (Simple Network Management Protocol)**
コンピュータ、ルータなどをTCP/IPネットワーク上で監視したり制御したりするためのプロトコルです。このプロトコルによって管理されるネットワーク機器は、状態を表す管理情報データベース(MIB)を持ちます。管理する側の機器は、MIBに基づき設定します。
- **SSID (Service Set ID)**
無線LANに関する国際規格であるIEEE802.11で、固定した相手先との接続を実現するための識別データです。32バイト長のデータで、アクセスポイントと端末間での接続処理の中で送受信される制御データの1つとなります。アクセスポイントと端末でSSIDが一致しないと、接続が確立しない仕組みになっています。
- **TCP/IP (Transmission Control Protocol/Internet Protocol)**
インターネットやLANで一般的に使われるプロトコルです。
- **Unnumbered**
複数グローバルIPアドレスのサービスのことです。
プロバイダから割り当てられた複数のグローバルIPアドレスをコンピュータに割り当て、使うことができます。
- **UPnP (Universal Plug and Play)**
インターネットで標準になっている技術を基にして、家庭内にあるパソコンやAV機器、電話、家電製品などをネットワークにつなぐだけで利用可能にすることを目指した技術です。
- **VPN (Virtual Private Network)**
インターネットなどのネットワーク上で論理的なグループを構成し、そのグループ間で閉域性を保つ仕組みを設けたネットワークのことです。ネットワーク網には不特定多数のユーザが接続していますが、VPNを構築することで、特定のユーザ間だけで通信が可能になります。
- **WAN (Wide Area Network)**
離れた場所のLAN同士を、電話回線や専用線を介して接続するネットワークのことです。

- **WEP (Wired Equivalent Privacy)**
無線LANの国際規格IEEE802.11で採用されている暗号化技術です。アクセスポイントとコンピュータの両方で、同じ文字列からなる「キー(鍵)」を設定して、そのキーを使いデータの暗号化や複号化が行われます。
- **Web ブラウザ**
ホームページなどを見るためのアプリケーションソフトのことです。Internet ExplorerやNetscape Navigator®がよく使われています。
- **10BASE-T**
Ethernetの通信方式の1つです。10Mbit/sの伝送速度を持ちます。
- **100BASE-TX**
Ethernetの通信方式の1つです。100Mbit/sの伝送速度を持ちます。
- **アクセスポイント**
無線LANと有線LANの間の通信の中継や、無線LAN同士の中継をするネットワーク機器です。
無線LANアダプタを取り付けたコンピュータはアクセスポイントとの間で無線通信をします。
- **クライアント**
LANを構成するコンピュータの中で、主にサーバからの資源やサービス(ファイル/データベース/メール/プリンタなど)を受けるコンピュータのことです。
- **グローバルIPアドレス**
インターネット上の通信相手を特定するために使うIPアドレスの種類のひとつです。
グローバルIPアドレスは、インターネット上で唯一のアドレスで、同じアドレスは存在しません。
- **サーバ**
LANを構成するコンピュータの中で、主にクライアントに資源やサービス(ファイル/データベース/メール/プリンタなど)を提供するコンピュータのことです。例えば、インターネット上ではWebサーバがホームページを提供します。
- **ステートフル・パケット・インスペクション(SPI)**
ファイアウォールを通過するパケットのデータを読み取って内容を判断し、動的にポートを開放したり閉鎖したりする機能です。
- **ファイアウォール**
外部から内部のコンピュータネットワークへ侵入されることを防ぐシステムです。内部のネットワークと外部のネットワークの境界でデータを監視し、不正なアクセスを検出したり遮断したりします。このシステムが組み込まれた機器を「ファイアウォール」と呼ぶこともあります。
- **ファームウェア**
ハードウェアを動作させるプログラムです。
- **プライベートIPアドレス**
インターネットと直接接続されていないネットワークで使うIPアドレスです。

■ フレッツ・ADSL

NTT 地域会社（東日本、西日本）から提供されている、加入電話回線または専用回線を使った ADSL 接続サービスです。フレッツ・ADSL ではユーザ認証に PPPoE が使われています。

■ プロトコル

ネットワーク上の機器間で正しく通信をするための決まりごとのことです。

■ ホスト

インターネットでは、Web サーバやメールサーバなどの各種サービスを行うコンピュータをホストとして扱います。

■ ポート

IP アドレスの下に設けられた補助的なアドレスのことです。TCP/IP で通信を行うコンピュータは、複数のコンピュータと同時に通信するために、複数のポートを利用します。

■ マルチキャスト

ネットワーク内で、指定した複数の相手に同じデータを送信することです。TCP/IP ネットワークでは、複数のあて先に対して 1 つの IP アドレス（マルチキャストアドレス）を指定して、1 回だけデータを送信すれば、通信経路上のルータがあて先に応じてデータを複製して送信します。

■ 無線 LAN

電波や光など無線通信でデータの送受信を行う LAN のことです。各端末に無線 LAN カードを設置し、無線 LAN アダプタ同士で直接通信を行ったり、中継機器を経由して通信を行います。

■ ルータ

複数のネットワークを相互に接続し、データの転送先や経路を選択する装置のことです。

■ ローカルサーバ

LAN 側に設置した特定のサーバをインターネット上からアクセス可能にする機能です。TCP、UDP のポート番号ごとに転送先の LAN 側のコンピュータを指定します。オンラインゲームやチャットなどを行うときにも使います。

設定記入シート

保守のための資料として、設定内容を記入し、大切に保管してください。プロバイダの認証パスワードやメールのパスワードは、お客様の個人情報となります。記入された際は、本設定記入シートのお取り扱いにご注意ください。

設定ページログイン	ログインユーザ名	
	ログインパスワード	

サイドバー	設定画面タイトル	設定項目	設定データ	
かんたんワイザード設定	インターネット接続	PPPoE接続	接続ユーザ名	
		接続パスワード		
		PPPoE以外の接続	IPアドレス	自動取得 / 固定IPアドレス
			固定IPアドレス	
			IPアドレス	
			サブネットマスク	
			デフォルトゲートウェイ	
			プライマリDNSサーバ	
	セカンダリDNSサーバ			
	VPN接続	PPTPクライアント	接続先のホスト名またはIPアドレス	
			接続ユーザ名	
			接続パスワード	
		PPTPサーバ	ユーザの追加	「ユーザリスト」P.9-49
			リモートアドレス範囲	開始: 終了:
		IPSec	接続先のホスト名またはIPアドレス	
			サブネットアドレス	
			サブネットマスク	
	共通鍵			

次ページに続きます。

サイドバー	設定画面タイトル	設定項目	設定データ	
ネットワーク詳細設定	WANポート	詳細設定		
		MACアドレス		
		MTU		
		IPアドレス	なし / 自動取得 / 固定設定	
		IPアドレスを自動取得する場合		
		サブネットマスクを置き換える	有効 / 無効	
		サブネットマスク		
		IPアドレスを固定設定する場合		
		IPアドレス		
		サブネットマスク		
		デフォルトゲートウェイ		
		プライマリDNSサーバ		
		セカンダリDNSサーバ		
		デバイスメトリック		
	LAN側グローバルネットワーク(Unnumbered接続)			
	ネットワークアドレス			
	サブネットマスク			
	LAN	詳細設定	MACアドレス	
			IPアドレス	
			サブネットマスク	有効 / 無効
			DHCPサーバ	
			割り当て開始アドレス	
			割り当て終了アドレス	
			割り当てサブネットマスク	
			WINSサーバ	
			リース期間(分)	(分)
			クライアントにホスト名が設定されていないとき自動的にホスト名を割り当てる	
デバイスメトリック				

サイドバー	設定画面タイトル	設定項目	設定データ	
ネットワーク詳細設定	PPPoe接続1	MTU		
		接続ユーザ名		
		接続パスワード		
		自動切断	有効 / 無効	
		自動切断までの時間(分)	(分)	
		PAP認証を許可する(PAP)	有効 / 無効	
		CHAP認証を許可する(CHAP)	有効 / 無効	
		IPアドレスを自動取得する	自動取得 / 固定設定	
		サブネットマスクを置き換える	有効 / 無効	
		サブネットマスク		
		IPアドレスを固定設定する		
		IPアドレス		
		サブネットマスク		
		デフォルトゲートウェイ		
		DNSサーバアドレス	自動取得 / 固定設定	
		DNSサーバを固定設定する		
		プライマリDNSサーバ		
		セカンダリDNSサーバ		
		デバイスメトリック		
		LAN側グローバルネットワーク(Unnumbered接続)		
		ネットワークアドレス		
		サブネットマスク		
		MTU		
		接続ユーザ名		
	接続パスワード			
	自動切断	有効 / 無効		
	自動切断までの時間(分)	(分)		
	PAP認証を許可する(PAP)	有効 / 無効		
	CHAP認証を許可する(CHAP)	有効 / 無効		
	IPアドレス	自動取得 / 固定設定		
	IPアドレスを自動取得する			
	サブネットマスクを置き換える	有効 / 無効		
	サブネットマスク			
IPアドレスを固定設定する				
IPアドレス				
サブネットマスク				
デフォルトゲートウェイ				
DNSサーバアドレス	自動取得 / 固定設定			

ネットワーク詳細設定	PPPoE接続2	詳細設定	DNSサーバを固定設定する	
			プライマリDNSサーバ	
			セカンダリDNSサーバ	
			デバイスメトリック	
			LAN側グローバルネットワーク(Unnumbered接続)	
			ネットワークアドレス	
			サブネットマスク	

サイドバー	設定画面タイトル	設定項目	設定データ	
ネットワーク詳細設定	VPN PPTPクライアント	MTU		
		接続先のホスト名またはIPアドレス		
		接続ユーザ名		
		接続パスワード		
		自動切断までの時間(分)	(分)	
		PAP認証を許可する(PAP)	有効 / 無効	
		CHAP認証を許可する(CHAP)	有効 / 無効	
		MS-CHAP認証を許可する(MS-CHAP)	有効 / 無効	
		MS-CHAP v2認証を許可する (MS-CHAP v2)	有効 / 無効	
		暗号化を必ず要求する (サーバが拒否したときは切断)	有効 / 無効	
		暗号化を許可する (MPPE-40Bit)	有効 / 無効	
		最強の暗号化を許可する (MPPE-128Bit)	有効 / 無効	
		MPPE暗号化モード	MPPE-Stateless / MPPE-Stateful	
		IPアドレス	自動取得 / 固定設定	
		IPアドレスを固定設定する		
		IPアドレス		
		サブネットマスクを置き換える	有効 / 無効	
		サブネットマスク		
		DNSサーバアドレス	自動取得 / 固定設定	
		DNSサーバアドレスを固定設定する		
		プライマリDNSサーバ		
		セカンダリDNSサーバ		
		デバイスメトリック		
	VPN PPTPサーバ	詳細設定	PPTPサーバ	有効/無効
	自動切断までの時間		(分)	
	認証が必要		有効/無効	
	暗号化が必要		有効/無効	
	PAP		有効/無効	
	CHAP		有効/無効	
	MS-CHAP-V1		有効/無効	
	MS-CHAP-V2		有効/無効	
	MPPE-40		有効/無効	
	MPPE128		有効/無効	
MPPE暗号化モード	Stateful/Stateless			
リモートアドレス範囲				
開始				
終了				

サイドバー	設定画面タイトル	設定項目	設定データ
ネットワーク詳細設定	VPN IPsec	MTU	
		接続先のホスト名またはIPアドレス	
		ローカルサブネット	
		サブネットアドレス	
		サブネットマスク	
		リモートサブネット	
		サブネットアドレス	
		サブネットマスク	
		データ圧縮(IPCOMPプロトコル)	有効 / 無効
		鍵交換方式	自動(IKE)/手動
		IPSec 自動鍵交換	
		IPSec IKE, Phase 1	
		接続試行回数	無制限/1/2/3/4/8/16 /24/32/48/64
		ライフタイム (秒: 1-28800)	
		Rekey Margin (秒: 1-540)	
		Rekey Fuzz (パーセンテージ: 1-200)	
		認証アルゴリズム	共通鍵方式/公開鍵方式
		共通鍵方式	
		公開鍵方式	
		暗号化アルゴリズム	DES-CBC/ 3DES-CBC
		ハッシュアルゴリズム	MD5/SHA 1
		Diffie-Hellman Group	DH Group 1/DH Group 2 /DH Group 5
		IPSec IKE, Phase 2	
		ライフタイム (秒: 1-28800)	
		PFS有効	有効 / 無効
		暗号化アルゴリズム	なし/DES-CBC/ 3DES-CBC
		認証アルゴリズム	MD5/SHA 1
		AH ハッシュアルゴリズム	MD5/SHA 1
		DNSサーバ	
		DNSサーバアドレス	自動取得 / 固定設定
		DNSサーバアドレスを固定設定する	
		プライマリDNSサーバ	
		セカンダリDNSサーバ	
		デバイスメトリック	

サイドバー	設定画面タイトル		設定項目	設定データ
ネットワーク詳細設定	VPN IPSec	詳細設定	IPSec 手動鍵交換	
			セキュリティインデックス - SPI	ローカル: リモート:
			IPSecプロトコル	ESP/AH
			暗号化アルゴリズム (16進数で入力)	なし/DES-CBC/ 3DES-CBC"
			DES-CBC	
			3DES-CBC	
			ハッシュアルゴリズム (16進数で入力)	MD5 / SHA1
			MD5	
			SHA1	
			DNSサーバアドレス	自動取得 / 固定設定
			DNSサーバアドレスを固定設定する	
			プライマリDNSサーバ	
			セカンダリDNSサーバ	
			デバイスメトリック	

サイドバー	設定画面タイトル	設定項目	設定データ
セキュリティ設定	セキュリティ	セキュリティレベル	最大 / 標準 / 最小
		IPフラグメントパケットを遮断する	有効 / 無効
	ローカルサーバ	新規作成	「ローカルサーバ」P.9-48
	DMZホスト	DMZホスト	有効 / 無効
		IPアドレス	
	リモートアクセス設定	Webサーバ	
		WEBサーバを外部に公開する (TCPポート80)	有効 / 無効
		WEBサーバを外部に公開する (TCPポート8080)	有効 / 無効
		設定画面を外部に公開する	有効 / 無効
		診断ツール	
		Ping(ICMP Echo Request)を許可する (PingおよびICMP Traceroute)	有効 / 無効
		Traceroute(UDP)を許可する	有効 / 無効
		オプション設定	
		USBカメラ画像を外部に公開する(8090)	有効 / 無効
		FTPサーバを外部に公開する(21)	有効 / 無効
	セキュリティログ	ログイベント	
		許可した接続	有効/無効
		拒否した接続	有効/無効
		設定	
		ログ容量が一杯になったらログを停止する	有効/無効
バケットフィルタ	新規作成	「バケットフィルタ」P.9-	

サイドバー	設定画面タイトル	設定項目	設定データ
URLフィルタ	URLフィルタ	フィルタ1	
		フィルタ2	
		フィルタ3	
		フィルタ4	
		フィルタ5	
		フィルタ6	
		フィルタ7	
		フィルタ8	
		フィルタ9	
		フィルタ10	

サイドバー	設定画面タイトル	設定項目	設定データ
カスタム設定	DNSサーバ	DNSエントリ1	ホスト名: IPアドレス:
		DNSエントリ2	ホスト名: IPアドレス:
		DNSエントリ3	ホスト名: IPアドレス:
		DNSエントリ4	ホスト名: IPアドレス:
		DNSエントリ5	ホスト名: IPアドレス:
		DNSエントリ6	ホスト名: IPアドレス:
		DNSエントリ7	ホスト名: IPアドレス:
		DNSエントリ8	ホスト名: IPアドレス:
		DNSエントリ9	ホスト名: IPアドレス:
		DNSエントリ10	ホスト名: IPアドレス:
	ダイナミックDNS	有効にする	有効 / 無効
		ユーザ名	
		パスワード	
		ホスト名	
		メールサーバ	

サイドバー	設定画面タイトル	設定項目	設定データ
カスタム設定	DHCPサーバ	DHCP設定 LANポート	
		DHCPサーバ	有効 / 無効
		割り当て開始アドレス	
		割り当て終了アドレス	
		割り当てサブネットマスク	
		リース期間(分)	(分)
		WINSサーバ	
		クライアントリスト	「DHCPクライアントリスト」P.9-50
		クライアントにホスト名が設定されていないときにホスト名を自動的に割り当てる	有効 / 無効
		ルーティング	ルートの追加
	RIP v1/v2		有効 / 無効
	ユーザ	フルネーム	
		ユーザ名	
		パスワード	
		管理者権限	有効 / 無効
		PPTPリモートアクセス	有効 / 無効
		E-Mailアドレス	
		システム通知レベル	なし/エラー/警告/情報
		セキュリティ通知レベル	なし/エラー/警告/情報
	ユーザ追加	「ユーザリスト」P.9-49	
	日付と時刻	日付	
		時刻	
		時刻の自動設定 サーバアドレス	有効 / 無効
	IPSec	IPSec	
	UPnP	UPnP	有効 / 無効
	システム設定	WebCaster 7000 ホスト名	
		ローカルドメイン	
		システム情報ページの表示の自動更新を行なう	有効 / 無効
		ネットワーク設定の変更時に確認を行なう	有効 / 無効
		システム通知レベル	なし/エラー/警告/情報
		システム通知レベル	
		Syslogサーバアドレス	
		セキュリティ通知レベル	なし/エラー/警告/情報
セキュリティ通知レベル			
Syslogサーバアドレス			
SMTPメールサーバ			

ローカルサーバ

登録 番号	ローカルIP	サービス名
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

ユーザリスト

登録 番号	フルネーム	ログイン ユーザー名	ログイン パスワード	E-Mail	権限
1					管理者 / PPTP
2					管理者 / PPTP
3					管理者 / PPTP
4					管理者 / PPTP
5					管理者 / PPTP
6					管理者 / PPTP
7					管理者 / PPTP
8					管理者 / PPTP
9					管理者 / PPTP
10					管理者 / PPTP
11					管理者 / PPTP
12					管理者 / PPTP
13					管理者 / PPTP
14					管理者 / PPTP
15					管理者 / PPTP
16					管理者 / PPTP
17					管理者 / PPTP
18					管理者 / PPTP
19					管理者 / PPTP
20					管理者 / PPTP
21					管理者 / PPTP
22					管理者 / PPTP
23					管理者 / PPTP
24					管理者 / PPTP
25					管理者 / PPTP
26					管理者 / PPTP
27					管理者 / PPTP
28					管理者 / PPTP
29					管理者 / PPTP
30					管理者 / PPTP
31					管理者 / PPTP
32					管理者 / PPTP

DHCPクライアントリスト

登録番号	ホスト名	IPアドレス	MACアドレス	リースタイプ
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				
26				
27				
28				
29				
30				
31				
32				

ルーティングテーブル

登録番号	デバイス	送信先	ゲートウェイ	ネットマスク	メトリック
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
31					
32					

第 10 章

追加機能

取扱説明書(第 1 章～第 5 章)および詳細取扱説明書(第 6 章～第 9 章)に掲載されている内容は、以前の出荷バージョン(Ver1.0.7)の仕様に基づいたものとなっています。この章では、最新バージョン(Ver 1.2.x)までに追加・変更された部分について解説します。

【追加機能】

Web Caster FT-STC-Pa/g を利用した無線 LAN の設定	10-2
ファイルサーバの設定	10-17
USB ストレージデバイスを使用する	10-17
FTP サーバの設定	10-62
Web サーバの設定	10-68
ATA カードと USB ストレージデバイスを同時に使用する場合	10-70
追加機能パッケージ	10-72
「追加機能パッケージ」のインストール	10-72
USB カメラの設定	10-78
PHP 対応 Web サーバ機能	10-79
PHP スクリプト動作機能	10-88
telnet 接続機能	10-88
スタートアップスクリプト機能	10-89
接続ログ機能	10-90
IPv6 ブリッジ設定	10-94
PPPoE ブリッジ機能の設定	10-96
設定情報の保存 / 読み込み機能	10-99
＜一部機能変更＞	
ユーザのアクセス権限の項目追加	10-105
NAPT 機能の有効 / 無効の切り替え	10-106
NTP 更新時間変更と複数接続先対応	10-109
PPPoE の自動切断機能設定の変更	10-112
UPnP セッション選択機能	10-113
FTP サーバへの anonymous 設定	10-116
FTP ユーザアカウント設定	10-118
IPSec のアグレッシブモードに対応	10-119
その他	10-120
Unnumbered 接続時のフィルタリングルールについて	10-120
WAN PPPoE の詳細設定画面について	10-121
接続状況画面について	10-122

Web Caster FT-STC-Pa/g を 利用した無線 LAN の設定

ここでは、本商品を利用して 802.11a または 802.11g の無線 LAN を構築する例を紹介します。

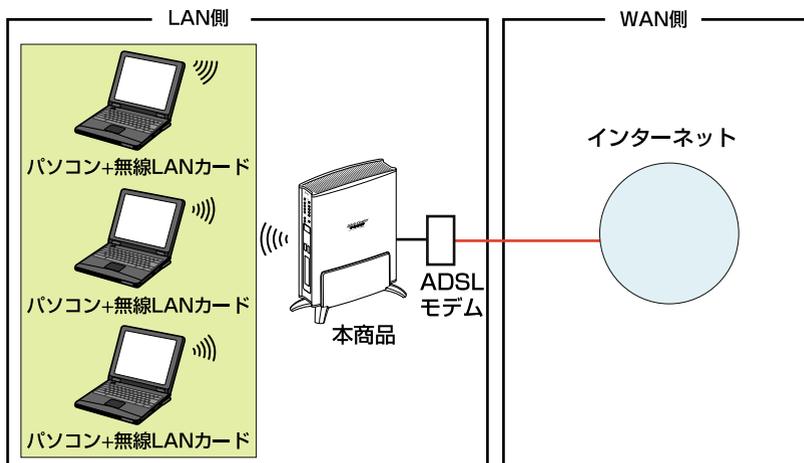
無線 LAN 設定

本商品に Web Caster FT-STC-Pa/g を接続することで、IEEE802.11a 規格または IEEE802.11g 規格の無線 LAN 機能をご利用することができます。無線 LAN を構築するときは、オプションの無線 LAN カードを別途ご用意ください。

！ ご注意

本商品は IEEE802.11a 規格と 802.11g 規格の無線通信を同時に行うことはできません。ご利用の無線環境に合わせて、IEEE802.11a または IEEE802.11g のどちらかの無線通信をご選択ください。また、通信可能な無線 LAN カードは、Web Caster FT-STC-Pa、Web Caster FT-STC-Pb、Web Caster FT-STC-Pa/g のみ保証しています。

Web Caster FT-STC-Pa/g を利用した無線 LAN の例



! **ご注意**

必ず本商品専用の無線LANカード（Web Caster FT-STC-Pa/g）を使用してください。

[IEEE802.11a 機能を選択した場合]

IEEE802.11a 機能を選択することで、IEEE802.11a アクセスポイントとして機能し、Web Caster FT-STC-PaまたはWeb Caster FT-STC-Pa/gの無線カードと通信することが可能です。

[IEEE802.11g 機能を選択した場合]

IEEE802.11g 機能を選択することで、IEEE802.11g アクセスポイントとして機能し、Web Caster FT-STC-PbまたはWeb Caster FT-STC-Pa/gの無線カードと通信することが可能です。

Web Caster FT-STC-Pa/g を利用する

本商品の別売りの無線 LAN カード、Web Caster FT-STC-Pa/g を接続すると、IEEE802.11a または IEEE802.11g のアクセスポイントとして機能します。

PC カード (CardBus) スロットを搭載しているパソコンに Web Caster FT-STC-Pa/g を接続すると、IEEE802.11a または IEEE802.11g のクライアントとして使用することができます。

ここでは、無線 LAN を構築するための概要をまとめます。

パソコンに Web Caster FT-STC-Pa/g を接続し、ネットワーク設定を行う
お使いの Web Caster FT-STC-Pa/g の取扱説明書をご参照ください。



本商品の PC カードスロットに Web Caster FT-STC-Pa/g を取り付けます。
取り付け方法につきましては、P6-202-203 の「Web Caster 7000 への無線 LAN カード取り付け」をお読みください。



パソコンに無線 LAN の設定を行います。
本商品のデフォルト設定は次になります。パソコンに取り付けた Web Caster FT-STC-Pa/g で同様の設定を行ってください。

SSID : WBC7000
暗号化 : 無効
チャンネル : 34CH (IEEE802.11a 機能を選択した場合)
1CH (IEEE802.11g 機能を選択した場合)



パソコンで Web ブラウザを起動し、本商品の設定ページを開きます。
設定ページが開いたら、本商品とパソコンが正しく接続されています。



インターネットに接続するための設定を行います。
本商品の取扱説明書 (冊子)「第 4 章 インターネットへの接続」(P4-1 ~ P4-12)をお読みください。



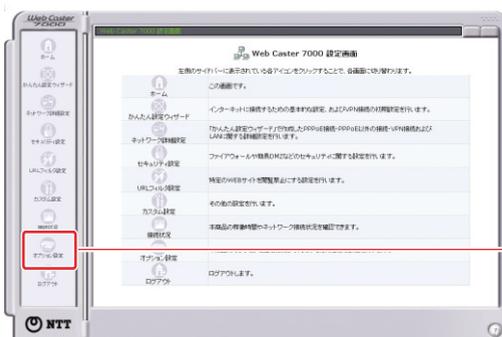
必要に応じて、本商品とパソコンの SSID、暗号化を変更します。

Web Caster FT-STC-Pa/g を利用し 802.11a をご利用の場合

ここでは、Web Caster FT-STC-Pa/g を利用して、本商品で 802.11a の無線 LAN を設定する方法について説明します。

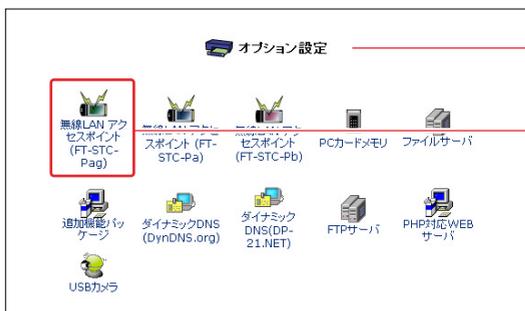
本商品で Web Caster FT-STC-Pa/g を利用する場合は、本商品に Web Caster FT-STC-Pa/g を取り付けます。取り付け方法につきましては、P.6-202-203 「Web Caster 7000 への無線 LAN カード取り付け」をお読みください。

- 1 本商品にパソコンを接続し、設定画面を開きます。
- 2 サイドバーから [オプション設定] アイコンをクリックします。



クリックします。

- 3 [無線LANアクセスポイント (FT-STC-Pag)] アイコンをクリックします。



[オプション設定] 画面に切り替わります。

クリックします。

4 無線LANアクセスポイントの設定画面が表示されます。

 無線LANアクセスポイント (FT-STC-Pag)

アクセスポイント動作モード

プロトコル: 802.11a

基本設定

SSID: WIBC7000

チャンネル: 34

送信速度: 自動

Super A/G を有効にする:

暗号化

暗号化する:

セキュリティ

ANY拒否/SSID変遷す:

MACアドレスフィルタリング

MACアドレスフィルタリング有効:

OK キャンセル

基本設定

ここでは、本商品で使うアクセスポイント動作モード、SSID、チャンネル、送信速度、Super AGの設定を行います。

アクセスポイント動作モード	
プロトコル:	802.11a ▼
基本設定	
SSID:	WBC7000
チャンネル:	34 ▼
送信速度:	自動 ▼
Super A/G を有効にする:	<input type="checkbox"/>

「プロトコル」

本商品に Web Caster FT-STC-Pa/g を利用した場合、本商品は IEEE802.11a または IEEE802.11g のアクセスポイントとしてご利用できます。IEEE802.11a としてご利用する場合は、[プロトコル] 欄から [802.11a] を選択してください。

! ご注意

本商品は IEEE802.11a 規格と 802.11g 規格の無線通信を同時に行うことはできません。

「SSID」

SSID はワイヤレスネットワークのアクセス制御用の識別名です。SSID を設定すると、同じ SSID を設定したクライアントのみ接続ができます。半角英数字で最大 32 文字になります。

「チャンネル」

ワイヤレスネットワークで使用するチャンネルを 34、38、42、46 から選択します。チャンネルは隣接するアクセスポイントと重ならないチャンネルを設定します。本商品の 802.11a でのデフォルト値は 34 になります。

「送信速度」

送信速度を自動/54/48/36/24/18/12/9/6Mbps から選択します。自動に設定すると電波状況に応じて、常に最適な通信速度に自動的に設定されます。本商品のデフォルト値は自動になります。

「Super A/Gを有効にする」

無線LAN高速化技術「Super AG」機能を有効にする場合はチェックします。Super AGを使用するにはクライアントもSuper AGに対応している必要があります。

- 5 [OK] ボタンをクリックすると、設定が保存されます。
暗号化を行う場合は、P.10-13「暗号化の設定」へお進みください。
セキュリティの設定を行う場合はP.10-14「セキュリティ設定」へお進みください。

お知らせ

Super AGはIEEE802.11aおよびIEEE802.11gの通信速度を向上させる技術です。

IEEE802.11aまたは、IEEE802.11gの通信時のみ有効です。

Web Caster FT-STC-Pa/g を利用し 802.11g をご利用の場合

ここでは、Web Caster FT-STC-Pa/g を利用して、本商品で 802.11g の無線 LAN を設定する方法について説明します。

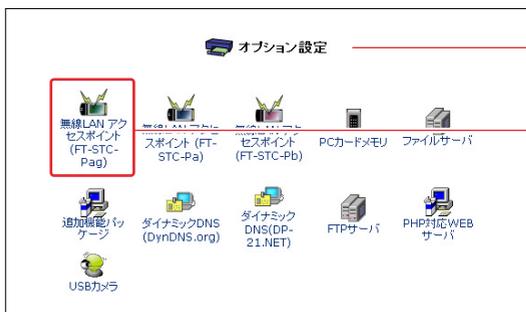
本商品で Web Caster FT-STC-Pa/g を利用する場合は、本商品に Web Caster FT-STC-Pa/g を取り付けます。取り付け方法につきましては、P.6-202-203 「Web Caster 7000 への無線 LAN カード取り付け」をお読みください。

- 1 本商品にパソコンを接続し、設定画面を開きます。
- 2 サイドバーから [オプション設定] アイコンをクリックします。



クリックします。

- 3 [無線 LAN アクセスポイント (FT-STC-Pag)] アイコンをクリックします。



[オプション設定] 画面に切り替わります。

クリックします。

4 無線LANアクセスポイントの設定画面が表示されます。

**無線LANアクセスポイント (FT-STC-Pag)**

アクセスポイント動作モード

プロトコル: 802.11g ▼

基本設定

SSID: WBC7000

チャンネル: 1 ▼

送信速度: 自動 ▼

Super A/G を有効にする:

暗号化

暗号化する:

セキュリティ

ANY拒否/SSIDを隠す:

MACアドレスフィルタリング

MACアドレスフィルタリング有効:

基本設定

ここでは、本商品で使うアクセスポイント動作モード、SSID、チャンネル、送信速度、Super AGの設定を行います。

アクセスポイント動作モード	
プロトコル:	802.11g ▼
基本設定	
SSID:	WBC7000
チャンネル:	1 ▼
送信速度:	自動 ▼
Super A/G を有効にする:	<input type="checkbox"/>

「プロトコル」

本商品に Web Caster FT-STC-Pa/g を利用した場合、本商品は IEEE802.11a または IEEE802.11g のアクセスポイントとしてご利用できます。IEEE802.11g としてご利用する場合は、[プロトコル] 欄から [802.11g] を選択してください。

！ ご注意

本商品は IEEE802.11a 規格と 802.11g 規格の無線通信を同時に行うことはできません。

「SSID」

SSID はワイヤレスネットワークのアクセス制御用の識別名です。SSID を設定すると、同じ SSID を設定したクライアントのみ接続ができます。半角英数字で最大 32 文字になります。

「チャンネル」

ワイヤレスネットワークで使用するチャンネルを 1/2/3/4/5/6/7/8/9/10/11/12/13 から選択します。チャンネルは隣接するアクセスポイントと重ならないチャンネルを設定します。本商品の 802.11g でのデフォルト値は 1 になります。

「送信速度」

本商品の送信速度を設定します。IEEE802.11g の送信速度を固定で設定する場合は、54/48/36/24/18/12/9/6 から選択します。IEEE802.11b の送信速度を固定で設定する場合は、11/5.5/2/1Mbps から選択します。自動に設定すると電波状況に応じて、常に最適な通信速度に自動的に設定されます。本商品のデフォルト値は自動になります。

「Super A/G を有効にする」

無線 LAN 高速化技術「Super AG」機能を有効にする場合はチェックします。Super AG を使用するにはクライアントも Super AG に対応している必要があります。

- 5 [OK] ボタンをクリックすると、設定が保存されます。暗号化を行う場合は、P.10-13「暗号化の設定」へお進みください。セキュリティの設定を行う場合はP.10-14「セキュリティ設定」へお進みください。

 お知らせ

Super AGはIEEE802.11aおよびIEEE802.11gの通信速度を向上させる技術です。

IEEE802.11aまたは、IEEE802.11gの通信時のみ有効です。

暗号化の設定

暗号化はワイヤレスネットワークで通信を行う際に、転送データを暗号化する機能です。

本商品には64bit、128bitのWEP機能が搭載されています。

暗号化を設定することにより、より高いセキュリティを使用したワイヤレスネットワークを構築できます。

! ご注意

暗号化を行う場合は、本商品とクライアントの両方に同じ暗号化の設定を行う必要があります。

- 1 [暗号化] 欄から [暗号化をする] にチェックをつけます。



暗号化	
暗号化をする	<input checked="" type="checkbox"/>
キー 1:	<input type="text"/>
キー 2:	<input type="text"/>
キー 3:	<input type="text"/>
キー 4:	<input type="text"/>
デフォルトキー:	<input type="text"/>

チェックします。

- 2 [キー 1 ~ キー 4] に暗号キーを入力します。
16進数で入力する場合は、64bitWEP使用時には10文字、128bitWEP使用時には26文字を入力します。
ASC IIで入力する場合は、64bitWEP使用時には任意の英数字5文字、128bitWEP使用時には任意の英数字13文字を入力します。
- 3 [デフォルトキー] 欄から暗号化の際に使用するデフォルトキーを選択します。

セキュリティ設定

本商品にはワイヤレスネットワークで、セキュリティの高いワイヤレス通信を行うための機能が付いています。第三者から本商品に無断アクセスさせないための機能や登録したクライアントだけ通信を許可したり、拒否したりすることができます。

- 1 [ANY 拒否/SSIDを隠す] にチェックします。
[ANY 拒否/SSIDを隠す] にチェックをつけることで、ANY に設定されたクライアントを拒否することができ、また、AP 検索や Windows® XP のゼロ・コンフィグレーション機能等で SSID を表示させることが出来なくなります。これにより、第三者からの無断アクセスを防ぐことができます。



チェックします。

- 2 「MAC アドレスフィルタリング」にチェックします。



チェックします。

- 3 [フィルタリング動作] 欄から [許可] または [拒否] を選択します。
許可を選択した場合は本商品に登録された MAC アドレスの機器のみがアクセス可能になります。拒否を選択した場合は本商品に登録された MAC アドレスの機器はアクセス不可能になります。MAC アドレスを登録することでアクセス権の無いクライアントを排除することができます。

- 4 [MACアドレス]欄に登録するMACアドレスを入力し、[追加]ボタンをクリックします。既に登録されてるMACアドレスを削除する場合は、削除したいMACアドレスを入力し、[削除]ボタンをクリックします。登録したMACアドレスは[フィルタリスト]欄に表示されます。



- 5 [OK]ボタンをクリックすると、設定が保存されます。

これらの設定は、セキュリティを保持することを完全に保証するものではありません。

Web Caster 7000 から Web Caster FT-STC-Pa/g を取り出す場合は

本商品から Web Caster FT-STC-Pa/g を取り出す場合は、P.6-212-213
「Web Caster 7000 から無線 LAN カードを取り出す」をお読みください。

ファイルサーバの設定

本商品はUSBストレージデバイスを接続することでファイルサーバとして使用することが出来ます。また、接続したUSBストレージデバイスをHTTPサーバ、FTPサーバとしてインターネットに公開することも出来ます。

ここでは本商品にUSBストレージデバイスを接続して使用方法について説明します。

USBストレージデバイスを使用する

本商品にUSBストレージデバイスを接続するとファイルサーバとして機能します。

ここではUSBストレージデバイスを利用するための概要をまとめます。

本商品にUSBストレージデバイスを接続します。

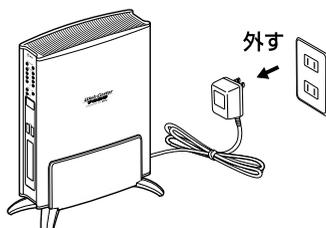
USBストレージデバイスのパーティションを作成し、フォーマットします。

ワークグループの設定をします。

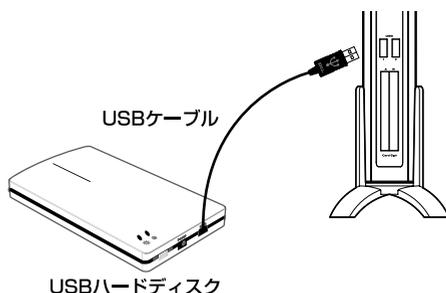
ユーザーアカウントの作成をします。

Web Caster 7000 へのUSBストレージデバイスの取り付け

- 1 Web Caster 7000 電源アダプタを取り外し、Web Caster 7000 の電源を完全に切ります。USBストレージデバイスの電源が切れていることを確認します。



- 2 USBストレージデバイスを本商品に接続します。USBストレージデバイスに付属のUSBケーブルを使用して、本商品のUSBポートにハードディスクを接続します。



- 3 USBストレージデバイスの電源を入れます。

！ ご注意

本商品はUSBストレージデバイスのバスパワー動作はサポートしておりませんので、USBストレージデバイスは付属のACアダプタを使用するなどしてセルパワースタートで動作させてください。

- 4 本商品の電源を入れてください。

次にWeb Caster 7000 からUSBストレージデバイスのパーティションの設定を行います。

パーティションの作成とフォーマット

USBストレージデバイスを接続したら、パーティションの作成とフォーマットを行う必要があります。ここではパーティションの作成とフォーマットの手順を説明します。

パーティションの種類

パーティションの種類には「プライマリパーティション」、「拡張パーティション」、「論理パーティション」があります。

「プライマリパーティション」は、1つのハードディスクに最大4個まで作成可能です。「拡張パーティション」はそれ自体ではドライブとして認識されません。ただし「拡張パーティション」内に「論理ドライブ」を複数作成することができます。(作成できる論理ドライブ数は最大11個までです。)

！ ご注意

- ・本商品のフォーマット方法でEXT2を選択する場合は、パーティションサイズを137438MB(137GB)以下でご使用ください。137GB以上のパーティションをご利用の場合は、FAT32形式でフォーマットをご使用ください。
- ・ドライブ文字はUSBストレージデバイスをマウント時(接続したまま本商品を再起動した場合も含む)に自動的に基本領域、拡張領域の順に割り振られます。そのため、基本領域で割り当てられたドライブ番号(A,Bなど)を先に削除した場合や、先頭または途中にある未領域にドライブを割り当てた場合、ドライブ文字が入れ替わることがあります。領域を削除する場合は最後の領域から削除するようにして下さい。
- ・12個以上の論理パーティションがあるUSBストレージデバイスを接続した場合、12個目以降の論理パーティションをファイルサーバ機能で使用することはできません。

パーティションの作成

- 1 サイドバーから [オプション設定] アイコンをクリックします。



- 2 [オプション設定] 画面が表示されます。[ファイルサーバ] アイコンをクリックします。



- 3 [ファイルサーバ]設定画面が表示されます。[詳細]に接続されているハードディスク名が表示されます。パーティションを設定するハードディスク名をクリックします。



クリックします。

! ご注意

[詳細]に表示されるハードディスク名はご使用になられているハードディスクによって変わります。マニュアルと同じ表記になるとは限りませんのでご注意ください。

- 4 [ディスク情報]設定画面が表示されます。[パーティション]に接続されているハードディスクのパーティション情報が表示されます。[パーティション]には以下の情報が表示されます。



表示の更新 ボタンをクリックすると、ステータス表示を更新します。

共有名

ネットワーク上で表示される共有ドライブ名です。共有名はWeb Caster 7000 ホスト名とパーティション作成時に割り当てられたドライブ文字から自動的に作成されます。

タイプ

パーティションのフォーマット形式です。Windows FAT32、FAT16またはLinuxのいずれかが表示されます。

ステータス

パーティションの現在の状態が表示されます。フォーマット中はフォーマット状況が表示されます。[使用可] と表示されているパーティションがアクセス可能です。

容量

パーティションに割り当てられている容量です。

空き容量

パーティションの空き容量です。[容量] から [空き容量] を引いた分がパーティションの使用されている容量です。

操作

パーティションの操作を行います。

ご注意

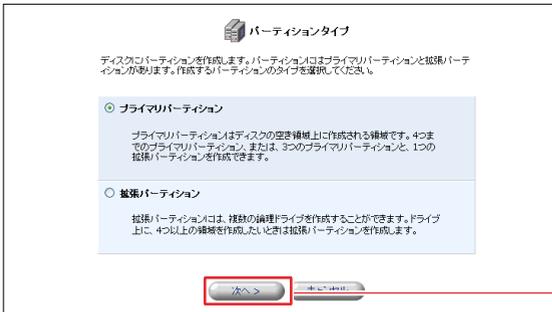
[共有名] に [未使用の領域] と表示されている部分はパーティションが作成されていないハードディスク領域です。

5 [未使用の領域]の[操作]から[追加]ボタンをクリックします。



追加をクリックします。

6 [パーティションタイプ]設定画面が表示されます。作成するパーティシ
ョンタイプを選択して[次へ]ボタンをクリックします。

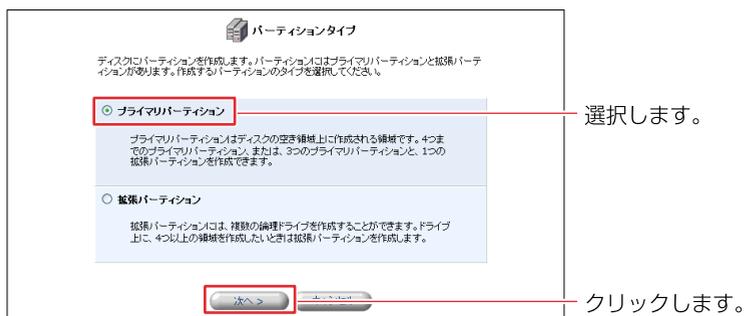


クリックします。

[プライマリパーティション]を選択した場合は、P.10-24 [プライマリパーティションの作成]に進みます。[拡張パーティション]を選択した場合はP.10-27 [拡張パーティションと論理パーティションの作成]に進みます。

・プライマリパーティションの作成

- 1 [パーティションタイプ] 設定画面で [プライマリパーティション] を選択して [次へ] ボタンをクリックします。



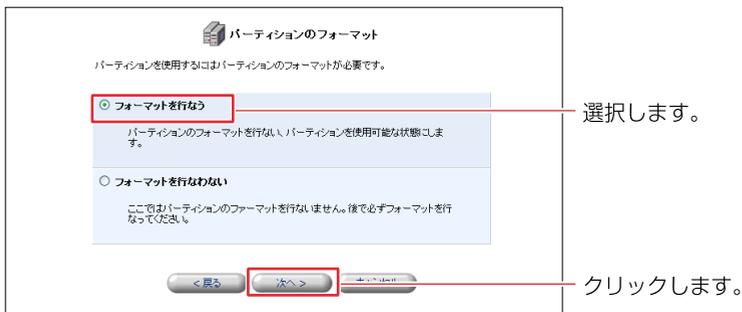
- 2 [パーティションサイズ] 設定画面が表示されます。[パーティションサイズ] に作成したいパーティションのサイズを入力して [次へ] ボタンをクリックします。パーティションサイズは最小サイズ～最大サイズの範囲で設定できます。



! ご注意

本商品は 1GB=1024MB で計算します。

- 3 [パーティションのフォーマット] 設定画面が表示されます。[フォーマットを行う] を選択して [次へ] ボタンをクリックします。



- 4 [ファイルシステムの選択] 設定画面が表示されます。[ファイルシステム] からフォーマットに使用するファイルシステムを選択して [次へ] ボタンをクリックします。



! ご注意

本商品のフォーマット方法でEXT2を選択する場合は、パーティションサイズを137438MB(137GB)以下でご使用ください。137GB以上のパーティションをご利用の場合は、FAT32形式でフォーマットをご使用ください。

- 5 [パーティションの作成] 設定画面が表示されます。[完了] ボタンをクリックします。



クリックします。

- 6 パーティションが作成され [ディスク情報] 設定画面に戻ります。作成したパーティションの [ステータス] が [フォーマット中] と表示されているときはパーティションのフォーマットを行っていますので、ディスクにアクセスできません。[ステータス] が [使用可] になるまでお待ちください。



[使用可] になるまで待ちます。

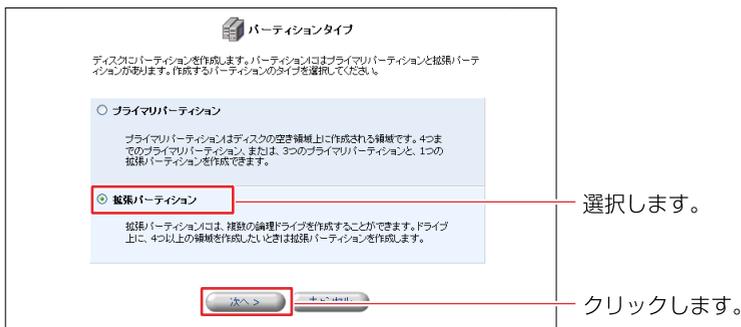
! ご注意

[ステータス] がフォーマットのまま変わらないときは、しばらく待ってから [表示の更新] ボタンを押してください。

- 7 [未使用の領域] が残っている場合は、同様の手順でさらに追加のパーティションを作成する事ができます。

・拡張パーティションと論理パーティションの作成

- 1 [パーティションタイプ] 設定画面で [拡張パーティション] を選択して [次へ] ボタンをクリックします。



- 2 [パーティションサイズ] 設定画面が表示されます。[パーティションサイズ] に作成したいパーティションのサイズを入力して [次へ] ボタンをクリックします。パーティションサイズは最小サイズ～最大サイズの範囲で設定できます。



! ご注意

本商品は 1GB=1024MB で計算します。

- 3 [パーティションの作成] 設定画面が表示されます。[完了] ボタンをクリックします。



クリックします。

- 4 パーティションが作成され [ディスク情報] 設定画面に戻ります。作成された [拡張パーティション] の [未使用の領域] の [操作] から [追加] ボタンをクリックします。



追加

クリックします。

- 5 [パーティションタイプ] 設定画面が表示されます。[次へ] ボタンをクリックします。



クリックします。

- 6 [パーティションサイズ] 設定画面が表示されます。[パーティションサイズ] に作成したいパーティションのサイズを入力して [次へ] ボタンをクリックします。パーティションサイズは最小サイズ～最大サイズの範囲で設定できます。



! ご注意

本商品は 1GB=1024MB で計算します。

- 7 [パーティションのフォーマット] 設定画面が表示されます。[フォーマットを行う] を選択して [次へ] ボタンをクリックします。



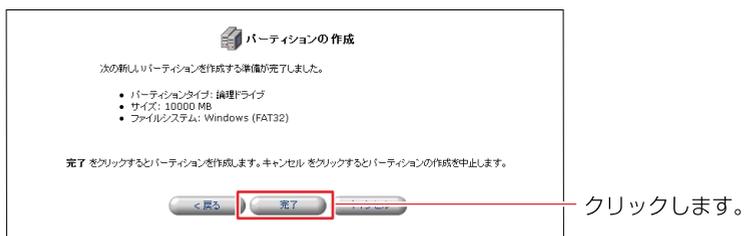
- 8 [ファイルシステムの選択]設定画面が表示されます。[ファイルシステム]からフォーマットに使用するファイルシステムを選択して[次へ]ボタンをクリックします。



! ご注意

本商品のフォーマット方法でEXT2を選択する場合は、パーティションサイズを137438MB(137GB)以下でご使用ください。137GB以上のパーティションをご利用の場合は、FAT32形式でフォーマットをご使用ください。

- 9 [パーティションの作成]設定画面が表示されます。[完了]ボタンをクリックします。



- 10 パーティションが作成され [ディスク情報] 設定画面に戻ります。作成したパーティションの [ステータス] が [フォーマット中] と表示されているときはパーティションのフォーマットを行っていますので、ディスクにアクセスできません。 [ステータス] が [使用可] になるまでお待ちください。



[使用可]になるまで待ちます。

！ ご注意

[ステータス] がフォーマットのまま変わらないときは、しばらく待ってから [表示の更新] ボタンを押してください。

- 11 [拡張パーティション] の [未使用の領域] が残っている場合は、同様の手順でさらに追加の論理パーティションを作成することができます。

・フォーマット済みのUSBストレージデバイスを接続する場合

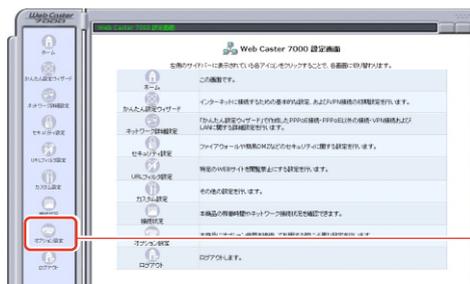
本製品にフォーマット済みのハードディスクを接続する場合は以下の点にご注意ください。

本製品がサポートしているハードディスクのフォーマットはFAT16,FAT32,EXT2のみです。それ以外のフォーマットは使用できませんのでコンピュータに接続してフォーマットしなすが、Web Caster 7000上でフォーマットしてください。

USBストレージデバイスのフォーマット

ここではNTFSでフォーマット済みのUSBストレージデバイスをWeb Caster 7000に接続してフォーマットするときの手順について説明します。

- 1 P.10-18の手順でUSBストレージデバイスをWeb Caster 7000に接続します。
- 2 サイドバーから [オプション設定] アイコンをクリックします。



クリックします。

- 3 [オプション設定] 画面が表示されます。 [ファイルサーバ] アイコンをクリックします。



クリックします。

10

追加機能

- 4 [ファイルサーバ]設定画面が表示されます。[詳細]に接続されているハードディスク名が表示されます。パーティションを設定するハードディスク名をクリックします。



クリックします。

! ご注意

[詳細]に表示されるハードディスク名はご使用になられているハードディスクによって変わります。マニュアルと同じ表記になるとは限りませんのでご注意ください。

- 5 [ディスク情報]設定画面が表示されます。[パーティション]に接続されているハードディスクのパーティション情報が表示されます。NTFSでフォーマットされているパーティションは「共有名」が「未サポート」と表示されます。



「未サポート」と表示されます。

- 6 「未サポート」と表示されているパーティションの「操作」から「フォーマット」アイコンをクリックします。



「フォーマット」アイコンをクリックします。

- 7 [ファイルシステムの選択]設定画面が表示されます。[ファイルシステム]からフォーマットに使用するファイルシステムを選択して[次へ]ボタンをクリックします。



選択します。

クリックします。

! ご注意

本商品のフォーマット方法でEXT2を選択する場合は、パーティションサイズを137438MB(137GB)以下でご使用ください。137GB以上のパーティションをご利用の場合は、FAT32形式でフォーマットをご使用ください。

- 8 「注意」画面が表示されます。フォーマットを実行するとパーティション内のデータはすべて消去されます。フォーマットを実行する場合は[OK]をクリックします。



クリックします。

- 9 パーティションのフォーマットが開始され、[ディスク情報] 設定画面に戻ります。パーティションの[ステータス]が[フォーマット中]と表示されているときはパーティションのフォーマットを行っていますので、ディスクにアクセスできません。[ステータス]が[使用可]になるまでお待ちください。



[ステータス]が[使用可]になるまでお待ちください。

! ご注意

[ステータス] がフォーマットのまま変わらないときは、しばらく待ってから [表示の更新] ボタンを押してください。

- 10 パーティションのステータスが「使用可」と表示されればフォーマットは完了です。パーティションはファイルサーバやWebサーバとして使用できるようになります。



10

追加機能

作成済みのパーティションの削除

ここではUSBストレージデバイスにあるパーティションの削除手順を説明します。

- 1 サイドバーから [オプション設定] アイコンをクリックします。



クリックします。

- 2 [オプション設定] 画面が表示されます。[ファイルサーバ] アイコンをクリックします。



クリックします。

- 3 [ファイルサーバ] 設定画面が表示されます。[詳細] に接続されているハードディスク名が表示されます。パーティションを設定するハードディスク名をクリックします。



クリックします。

! ご注意

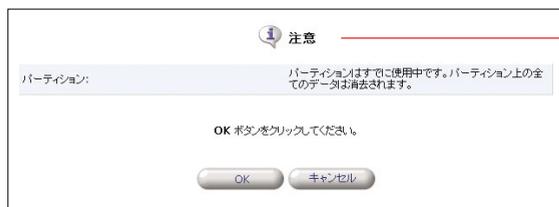
[詳細] に表示されるハードディスク名はご使用になられているハードディスクによって変わります。マニュアルと同じ表記になるとは限りませんのでご注意ください。

- 4 [ディスク情報] 設定画面が表示されます。削除したいパーティションの [操作] から [削除] アイコンをクリックします。



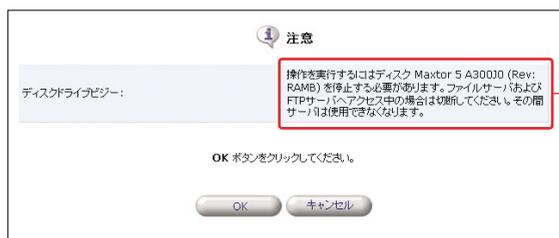
削除 クリックします。

5 [注意]画面が表示されます。



[注意]画面が表示されます。

この時にパーティションにアクセスしているユーザがいるときは下記のメッセージが表示されます。このメッセージが表示されたときは、ユーザのアクセスが終了するのを待ってからパーティションの削除をしてください。



メッセージが表示されます。

6 パーティションの削除を続ける場合は [OK] ボタンをクリックします。

! ご注意

パーティションの削除を行うとパーティション内のデータはすべて失われます。パーティションの削除をするときは大事なデータが入っていないことを確認してください。

- 7 [ディスク情報] 設定画面に戻ります。パーティションが削除されて、未使用の領域が増えている事を確認します。



未使用の領域が増えている事を確認します。

ハードディスクの取り外し

ここではUSBストレージデバイスをWeb Caster 7000から取り外すときの手順について説明します。Web Caster 7000からUSBストレージデバイスを取り外すときは必ずアンマウントをしてから取り外します。

- 1 サイドバーから [オプション設定] アイコンをクリックします。



クリックします。

- 2 [オプション設定]画面が表示されます。[ファイルサーバ]アイコンをクリックします。



- 3 [ファイルサーバ]設定画面が表示されます。[詳細]に接続されているハードディスク名が表示されます。パーティションを設定するハードディスク名をクリックします。



! ご注意

[詳細]に表示されるハードディスク名はご使用になられているハードディスクによって変わります。マニュアルと同じ表記になるとは限りませんのでご注意ください。

- 4 [ディスク情報] 設定画面が表示されます。[アンマウント] ボタンをクリックします。



クリックします。

- 5 ディスク情報の [ステータス] が [マウントされていません] になっていることを確認します。

！ ご注意

[アンマウント] ボタンをクリックしたときに [入力エラー] 画面が表示される場合は、USB ストレージデバイスにユーザがアクセスしています。ユーザのアクセスを終了させてからアンマウントをしてください。ユーザのアクセスがないにもかかわらず [入力エラー] が表示される場合はセッションが残っている場合があります。この場合は 10 分経過するとセッションが切れますので、10 分ほどお待ちになってからアンマウントしてください。



- 6 USB ストレージデバイスの電源を落とし、USB ケーブルを Web Caster 7000 から取り外します。

アクセス設定

本商品にUSBストレージデバイスを接続した時点でファイルサーバとして動作しますが、作成したパーティションにアクセスする為にはワークグループの設定とユーザアカウントの作成が必要になります。

ここではワークグループ名の設定とユーザアカウントの作成について説明します。

ワークグループ名の設定

コンピュータがファイルサーバにアクセスする為には、コンピュータとWeb Caster 7000のワークグループ名が同じである必要があります。

- 1 サイドバーから [オプション設定] アイコンをクリックします。



クリックします。

- 2 [オプション設定] 画面が表示されます。[ファイルサーバ] アイコンをクリックします。



クリックします。

- 3 [ファイルサーバ]設定画面が表示されます。[NetBIOSワークグループ名]にコンピュータに設定してあるワークグループ名を入力します。[OK]ボタンをクリックします



！ ご注意

ファイルサーバにアクセスするコンピュータのワークグループはすべて同じにしておいてください。ワークグループが違う場合にはコンピュータのマイネットワークにファイルサーバが表示されません。

- 4 [オプション設定]画面に戻ります。

つづいてユーザアカウントの作成を行います。

ユーザアカウントの作成

1 サイドバーから [カスタム設定] アイコンをクリックします。



クリックします。

2 [カスタム設定] 画面が表示されます。[ユーザ] アイコンをクリックします。



クリックします。

10

追加機能

- 3 [ユーザ]設定画面が表示されます。[ユーザの追加]の[追加]ボタンをクリックします。



追加 クリックします。

- 4 [ユーザ]設定画面が表示されます。P.6-238「ログインユーザ名・ログインパスワード設定」の[ユーザの新規作成]の手順で、フルネーム、ユーザ名、パスワードを設定します。

！ ご注意

ユーザの使用するOSがWindows®の場合はユーザ名とパスワードはユーザのWindows®へのログインネームとログインパスワードと同じに設定します。

- 5 [権限]からユーザのファイルサーバへのアクセス権限を選択します。



選択します。

ファイルサーバからのファイルの読み込み

この権限にチェックの入っているユーザはファイルサーバのデータを読み出す事が出来ます。

ファイルサーバへのファイルの書き込み

この権限にチェックの入っているユーザはファイルサーバにデータを書き込む事が出来ます。またこの権限ではファイルサーバのデータの消去をする事も出来ます。

! ご注意

書き込みの権限があるユーザには必ず読み込みの権限も付けてください。読み込みの権限のみか読み込みと書き込みの両方の権限のいずれかに設定してください。

- 6 [OK] ボタンをクリックします。アカウントが作成され [ユーザ] 設定画面に戻ります。

ファイルサーバへのアクセス

ここでは各OS毎のファイルサーバへのアクセス手順について説明します。Windows[®]ではWeb Caster 7000の[NetBIOSワークグループ名]とWindows[®]のワークグループを同じに設定します。

ワークグループの設定

Windows[®] XP

- 1 [スタート]メニューから[マイ コンピュータ]アイコンを右クリックします。表示されるメニューから[プロパティ]をクリックします。



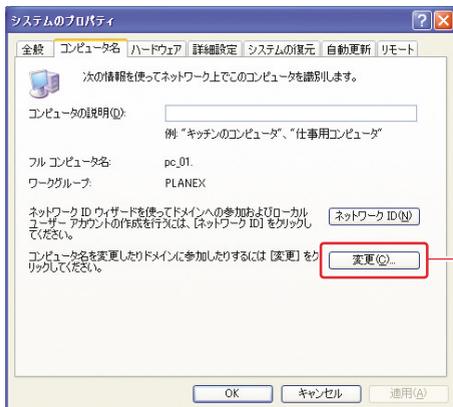
クリックします。

- 2 [システムのプロパティ]ウィンドウが表示されます。[コンピュータ名]タブをクリックします。



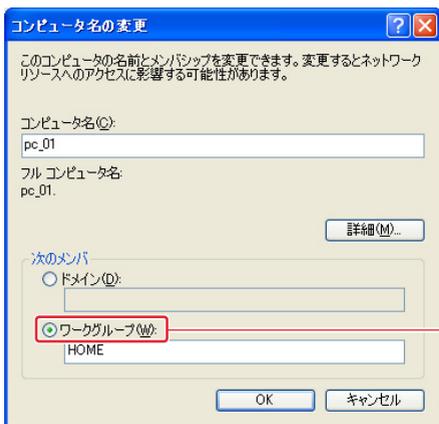
クリックします。

3 [コンピュータ名] タブから [変更] ボタンをクリックします。



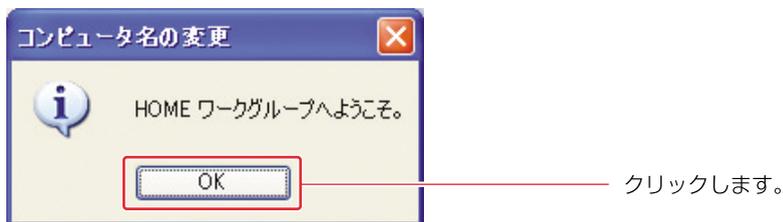
クリックします。

4 [コンピュータ名の変更] ウィンドウが表示されます。[次のメンバ] から [ワークグループ] を選択します。[ワークグループ] に P.10-43 で入力した Web Caster 7000 の [NetBIOS ワークグループ名] と同じ値を入力します。



選択します。

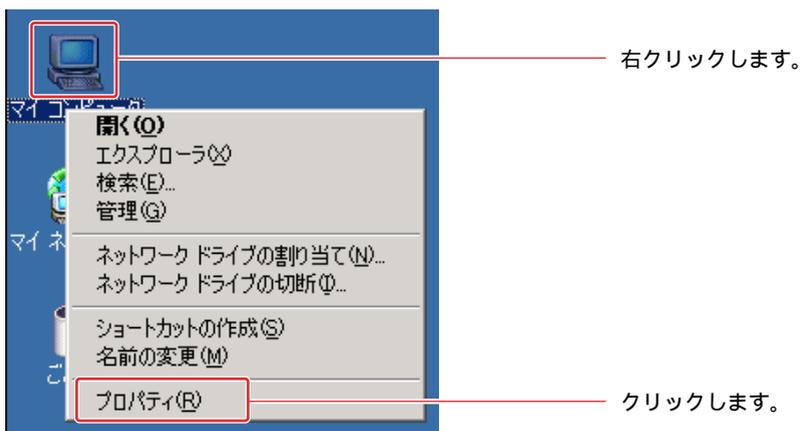
- 5 [OK] ボタンをクリックします。[コンピュータ名の変更] ウィンドウが表示されます。[OK] ボタンをクリックします。



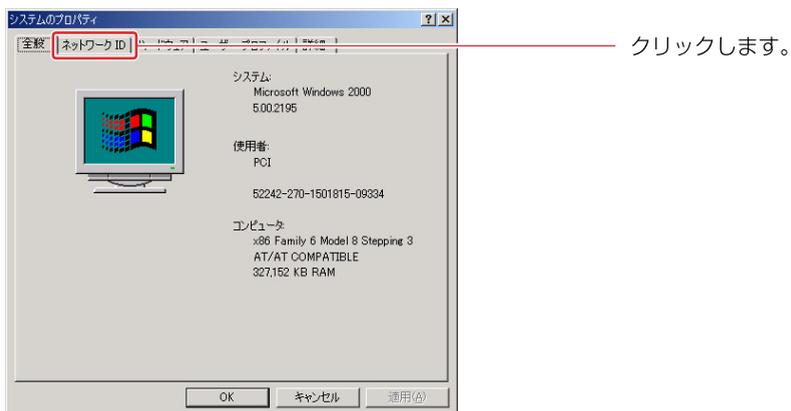
- 6 [システムのプロパティ] ウィンドウに戻ります。[OK] ボタンをクリックします。再度、[コンピュータ名の変更] ウィンドウが表示されます。[OK] ボタンをクリックしてコンピュータを再起動します。

Windows® 2000

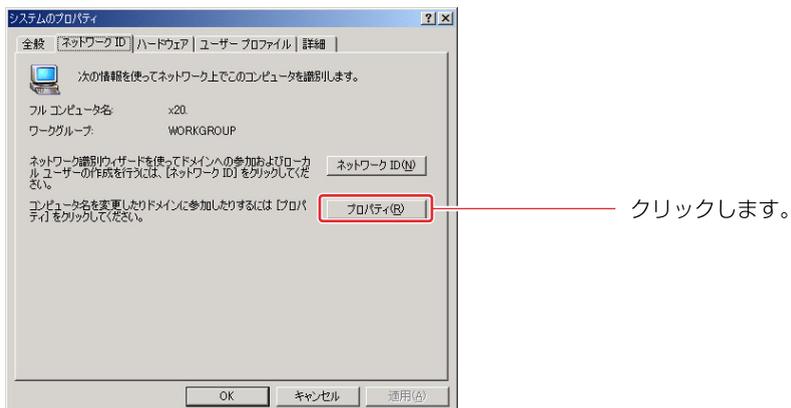
- 1 デスクトップ上の [マイ コンピュータ] アイコンを右クリックします。表示されるメニューから [プロパティ] をクリックします。



2 [システムのプロパティ] ウィンドウが表示されます。[ネットワーク ID] タブをクリックします。



3 [ネットワーク ID] タブから [プロパティ] ボタンをクリックします。



- 4 [識別の変更] ウィンドウが表示されます。[次のメンバ] から [ワークグループ] を選択します。[ワークグループ] に P.10-43 で入力した Web Caster 7000 の [NetBIOS ワークグループ名] と同じ値を入力します。



選択します。
入力します。

- 5 [OK] ボタンをクリックします。[ネットワーク ID] ウィンドウが表示されるので [OK] ボタンをクリックします。



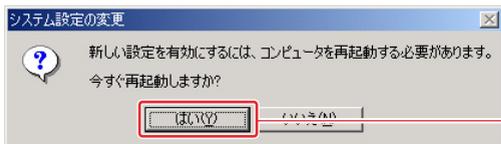
クリックします。

- 6 再度、[ネットワーク ID] ウィンドウが表示されるので [OK] ボタンをクリックします。。 [OK] ボタンをクリックします。



クリックします。

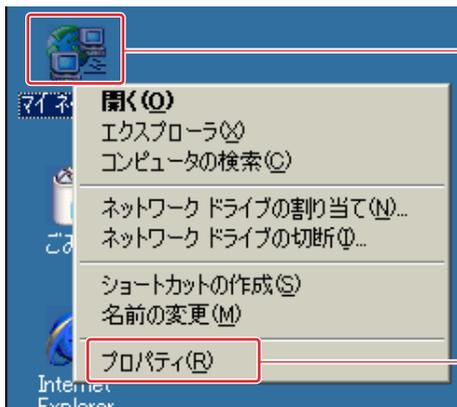
- 7 [システムのプロパティ] ウィンドウに戻ります。[OK] ボタンをクリックします。[システム設定の変更] ウィンドウが表示されます。[OK] ボタンをクリックしてコンピュータを再起動します。



クリックします。

Windows® Me

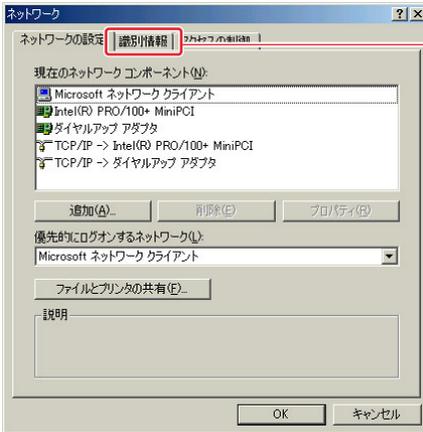
- 1 デスクトップ上の [マイ ネットワーク] アイコンを右クリックします。表示されるメニューから [プロパティ] をクリックします。



右クリックします。

クリックします。

2 [ネットワーク] ウィンドウが表示されます。[識別情報] タブをクリックします。



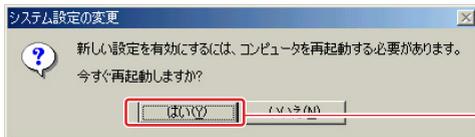
クリックします。

3 [識別情報] タブの [ワークグループ] に P.10-43 で入力した Web Caster 7000 の [NetBIOS ワークグループ名] と同じ値を入力します。



入力します。

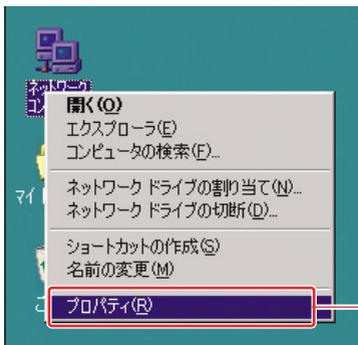
- 4 [OK] ボタンをクリックします。[システムの設定変更] ウィンドウが表示されます。[はい] ボタンをクリックしてコンピュータを再起動します。



クリックします。

Windows® 98/98Second Edition

- 1 デスクトップ上の [マイ ネットワーク] アイコンを右クリックします。表示されるメニューから [プロパティ] をクリックします。



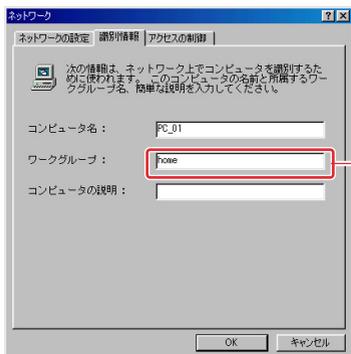
クリックします。

- 2 [ネットワーク] ウィンドウが表示されます。[識別情報] タブをクリックします。



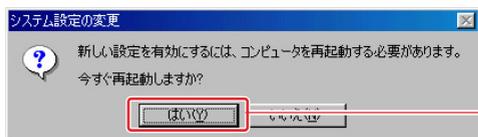
クリックします。

- 3 [識別情報] タブの [ワークグループ] に P.10-43 で入力した Web Caster 7000 の [NetBIOS ワークグループ名] と同じ値を入力します。



入力します。

- 4 [OK] ボタンをクリックします。[システムの設定変更] ウィンドウが表示されます。[はい] ボタンをクリックしてコンピュータを再起動します。



入力します。

ファイルサーバへのアクセス

Windows® XP

- 1 [スタート] メニューから [マイ コンピュータ] アイコンをダブルクリックします。



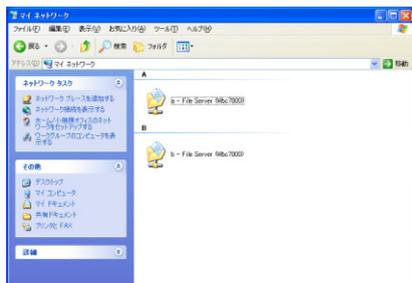
ダブルクリックします。

- 2 [マイ コンピュータ] ウィンドウが表示されます。ウィンドウ左側から [マイ ネットワーク] アイコンをクリックします。



クリックします。

- 3 [マイ ネットワーク] ウィンドウが表示され、ファイルサーバの各パーティションのアイコンが表示されます。アクセスしたいパーティションのアイコンをダブルクリックします。



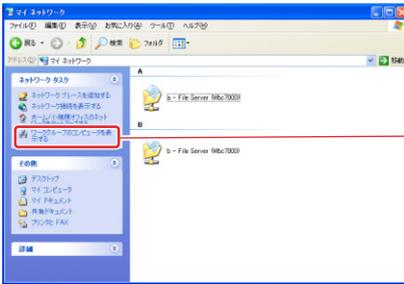
10

追加機能

! ご注意

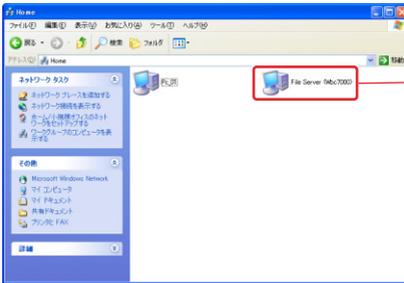
ユーザ名とパスワードを求められる場合はWeb Caster 7000 にユーザが登録されていません。P.10-44 「ユーザアカウントの作成」の手順でWeb Caster 7000 に登録してあるユーザ名とパスワードを入力してください。

- 4 [マイ ネットワーク] ウィンドウにファイルサーバの各パーティションのアイコンが表示されない場合は、[マイ ネットワーク] ウィンドウ左側の [ワークグループのコンピュータを表示する] をクリックします。



クリックします。

- 5 同じワークグループのコンピュータの一覧が表示されます。[File Server] アイコンがWeb Caster 7000のファイルサーバです。[File Server] アイコンをダブルクリックすると各パーティションのアイコンが表示されますのでアクセスするパーティションのアイコンをダブルクリックします。



ダブルクリックします。

Windows® 2000

- 1 デスクトップ上の[マイ ネットワーク]アイコンをダブルクリックします。
[マイ ネットワーク]ウィンドウが表示されます。[近くのコンピュータ]
アイコンをダブルクリックします。



ダブルクリックします。

- 2 [近くのコンピュータ]ウィンドウが表示されます。コンピュータの一覧
が表示されます。P.8-41 [Web Caster 7000のホスト名]に設定した
名前のアイコンがWeb Caster 7000のファイルサーバです。アイコン
をダブルクリックすると各パーティションのアイコンが表示されますので
アクセスするパーティションのアイコンをダブルクリックします。



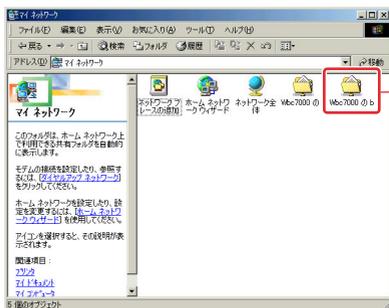
ダブルクリックします。

！ ご注意

ユーザ名とパスワードを求められる場合はWeb Caster 7000にユーザが登録
されていません。P.10-44「ユーザアカウントの作成」の手順でWeb Caster
7000に登録してあるユーザ名とパスワードを入力してください。

Windows® Me

- 1 デスクトップ上の[マイ ネットワーク]アイコンをダブルクリックします。
[マイ ネットワーク]ウィンドウが表示され、ファイルサーバの各パーティションのアイコンが表示されます。アクセスしたいパーティションのアイコンをダブルクリックします。

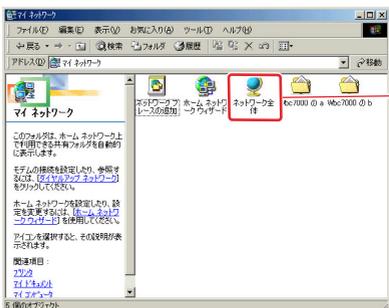


ダブルクリックします。

! ご注意

ユーザ名とパスワードを求められる場合はWeb Caster 7000 にユーザが登録されていません。P.10-44「ユーザアカウントの作成」の手順でWeb Caster 7000 に登録してあるユーザ名とパスワードを入力してください。

- 2 [マイ ネットワーク]ウィンドウにファイルサーバの各パーティションのアイコンが表示されない場合は、[ネットワーク全体]アイコンをダブルクリックします。



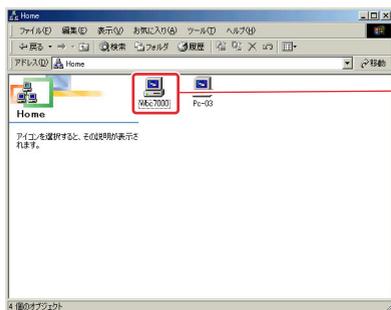
ダブルクリックします。

- 3 [ネットワーク全体] ウィンドウが表示されます。ワークグループと同じ名前のアイコンをダブルクリックします。



ダブルクリックします。

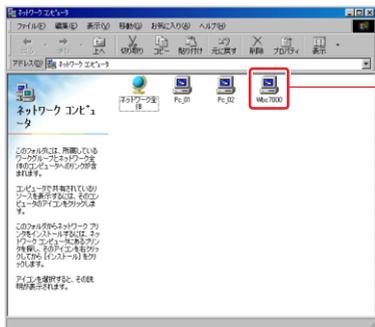
- 4 同じワークグループのコンピュータの一覧が表示されます。P.8-41 [Web Caster 7000のHOST名] に設定した名前のアイコンがWeb Caster 7000のファイルサーバです。アイコンをダブルクリックすると各パーティションのアイコンが表示されますのでアクセスするパーティションのアイコンをダブルクリックします。



ダブルクリックします。

Windows® 98/98Second Edition

- 1 デスクトップ上の[マイ ネットワーク]アイコンをダブルクリックします。
[ネットワークコンピュータ]ウィンドウが表示され、同じワークグループのコンピュータの一覧が表示されます。P.8-41 [Web Caster 7000のホスト名]に設定した名前アイコンがWeb Caster 7000のファイルサーバです。アイコンをダブルクリックすると各パーティションのアイコンが表示されますのでアクセスするパーティションのアイコンをダブルクリックします。



アイコンが表示されます。

FTP サーバの設定

USBストレージデバイスの最初のドライブ番号 A は FTP サーバとしても使用できます。FTP サーバとして使用した場合はインターネットから USB ストレージデバイスにアクセスしてファイルのアップロードやダウンロードが出来るようになります。

FTP サーバを使用するためには FTP サーバ用のユーザアカウントの作成とユーザホームディレクトリの作成が必要になります。

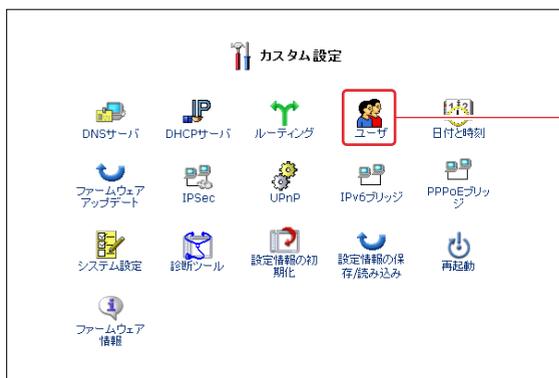
FTP ユーザアカウントの作成

- 1 サイドバーから [カスタム設定] アイコンをクリックします。



クリックします。

- 2 [カスタム設定] 画面が表示されます。[ユーザ] アイコンをクリックします。



ダブルクリックします。

- 3 [ユーザ] 設定画面が表示されます。[ユーザの追加] の [追加] ボタンをクリックします。
- 4 [ユーザ] 設定画面が表示されます。P.6-238「ログインユーザ名・ログインパスワード設定」の [ユーザの新規作成] の手順で、フルネーム、ユーザ名、パスワードを設定します。

ユーザー

フルネーム	ユーザ名	権限	操作
Administrator	admin	管理者権限 ファイルサーバからのファイルの読み込み ファイルサーバへのファイルの書き込み	修正
Web Master	www		修正 削除
ユーザの追加			追加

戻る

追加 クリックします。

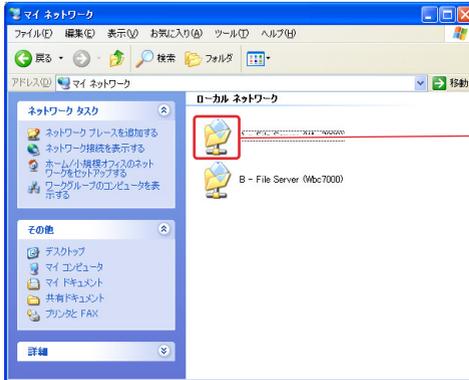
- 5 [OK] ボタンをクリックします。アカウントが作成され [ユーザ] 設定画面に戻ります。

！ ご注意

[権限] は設定する必要がありませんが、作成したアカウントに他の機能の権限を与える場合には必要な権限にチェックを入れてください。

FTP ユーザホームディレクトリの作成

- 1 マイネットワーク上に [File Server] アイコンが表示されます。ファイルサーバに作成してあるパーティションのうち、一番ドライブ番号が若いパーティション（通常は A）のアイコンをダブルクリックします。



ダブルクリックします。

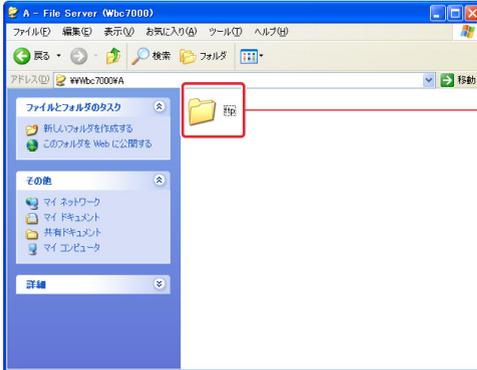
- 2 ユーザ名の入力を求められますので、ファイルサーバに書き込み権限のあるユーザアカウントのユーザ名とパスワードを入力して [OK] ボタンをクリックします。



入力します。

クリックします。

- 3 ファイルサーバにアクセス出来るようになります。
- 4 ファイルサーバに作成したFTP アカウントのユーザ名と同じ名前のフォルダを作成します。



ユーザ名と同じ名前のフォルダを作成します。

! ご注意

フォルダ名はユーザアカウントと必ず同じ名前にしてください。大文字と小文字は区別されますので、大文字と小文字を間違えないようにしてください。

- 5 作成したフォルダが自動的にFTP アカウントのホームディレクトリになります。複数のアカウントを作成する場合は、作成したアカウントごとにホームディレクトリを作成します。

- 3 [リモートアクセス設定]画面が表示されます。[FTPサーバを外部に公開する]にチェックを入れ、[OK]ボタンをクリックします。



- 4 FTPサーバがインターネット上に公開されますので、FTPクライアントソフトを使用してインターネット上から Web Caster 7000 のWAN側のIPアドレスまたはダイナミックDNSで設定したURLにアクセス出来るようになります。

! **ご注意**

USBストレージデバイスを装着した場合は、PCカードメモリによるFTPサーバ接続は使用できません。

! **ご注意**

Ver1.2.xより文字コードがUTF-8に変更になりました。日本語ファイル名を表示する場合はUTF-8をサポートしたFTPクライアントをご利用下さい。

Web サーバの設定

USBストレージデバイスに作成した各パーティションはWebサーバとしても使用できます。Webサーバとして使用する場合は各パーティションにHTMLファイルをコピーすることでインターネット上にWebページを公開できるようになります。

リモートアクセスの設定

- 1 サイドバーから [セキュリティ設定] アイコンをクリックします。



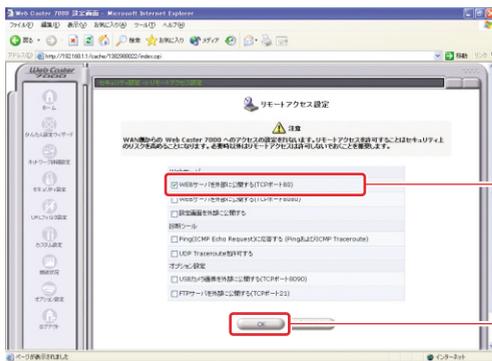
クリックします。

- 2 [セキュリティ設定] 画面が表示されます。[リモートアクセス] ボタンをクリックします。



クリックします。

- 3 [リモートアクセス設定]画面が表示されます。[Webサーバを外部に公開する(TCPポート80)]にチェックを入れ、[OK]ボタンをクリックします。



チェックします。

クリックします。

- 4 Webサーバがインターネット上に公開されます。Webブラウザでアクセスするときは、「http://Web Caster 7000のアドレス/ドライブ番号(A～Z)/ファイル名」をWebブラウザのアドレスまたは場所に入力してください。



入力します。

! ご注意

[Web Caster 7000のアドレス]はWeb Caster 7000のWAN側のIPアドレスまたはダイナミックDNSに登録しているアドレス(ダイナミックDNS使用時)を入力します。

[ドライブ番号(A～Z)]はアクセスしたいパーティションのドライブ番号です。
[ファイル名]はWebブラウザに表示させたいHTMLファイルです。パーティションにインデックスファイル(index.htmまたはindex.html)がある場合はファイル名の入力を省略できます。

ATA カードと USB ストレージデバイスを同時に使用する場合

本製品に ATA カードと USB ストレージデバイスを両方取り付けて使用する場合には以下の点にご注意ください。

ファイルサーバへのアクセス

ファイルサーバへのアクセスは USB ストレージデバイスのみ対応しています。ATA カードへはファイルサーバとしてアクセスは出来ません。

WEB サーバへのアクセス

WEB サーバへのアクセスは ATA カードと USB ストレージデバイスの URL が別になっていますので同時に使用できます。WEB サーバにブラウザからアクセスする際の URL は、次のようになります。

ATA カード

「http://Web Caster 7000 のアドレス/www/ファイル名」



入力します。

USB ストレージデバイス

最初のパーティション「http://Web Caster 7000 のアドレス/A/ファイル名」
2 番目のパーティション「http://Web Caster 7000 のアドレス/B/ファイル名」



入力します。

❗ ご注意

[Web Caster 7000 のアドレス] は Web Caster 7000 の WAN 側の IP アドレスまたはダイナミック DNS に登録しているアドレス (ダイナミック DNS 使用時) を入力します。

[ドライブ番号 (A ~ Z)] はアクセスしたいパーティションのドライブ番号です。
[ファイル名] は Web ブラウザに表示させたい HTML ファイルです。パーティションにインデックスファイル (index.htm または index.html) がある場合はファイル名の入力を省略できます。

FTP サーバへのアクセス

ATA カードのみ接続されている場合

ユーザ www のホームディレクトリは ATA カードの「/」(ルート)です。

ユーザアカウント「www」は ATA メモリ内のすべてのファイルにアクセス可能です。

その他のユーザはユーザアカウントと同じ名前のディレクトリを ATA カード内に作成することでアクセスできるようになります。

各ユーザのホームディレクトリは「/各ユーザ名のディレクトリ」です。

USB HDDのみ接続されている場合

ユーザアカウント「www」のホームディレクトリは USB HDD の最初のパーティションの「/」(ルート)です。ユーザアカウント「www」は USB HDD の最初のパーティション内のすべてのファイルにアクセス可能です。

その他のユーザはユーザアカウントと同じ名前のディレクトリを USB ストレージデバイスの最初のパーティション内に作成することでアクセスできるようになります。各ユーザのホームディレクトリは「/各ユーザ名のディレクトリ」です。

ATA カードと USB HDD の両方が接続されている場合

ATA カードへの FTP でのアクセスは出来なくなります。USB ストレージデバイスへのアクセスは「USB HDD のみ接続されている場合」と同じです。

追加機能パッケージ

本商品では、各種の追加機能を「追加機能パッケージ」として提供します。
当社ホームページからダウンロードした追加機能を、本商品にインストールすることで新機能をご利用いただけます。
また、インストールした「追加機能パッケージ」は各パッケージごとに、有効/無効の切り替えが可能です。

「追加機能パッケージ」のインストール

「追加機能パッケージ」のインストールを開始する前に、「追加機能パッケージ」ファイルをダウンロードして、パソコンのハードディスク上に保存しておいてください。

「追加機能パッケージは」以下の弊社ホームページに掲載しております。

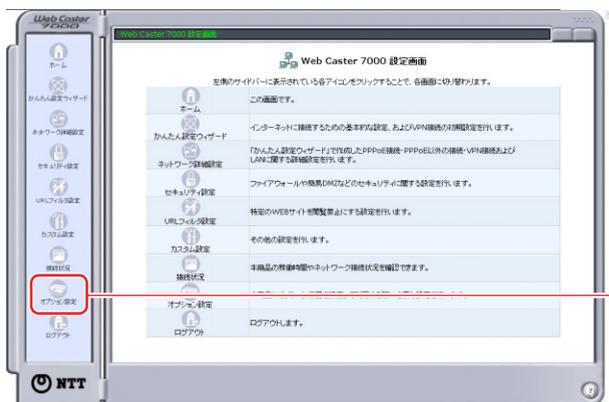
<http://www.ntt-east.co.jp/ced/>

<http://www.ntt-west.co.jp/kiki/>

ご注意

本ファームウェア(Ver 1.2.x)より、USBカメラサーバ機能は追加機能パッケージによる提供となります。ファームウェアを追加した初期状態では動作しませんので、追加機能パッケージを弊社ホームページよりダウンロードしてご利用ください。

1 サイドバーから[オプション設定]アイコンをクリックします。



クリックします。

2 [オプション設定]画面が表示されます。[追加機能パッケージ]アイコンをクリックします。



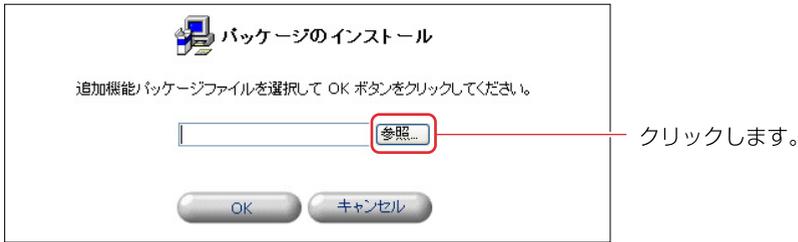
クリックします。

3 [追加機能パッケージ]設定画面が表示されます。[パッケージのインストール]ボタンをクリックします。

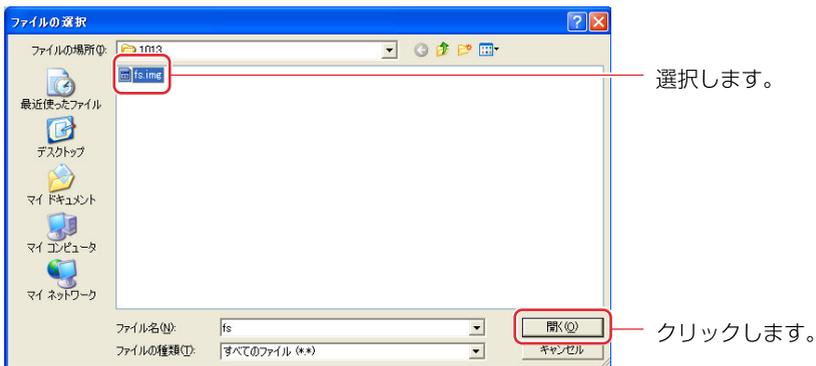


クリックします。

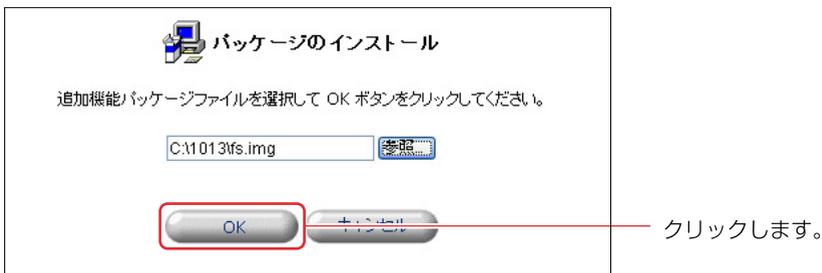
- 4 [パッケージのインストール]画面が表示されます。[参照]ボタンをクリックします。



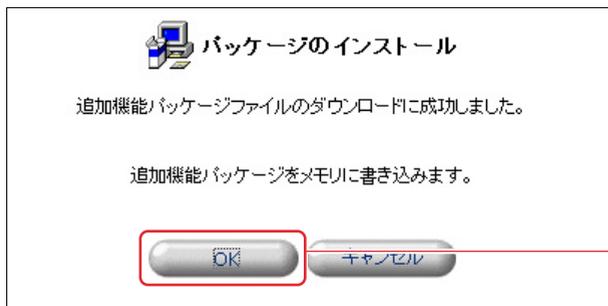
- 5 ファイルを選択するダイアログボックスが表示されます。保存しておいた [追加機能パッケージ] ファイルを選択し、[開く]ボタンをクリックします。



- 6 [OK]ボタンをクリックします。



- 7 [追加機能パッケージファイルのダウンロードに成功しました]の画面が表示されます。[OK]ボタンをクリックすると、追加機能パッケージを本商品にインストールします。



- 8 「追加機能パッケージ」のインストールが開始されます。インストールが終了すると[追加機能パッケージ]設定画面が表示されます。画面にインストールされた「追加機能パッケージ」が一覧表示されます。



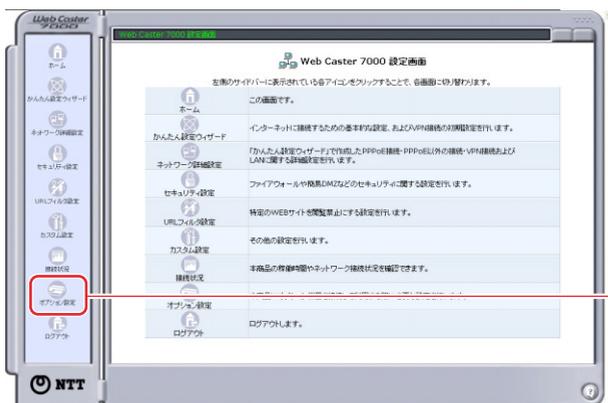
！ ご注意

追加機能パッケージは上書きインストールする事が可能です。

「追加機能パッケージ」の設定

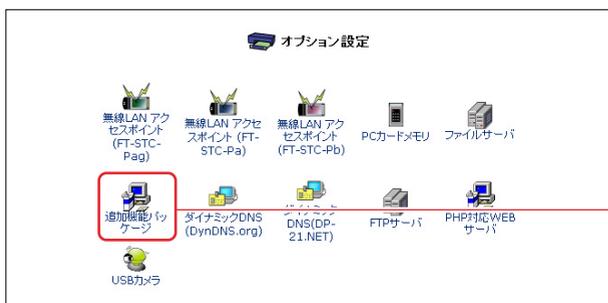
インストールした「追加機能パッケージ」は、各パッケージごとに「有効」または「無効」に設定することができます。

- 1 サイドバーから[オプション設定]アイコンをクリックします。



クリックします。

- 2 [オプション設定]画面が表示されます。[追加機能パッケージ]アイコンをクリックします。



クリックします。

- 3 [追加機能パッケージ]設定画面が表示されます。画面にインストールされた「追加機能パッケージ」が一覧表示されます。チェックボックスにチェックされたパッケージが「有効」に設定されているパッケージです。



表示されます。

- 4 「有効」に設定したいパッケージのチェックボックスをチェックします。「無効」に設定したいパッケージのチェックボックスはチェックを外します。



チェックします。

クリックします。

- 5 [OK]ボタンをクリックします。

・追加機能パッケージの削除

追加機能を削除したい時には、[パッケージの削除]ボタンを押して下さい。

！ ご注意

[パッケージの削除]ボタンをクリックすると、すべてのパッケージが削除されます。

！ ご注意

本商品にインストールした追加機能パッケージを有効にする場合は再起動が必要になります。

USB カメラの設定

USBカメラサーバ機能は追加機能パッケージによる提供になったため、ファームウェアの初期状態ではご利用になることができません。追加機能パッケージを弊社ホームページよりダウンロードし、追加した上でご利用ください。なお、機能自体ではインターネットおよび携帯電話からのアクセス権限設定に一部変更がございます。ご利用の際には、以下の各ページをご参照ください。

- ・ USBカメラの設定：P.6-214
- ・ インターネット・携帯電話からのアクセス権限の設定：P.10-105「ユーザのアクセス権限の項目追加」

PHP 対応 Web サーバ機能

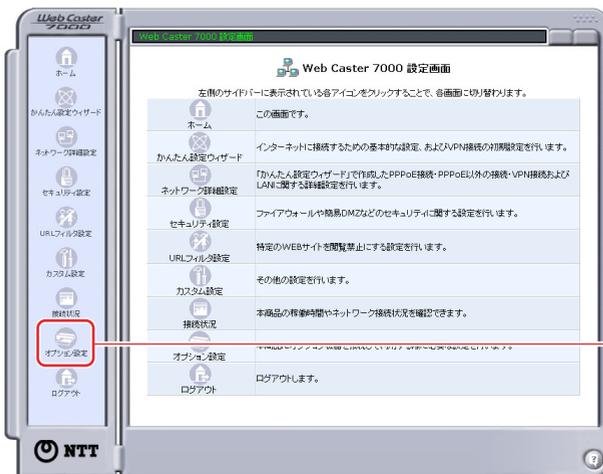
このパッケージを適用させることにより、P.6-233 で説明している Web サーバ機能（ポート番号 80 番または 8080 番で動作）とは別に、ポート番号 8008 番で Web サーバ機能が動作します。この Web サーバ機能の特長は、PHP スクリプトに対応していることです。これにより、掲示板などの動的な Web ページを生成できるようになりました。

本商品で PHP スクリプトを動作させる場合は、本商品に接続された ATA PC カードメモリまたは USB ストレージ（ハードディスク、フラッシュメモリ等）に PHP スクリプトを配置することで可能になります。

PHP 対応 Web サーバのルートディレクトリ設定

ここでは、PHP 対応 Web サーバで表示するためのファイルを保存するディレクトリを設定します。

- 1 サイドバーから[オプション設定]アイコンをクリックします。



クリックします。

- 2 オプション設定画面が表示されます。[PHP 対応 WEB サーバ] アイコンをクリックします。



- 3 [PHP 対応 WEB サーバ] 画面が表示されます。[パーティション] 欄から PHP スクリプトを配置するパーティションを選択します。



USBストレージをご利用の場合

パーティション欄において、パーティション番号（A～N）を選択していただくことにより、PHP対応WebサーバにアクセスするときのURLを指定する際にパーティションの番号の記述を省略することができます。

「指定無し」を選択した場合には、Webサーバにアクセスする時のURLを指定する際にパーティションの番号の記述が必要となります。

例）パーティション「A」のルートディレクトリにindex.htmlというファイルを配置した場合、

【パーティション番号[A]を指定した場合のURL】

http://***.***.***.***:8008/index.html

【パーティション番号[指定無し]を指定した場合のURL】

http://***.***.***.***:8008/A/index.html

ATA PCカードメモリをご利用の場合

ATA PCカードメモリをご利用の場合は、パーティションを指定することが出来ません。自動的にATA PCカードメモリの“www”ディレクトリがWebサーバのルートディレクトリとなりますので、[指定無し]を選択するようにしてください。

インターネットからWebサーバにアクセスする時のURL指定の詳細については、10-86「インターネットからWebページにアクセスする場合」を参照してください。

- 4 [ドキュメントルート] 欄にディレクトリ名を入力し、[OK] ボタンをクリックします。

例) パーティションAドライブにhtmlフォルダを作成した場合



パーティションAドライブにhtmlフォルダを作成し、その中にmainフォルダを作成した場合



USBストレージをご利用の場合

ドキュメントルート欄において、ディレクトリ名を入力した場合には、WebサーバにアクセスするときのURLを指定する際にドキュメントルートとして指定したディレクトリの記述を省略できます。

ディレクトリ名を入力しない（空欄）場合には、Webサーバにアクセスする時のURLを指定する際にルートディレクトリ以下のディレクトリを記述してください。

例) ルートディレクトリに指定したパーティションに“html”というディレクトリを作成し、“index.html”というファイルを配置した場合、

【ドキュメントルート[空欄]を指定した場合のURL】

http://***.***.***.***:8008/html/index.html

【ドキュメントルート[html]を指定した場合のURL】

http://***.***.***.***:8008/index.html

ATA PCカードメモリをご利用の場合

ATA PCカードメモリをご利用の場合も同様に、ATA PCカードメモリのルートディレクトリからの相対パスを入力してください。

例) ATA PCカードメモリの“html”ディレクトリをドキュメントルートに指定し、“index.html”というファイルを配置した場合、“http://***.***.***.***:8008/index.html”により、アクセスすることが可能です。

インターネットからWebサーバにアクセスする時のURL指定の詳細については、P.10-86「インターネットからWebページにアクセスする場合」を参照してください。

! ご注意

ATA PCカードメモリとUSBストレージが同時に挿入されている場合は、WebサーバはUSBストレージのディレクトリ上で優先して動作します。その場合、ATA PCカード上のファイルはWeb公開することが出来ません。

PHP 対応 Web サーバのインターネット公開設定

初期状態では 8008 番ポートへのインターネットからのアクセスは、パケットフィルタにより制限されています。インターネット側から PHP 対応 Web サーバにアクセスを許可するためには、以下の設定を行う必要があります。

- 1 サイドバーから [セキュリティ設定] アイコンをクリックします。



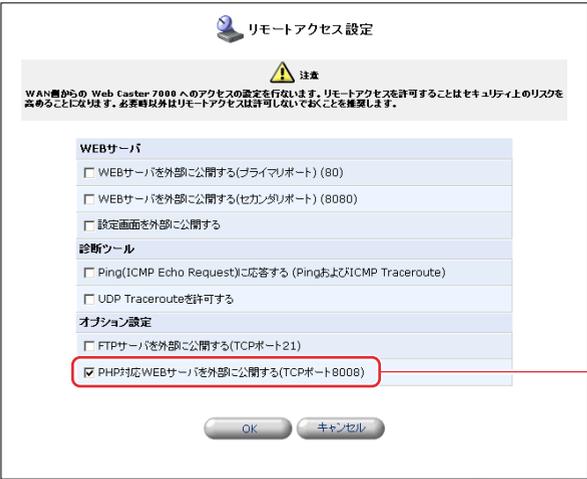
- 2 [リモートアクセス] ボタンをクリックします。



10

追加機能

- 3 [オプション設定] 欄から [PHP 対応 WEB サーバを外部に公開する (TCP ポート 8008)] にチェックをつけます。



リモートアクセス設定

注意
WAN側からの Web Caster 7000 へのアクセスの設定を行ないます。リモートアクセスを許可することはセキュリティ上のリスクを高めることとなります。必要時以外リモートアクセスは許可しないで頂くことを推奨します。

WEBサーバ

- WEBサーバを外部に公開する(ブライマリポート) (80)
- WEBサーバを外部に公開する(セカンダリポート) (8080)
- 設定画面を外部に公開する

診断ツール

- Ping(ICMP Echo Request)に回答する (PingおよびICMP Traceroute)
- UDP Tracerouteを許可する

オプション設定

- FTPサーバを外部に公開する(TCPポート21)
- PHP対応WEBサーバを外部に公開する(TCPポート8008)

OK キャンセル

クリックします。

- 4 [OK]ボタンをクリックします。

- 5 以上で PHP 対応 Web サーバのインターネット公開設定は終了です。

インターネットから Web ページにアクセスする場合

本商品の P H P 対応 W e b サーバに設置したファイルをインターネットから接続して見る場合は、設定した内容により指定する U R L が異なります。

1 . パーティション指定無し ドキュメントルートディレクトリ指定無しの場合
従来通り、A T A P C カードメモリの “ w w w ” ディレクトリが W e b サーバのドキュメントルートとして参照されます。ただし、U S B ストレージデバイスが接続されている場合は、各パーティション番号 (A ~ N) をディレクトリの冒頭に記述することで、各パーティションのルートディレクトリを参照することが出来ます。

・ **A T A P C カードメモリの “ w w w ” ディレクトリを参照する場合**

http://WebCaster7000のWAN側IPアドレス:8008/
“www”ディレクトリの中のディレクトリ及びファイル名

(例) “www”ディレクトリの中に “html”ディレクトリを作成し、
その中に “index.html”ファイルを設置した場合

http://***.***.***.***:8008/html/index.html

・ **U S B ストレージデバイスの各パーティションを参照する場合**

http://WebCaster7000のWAN側IPアドレス:8008/
パーティション番号/ルートディレクトリ以下のディレクトリ及びファイル名

(例) パーティションAのルートに “webpage”ディレクトリを作成し、
その中に “index.html”ファイルを設置した場合

http://***.***.***.***:8008/A/webpage/
index.html

2 . パーティション番号のみ指定した場合

U S B ストレージデバイスをご利用の場合に、指定したパーティションのルートディレクトリをドキュメントルートとして参照することが出来ます。

http://WebCaster7000のWAN側IPアドレス:8008/
ルートディレクトリ以下のディレクトリ及びファイル名

(例) パーティションとして “A” を指定し、パーティションAのルートに
“webpage”ディレクトリを作成し、その中に “index.html”
ファイルを設置した場合

http://***.***.***.***:8008/webpage/index.html

3. ドキュメントルートのみ指定した場合

指定したディレクトリをドキュメントルートとして参照することが出来ます。

・ATA PCカードメモリをご利用の場合

http://WebCaster 7000のWAN側IPアドレス: 8008/
ドキュメントルート以下のディレクトリ及びファイル名

(例) ドキュメントルートとして“www/html”を指定し、ATA PCカードメモリのホームディレクトリ“www”の中に“html”ディレクトリを作成し、その中に“index.html”ファイルを設置した場合

http://***.***.***.***:8008/index.html

・USBストレージデバイスをご利用の場合

USBストレージデバイスをご利用の場合は、ドキュメントルート欄に参照するパーティション番号を記述する必要があります。

http://WebCaster 7000のWAN側IPアドレス: 8008/
ドキュメントルート以下のディレクトリ及びファイル名

(例) ドキュメントルートとして“webpage”を指定し、パーティションAのルートに“webpage”ディレクトリを作成し、その中に“index.html”ファイルを設置し、ドキュメントルート欄に[A/webpage]と記述した場合

http://***.***.***.***:8008/index.html

4. パーティション番号およびドキュメントルートを指定した場合

USBストレージデバイスをご利用の場合に、指定したパーティションの指定したディレクトリをドキュメントルートとして参照することが出来ます。

http://WebCaster 7000のWAN側IPアドレス: 8008/
ドキュメントルート以下のディレクトリ及びファイル名

(例) パーティションとして“A”、ドキュメントルートとして“webpage”を指定し、パーティションAのルートに“webpage”ディレクトリを作成し、その中に“index.html”ファイルを設置した場合

http://***.***.***.***:8008/index.html

PHP スクリプト動作機能

PHP 対応 Web サーバのパッケージ追加を行うことにより、コマンドライン上でユーザが作成した任意の PHP スクリプトが動作します。本商品に接続した USB ハードディスク上で実行することが出来ます。

! ご注意

本商品が対応しているスクリプトは PHP スクリプトのみになります。

- ・スクリプトには、インタプリタ起動用として 1 行目に “#/usr/local/bin/php[改行]” と記述する必要があります。
- ・文字コードには、2 バイト文字は使えません。
- ・改行コードは “LF” を使用してください。
- ・root 権限での実行は出来ません。一般ユーザ権限で使用してください。

telnet 接続機能

PHP 対応 Web サーバのパッケージ追加を行うことにより、コマンドライン上でユーザが作成した任意の PHP スクリプトが動作します。本商品に接続した USB ハードディスク上で実行することが出来ます。

! ご注意

PHP スクリプトの実行等の操作を簡単に行うため、1023 番ポートに対して LAN 側から telnet による接続を行い、シェルを利用することが可能です。

- ・1023 番で接続するとユーザ名/パスワードの認証が行われます。
- ・管理者権限ユーザ以外でログインすることが可能です。
- ・ログインすると、/home/httpd/html というディレクトリに入ります。その後、“cd” コマンドで実際に操作するパーティション名に移動し、コマンドを実行してください。

例)

```
/home/httpd/html $ cd A<enter>  
/home/httpd/html/A $ ./test.php<enter>
```

スタートアップスクリプト機能

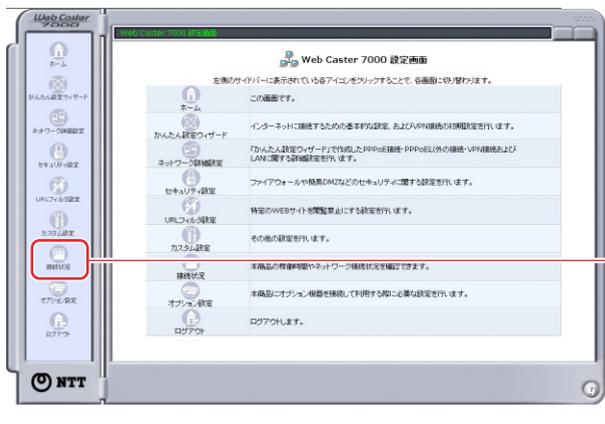
ユーザが作成した PHP スクリプトを自動起動させる機能です。USB ハードディスク、ATA PC カードメモリのルートディレクトリ上に “ startup ” というファイルが存在した場合、本商品の起動時にそのファイルを自動的に実行します。

起動時に、USB ハードディスクの各パーティションのルートディレクトリ、ATA PC カードメモリのルートディレクトリを検索し、“ startup ” というファイルが存在した場合には全て実行します。

接続ログ機能

ここでは、PPPoE接続、VPN接続のネットワークへの接続状態の確認をする方法について説明します。

- 1 サイドバーから[接続状況] アイコンをクリックします。



クリックします。

2 [接続状況] の画面が表示されます。[接続ログ] ボタンをクリックします。

接続状況

接続状況 稼働時間 接続ログ

接続名	LANポート	WAN PPPoE	WAN PPPoE 2
ステータス	接続	接続	接続
MACアドレス	00:90:cc:61:8b:b4		
IPアドレス	192.168.1.1	221.184.88.29	220.216.188.48
サブネットマスク	255.255.255.0		
デフォルトゲートウェイ		61.207.30.50	220.210.195.68
DNSサーバ		202.234.232.223 211.129.12.214	220.210.194.67 220.210.194.68
DHCPサーバ	有効		
ユーザ名		fd9s2jus@ipcon.ocn.ne.jp	guest@fiets
受信パケット	783	7	3
送信パケット	1236	5	3
トータルパケット	2019	12	6

自動更新 OFF 表示の更新

クリックします。

3 本商品の接続ログが表示されます。

接続状況

接続状況 稼働時間 接続ログ

ログのクリア 表示の更新

時刻	イベント	タイプ	詳細
Dec 16 15:25:39 2003	System Log	Message	local2.notice pppd[83]: secondary DNS address 220.210.194.68
Dec 16 15:25:39 2003	System Log	Message	local2.notice pppd[83]: primary DNS address 220.210.194.67
Dec 16 15:25:39 2003	System Log	Message	local2.notice pppd[83]: remote IP address 220.210.195.68
Dec 16 15:25:39 2003	System Log	Message	local2.notice pppd[83]: local IP address 220.216.188.48

ログの見方 (例)

詳細メッセージ	説明
Sending PADI	PPPoE セッションが開始されました。
Connection-Terminated	セッションが終了しました。
Authentication-failuer	認証に失敗しました。
Rejecting IP Address	PPPoE サーバから IP アドレスが拒否されました。
local IP address	WAN ポートの IP アドレスを取得しました。
remote IP address	デフォルトゲートウェイの IP アドレスを取得しました。
primary DNS address	プライマリ DNS サーバの IP アドレスを取得しました。
secondary DNS address	セカンダリ DNS サーバの IP アドレスを取得しました。
listening for IKE messages	IKE メッセージを確認しています。
initiating Main mode	IPsec のメインモードを開始しました。
ISAKMP SA established	メインモードで ISAKMP SA を確立しました。
initiating Quick mode	IPsec のクイックモードを開始しました。
IPsec SA established	IPsec をメインモードで確立しました。
deleting connection	接続を切断しました。
MSCHAP-v2 peer authentication	PPTP 接続を MSCHAP-v2 で認証しました。

MSCHAP peer authentication	PPTP 接続を MSCHAP で認証しました。
CHAP peer authentication	PPTP 接続を CHAP で認証しました。
MPPE 128bit	PPTP 接続で MPPE 128bit が有効です。
MPPE 40bit	PPTP 接続で MPPE 40bit が有効です。

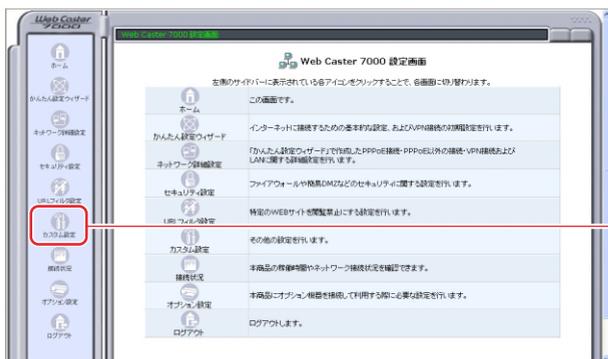
IPv6ブリッジ設定

本商品はIPv6ブリッジ機能に対応しています。本機能を利用することでIPv6プロトコルを利用したパケットについて、WAN-LAN間の通信データを全てブリッジすることができます。

これにより、通常のPPPoEによるインターネット接続等とIPv6ネットワークをLAN側に設置されたパソコンで同時にご利用頂くことが可能となります。

パソコンのIPv6設定については、お使いのパソコン及びOSの取扱説明書をご覧ください。

1 サイドバーから [カスタム設定] アイコンをクリックします。



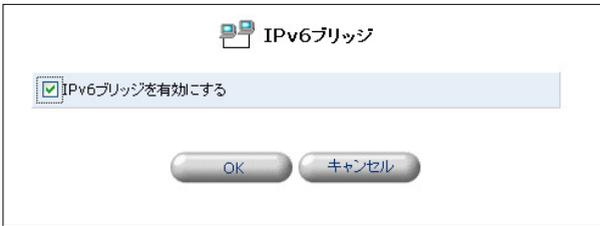
クリックします。

2 [カスタム設定] の画面が表示されます。[IPv6ブリッジ] アイコンをクリックします。



クリックします。

3 [IPv6ブリッジ] の画面が表示されます。



4 [IPv6ブリッジを有効にする] にチェックがついているのを確認します。
本商品のIPv6機能を無効にする場合は、チェックを外します。



5 [OK] ボタンをクリックします。

! **ご注意**

IPv6ブリッジはデフォルト有効です。

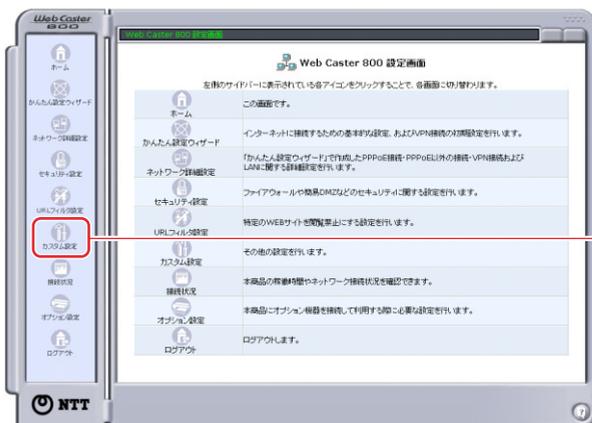
PPPoEブリッジ機能の設定

本商品は PPPoE ブリッジ機能に対応しています。本機能を利用することで、LAN 側に接続したパソコンが直接 PPPoE 接続して通信することができます。本機能を利用してパソコンに直接グローバルアドレスを割り当てることによって、NAT によるアドレス変換を行うことで使用できないアプリケーションが使用できるようになります。

本機能を用いて最大 4 セッションの PPPoE 接続を行うことができます。また、同時に本商品による PPPoE 接続も最大 4 セッションまで利用できます。

パソコンの PPPoE 接続の設定については、お使いのパソコン及び OS の取扱説明書等をご覧ください。

- 1 サイドバーから [カスタム設定] アイコンをクリックします。



クリックします。

10

追加機能

- 2 [カスタム設定]の画面が表示されます。[PPPoEブリッジ]アイコンをクリックします。



クリックします。

- 3 [PPPoEブリッジ]の画面が表示されます。



- 4 [PPPoEブリッジを有効にする] にチェックをつけます。本商品の PPPoEブリッジ機能を無効にする場合は、チェックを外します。



- 5 [OK] ボタンをクリックします。

設定情報の保存 / 読み込み機能

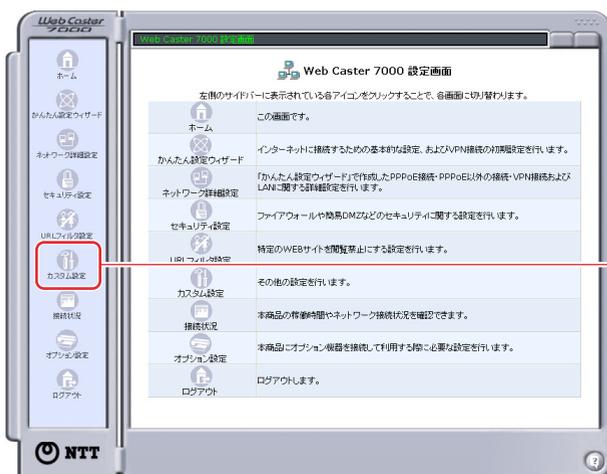
Web Caster 7000 の設定情報をコンピュータへ保存出来ます。また、保存した設定情報の読み込みが出来ます。

！ ご注意

保存した設定情報は同一ファームウェアバージョンでしか読み込むことができません。今後のファームウェアのバージョンアップがあった場合には、詳細取扱説明書の設定記入シートに設定内容を記載した上で再度設定を行ってください。

設定情報の保存

- 1 サイドバーから [カスタム設定] アイコンをクリックします。



クリックします。

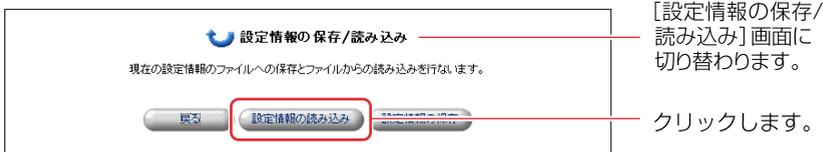
10

追加機能

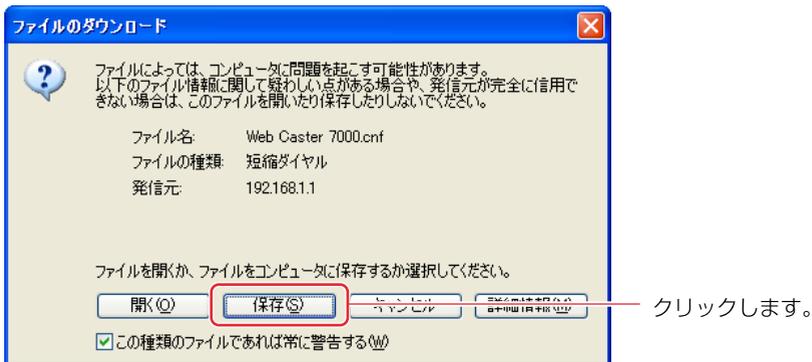
2 設定情報の保存/読み込み] アイコンをクリックします。



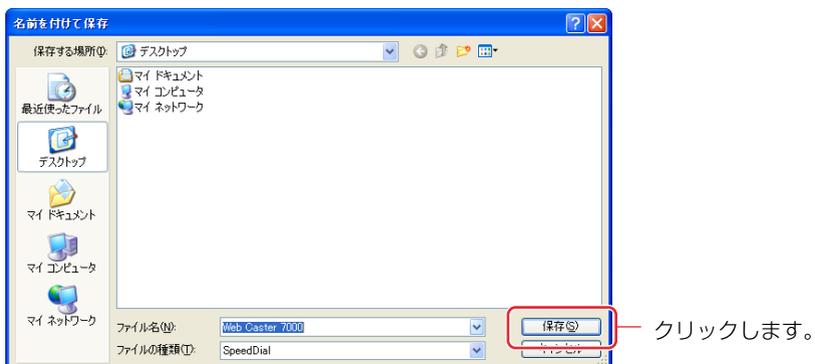
3 設定情報の保存] ボタンをクリックします。



4 [ファイルのダウンロード] が表示されます。[保存] ボタンをクリックします。



- 5 「名前を付けて保存」の画面が表示されます。任意の保存先およびファイル名を指定し、「保存」ボタンをクリックします。



- 6 以上で設定情報の保存は終了です。

設定情報の読み込み

- 1 サイドバーから [カスタム設定] アイコンをクリックします。



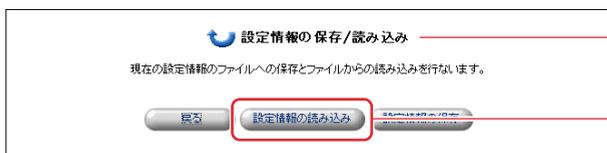
- 2 設定情報の保存/読み込み] アイコンをクリックします。



10

追加機能

3 [設定情報の読み込み] ボタンをクリックします。



[設定情報の保存/読み込み] 画面に切り替わります。

クリックします。

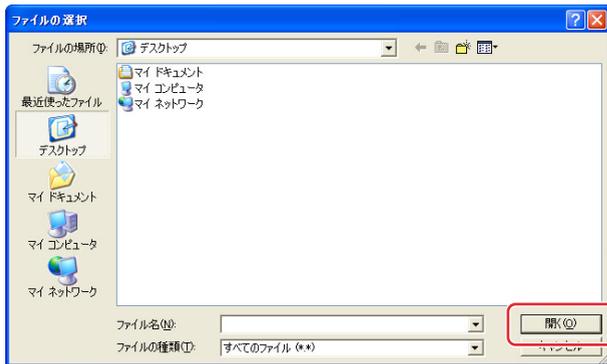
4 参照] ボタンをクリックします。



[設定情報の保存/読み込み] 画面に切り替わります。

クリックします。

5 [ファイルの選択] の画面が表示されます。保存された設定情報を指定し、[開く] ボタンをクリックします。



クリックします。

6 [設定情報の読み込み]の画面に戻ります。[OK]ボタンをクリックします。



[設定情報の保存/読み込み]画面に切り替わります。

クリックします。

7 [OK]ボタンをクリックします。



[設定情報のアップデート]画面に切り替わります。

クリックします。

8 「システムはアップデート中です。しばらくお待ちください...」の画面が表示されます。そのまましばらくお待ちください。



9 しばらくすると[ログイン]の画面が表示されます。以上で設定情報の読み込みは終了です。

ユーザのアクセス権限の項目追加

ユーザ設定画面のアクセス権限において、ユーザアカウント毎のアクセス権限の項目を追加しました。



以下のアクセス権限を追加しました。

[ファイルサーバからのファイルの読み込み]

この権限のあるアカウントは Web Caster 7000 のファイルサーバ (USB で接続されたハードディスク・フラッシュメモリなど) へアクセスして、ファイルの読み込みができます。

[ファイルサーバへのファイルの書き込み]

この権限のあるアカウントは Web Caster 7000 のファイルサーバ (USB で接続されたハードディスク・フラッシュメモリなど) へアクセスして、ファイルの書き込みと削除ができます。

[USB カメラ]

この権限のあるアカウントは Web Caster 7000 の USB カメラサーバへアクセスして撮影した動画や静止画を見ることができます。

! ご注意

デフォルトのユーザ **www** は初期状態では USB カメラサーバにアクセスできなくなりました。ユーザ **www** で USB カメラサーバにアクセスする場合はユーザ **www** のアクセス権限を変更してください。

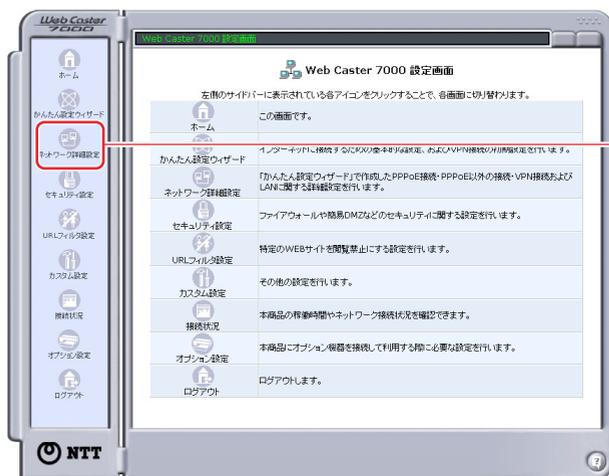
NAPT 機能の有効/無効の切り替え

NAPT 機能について各 WAN 側のセッション毎に有効/無効の切り替えが出来るようになりました。これにより、NAPT 無しのローカルルータとしての機能を実現します。

！ ご注意

なお、この機能は PPPoE 接続と PPPoE 以外の接続（DHCP/固定 IP）のどちらでも動作します。ここでは、PPPoE 以外の接続を例に説明します。

- 1 サイドバーから [ネットワーク詳細設定] アイコンをクリックします。



クリックします。

10

追加機能

- 2 [ネットワーク詳細設定]の画面が表示されます。[WAN ポート]の[修正]ボタンをクリックします。



クリックします。

- 3 [ネットワーク接続 WAN ポート]の画面が表示されます。[ステータス]の表示が[接続]の場合は[無効]ボタンをクリックし、いったん接続を切ります。
[詳細設定]ボタンをクリックします。



クリックします。

クリックします。

- 4 [詳細設定 WAN ポート] の画面が表示されます。[NAPT] の「有効」「無効」を選択し [OK] ボタンをクリックします。

基本設定	
ステータス:	無効
MACアドレス:	00:90:cc:61:27:ed
MTU:	1500
IP設定	
IPアドレス:	192 . 168 . 10 . 1
サブネットマスク:	255 . 255 . 255 . 0
デフォルトゲートウェイ:	192 . 168 . 10 . 254
DNSサーバ	
プライマリDNSサーバ:	0 . 0 . 0 . 0
セカンダリDNSサーバ:	0 . 0 . 0 . 0
NAPT:	有効
デバイスアドレス:	40
LAN側グローバルネットワーク(Unnumbered接続)	
ネットワークアドレス:	0 . 0 . 0 . 0
サブネットマスク:	255 . 255 . 255 . 0

選択します。

クリックします。

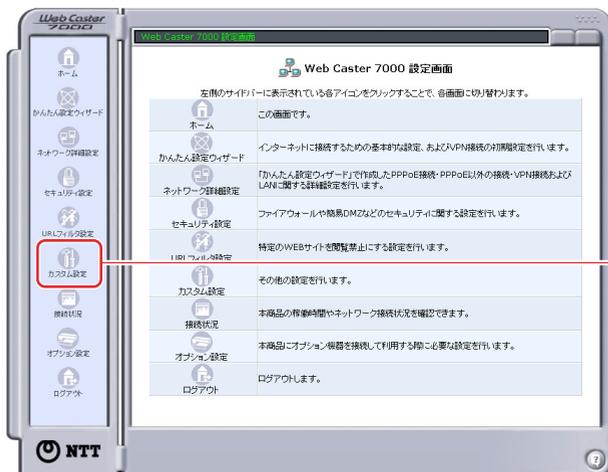
- 5 サイドバーから [ネットワーク詳細設定] アイコンをクリックします。

- 6 [OK] ボタンをクリックします。これでNAPT機能の設定は終了です。

NTP 更新時間変更と複数接続先対応

NTP サーバへのアクセスの更新間隔が設定出来るようになりました。1 時間から 480 時間のあいだで設定出来ます。また複数の NTP サーバを設定できます。

- 1 サイドバーから [カスタム設定] アイコンをクリックします。



クリックします。

- 2 「カスタム設定」の画面が表示されます。「日付と時刻」アイコンをクリックします。



クリックします。

3 [日付と時刻]の画面が表示されます。[更新間隔]に数字を入力します。

日付と時刻

手動設定

日付: 5月 20 2004

時刻: 12 : 00 : 00

自動設定

有効

更新間隔: 1 時間

NTPサーバ	操作
210.173.160.87	修正 削除
新規作成	追加

ステータス: サーバからの応答待ち

表示の更新 ボタンをクリックすると、ステータス表示を更新します。

OK キャンセル 表示の更新

入力します。

4 NTPサーバの追加は、[追加]ボタンをクリックします。

NTPサーバ	操作
210.173.160.87	修正 削除
新規作成	追加

クリックします。

5 [NTPサーバ設定]の画面が表示されます。NTPサーバのIPアドレスまたはホスト名を入力し、[OK]ボタンをクリックします。

NTPサーバ設定

NTPサーバのIPアドレスまたはホスト名を入力してください。

NTPサーバ: []

OK

入力します。

クリックします。

- 6 [日付と時刻]の画面に戻ります。追加されたNTPサーバを確認します。
- 7 [OK]ボタンをクリックします。
- 8 日付と時刻の設定はこれで終了です。

ワンポイント

NTPサーバを複数設定した場合は、登録したNTPサーバの順に時刻の問合せを行います。

NTPサーバから時刻の取得に失敗したときに次に登録したNTPサーバへ問合せを行います。

設定したNTPサーバの問合せに全部失敗してしまった場合は、[サーバからの応答待ち]の表示となります。応答があるまで約2分間隔で問い合わせを繰り返します。

PPPoE の自動切断機能設定の変更

PPPoE 接続の自動切断機能設定が PPPoE1 にのみ表示されるように仕様変更しました。従来通り、PPPoE2 以降では自動切断機能は使えませんのでご注意ください。

10

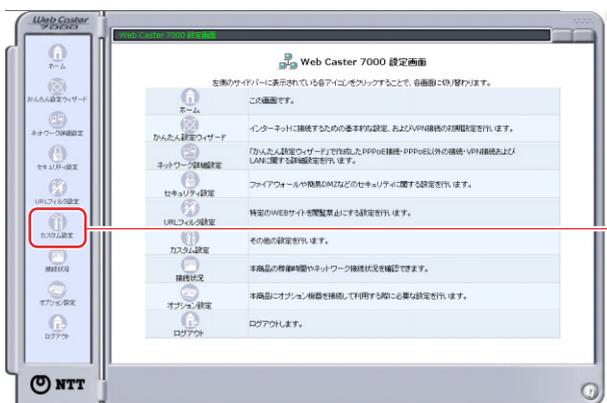
追加機能

UPnP セッション選択機能

ここでは、マルチセッション使用時のUPnP適用セッションを設定する方法について説明します。本商品では、マルチセッション使用時に設定したセッション（最大4）のどれかに、UPnP機能を設定することができます。接続セッションが1つの場合は、本機能の設定は必要ありません。

本機能を設定する場合は、マルチセッションの接続設定を行う必要があります。P.6-19「PPPoE接続でマルチセッション接続を設定するとき」をご参照ください。なお、UPnP適用セッションは複数選択することができません。

- 1 サイドバーから[カスタム設定]アイコンをクリックします。



クリックします。

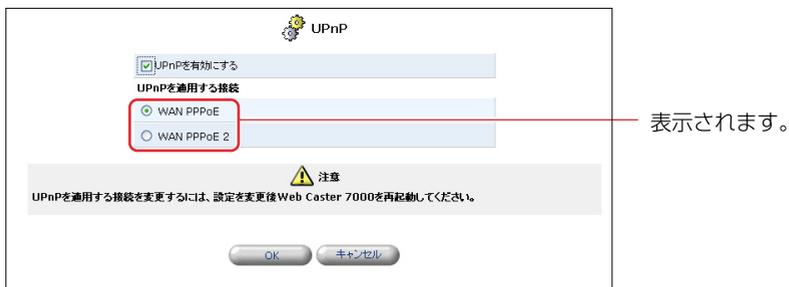
10

追加機能

2 [カスタム設定]画面が表示されます。[UPnP]アイコンをクリックします。



3 [UPnP]の画面が表示されます。[UPnPを適用する接続]欄に現在接続済みのセッションが表示されます。



4 UPnP 機能を利用するセッションにチェックを付けます。



! **ご注意**

本機能で設定した接続セッション以外でUPnP機能はご利用できません。

5 [OK] ボタンをクリックします。

6 以上で設定は終了です。

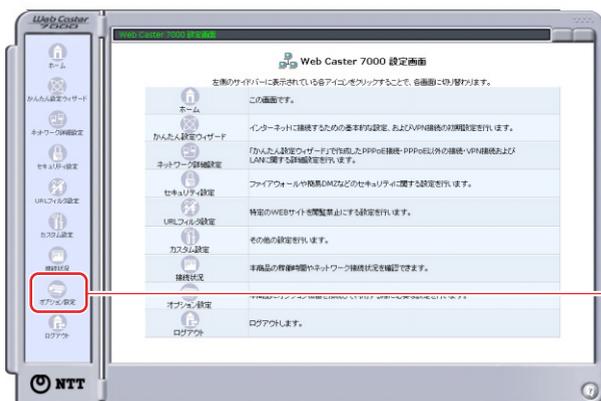
! **ご注意**

UPnP を適用する接続を変更した場合は、設定を変更後 Web Caster 7000 を再起動してください。

FTPサーバへのanonymous設定

本商品はATAカード、USBストレージを使用したFTPサーバへのanonymousログインに対応しています。なお、anonymousログインを許可するためには、“anonymous”というディレクトリをFTPサーバが動作するストレージ（ATA PCカードメモリまたはUSBストレージの最初のパーティション）の“/”（ルート）ディレクトリに事前に作成しておく必要があります。anonymousユーザは、このディレクトリ内のみ接続することができます。

- 1 サイドバーから [オプション設定] アイコンをクリックします。



クリックします。

- 2 [オプション設定]画面が表示されます。[FTPサーバ]アイコンをクリックします。



- 3 [FTPサーバ]の画面が表示されます。
[FTPサーバへのanonymousログインを許可する]にチェックします。



- 4 [OK]ボタンをクリックします。

FTP ユーザアカウント設定

本商品は ATA カード、USB ストレージを使用した FTP サーバに対応しています。FTP サーバを使用する場合は、FTP サーバ用のユーザアカウントを作成してください。なお、FTP サーバ用のユーザ名は最大 45 桁、パスワードは 8 桁（64 文字まで入力可能ですが、9 桁以降は無効）までになります。

ご注意

なお、作成したユーザ名のディレクトリを FTP サーバが動作するストレージ（ATA PC カードメモリまたは USB ストレージの最初のパーティション）に作成することで、FTP によるアクセスおよびファイルのアップロード/ダウンロードが可能となります。

IPSec のアグレッシブモードに対応

IPSec による VPN 接続において、従来のメインモードに加え、アグレッシブモードに対応しました。アグレッシブモードを用いることにより、リモートアクセス型 VPN を構築することが出来ます。また、アグレッシブモードにおいては、暗号化アルゴリズムとして AES (128/192/256bit、CBC モード) を選択することが出来ます。なお、以下の点についても変更しました。

MTU の設定欄が削除されました。

IPSec の鍵交換のフェーズ 1 (IPSec IKE, Phase 1) における暗号化アルゴリズム、ハッシュアルゴリズム、Diffie-Hellman Group について、Diffie-Hellman Group は一つのオプションの定義のみに従うため、複数選択できないように設定画面を変更しました。

IPSec の鍵交換のフェーズ 1 (IPSec IKE, Phase 1) における暗号化アルゴリズム、ハッシュアルゴリズム、Diffie-Hellman Group について、複数選択から 1 つのみの選択になりました。

ワンポイント

メインモードは、双方が固定の IP の環境での接続に向いており、双方の IP が固定されているため、よりセキュリティの高い接続が可能です。アグレッシブモードは IP アドレスが動的に変わる環境での利用に向いており、ADSL 接続などのダイヤルアップ環境で、より秘匿性の高い通信を行うことが可能です。

ご注意

ただし、本商品で接続確認を行っている相手側装置は本商品のみになります。他商品との接続はお客様の責任において行ってください。



追加した設定項目

追加した設定項目

その他

Unnumbered 接続時のフィルタリングルールについて

Unnumbered 接続時のフィルタリングルールの初期設定が変更されました。

- ・以前のファームウェア

Unnumbered 接続ホストと LAN 接続ホスト間ではパケットを破棄する

- ・ファームウェアバージョン 1.0.7 以降

Unnumbered 接続ホストと LAN 接続ホスト間ではパケットを転送する

! ご注意

Unnumbered 接続時に WAN LAN 間のセキュリティ設定が必要な場合は、以下の通り設定して下さい。

設定ページ : セキュリティ設定 パケットフィルタ LAN ポート受信
パケットルール

送信元 IP アドレス : (範囲指定) Unnumbered で設定したネットワークアドレス (例 : 192.168.10.0 ~ 192.168.10.255)

送信先 IP アドレス : (範囲指定) プライベートネットワークに設定した IP アドレス (例 : 192.168.1.0 ~ 192.168.1.255)

動作 : 「破棄する」

サービス名 : 「All Traffic」

WAN PPPoEの詳細設定画面について

[ネットワーク接続 WAN PPPoE]の画面から[トータルパケット]欄が削除されました。

接続状況画面について

[接続状況] の画面から [トータルパケット] 欄が削除されました。

当社ホームページでは、各種商品の最新の情報やバージョンアップサービスなどを提供しています。本商品を最適にご利用いただくために、定期的にご覧いただくことをお勧めします。

当社ホームページ： <http://www.ntt-east.co.jp/ced/>
<http://www.ntt-west.co.jp/kiki/>

使い方等でご不明の点がございましたら、NTT通信機器お取扱相談センタへお気軽にご相談ください。

NTT 通信機器お取扱相談センタ

■NTT東日本エリアでご利用のお客様

(新潟県・長野県・山梨県・神奈川県以東の各都道県)

お問い合わせ先:  0120-970413

■NTT西日本エリアでご利用のお客様

(富山県・岐阜県・愛知県・静岡県以西の各府県)

トークニーナ

お問い合わせ先:  0120-109217

電話番号をお間違えにならないように、ご注意ください。



©2004 NTTEAST・NTTWEST

本2414-3 (2004.06)

WBC 7000トリセツ

PMN-04-06/WBC7000-C